

課題別研究

盲・聾・養護学校高等部における 情報教育のカリキュラム に関する研究

(平成16年度～17年度)

研究成果報告書

平成18年3月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

ま え が き

文部科学省（当時文部省）が学校でのコンピュータ等の購入に補助金を出すようになったのは昭和60年（1985年）であった。比較的安価で、取り扱いも比較的容易なマイクロコンピュータが出回り始めていた頃であるから画期的な事業だった。それ以降、数次に渡る整備計画が実施され、コンピュータはどこの学校にも保有される状況になった。単にコンピュータの台数の増加だけではなく、1995年にインターネットのバックボーンが民間プロバイダーに移行された後急激に増加したインターネット利用を受けて、学校のインターネットへの接続の推進、さらには高速回線による接続を推進する計画も進められてきた。

学校の情報化政策はハード面の整備に留まらず、学習用ソフトウェアあるいは学習用コンテンツの開発・普及が進められるとともに、ほぼすべての教員がコンピュータを利用して指導できるようにする「IT活用指導力向上プラン」も実施されてきた。

教育課程の面では、小・中学校は平成14年度（2002年度）から、高等学校は平成15年度（2003年度）入学者から、新しい学習指導要領に基づく教育課程が実施されているが、この学習指導要領には高度情報化社会への対応も盛り込まれている。

当然のことながら、学校現場においては様々な創意工夫による情報教育の実践が行われてきたが、高等部、特に知的障害養護学校の高等部においては、まだまだ発展の余地があるように見受けられた。そこで、昨年10月には知的障害養護学校高等部を特に重視する形で、盲・聾・養護学校における情報教育実践のためのガイドブックを作成・刊行したところである。

ここで、「まだまだ発展の余地がある」ようだというのは、様々な機会に学校訪問をして得た感触であり、正確な実態を把握して得た結果ではなかった。そのため、ガイドブックの作成と並行して実態把握のための調査も実施することにした。調査結果から提言できることは何か、検討も行った。ここに刊行するのはその成果である。今後の研究、あるいは実践の参考にしていただければ幸いである。

平成18年 3 月

研究代表者

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

教育研修情報部長 中村 均

課題別研究
「盲・聾・養護学校高等部における情報教育のカリキュラムに関する研究」
研究成果報告書

目 次

第Ⅰ章 研究の概要

1. 研究の目的	1
2. 研究の概要	1
3. 研究の経緯	1
4. ガイドブックの作成	1
5. 報告書の構成	2

第Ⅱ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育カリキュラムに関する調査研究

1. 目的	3
2. 方法	3
3. 結果と考察	
1) 盲学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果について	4
2) 聾学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果について	17
3) 知的障害養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果について	32
4) 肢体不自由養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果について	114
5) 病弱養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果について	139

第Ⅲ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1. 盲学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について	157
2. 聾学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について	159
3. 知的障害養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について	161
4. 肢体不自由養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について	164
5. 病弱養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について	165
6. 「特別支援学校（仮称）」における情報教育カリキュラムの方向性について	166

資料

1. 調査票	167
--------	-----

研究体制

1. 研究分担者

中村 均	教育研修情報部・総合研究官, 教育研修情報部長 (研究代表者)
渡邊 章	教育研修情報部・総括主任研究官
大杉成喜	教育研修情報部・主任研究官
竹林地毅	前・教育支援研究部・総括主任研究官, 現・広島県教育委員会事務局教育部指導第二課障害児教育室・障害児教育室長 (平成16年度)
木村宣孝	教育支援研究部・総括主任研究官 (平成17年度)

2. 研究協力者

平澤 鋼	東京都立南大沢学園養護学校・教諭
井坂誠一	三重県立養護学校伊賀つばさ学園・教諭
大峠貴弘	大阪府立茨木養護学校・教諭
小栗 信	和歌山県立紀北養護学校・教諭
鶴田雄二	熊本県立ひのくに高等養護学校・教諭
福島 勇	福岡市立養護学校「博多高等学園」・教諭
田村順一	神奈川県立武山養護学校・校長 (平成17年度)
竹林地毅	広島県教育委員会事務局教育部指導第二課障害児教育室・障害児教育室長 (平成17年度)

3. 研究協力機関

大阪府立盲学校	協力担当者：原田治季
神奈川県立平塚ろう学校	協力担当者：田村順一 (平成16年度)
福岡県立養護学校「福岡高等学園」	協力担当者：中嶋啓一 (平成16年度) 田中和歌子 (平成17年度)
東京都立あきる野学園養護学校	協力担当者：杉本久吉
千葉県立四街道養護学校	協力担当者：日暮和弘

第 I 章 研究の概要

第Ⅰ章 研究の概要

1. 研究の目的

盲・聾・養護学校の高等部において情報教育の果たす役割への期待は大きいものがあり、高等養護学校の設置や情報コースの開設など、高等部においては、さまざまな新しい取組が行われるようになってきている。このような状況において、盲・聾・養護学校の高等部における情報教育の在り方について検討が求められていると考えられる。本研究では、このような認識を踏まえて、高等部における情報教育のカリキュラムの在り方について検討を行うことを目的とした。

2. 研究の概要

本研究の主な実施内容は、以下の通りである。

- 1) 盲・聾・養護学校高等部における情報教育の推進に寄与するガイドブックを作成する。
- 2) 盲・聾・養護学校高等部における情報教育カリキュラムに関する調査を実施する。
- 3) 調査結果を踏まえて、高等部における情報教育のカリキュラムの在り方の検討を行う。

3. 研究の経緯

平成16年度における実施経過は、以下の通りであった。

- 7月～9月 情報教育カリキュラムに関する調査項目の検討
- 9月 ガイドブックの目次案の作成
- 10月 研究協議会
- 1月 情報教育カリキュラムに関する調査の実施
- 1月～3月 ガイドブック原稿の作成

平成17年度における実施経過は、以下の通りであった。

- 4月～9月 ガイドブックの編集作業
- 7月 第1回研究協議会の実施
- 7月～12月 調査結果の分析と情報教育に関するカリキュラムの在り方の検討
- 10月 ガイドブックの刊行
- 1月～2月 研究報告書の編集作業
- 3月 第2回研究協議会の実施
- 3月 研究成果報告書の刊行

4. ガイドブックの作成

本研究の一環として、盲・聾・養護学校の高等部における情報教育の推進に寄与するガイドブックを作成した。このガイドブックには、研究協力者、研究協力機関の協力の下に、豊富な実践事例が掲載されており、盲・聾・養護学校の高等部における情報教育に関する取組を行う際に、参考となるものである。

このガイドブックは、下記のような構成となっている。

第1章 盲・聾・養護学校の高等部における情報教育

- 第1節 基本的な考え方と教育課程
- 第2節 アシスティブ・テクノロジー活用の観点
- 第2章 盲学校・聾学校・肢体不自由養護学校・病弱養護学校における情報教育の進め方
 - 第1節 情報教育の取組における配慮点
 - 第2節 盲学校における取組
 - 第3節 聾学校における取組
 - 第4節 肢体不自由養護学校における取組
 - 第5節 病弱養護学校における取組
- 第3章 知的障害養護学校における情報教育の進め方
 - 第1節 知的障害養護学校の「情報」の取組
 - (1) 知的障害養護学校の「情報」における配慮点
 - (2) 参画する態度や判断力を育成する取組
 - (3) 情報活用の実践力を育成する取組
 - 第2節 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する取組
 - (1) 生活単元学習における配慮点
 - (2) 作業学習における配慮点
 - (3) 知・肢併置校における取組
 - (4) 知的障害養護学校における作業学習の取組
 - 第3節 職業教育及び生涯学習における情報教育
 - (1) 知的障害養護学校の職業教育及び生涯学習における配慮点
 - (2) 職業教育と「情報」
 - (3) 高等養護学校における取組
- 第4章 実践に役立つWebサイト

このガイドブックは、平成17年10月に刊行し、全国の盲・聾・養護学校に配布した。

5. 報告書の構成

本報告書の第Ⅱ章では、本研究の一環として実施した盲・聾・養護学校の高等部における情報教育のカリキュラムに関する調査の結果について報告する。

第Ⅲ章では、この調査結果を踏まえて、盲・聾・養護学校の高等部における情報教育のカリキュラムの今後の方向性について述べる。

第Ⅱ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育 カリキュラムに関する調査研究

第Ⅱ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育 カリキュラムに関する調査研究

1. 目的

盲・聾・養護学校の高等部においては、高等養護学校の設置や情報コースの開設など、さまざまな新しい取組が行われるようになってきている。このような状況において、盲・聾・養護学校の高等部における情報教育の実施状況と今後の情報教育を進めるに当たっての課題を明らかにすることは重要であると考えられる。

このような認識から、全国の盲・聾・養護学校の高等部において、情報教育に関するカリキュラムはどのように編成されているか、また、情報教育に関するカリキュラム編成及び実施に関してどのような課題があるかを明らかにすることを目的として、調査を実施した。

2. 方法

1) 調査対象

全国の盲・聾・養護学校のうち、高等部を設置している学校を調査対象とした。

2) 調査実施時期

調査は平成17年1月に実施した。調査票の回収時期は、平成17年1月～2月であった。

3) 調査票

調査票は、資料1に示す通りであった。

4) 回収率

調査票の回収率は、以下の通りであった。

盲学校	回収率	91.7% (55/60)
聾学校	回収率	80.0% (56/70)
知的障害養護学校	回収率	76.6% (327/427)
肢体不自由養護学校	回収率	78.8% (104/132)
病弱養護学校	回収率	80.4% (37/46)
併置養護学校（知・肢・病併置）	回収率	66.7% (36/54)

3. 結果と考察

1) 盲学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果について

1) - a 結果

(1) 盲学校の回答数

盲学校の回答数は、55校であった。

(2) 高等部の教員数、学級数、生徒数

ア) 高等部普通科

表1-1は、高等部普通科の学級数、生徒数、教員数等の平均を示したものである。

表1-1 高等部普通科の学級数、生徒数、教員数等

学級数 (平均)	生徒数 (平均)	知的障害者の教育課程 の学級数 (平均)	知的障害者の教育課程 の生徒数 (平均)	教 諭 (平均)	実習助手 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭 「情報」の免許状を保有する 教員数 (平均)
6.5	18.6	1.5	3.4	17.3	1.4	2.0	0.9

その他のスタッフについての回答は、下記の通りであった。

講師（11件）、養護教諭（2件）、介助員（2件）、常勤講師（2件）、教頭（1件）、臨時講師（1件）、助教諭（1件）、部主事（1件）

イ) 高等部専攻科

表1-2は、高等部専攻科の学級数、生徒数、教員数等の平均を示したものである。

表1-2 高等部専攻科の学級数、生徒数、教員数等

学級数 (平均)	生徒数 (平均)	知的障害者の教育課程 の学級数 (平均)	知的障害者の教育課程 の生徒数 (平均)	教 諭 (平均)	実習助手 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭 「情報」の免許状を保有する 教員数 (平均)
5.0	22.0	0	0	11.1	2.7	1.5	0.2

その他のスタッフについての回答は、下記の通りであった。

講師（11件）、助教諭（4件）、部主事（1件）

(3) コンピュータ等の活用の実態

表1-3は、コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等の平均を示したものである。

表１－３ コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使った授業をしたことのある教員数（平均）		児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数（平均）		児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数（平均）		「福祉情報技術コーディネーター」資格保有者数（平均）		
学校全体	高等部	学校全体	高等部	学校全体	高等部	3級	2級	1級
24.6	12.7	20.9	11.0	9.8	5.7	0	0	0

（４）校務分掌の有無

図１－１は、情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者数の平均は、5.8人であった。

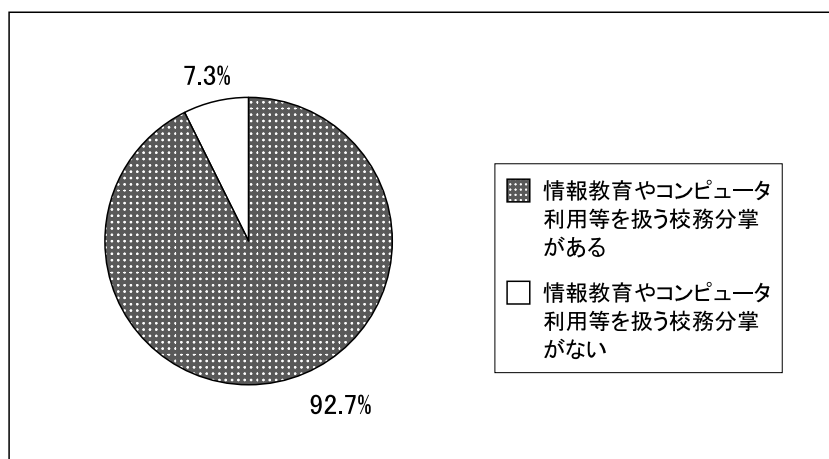


図１－１ 情報教育に関する校務分掌の有無

（５）高等部普通教育に関する教科について

ア）普通教科「情報」の設定状況

図１－２は、普通教科「情報」の設定状況を示したものである。

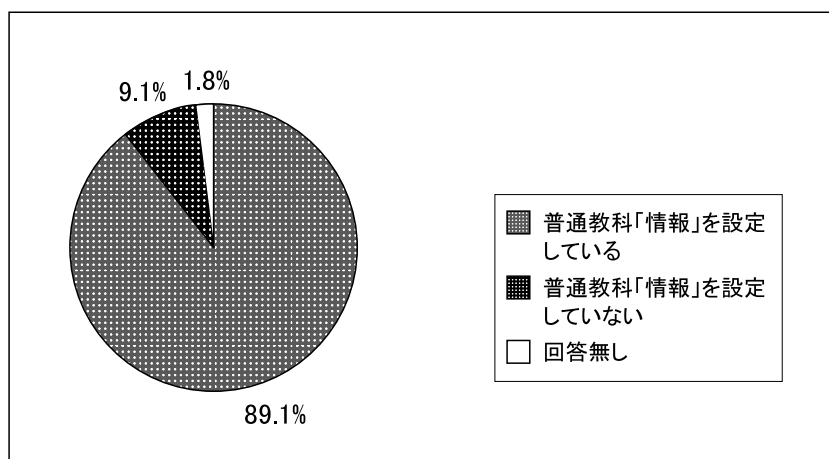


図１－２ 普通教科「情報」の設定状況

イ) 情報A・情報B・情報Cの設定状況

図1－3は、情報A・情報B・情報Cの設定状況を示したものである。

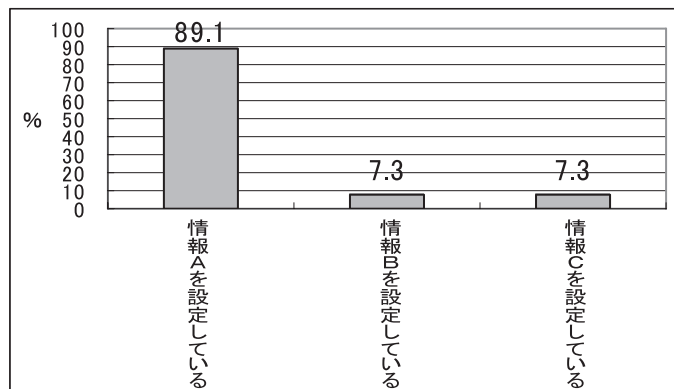


図1－3 情報A・情報B・情報Cの設定状況

ウ) 情報A・情報B・情報Cの単位数

図1－4は、情報Aの単位数を学年毎に示したものである。

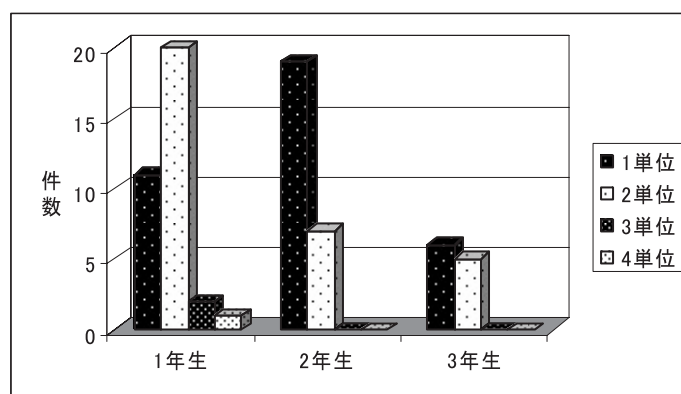


図1－4 情報Aの単位数

図1－5は、情報Bの単位数を学年毎に示したものである。

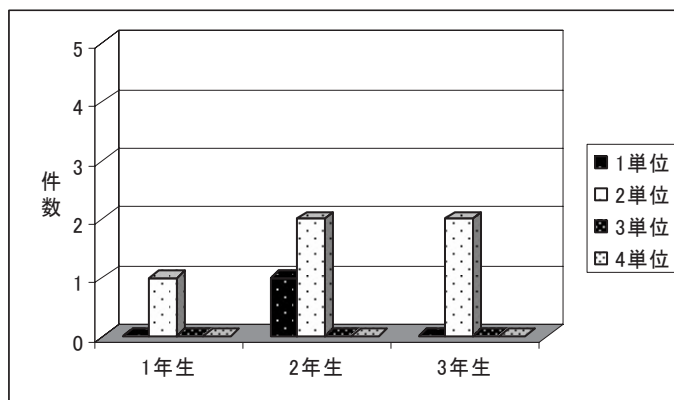


図1－5 情報Bの単位数

図1－6は、情報Cの単位数を学年毎に示したものである。

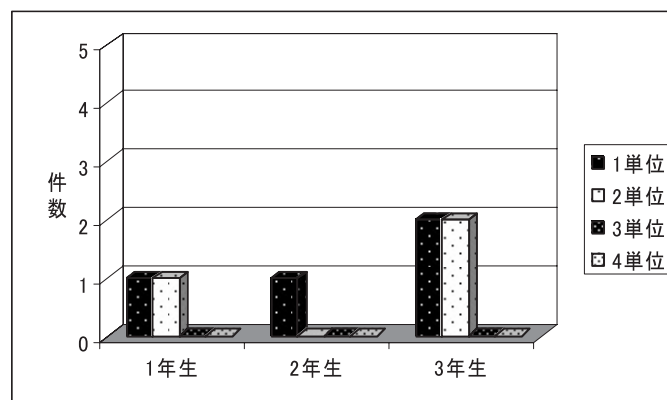


図1－6 情報Cの単位数

エ) 情報A・情報B・情報Cの履修人数

図1－7は、回答校における情報A・情報B・情報Cの履修人数の合計を示したものである。

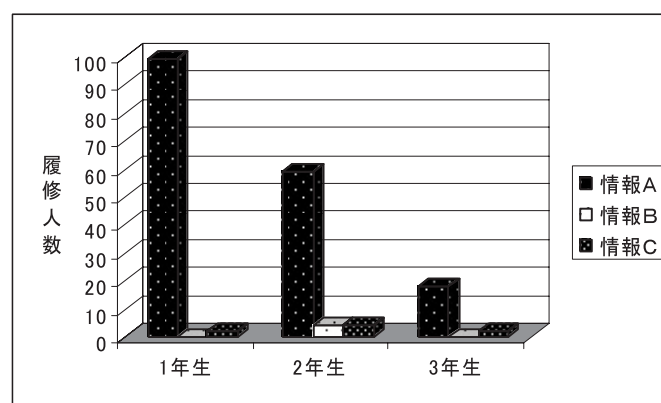


図1－7 情報A・情報B・情報Cの履修人数

オ) 普通教育に関する教科「情報」を設定していない学校におけるその理由

普通教育に関する教科「情報」を設定していない学校におけるその理由についての回答は、以下の通りであった。

- ・来年度から実施（3件）
- ・重複障害のため自立活動中心の教育課程を編成している（1件）
- ・高等部本科がないため（1件）

(6) 高等部専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図1－8は、高等部専門教育に関する各教科・科目の設定状況を示したものである。

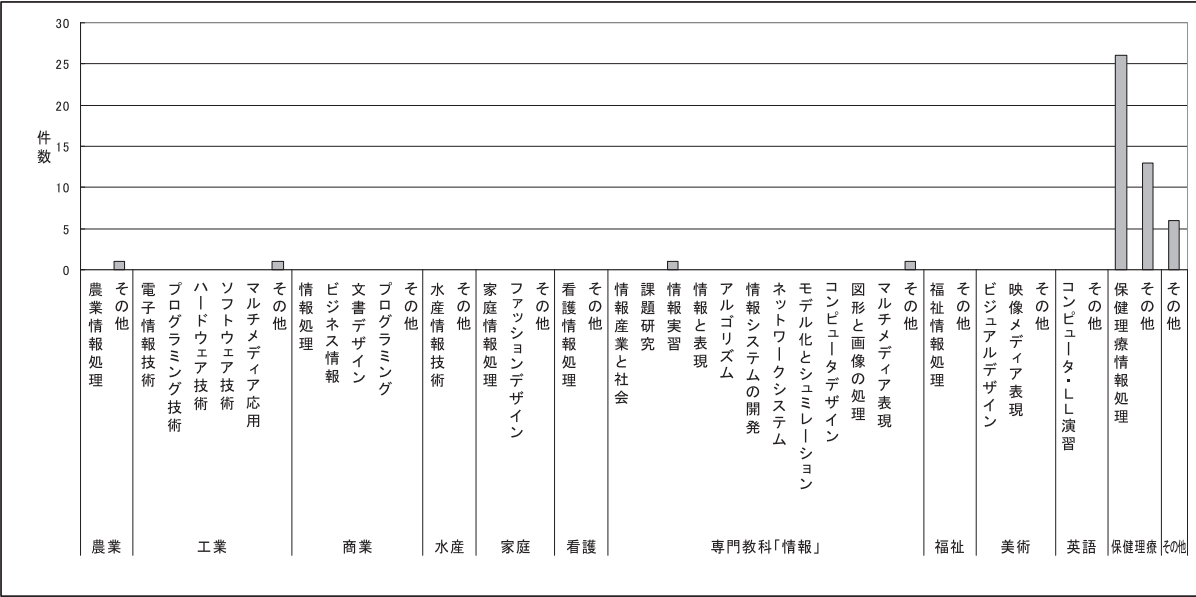


図1－8 高等部専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図1－8の「その他」の内容は、以下の通りであった。

- ・農業の「その他」：農業基礎（1件）
- ・工業の「その他」：情報技術基礎（1件）
- ・専門教科「情報」の「その他」：情報処理（1件）
- ・保健医療の「その他」：情報A（4件），理療情報処理（3件），専攻科理療科（2件），情報（1件），情報処理基礎（1件），総合実習（1件）
- ・全体の「その他」：情報処理（3件），理療情報処理（2件），情報（1件）

(7) 情報の内容を含む学校設定教科について

ア) 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

図1－9は、情報の内容を含む学校設定教科の実施状況を示したものである。

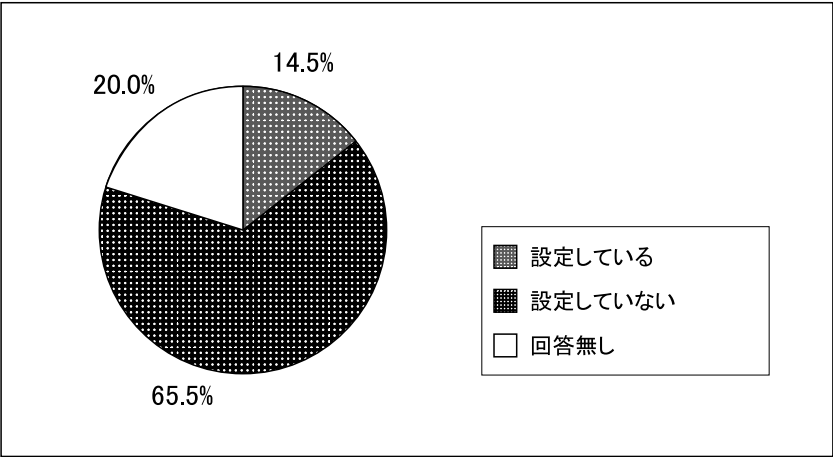


図1－9 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

イ) 設定している学校設定科目の名称，目標，内容等

「産業社会と人間」を設定しているという回答は1件であったが，表1－4は，その内容等についての回答を示したものである。

表1－4 「産業社会と人間」の内容等

目標	内容	単位	履修人数
様々な職業について知り，自分の進路を考える	ビデオ教材を使い現代の若者が取り組んでいる様々な職業について知る，産業現場等における実習の事前，事後の学習を通して自分の進路を考える	1	6

その他の学校設定科目の回答は7件あったが，表1－5は，その名称，目標，内容等を示したものである。

表1－5 その他の内容等

名称	目標	内容	単位	履修人数
情報処理	視覚障害の補償のための情報処理能力の向上	インターネットの閲覧，電子メールの活用，点訳ソフトの活用，点字の学習	2	3
情報処理	－	ワープロ，音声ワープロ，点字ワープロ，インターネットによる情報収集	2	7
情報処理基礎	現代社会で生活するために必要な情報処理に関する基礎的な知識と技術を学習し，併せて視覚障害を克服するために必要な情報処理手段を修得する	デイジー図書録音・再生装置の学習，タッチタイピングの学習，ワープロソフトの操作法，ブラウザソフトの操作及びメールの送・受信，OCRの取り扱いと電子カルテの活用	2	5
高等部選択情報実習	－	ワープロソフト，表計算ソフトの使い方など	2	2
音楽科情報	－	音楽ソフトの操作	2	3
自立活動	個々の生徒が自立を目指し，障害に基づく種々の困難を主体的に改善，克服するために，必要な知識・技能・態度及び習慣を養いもって心身の調和的発達の基盤を培う	パソコンの活用による文字処理，漢字変換・入力練習		10
人間関係学	情報収集，情報発信の手段の一つとしてパソコンを活用する力をつける	キー入力の練習，Webページ検索，画像処理など	3	3

(8) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図1-10は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

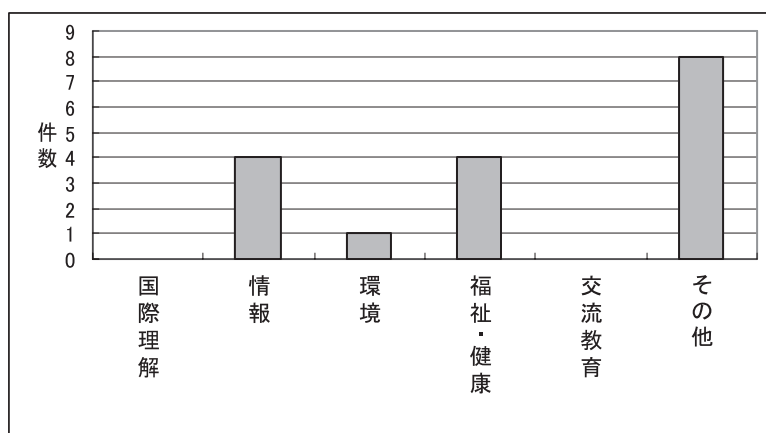


図1-10 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は4件あったが、表1-6は、その内容等を示したものである。

表1-6 「情報」の内容等

テーマ	時間数	内容
コンピュータ専門学校を見学してコンピュータに携わる仕事について調べる	20	市内にあるコンピュータ専門学校を訪問・見学して、担当者から、専門学校生の卒業生の進路や、実際にSE、SA等で活躍している人たちの様子を聞いた
表計算ソフトの利用法	—	表計算ソフトの基礎的な利用の学習、関数(SUM、AVERAGE、MAX)等
コンピュータ・グラフィックスでの動画作成	1	動画作成ソフトを用いた動画作成、コンピュータグラフィックス(静止画)の作成
文化祭を外に発信する	12	文化祭の内容をWebページに載せて発信する。Webページの作成からアップロードまで。

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は1件あったが、表1-7は、その内容等を示したものである。

表1-7 「環境」の内容等

テーマ	時間数	内容
土、ソーラー発電	1	「土」・・・土の性質や種類について調べる 「ソーラー発電」・・・ペットボトルを使ったソーラー発電に取り組んだ

総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組についての回答は4件あったが、表1－8は、その内容等を示したものである。

表1－8 「福祉・健康」の内容等

テーマ	時間数	内容
血液型について	25	血液型について総合的に調べ、まとめ、発表した
身のまわりの障害をどのように克服していくか	10	いろいろな障害があることを知り、その障害を乗り越えていくためにどのような方法や支援があるかを、インターネットを通じて調べ学習する
臨床レポート	20	病気やあんま施術について調査や実践をとして学習した内容を発表する
障害者スポーツ	15	インターネットを利用して障害者スポーツについて調べる

総合的な学習の時間におけるその他の取組についての回答は8件あったが、表1－9は、その内容等を示したものである。

表1－9 「その他」の内容等

テーマ	時間数	内容
産業社会と人間－プレゼンテーション	8	進路に関わる調べ学習や体験学習のまとめを行ない、校内発表を行う
模擬会社の経営	1	コースごとにグループに分かれ商品の企画・製作・販売を行っている。その過程で商品をデジカメで撮影し画像処理ソフトで処理してポスターを作ったり、注文票、集計票、発注票等を表計算ソフトで作ったり、商品のラベルや広告ポスターをワープロソフト等で作ったり、活動してきたことをプレゼンテーションソフトを使って発表したりしている。
修学旅行行き先場所について調べよう	6	インターネットを利用して修学旅行の行き先についてグループ毎で情報を収集し、プレゼンテーションを行った。それぞれの特色ある観光地としての名所や特産物を調べ、情報を交流した。
その他	－	調べ学習（進路、職業など）の際に情報機器を利用させている
－	1	調べ学習（日本点字図書館等）、情報を伝える
各自で課題を設定し、取り組む	1	調べたりまとめたりするのにパソコンを利用。全盲の生徒が音声ソフトを使って動画作成ソフトで動画の編集を行ったり、マイクから音声をひろって録画したりした
修学旅行にむけて	5	インターネットを利用したテーマパークや観光地の情報収集（調べ学習）
郷土の歴史	6	インターネットでの調べ学習の際、情報機器の活用の仕方にもふれている。情報機器、情報教育に関する内容は、ほとんど情報Aで行っている。

(9) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

図1-11は、領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況を示したものである。

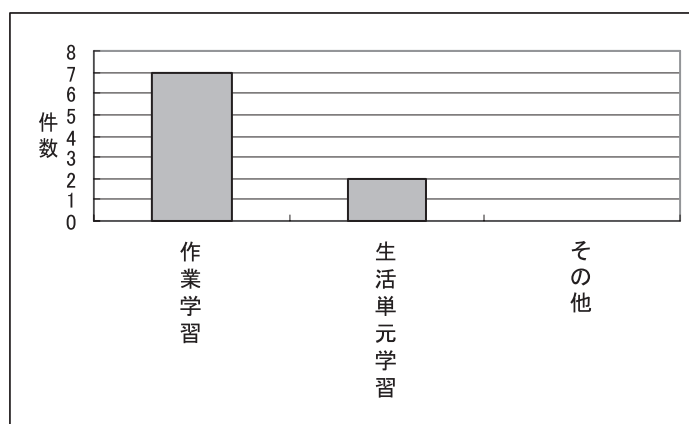


図1-11 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習の取組についての回答は7件あったが、表1-10は、その内容等を示したものである。

表1-10 「作業学習」の内容等

時間数	内容
48	校内放送に必要な情報をインターネットで収集，その情報をもとに原稿作成
1～2	個に応じて課題を設定し，個の能力を高める
週1時間	コンピュータのキーボード配列，タッチタイピング，Web閲覧，電子メールの送受信，電子ニュースの閲覧
1	音声関連ソフトウェアの使用法
2	全盲の生徒がインターネットの活用の仕方及びワープロソフトによる文章入力の練習を行った
40	コンピュータを使つての文字入力，インターネットを使つて情報検索
1	必要な生徒において実施

表1-11は、生活単元学習の取組の内容等に関する回答を示したものである。

表1-11 「生活単元学習」の内容等

時間数	内容
週1時間	コンピュータのキーボード配列，タッチタイピング

(10) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

図1-12は、高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについての回答を分類した結果を示したものである。

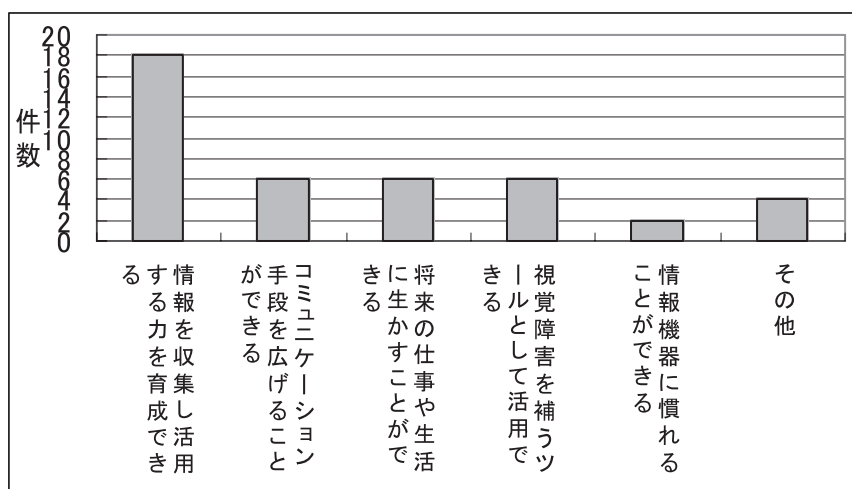


図1-12 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

「その他」の内容は下記のようなものであった。(回答の原文を要約)

- ・生徒が興味を持って取り組んでいる
- ・生徒が情報機器の有効な利用を自ら考えることができる
- ・現代社会において情報や情報機器についての理解は必須
- ・学習の能率が上がる

(11) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

図1-13は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答を分類した結果を示したものである。

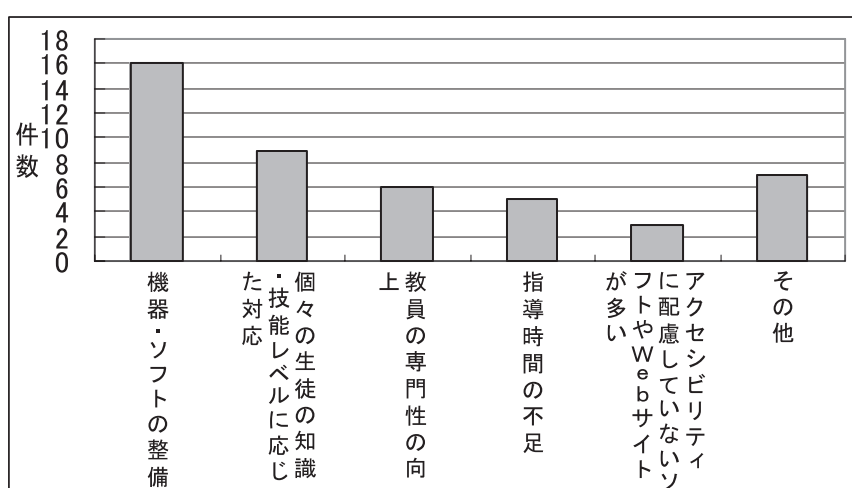


図1-13 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

「その他」の内容は下記のようなものであった。(回答の原文を要約)

- ・他の盲学校の情報教育に関する実践情報が欲しい

- ・情報モラルやマナーについての取組が必要
- ・時代の流れが速く「情報」の内容がすぐに古くなる
- ・中途失明の人にとってキー操作に慣れることが難しい
- ・教科「情報」のため他の教科の時間が少なくなった
- ・講義と実習のバランス
- ・学習の負担が大きい

(12) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表1-12は、在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答を示したものである。

表1-12 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	6
パソコン検定（P検）	パソコン検定協会	2
ビジネスコンピューティング検定	日本商工会議所	1
システムアドミニストレータ	経済産業省	1

(13) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表1-13は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答を示したものである。（回答に企業名が記載されていた場合は、その業種名を表示）

表1-13 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
病院等	理学療法士として就労すると、カルテ記載を情報機械を用いて行う
病院等	業務カルテ（針・きゅう・マッサージ）
病院等	顧客管理をパソコンで行う
病院等	治療経過の記録・保管他
病院等	カルテの整理、領収の発行等でパソコン活用
病院等	電子カルテ管理、患者メール対応、業務日誌、Web作成
事務	社内報の作成、領収の発行等でパソコン活用
事務	事務補助としてパソコン使用
事務	一般事務
情報機器メーカー	パソコン関係業務
情報機器メーカー	プログラム開発
情報機器メーカー	—

サービス業	パソコン等を使った印刷関係の業務
サービス業	－
ソフト開発会社	ソフトの操作方法等に関する電子メールによる相談担当
販売業	PC等の販売，セットアップ
市役所	窓口電話対応，ワープロ，メール対応など
図書館	点字ワープロ，メール対応，図書管理ソフトウェアなど
身体障害者受産施設	パソコンによる文字入力
NPO法人	－

1) -b 考察

(1) 盲学校高等部におけるコンピュータ等の活用の実態について

盲学校高等部における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は12.7人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は11.0人であり，また，「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は5.7人であった。

この結果に示されているように，「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ，「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」はかなり少なくなっており，盲学校においては，生徒の障害に応じた機器やソフトウェアの設定ができる教員が不足していることがわかる。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

盲学校高等部において，「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は，92.7%であり，ほとんどの学校では，情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌が存在していると言える。

(3) 普通教科「情報」の設定状況について

盲学校高等部において，普通教科「情報」を設定しているかどうかについては，設定している学校が89.1%となっており，ほとんどの学校で普通教科「情報」が設定されていると言える。

また，情報A，情報B，情報Cの設定状況については，情報Aを設定している学校が89.1%となっており，情報Bを設定している学校が7.3%，情報Cを設定している学校も7.3%であった。ほとんどの盲学校は，情報Aを設定しており，情報Bと情報Cを設定している学校は，少ないことがわかる。

回答のあった盲学校における履修人数でみると，情報Aを1年生で履修している人数が最も多く，次いで2年生で履修している人数が多かった。履修人数からみると，情報Aを1年生，2年生で履修している場合が多いと言える。

(4) 専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

専門教育に関する各教科・科目の設定状況については，設定されている科目としては，「保健医療情報処理」が最も多かった。盲学校における専門教育に関する各教科・科目としては，「保健医療情報処理」が情報教育に関して重要な役割を果たしていることがわかる。

(5) 情報の内容を含む学校設定教科について

盲学校の高等部における情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があった盲学校は、14.5%であった。情報の内容を含む学校設定教科を設定している盲学校は、あまり多くはないと言える。回答のあった学校の学校設定教科の名称は、「産業社会と人間」が1件、その他の名称が7件となっていた。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

盲学校の高等部における総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況については、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「その他」の取組の回答がみられた。取組内容としては、さまざまなテーマについての調べ学習やプレゼンテーション等の取組が行われていた。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

盲学校の高等部における領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については、「作業学習」の取組についての回答が7件で最も多かった。また、「生活単元学習」の取組についての回答が2件あった。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

盲学校の高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについての回答では、最も多くみられた回答の内容は、「情報を収集し活用する力を育成できる」というものであった。次に多かったのは、「コミュニケーション手段を広げることができる」、「将来の仕事や生活に生かすことができる」、「視覚障害を補うツールとして活用できる」となっていた。

情報収集し活用する力を育てることができることが、高等部における情報教育の取組のメリットとして認識されている場合が多いとすることができる。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

盲学校高等部において情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、最も多くみられた回答の内容は、「機器・ソフトの整備」であった。盲学校においては、情報機器やソフトウェアの充実が図られてきてはいるが、視覚障害のある生徒のニーズに十分にに応じていくためには、まだ不十分であると感じている教員が多いことが窺われる。盲学校で情報教育を進めるために必要となる情報機器やソフトウェアについて、一層の整備・充実を行っていく必要があると考えられる。次に多かった回答の内容は、「個々の生徒の知識・技能レベルに応じた対応」であった。生徒の知識や技能レベルの幅が大きいため、個々の生徒の知識・技能レベルに応じた適切な対応が課題となっているところが多いものと考えられる。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答では、全国商業高等学校協会が認定する「ワープロ実務検定」が6件で最も多かった。盲学校においては、資格を取得している例は、まだ多くはないとすることができる。

(11) 就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後に、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答では、業種として最も多かったのは、「病院等」となっていた。業務内容としては、カルテの管理等の回答がみられた。

2) 聾学校高等部における情報教育カリキュラムの調査結果

1) - a 結果

(1) 聾学校の回答校数

聾学校の回答校数は、56校であった。

(2) 高等部の教員数、学級数および生徒数

ア) 高等部普通科

表2-1は、高等部普通科の学級数、生徒数、教員数等の平均を示したものである。

表2-1 高等部普通科の学級数、生徒数、教員数等

学級数 (平均)	生徒数 (平均)	知的障害 者の教育 課程の学 級数 (平均)	知的障害 者の教育 課程の生 徒数 (平均)	教諭 (平均)	実習助手 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教 諭「情報」 の免許状を 保有する教 員数(平均)
6.2	23.2	1.1	2.6	16.5	2.4	4.0	1.1

その他のスタッフについての回答は以下の通りであった。

講師(14件)、非常勤講師(2件)、実習教諭(2件)、実習講師(1件)、臨時講師(1件)、養護教諭(1件)、中高部主事(1件)

イ) 高等部専攻科

表2-2は、高等部専攻科の学級数、生徒数、教員数等の平均を示したものである。

表2-2 高等部専攻科の学級数、生徒数、教員数等

学級数 (平均)	生徒数 (平均)	知的障害 者の教育 課程の学 級数 (平均)	知的障害 者の教育 課程の生 徒数 (平均)	教諭 (平均)	実習助手 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教 諭「情報」 の免許状を 保有する教 員数(平均)
3.2	5.9	0	0	6.6	1.7	4.5	0.3

その他のスタッフについての回答は、以下の通りであった。

講師(2件)、実習教諭(1件)、助教諭(1件)、主事(1件)

(3) コンピュータ等の活用の実態

表2-3は、コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等の平均を示したものである。

表２－３ コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使った授業をしたことのある教員数（平均）		児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数（平均）		児童生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数（平均）		「福祉情報技術コーディネーター」資格保有者数（平均）		
学校全体	高等部	学校全体	高等部	学校全体	高等部	3級	2級	1級
28.5	12.5	14.1	6.3	6.4	3.3	0.1	0	0

（４）校務分掌の有無

図２－１は、情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者数の平均は、5.7人であった。

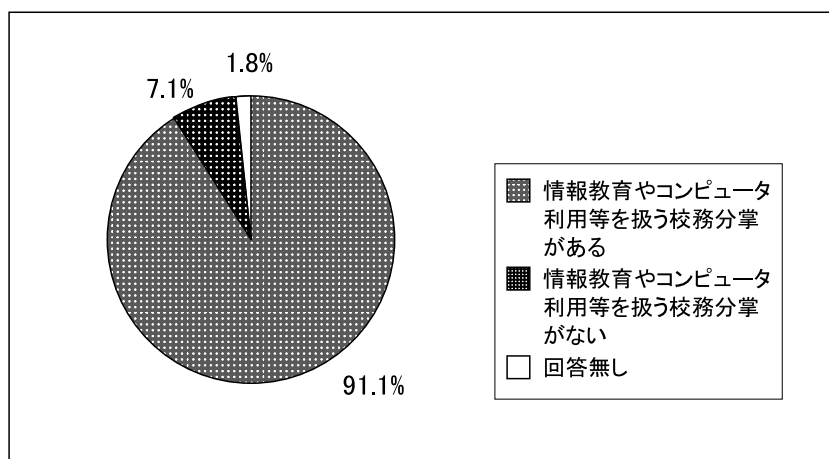


図２－１ 情報教育に関する校務分掌の有無

（５）高等部普通教育に関する教科について

ア）普通教科「情報」の設定状況

図２－２は、普通教科「情報」の設定状況を示したものである。

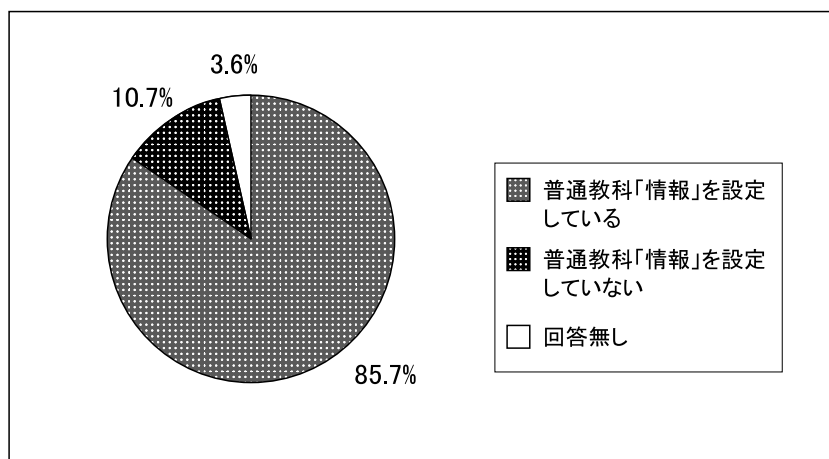


図２－２ 普通教科「情報」の設定状況

イ) 情報A・情報B・情報Cの設定状況

図2-3は、情報A・情報B・情報Cの設定状況を示したものである。

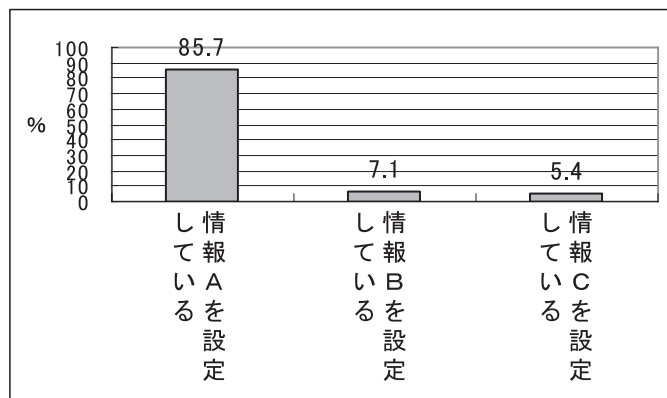


図2-3 情報A・情報B・情報Cの設定状況

ウ) 情報A・情報B・情報Cの単位数

図2-4は、情報Aの単位数を学年毎に示したものである。

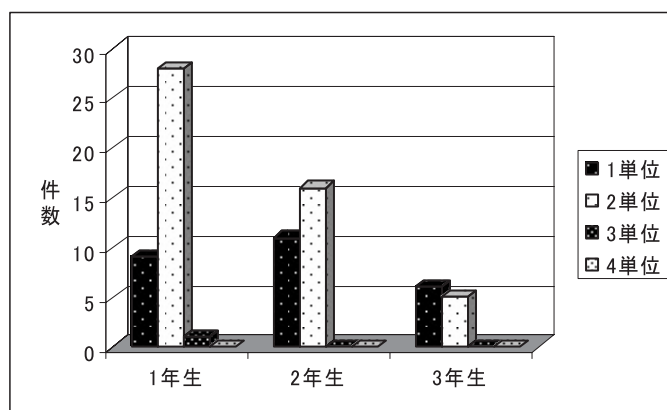


図2-4 情報Aの単位数

図2-5は、情報Bの単位数を学年毎に示したものである。

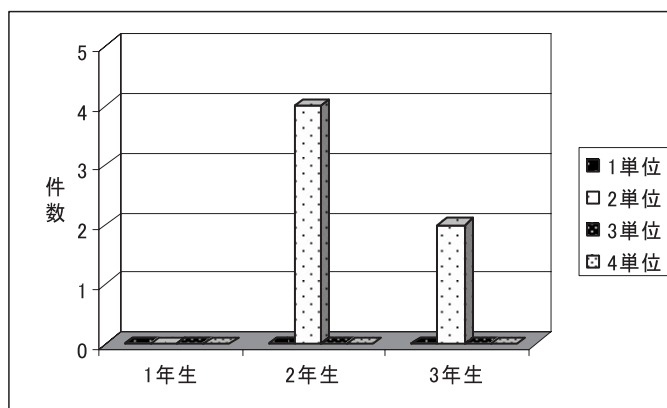


図2-5 情報Bの単位数

図２－６は、情報Ｃの単位数を学年毎に示したものである。

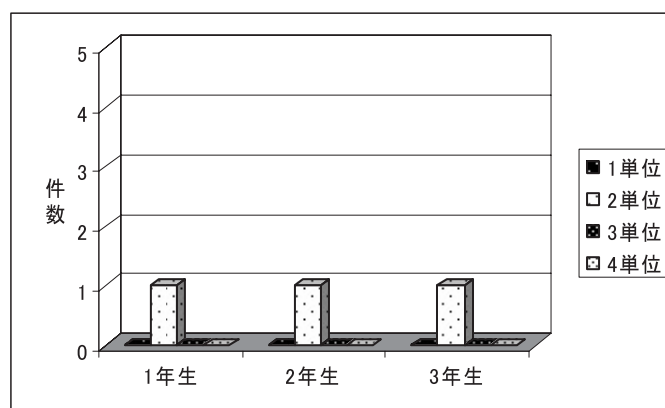


図２－６ 情報Ｃの単位数

エ) 情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃの履修人数

図２－７は、回答校における情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃの履修人数の合計を示したものである。

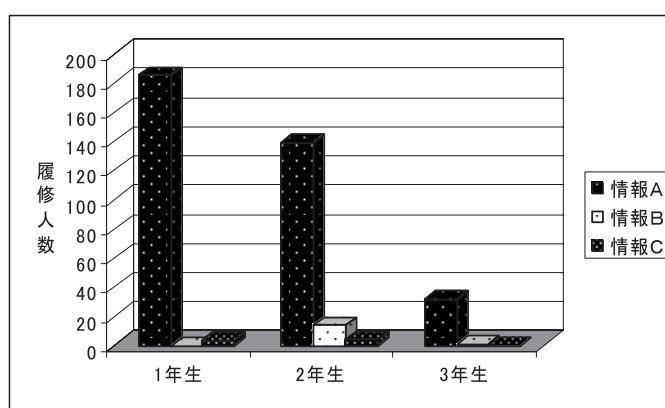


図２－７ 情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃの履修人数

オ) 普通教育に関する教科「情報」を設定していない学校におけるその理由

- ・各学科の情報に関する専門教科で普通教育に関する教科「情報」の履修に替えているため（６件）

(6) 高等部専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図2-8は、高等部専門教育に関する各教科・科目の設定状況を示したものである。

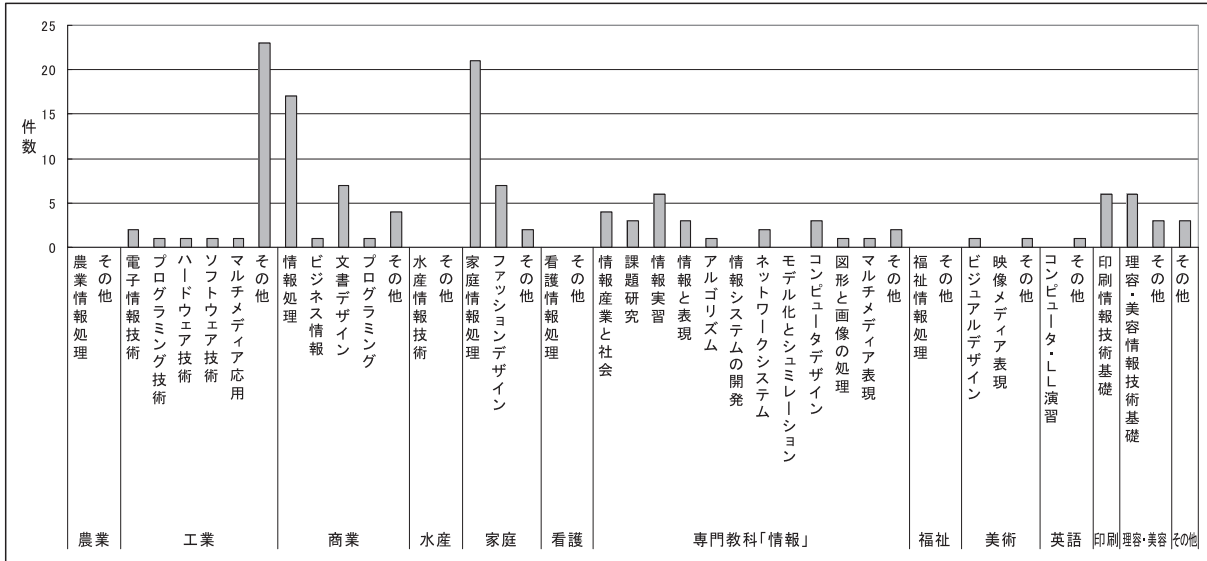


図2-8 高等部専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図2-8の「その他」の内容は、以下の通りであった。

- ・工業の「その他」：情報技術基礎（17件）、情報技術（1件）、工業基礎技術（1件）、文書処理管理（1件）、デザイン技術（1件）、ベーシックデザイン（1件）、インテリア計画（1件）
- ・商業の「その他」：文書処理（1件）、商業技術（1件）、課題研究（1件）、情報管理（1件）
- ・家庭の「その他」：フードデザイン（1件）
- ・専門教科「情報」の「その他」：プログラム設計（1件）、情報実習（1件）
- ・美術の「その他」：美術Ⅰ・Ⅱ（1件）
- ・英語の「その他」：O・C・I（1件）
- ・理容・美容の「その他」：情報技術（2件）、理容情報技術（1件）
- ・全体の「その他」：文書処理管理（1件）、情報（1件）

(7) 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

図2-9は、情報の内容を含む学校設定教科の実施状況を示したものである。

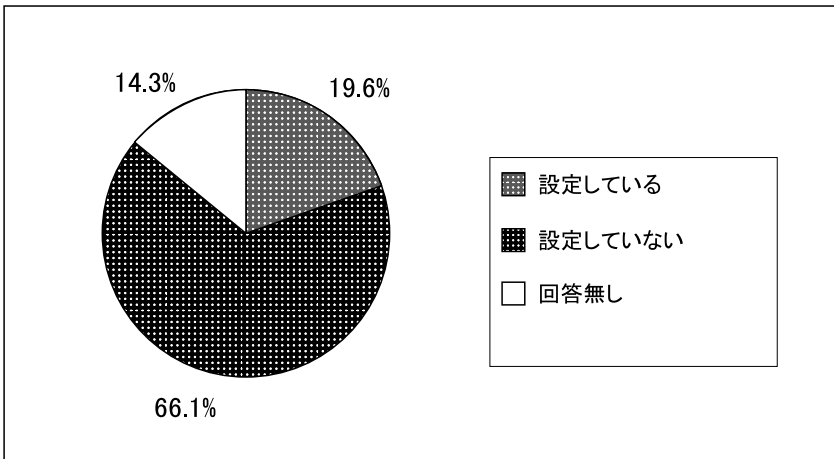


図2-9 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

ア) 学校設定科目の名称，目標，内容等

「産業社会と人間」を設定しているという回答は，3件であったが，表2－4は，その内容等についての回答を示したものである。

表2－4 「産業社会と人間」の内容等

目標	内容	単位	履修人数
自分自身の将来について考え，自らに合った進路をさがす。具体的に進路選択をし，その実現に向け努力する。	教科書「産業社会と人間」に沿って学習をすすめている	1	22
技術革新が社会にもたらした影響を考える	技術革新によって経済は大きく発展し，私たちの生活もますます便利になった。その発展にともなって社会はどう変化し産業構造の高度化によりどのような課題が生じているのかを考えさせる	1	6
－	コンピュータのアプリケーションを利用した様々なデザインに関する基礎的な知識と技術を習得させ，実際に創造し応用する能力と態度を学習する	2	0

その他の学校設定科目の回答は9件あったが，表2－5は，その名称，目標，内容等を示したものである。

表2－5 その他の内容等

名称	目標	内容	単位	履修人数
情報技術基礎	コンピュータ操作など基本的技術を実際の操作を通して習得させる	現代社会とコンピュータ，コンピュータの操作，プログラミングの基礎，文章作成，ワープロ検定など	2	1
情報技術基礎	情報化の進展と情報の意義や役割を理解させる。情報処理に関する知識と技術を習得させる。	情報社会とコンピュータ，コンピュータの仕組み，プログラミング，情報通信ネットワーク	2	18
情報基礎	コンピュータを理解し，必要に応じた使い方ができるようにする	コンピュータを活用する必要性，コンピュータの基本的仕組みや周辺機器等各装置及びプログラムの働き，基本ソフト，アプリケーションの操作，データ通信とネットワークの基本的な仕組み及びメリット・デメリット	1	2
コンピュータ応用	コンピュータ制御に関する知識を習得させ，制御装置の製作を通して開発する能力と態度を養う	プログラム基礎知識，ライントレーサーの製作，プログラム制御	2	0
コンピュータ・デザイン	「CG」の基礎的な知識を習得し，実社会における様々な分野での活用を調査・研究する	コンピュータによる画像処理の基礎，デジタル画像処理技術，画像の加工と効果，CGによるデザイン，アニメーションの基本	2	2

情報メディア	情報技術の基礎的理解の修得	表計算・ワープロプレゼンテーション及びHTML等の基礎、ネットワークやインターネットの基礎	4	6
マルチメディア表現	—	コンピュータを活用した伝達効果とその特質、アニメーション等の作品を構成し企画する基礎的かつ実践的な能力と態度	4	0
課題研究	—	各自が設定したテーマに沿った調べ学習、プレゼンテーション、卒業文集、卒業アルバムの作成	3	4
職業一般	社会に自立でき産業の変化に十分に対応できるような技能知識と学力を身につける	社会自立に必要な会社の運営、マナー、一般常識など	2	2

(8) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図2-10は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

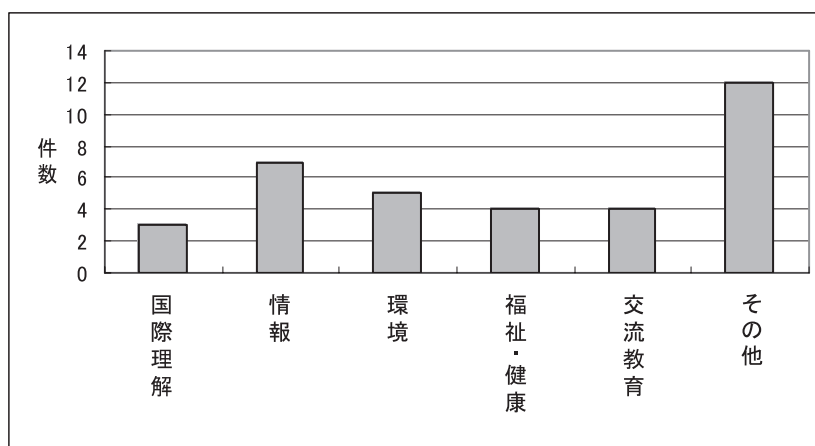


図2-10 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組についての回答は3件あったが、表2-6は、その内容等を示したものである。

表2-6 「国際理解」の内容等

テーマ	時間数	内容
日本やアジアの文化について	20	インターネット、図書、アンケート調査などを基に情報を収集し、伝統、生活習慣、芸能など各分野について調査研究をする。成果をプレゼンテーションなどで発表する。また、ゲストティーチャーなどを招いて体験的学習も取り入れる。
翻訳	週1時間	翻訳について自ら調べたことを中心に行なった。また、ALTの来校にあわせて翻訳や英語のゲーム、イギリスの文化等の学習も行なった。まとめとして高等部の生徒の前で発表した。
修学旅行事後発表会	20	修学旅行先の韓国について事前に調べたことに加え、実際に旅行に行って経験、見学したことをまとめて、プレゼンテーションの作品をつくる。作品を使って全員で発表会を行う。

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は7件あったが、表2－7は、その内容等を示したものである。

表2－7 「情報」の内容等

テーマ	時間数	内容
調査研究	13	個々の生徒がテーマを設定し、インターネットを利用して調べ、まとめ、発表した。テーマ例：県内市町村のあゆみについて、沖縄と北海道について、戦争の歴史について、バスケットボールについて等
映像表現	1	情報機器を使い、撮影方法、映像編集等を学び撮影上のマナーなどを学ぶ
アニメーションをつくろう	週1時間	動画作成ソフトを用いて自分の考えたアニメーションを各自が作った。インターネットからキャラクターをとりこんで自分の作っているアニメーションに登場させたり、思い思いのセリフを入れたりして個人的な作品をつくった。
字幕の製作	35	文化祭で上演した演劇のビデオに字幕を付ける
コンピュータを使った研究・表現	30	各自がテーマを設定し、それについてインターネット等で調べ、その結果をコンピュータを用いてワープロソフトやプレゼンテーションソフト等で表現する
進路について	随時	情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表などの学び方やものの考え方を身に付け、問題解決に向けての主体的な態度を育てる。情報収集およびコミュニケーション能力の必要性に気付くとともに、自己表現の方法を学び、実践する。
パソコンを使って小説を作る	週1時間	インターネットで調べたり、ワープロソフトを使用し文化祭で演じる劇の脚本のための小説作り

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は5件あったが、表2－8は、その内容等を示したものである。

表2－8 「環境」の内容等

テーマ	時間数	内容
環境について調べよう	20	動植物、自然、住居などの環境、また温暖化・環境汚染などの諸問題に関わる中から、自分の興味・関心のあるテーマを選ぶ。図書、インターネット、実地調査などで情報を収集し、まとめた成果をパネルやプレゼンテーションにより報告する。
地球温暖化について	週1時間	環境問題の中の地球温暖化について、インターネットで調べたり、資料を参考にまとめたりした。また、それを発表した。
リサイクル・エネルギーについて	12	リサイクルセンター、火力発電所、風力発電所の見学、牛乳パックで紙すき体験、調べ学習
郷土の自然と歴史	16	学校行事に連携させ、目的地やその周辺の自然について調べる。また、併せて歴史的な内容についても調べた。
かけがえのない地球	2	今日、問題になっている地球的規模の環境問題にはどのようなものがあるか、生徒自身に整理させながら考えさせる。

総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組についての回答は4件あったが、表2－9は、その内容等を示したものである。

表2－9 「福祉・健康」の内容等

テーマ	時間数	内容
ボランティア活動について	3	インターネットを利用して、「ボランティア活動」と「高齢者福祉」の2つのテーマについて情報収集し、発表した。
盲導犬について調べる	週1時間	盲学校の見学、視覚障害をもつ成人の人との懇談、等の体験学習を通して、盲導犬との生活について学習した。今後は、自分が聴導犬と過ごす時の参考としたいとのこと。
日本とアメリカの福祉について	16	制度の違いについて現状（実態）から学ぶ
福祉社会を実現するために	2	福祉社会を実現するためには、どのような課題があるかを考えさせる

総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組についての回答は4件あったが、表2－10は、その内容等を示したものである。

表2－10 「交流教育」の内容等

テーマ	時間数	内容
一般高校との交流	2	年間を通してTV電話を活用した交流を行う。学園祭や卓球大会の打ち合わせ。手話学習会的に手話を教える。
手話を用いた交流、メールによる交流	1	テレビ会議システム（インターネット回線）による手話を用いた他校との交流、メールによる交流
普通高校との交流教育	週1時間	行きたい学校をインターネットで調べ、その中から選んだ2校へ交流に行った。農業高校では、ミミズの家作りや犬のトリミング、部活動を行い、生徒たちも意欲的に活動していた。また、単位制の高校では、50～60才位の人たちもいた。みな私服だったので生徒たちはびっくりした様子だった。
テレビ会議システムによる交流	年間2回	他県聾学校との交流、授業交流、進路についての意見交換、テーマに基づいて意見交換

総合的な学習の時間におけるその他の取組についての回答は11件あったが、表2－11は、その内容等を示したものである。

表2－11 「その他」の内容等

テーマ	時間数	内容
修学旅行、宿泊学習	5	行先についての文化・名所・名物・歴史・環境などについて情報収集する。収集した情報をまとめて、しおり等を作成する。
－	－	調べ学習の発表をほとんどの生徒がプレゼンテーションソフトを使って行っている。その準備に高等部全職員であたっている。

修学旅行（沖縄）について	10	インターネットによる調査活動
スキルアップ	2	ワープロ，簿記等の資格検定挑戦
オリジナル映画を製作しよう	週1時間	テレビ局見学（撮影の仕方，カメラの扱い方について），ストーリー脚本の作成・撮影，編集
進路について	35	インターネットを活用して，上級学校や企業を調べる。調べ，体験したことを，パソコンソフトを使い，まとめ，プレゼンテーションを行う。自己評価，他者評価を行う。
自分の将来を考える	10～12	パワーポイントを活用したプレゼンテーション発表
進路	－	自分にとって興味，関心のある職種について調べ学習
「ビルド・アップ・タイム」（進路）	5	職業観育成のために活動してきたことを生徒同士で発表し合う時のプレゼンテーション作成
理容・美容に関して	6	インターネット利用とプレゼンテーションソフトの活用
資源，エネルギー問題	－	自然界には，人間の生活や産業活動に役立つたくさんの資源があるが，その多くは限りがある。その限りある資源について理解を深めさせる。

（９）領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

図２－11は，領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況を示したものである。

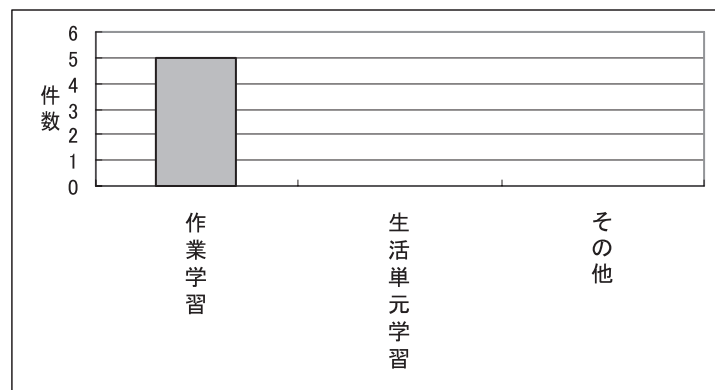


図２－11 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習の取組についての回答は５件あったが，表２－12は，その内容等を示したものである。

表２－12 「作業学習」の内容等

時間数	内容
35×2	PCの扱い方，図の扱い方，ワープロソフトの扱い方
週2	ワープロによる文書作成

ー	領域・教科を合わせた指導の場合、「情報教育」といわゆる「教育の情報化」による指導内容との線引きを意識しにくい、ワープロソフトを使った簡単な日本語の入力、ローマ字の練習、ネット上のコンテンツや自作教材での算数の学習を行っている。
10	日記をパソコンを使って書く
4	テレビ会議システムによる交流のための準備

(10) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

図2-12は、高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについての回答を分類した結果を示したものである。

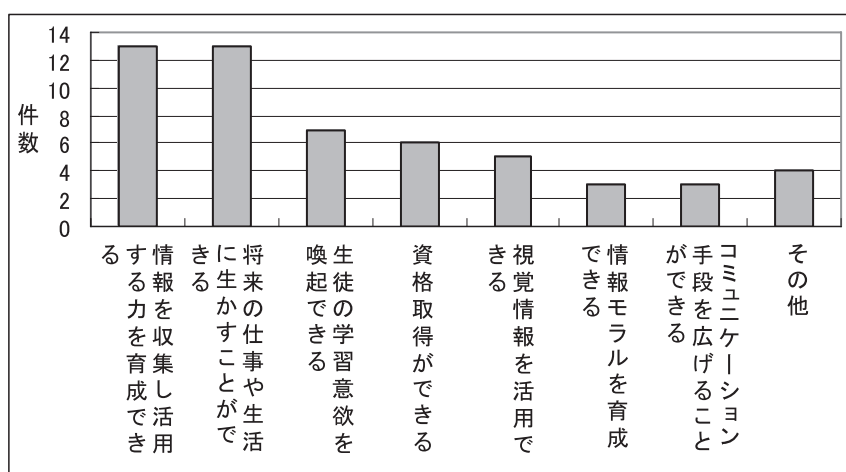


図2-12 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

「その他」の内容は下記のようにであった。(回答の原文を要約)

- ・情報社会に参画する態度を育成できる
- ・自らの意思をどう発信していくかを考える事は高等部において重要
- ・コンピュータを利用して作品等を自分達の手でつくり上げることが多くなった
- ・家にコンピュータがない生徒もコンピュータを体験できる

(11) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

図2-13は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答を分類した結果を示したものである。

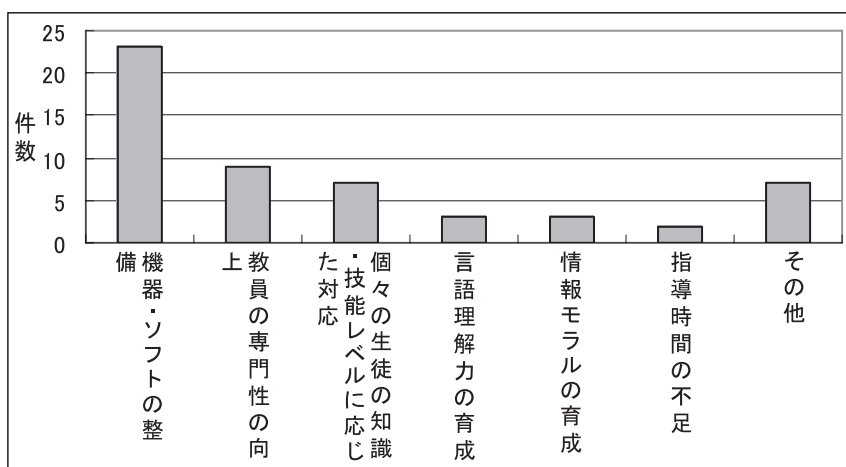


図2-13 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

「その他」の内容は下記のようなものであった。(回答の原文を要約)

- ・正しい情報かどうか見極める力の育成
- ・実習の指導
- ・新しい情報機器等の使用方法の指導
- ・インターネットを利用した調べ学習で生徒に適した情報を見つけさせることが難しい
- ・情報機器等の進歩・多様化に生徒達が対応して行けるか心配
- ・技術の発展が目ざましく指導者はその状況を把握し続ける必要がある
- ・指導内容の多様化で対応しきれない

(12) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表2-13は、在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答を示したものである。

表2-13 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	352
情報処理検定	全国商業高等学校協会	62
日本語ワープロ検定	日本情報処理検定協会	47
キータッチ2000	日本商工会議所	38
情報処理技能検定	日本情報処理検定協会	34
文書デザイン検定	日本情報処理検定協会	32
日本語文書処理技能検定	日本商工会議所	23
珠算・電卓実務検定	全国商業高等学校協会	21
情報技術検定	全国工業高等学校長協会	13
ワードプロセッサ技術検定	愛知県・盲・聾・養護学校職業教育研究会	11
パソコン検定 (P検)	パソコン検定協会	7
コンピュータ技術検定	愛知県・盲・聾・養護学校職業教育研究会	3
ワープロ検定	高知県高等学校商業教育研究会	3
パソコン利用技術検定	全国工業高等学校協会	2
CAD利用者技術検定	日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会	2
ビジネスコンピューティング検定	日本商工会議所	1
パソコン能力評価試験	パソコン能力評価委員会	1
情報活用能力検定	専修学校教育振興会	1

(13) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表2-14は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答を示したものである。(回答に企業名が記載されていた場合は、その業種名を表示)

表2-14 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
銀行等	端末からの入力など
銀行等	端末からの入力など
銀行等	データ入力業務
銀行等	データ入力

銀行等	データ入力
銀行等	事務
銀行等	為替センターにおいて、手形・小切手などの決済をコンピュータで行う
銀行等	パソコンを使ったデータ入力等の事務処理
銀行等	銀行・信用金庫事務処理
銀行等	データ入力等
印刷業	オペレータ
印刷業	オペレータ
印刷業	DTPオペレータ
印刷業	文章入力，編集
印刷業	印刷原稿入力
印刷業	データ入力業務
印刷業	画像処理ソフトを使って，ポスターなどの製作の補助
情報機器メーカー	設計図データ入力
情報機器メーカー	部品の発注。在庫管理
情報機器メーカー	ソフトウェア開発設計サポート
情報機器メーカー	CADを使った機械設計の補助
情報機器メーカー	メールを利用して，社内外の発注処理，一般事務
情報機器メーカー	基盤の設計の処理や点検
情報サービス業	データ入力
情報サービス業	データ入力
情報サービス業	プログラミング
情報サービス業	将来的にはシステムプログラムを担う事になるが，現在はそれに向けた研修を行っている
製造業	データ入力，DTP作業，CAD利用
製造業	CADを用いて図面おこし
製造業	製品の検査をしてコンピュータに結果を記録する
製造業	一般事務
サービス業	事務
サービス業	端末からの入力など
サービス業	給与計算ソフトを使った経理事務
デパート	データの入力
デパート	メールを利用して，社内外の発注処理，一般事務
デパート	データ入力業務
ソフト開発会社	データ入力，伝票管理
ソフト開発会社	携帯電話の待ち受け画面等のデザイン
市役所	一般事務職
市役所	文書作成
自動車メーカー	CAD操作
自動車部品販売会社	受付伝票や納品書等への数字入力
電機メーカー	プレゼンテーション作成を補助する仕事
不動産業	データ入力
建築会社	設計
運送業	荷のデータ管理
航空会社	パソコン入力
病院	事務
事務	ワープロソフトや表計算ソフト等を使って事務処理の仕事に従事している

2) -b 考察

(1) 聾学校高等部におけるコンピュータ等の活用の実態について

聾学校高等部における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は12.5人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は6.3人であった。また、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は3.3人となっていた。

この結果から、「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」はかなり少なくなり、さらに、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」は一層少なくなっていることがわかる。聾学校高等部においても、生徒の障害に応じた機器やソフトウェアの設定ができる教員が不足していることがわかる。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

聾学校高等部において、「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は、91.1%であり、ほとんどの学校では、情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌があると言える。

(3) 普通教科「情報」の設定状況について

聾学校高等部において、普通教科「情報」を設定しているかどうかについては、設定していると回答した学校は85.7%となっており、ほとんどの学校で普通教科「情報」が設定されていると言えることができる。

また、情報A、情報B、情報Cの設定状況については、情報Aを設定している学校が85.7%となっており、情報Bを設定している学校が7.1%、情報Cを設定している学校は5.4%となっていた。ほとんどの聾学校では、情報Aを設定しており、情報Bと情報Cを設定している学校は、かなり少ないと言えることができる。

回答のあった聾学校における履修人数でみると、情報Aを1年生で履修している人数が最も多く、次いで2年生で履修している人数が多かった。履修人数でみると、情報Aを、1年生、2年生で履修している場合が多いことがわかる。

(4) 専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

聾学校高等部における専門教育に関する各教科・科目の設定状況については、設定されている科目としては、「家庭」の「家庭情報処理」が最も多く、次いで、「商業」の「情報処理」が多かった。また、「工業」の「その他」として、「情報技術基礎」という回答がかなりみられた(17件)。

(5) 情報の内容を含む学校設定教科について

聾学校高等部における情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があったのは19.6%であった。情報の内容を含む学校設定教科を設定している聾学校は、あまり多くはないと言えることができる。回答のあった学校の学校設定教科の名称は、「産業社会と人間」が3件、その他の名称が9件となっていた。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

聾学校高等部における総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組については、「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「交流教育」、「その他」の取組の回答がみられた。取組内容としては、さまざまなテーマについての調べ学習や、プレゼンテーション、アニメーション

ンの作成や字幕作成，小説作り等の取組が行われていた。聾学校では，視覚的な情報の活用に関する取組が行われていることが特色であると言える。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

聾学校高等部における領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については、「作業学習」の取組についての回答が5件あった。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

聾学校高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについての回答では，最も多くみられた回答の内容は，「情報を収集し活用する力を育成できる」と「将来の仕事や生活に生かすことができる」であった。次に多かった内容は，「生徒の学習意欲を喚起できる」であり，次に多かったのは，「資格取得ができる」となっていた。聾学校では，「将来の仕事や生活に生かすことができる」という内容の回答がかなり多いことがわかる。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

聾学校高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では，最も多くみられた回答の内容は，「機器・ソフトの整備」であった。聾学校においても，情報機器やソフトウェアの充実が図られてきてはいるが，情報教育を進めて行くに当たって，聴覚障害のある生徒のニーズに十分に応じていくためには，今後さらに情報機器やソフトウェアの整備・充実が必要であると考えられる。

次に多かった回答の内容は，「教員の専門性の向上」であり，次に多かったのは，「個々の生徒の知識・技能レベルに応じた対応」となっていた。情報教育を進める上での専門性の向上が必要であると感じている教員は多いと考えられる。また，聾学校においても，生徒の知識・技能のレベルの幅が大きく，一人一人の生徒に対応した取組を，よりきめ細かく行っていくことが課題となっていると考えられる。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答では，全国商業高等学校協会が認定する「ワープロ実務検定」が352件で最も多かった。2番目に多かったのは，全国商業高等学校協会が認定する「情報処理検定」であり，62件となっていた。3番目に多かったのは，日本情報処理検定協会が認定する「日本語ワープロ検定」であり，47件となっていた。

聾学校では，在学中に情報処理に関する資格を取得している例が，かなり多くみられており，聾学校における情報教育においては，これらの資格取得を視野に入れた取組は重要であると考えられる。

(11) 就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後に，就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答では，業種として最も多かったのは，「銀行等」となっていた。次に多かったのは，「印刷業」であり，次に多かったのは「情報機器メーカー」となっていた。その他にも，さまざまな業種に就労している例が回答としてみられた。その業務内容としては，データ入力やDTPソフト，CADソフト，画像処理ソフト，ワープロソフト，表計算ソフト等を利用した業務等，さまざまな内容の業務についての回答があった。

聾学校の高等部では，卒業後の就労先で，情報機器等を活用した業務に従事している例がかなり多くみられていると言うことができる。

3) 知的障害養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査について

3) - a 小・中学部も設置する知的障害養護学校高等部の調査結果

(1) 小・中学部も併置する知的障害養護学校の回答数

小・中学部も併置する知的障害養護学校（高等部のみを設置する知的障害養護学校以外の知的障害養護学校）の回答校数は288校であった。 回答率76.6%（全国376校）

(2) 高等部の教員数，学級数，生徒数

ア) 高等部の学級数および生徒数

全体の学級数の平均は10.8，生徒数の平均は62.9であった。

イ) 高等部の教育課程ごとのの教員数，学級数および生徒数

表3-1 高等部の学級数，生徒数，教員数

	回答数	学級数 (平均)	生徒数 (平均)	教諭数 (平均)	実習助手数 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭「情報」の 免許状を保有する教員数 (平均)
知的障害者を教育する 養護学校の教育課程	284	11.2	63.1	25.1	1.6	4.81	0.33
肢体不自由者を教育する 養護学校の教育課程	9	2.0	3.6	2.9	0.3	2.0	0.17
病弱者を教育する 養護学校の教育課程	0	0	0	0	0	0	0

その他のスタッフについての回答は，以下の通りであった。

講師（81件），臨時講師（23件），非常勤講師（22件），介助員（10），養護教諭（6），臨時実習助手（5），助教諭（4），主事（6），主幹（2），教頭（2），実習教諭（1）

(3) コンピュータ等の活用の実態

表3-2は，コンピュータ等を活用した授業経験のある教員等の平均を示したものである。

表3-2 コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使っ た授業をしたことの ある教員数（平均）		児童生徒の障害に応じた 周辺機器やソフトウェア を使って授業をしたこと のある教員数（平均）		児童生徒の障害に応 じて周辺機器やソフ トウェアの設定がで きる教員数（平均）		「福祉情報技術コーデ ィネーター」資格保有者 数（合計）		
学校全体	高等部	学校全体	高等部	学校全体	高等部	3級	2級	1級
22.7	10.4	11.9	5.0	6.6	3.2	1	2	2

(4) 学校全体の校務分掌

図3-1は、情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者の平均は、5.3人であった。

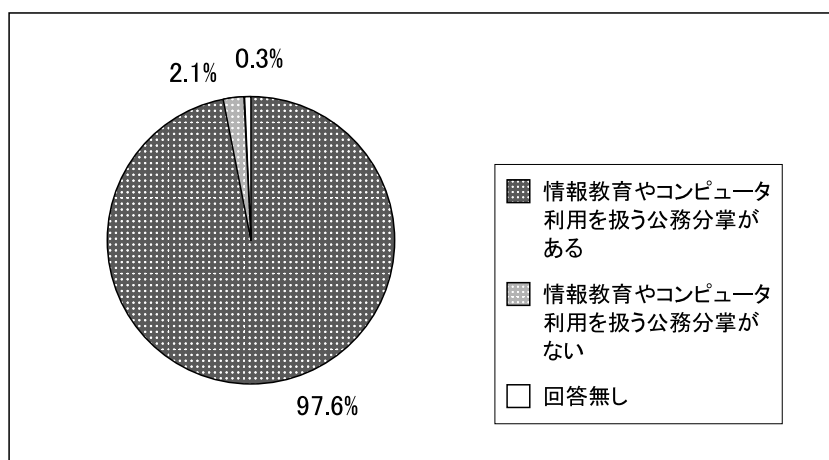


図3-1 情報教育に関する校務分掌の有無

(5) 知的障害者を教育する養護学校高等部の教科について

ア)「情報」に関する普通教育に関する各教科の内容

i) 中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮

図3-2は、中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮の有無について示したものである。

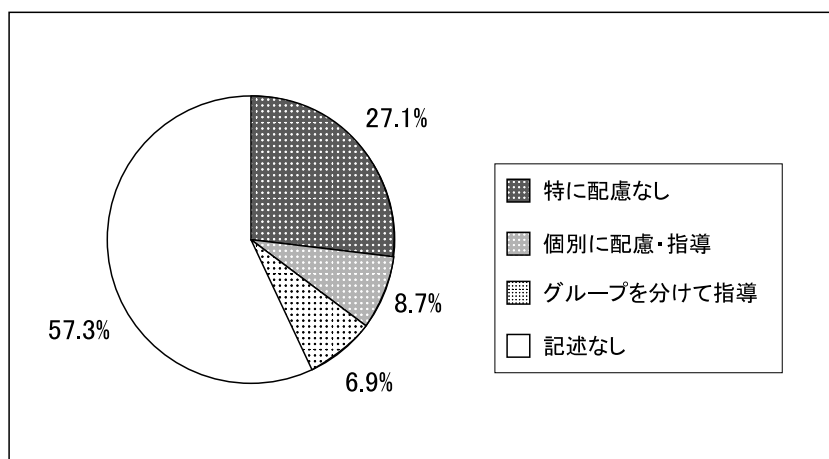


図3-2 中学校からの進学者と中学部からの進学者についてのカリキュラム上の配慮

ii) 普通教育に関する教科「職業」における情報教育に関する内容の取り扱い

図3-3は、普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容の取り扱いの有無について示したものである。

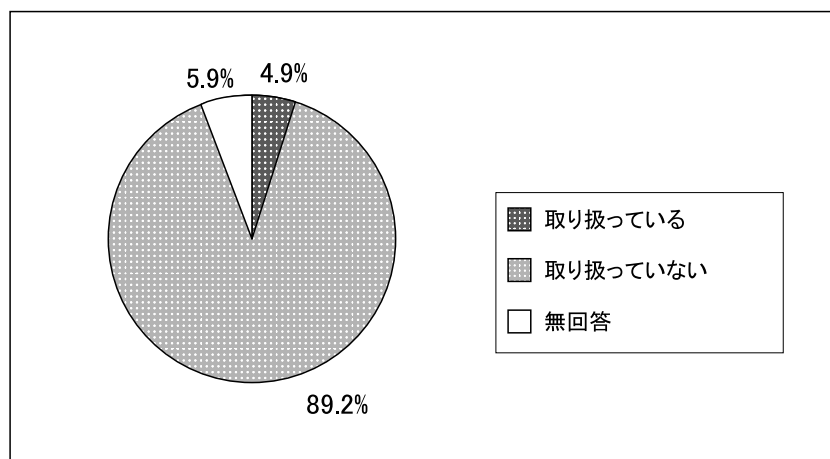


図３－３ 普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容の取り扱い

iii) 普通教育に関する教科「情報」の時間

図３－４は、普通教育に関する教科「情報」の時間の設定について示したものである。教科名は「情報」(33校),「選択教科『情報』」(５校),「選択学習『情報』」(４校),「情報教育」(２校),「選択コンピュータ」(１校)であった。

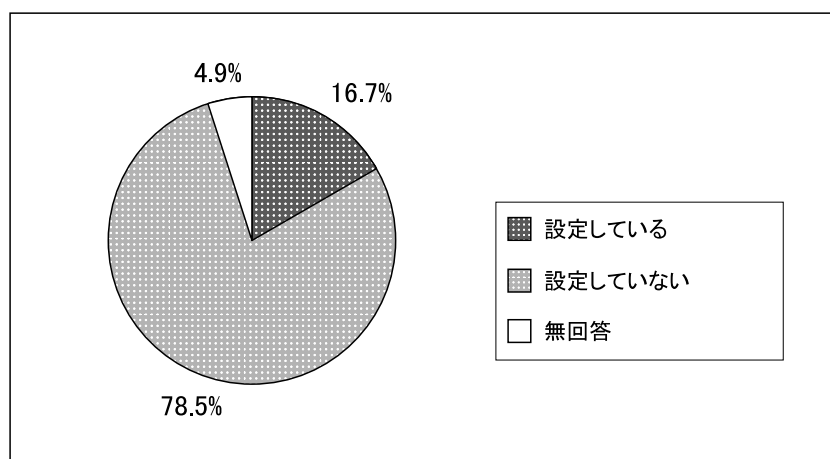


図３－４ 普通教育に関する教科「情報」の時間の設定

iv) 普通教育に関する教科「情報」の内容

図３－５は、普通教育に関する教科「情報」の１段階の内容の実施について示したものである。

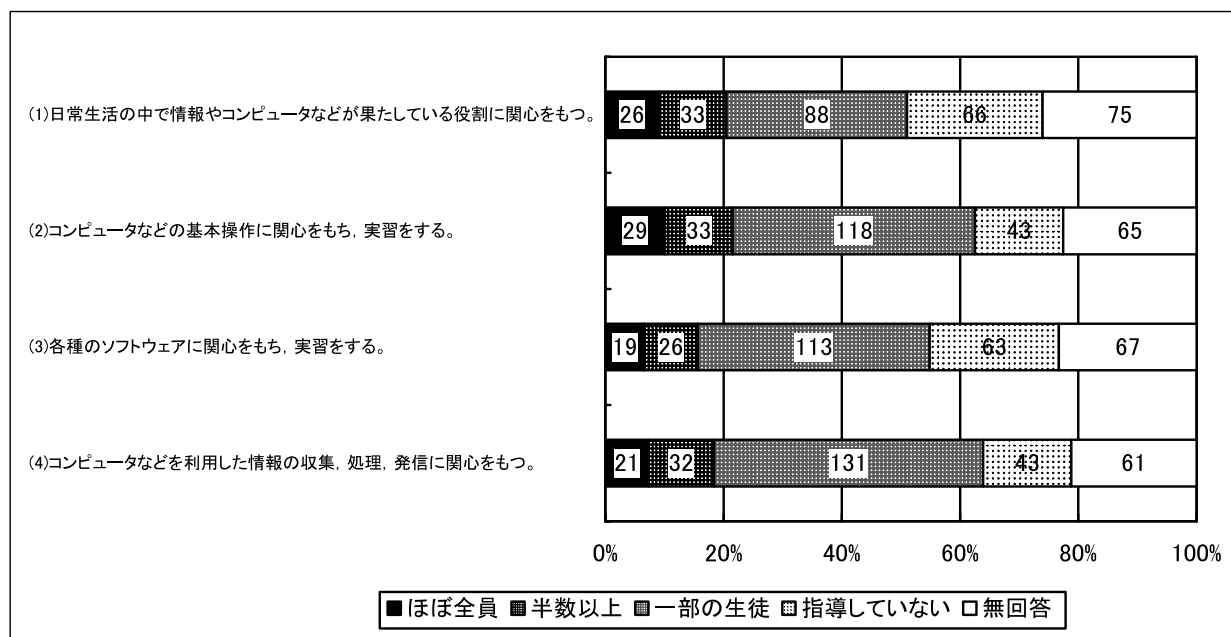


図 3－5 普通教育に関する教科「情報」の１段階の内容の実施

図 3－6 は、普通教育に関する教科「情報」の２段階の内容の実施について示したものである。

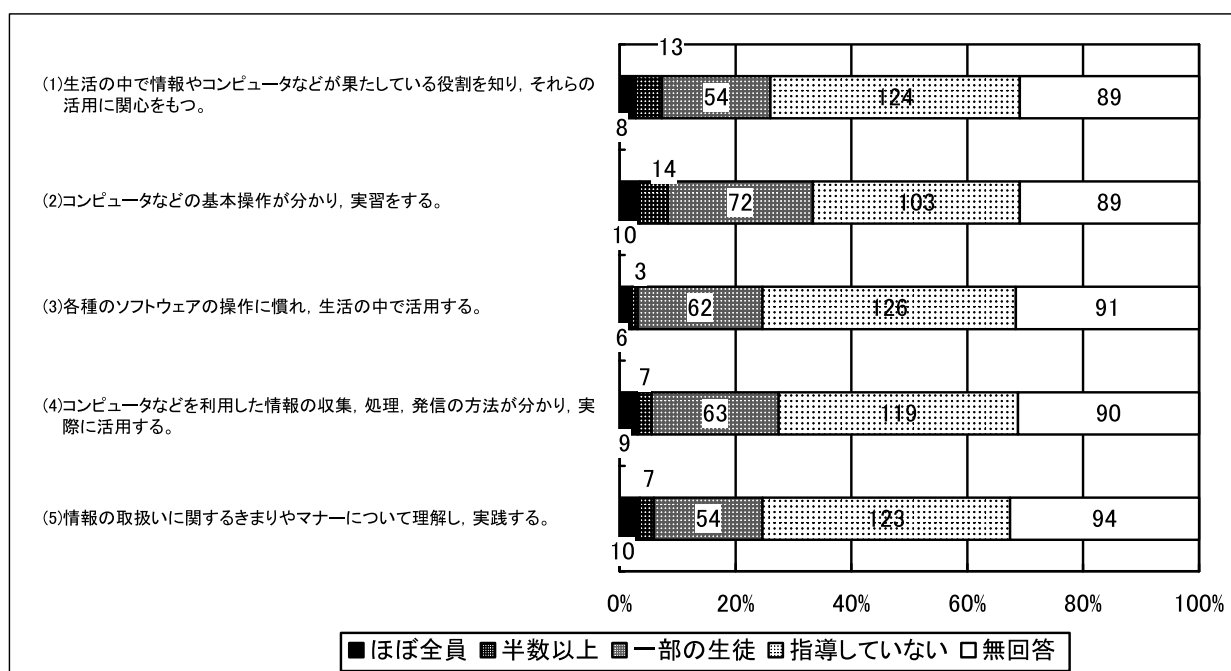


図 3－6 普通教育に関する教科「情報」の２段階の内容の実施

v) 普通教育に関する教科「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項

図 3－7 は、「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項について示したものである。

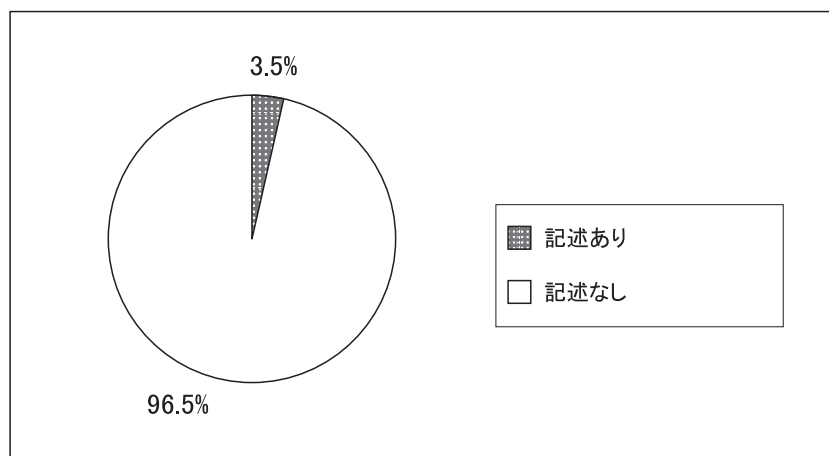


図３－７ 「情報」の内容について，新たに加えて指導している事項

表３－３は，新たに加えて指導している事項の回答を示したものである。

表３－３ 新たに加えて指導している事項

卒業後の消費者教育として（携帯電話の利用について）
情報通信ネットワークの基本的な仕組みと，セキュリティを確保するための工夫についての理解を図る。電子メールや電子掲示板などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアについて，コミュニケーションの目的に応じた安全で効果的な活用方法の習得を図る。多くの情報が公開され流通している実態と個人情報・著作権等の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する匿名性の問題と真偽判定について理解を図る。
情報機器の保守
携帯電話のメールの使い方やマナーについて。
デジタルポートフォリオサーバを活用した，振り返りの支援。つまり，個人の学習成果を組織的にデータベース化することにより各個人が自らの成長（変化）を感じとり，評価することができる。そういう道具であることを理解し，活用する。
デバイス操作の具体的な方法に関すること。
○メディアリテラシー・パソコン，インターネット以外のメディア（特に携帯電話）を対象としている。 ・利用，マナー・情報に対する判断力 ○ネットワークコミュニティへの参加・生徒にとって安全なコミュニティへ参加し，高度情報化社会での生きる力を育成する。 ○情報に対する判断力 ・HP，新聞～うわさ話に至るまで様々な情報に対する判断力の育成。
「情報とメディア」の役割と利用

vi) 普通教育に関する教科「情報」の内容について，今後新たに加える必要があると思われる事項

図３－８は，「情報」の内容について，今後新たに加える必要があると思われる事項について示したものである。

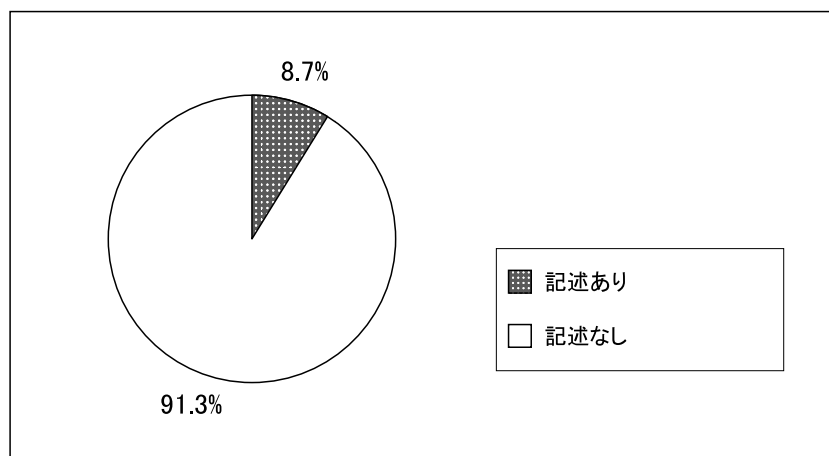


図3－8 「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項

表3－4は、今後新たに加える必要があると思われる事項の回答を示したものである。

表3－4 今後新たに加える必要があると思われる事項

被害者が急増し、社会問題化している「振り込め詐欺」、「フィッシング詐欺」や「偽造カード・通貨」などのマイナス面への対応や予防並びに情報モラルの強化が必要と思う。
セキュリティー、マナーについての指導はしっかりやらないといけないと感じています。
インターネット等の利用の際のマナーや、危険性についての指導についてはさらに強化していく必要があると思う。
著作権について（違法コピー等）、「ネット犯罪の被害に会わないために」
卒後に携帯電話でメールやネット接続している現状があるのでコンピュータだけでなく実際の電話でメールやネット検索の練習をしたいと思う。また高額な料金についても学習させ、賢い利用方法について学習させたい。
情報通信ネットワークの基本的な仕組みと、セキュリティーを確保するための工夫についての理解を図る。電子メールや電子掲示板などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアについて、コミュニケーションの目的に応じた安全で効果的な活用方法の習得を図る。多くの情報が公開され流通している実態と個人情報・著作権等の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する匿名性の問題と真偽判定について理解を図る。情報教育や情報通信ネットワークの活用による情報共有が作業効率の向上に役立つことを理解し、作業を遂行するために必要な情報を要求し
障害がある生徒が機器やリフトを活用する際の利用方法や注意すべき内容について。
出会い系サイトやダイヤルQ2などの問題についての学習。
実体験の少ない生徒にとって知識や疑似体験を広げることのできる情報教育は大切になる。まずは、インターネットを利用できるように指導していきたいと考える。
高等部、各教室に1台～2台のパソコンを設置し、日常的に生徒がパソコンにふれる環境は整っている。しかし、携帯電話が普及している状況の中では、パソコンのメールよりもケータイのメールの方が生徒たちにより身近なものとなっている。緊急時の通信手段としても携帯のメールを上手に利用することは、効果のあること（例えば迷子になった時に周辺の写真を添付したメールを送る、ことばの不明瞭な生徒が意志を伝えるなど）と思われるので、携帯電話の利用法について（現状は個別対応…所持している生徒は増えているが、全員ではないので、時間内に設定することは難しいが）。

今後、重度重複（多様化）の生徒に対して個別に応じた情報教育を推進する必要がある。
携帯電話を使ったメールの送受信、サイトの検索など携帯電話を端末として用いることを教えるとよい。
携帯電話でのトラブル（有料サイト等）への対応、被害者にならない力をつけること等。
概念形成を目標とし、「情報」を手段として新たな枠組みを作る発想が必要でしょう。そのための視点として、認知発達とメタ認知が必要不可欠と考えます。
メディアは酸性紙で100年。今は中性紙となっているので数百年は情報を残していけることと思うが、現在磁気メディアや光メディアへと移行して、紙のメディアがうとんじられる傾向にあることに危険性を感じる。高度情報化社会になればなるほどハードウェアの保守は大切になり、一瞬で大量の情報が流出したり失われたりもする。便利だけが全てではないことも教える必要がある。
パソコン等の普及により、情報通信は多様な活用ができるようになってきたが、情報化の「影」の部分である対応として、ネットワーク上のルールやマナー、個人情報、プライバシー、著作権等の配慮が必要。このことをどのように指導していくか課題であると感じる。
ネット上のトラブルに対する対処。EX.ウィルスの対応
ネチケットに関する事項をくわしく指導できる内容の追加。
デバイス操作の具体的な方法についてよりやさしく指導する必要性を感じる。
アシスティブテクノロジーに関する記述
・自分の持つ知的障害のハンディーキャップに対して、コンピュータやインターネットを使用して、どのようにハンディーを補うことができるのか、いろいろな可能性について学習する事も必要ではないかと考えている。・本校では（他校でも）「ことば・かず」の学習でコンピュータを使用して学習しているのが、知的障害の重い生徒には情報活用と言う意味でなくても、情報機器を使用しているので、「情報」の項目に入れても良いのではないかと思います。
「情報化社会の未来について」私たちの生活の中で、身の周りの物が次々と高度情報化・オンライン化していく現在、そのことによって今後生活がどう変化していくのか学ぶことができれば、その有用性をより実感できるのではないかと考えます。
「情報とメディア」の役割や利用について。卒業後を意識した情報化社会への接し方や問題点。また、アシスティブテクノロジーの利用による生活の改善等。
「情報」というと広すぎるので「コンピュータ操作」とか「コンピュータ利用」とかももう少し現実味を持った名称として扱って欲しい。操作し利用することによって後から「何のために」がついてくる程度で良いと思う。得られる情報の利用・活用については道徳的な観念がつきまとうが、それは「情報」という教科外で身につけておくべき基本的なものである。教科の中では、使用法の習熟にとどめることを望む。

イ）専門教育に関する各教科

図3-9は、専門教育を主とする教科の設定について示したものである。

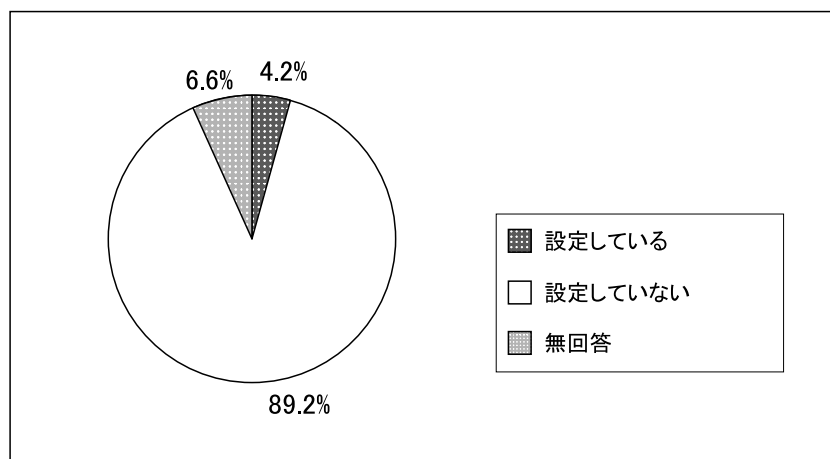


図３－９ 専門教育を主とする教科の設定

図３－10は、専門教育を主とする各教科について示したものである。

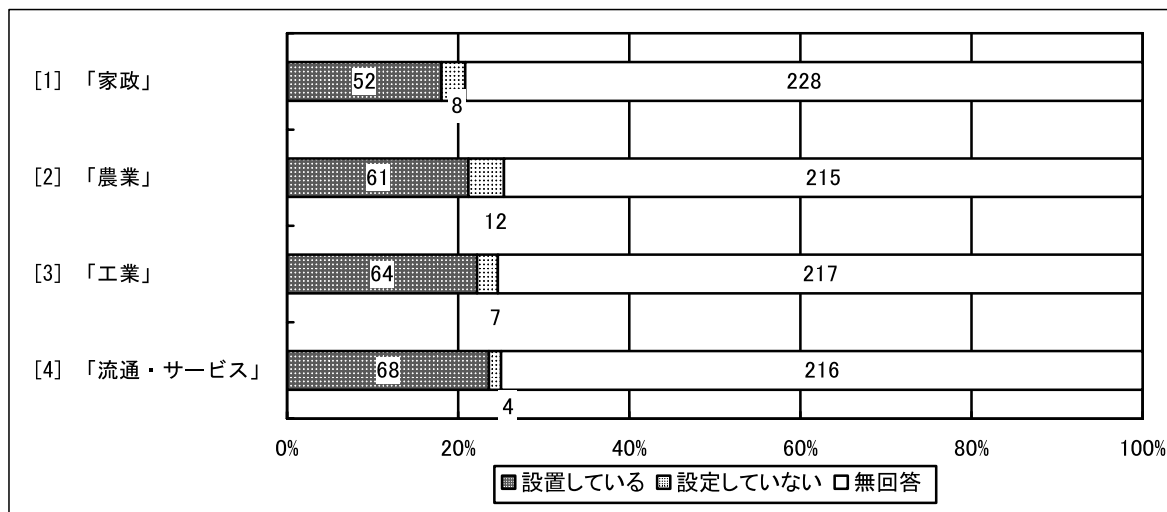


図３－10 専門教育を主とする各教科

ウ) 情報の内容を含む学校設定教科

図３－11は、情報の内容を含む学校設定教科について示したものである。

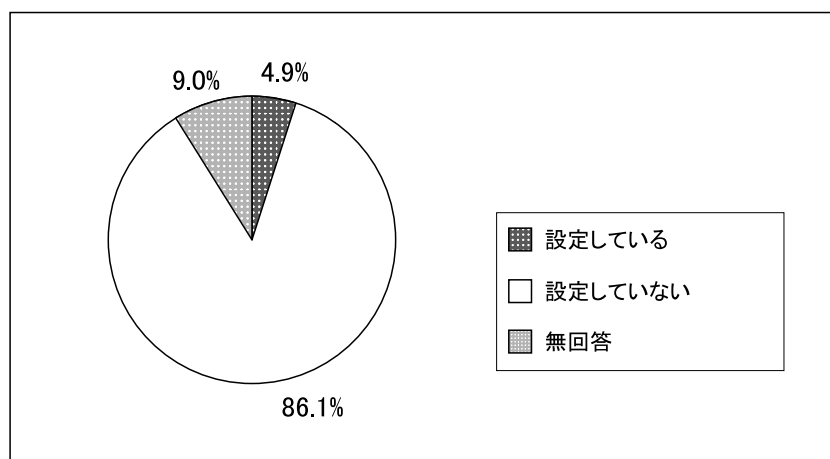


図３－11 情報の内容を含む学校設定教科の設定

表3-5は、情報の内容を含む学校設定教科の回答を示したものである。

表3-5 情報の内容を含む学校設定教科の回答

学校設定教科の名称	目標	内容
学校設定教科「情報」	パソコンに触れ、興味を持ち、自分で使えるようになる	ワープロソフト文字入力、デジカメ写真とりこみ、インターネット、カレンダー作り
	コンピュータなどの操作の習得を図り、必要な情報を適切に活用する基礎的な能力や態度を育てる。	・日常生活の中で情報やコンピュータなどが果たしている役割を知り、それらの活用に関心をもつ。 ・コンピュータなどの基本操作がわかり生活の中で活用する。 ・各種ソフトウェアの操作に慣れ、生活の中で活用する。 ・コンピュータを利用した、情報の収集、処理、発信の方法がわかり、実際に活用する。・情報の取り扱いに関するきまりやマナーについて理解し実践する。
	生徒1人1人に合った目標を設定	例、ワープロソフトを使ってかな入力ができる
	コンピュータ操作の習得を図り実習を通じて役立てる	基本操作に関心をもって実習する。ソフトウェアの実習を通じて生活に役立てる。情報の収集。
選択教科「情報」	情報の取りあつかいについての意識を高める。情報機器の基礎的な技能を身につける。	タイピング、ワープロ、表計算、DTP基礎、取りあつかいマナー、インターネット、ケイタイトラブル
	ワープロソフトを使ってローマ字入力をする等	・ローマ字入力 ・ペイントソフトを使っての絵をかく ・インターネット・ネチケット
	コンピュータの操作の習得、およびインターネットの利用のしかたを知る。	・起動、終了の仕方・カナ打ち、ローマ字打ちの方法・インターネットの利用の方法、等
	コンピュータ等の情報機器の操作や利用や様々なメディアにふれる	コンピュータなどの簡単な使い方に慣れる。コンピュータなどの簡単な操作。コンピュータなどの簡単な演習。コンピュータなどの情報機器を利用しさまざまなメディアにふれる。
生活文化学習-情報	コンピュータの基本的な操作を学び、生活の中でコンピュータを使用する。	ワープロソフトで日記をつける。カレンダーを作る。インターネットで自分の興味あるサイトを見る。インターネットで自分の興味ある情報をあつめる。
課題学習/自立活動	個々に応じて異なる、週4時間ほど。	ホームページの作り方、メールの出し方、チャットのしかた。VOCAやスイッチを使った学習、発表。パワーポイントを使った発表。
コース学習	情報機器の活用、余暇利用	ゲームソフトを用いて楽しむ。インターネットを用いて興味あるサイトの閲覧。ワープロソフトを用いて入力練習。ソフトを用いてはがきやカードの作成。
グループ学習	基本操作をマスターし、実際の生活に役立てる。	キーボード（ローマ字入力）の練習。プレゼン用のスライド作成。電子メール。Webコンテンツを使っの教科学習。インターネットを使っの調べ学習。
—	情報の内容に関して言えば、インターネットをある事項を調べる手段として活用することができる。	インフルエンザ、車、肥満、世界の国々等、生徒の興味あるテーマや生徒の生活に密接に関連したようなテーマについてネット等を中心に調査し、様々な手段（パワーポイント、新聞、模造紙等）を使って発表する。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図3-12は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

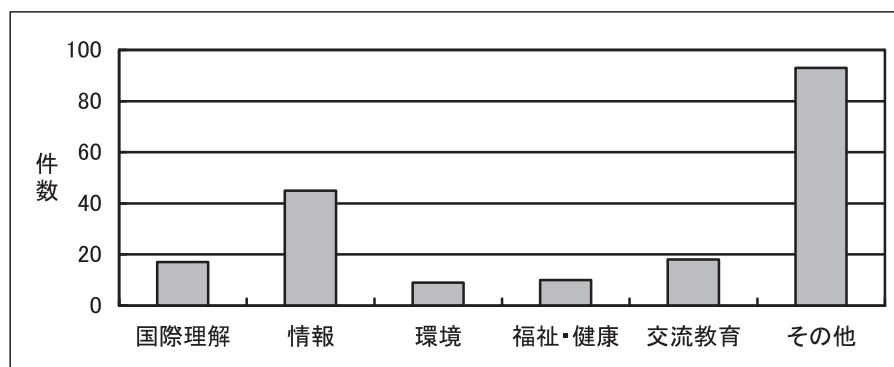


図3-12 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組についての回答は17件あったが、表3-6は、その内容等を示したものである。

表3-6 総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
文化（その国の主な食べ物、食事）（ことば）	27	1.インターネットにより文化、食べ物を調べる。2.その国のことばを調べる。
日本の「まつり」について	20	日本全国の祭りをインターネットを利用して調べ発表する。高山市内にある「飛騨高山まつりの森」という施設を調べ見学する。
地域を知る	5	地域の情報を知る（商店や交通機関などをインターネットで調べる。）
世界を知ろう	2	海外研修に行った教師の写真や話を中心に、時差やヨーロッパの文化について触れる。
世界の国々の料理・食べ物	3	スペインや中国等の料理にどのようなものがあるのかインターネットや雑誌を使って調べる。さらに材料や作り方についても調べ、実際に作る。それまで知らなかった世界に触れるとともに情報を引き出し、活用する方法も学ぶ。
世界の国々とくらし	2	コンピュータを利用した情報収集、調査
世界について（たべもの、ことば、服等）	13	世界のいろいろなことをインターネットで調べ、模造紙にまとめ発表。
世界と出会おう	24	・コンピュータを利用した情報の収集・通信手段としてコンピュータを利用・プレゼンテーションソフトの利用
社会科とあわせて「外国を知ろう」	5	インターネットを使って、外国のことをしらべる。
国際理解を深めよう	35	インターネットによる調べ学習
国際理解・交流	12	国際交流国の人口や面積などの国土や、その国の文化（衣・食・住・遊び）についてインターネットの検索サイトで調べた。
国際人になろう	2時間/週	英語や中国語などの簡単なあいさつの学習、外国出身者との交流会、パソコンを用いた壁新聞作り等。
韓国について知る	2h	韓国の衣・食等、文化について知る。インターネットでの調べ学習。
外国人の一人の生活	2	民族学博物館の見学の前に、世界の国々の生活や食事、国旗などについて紹介したサイトでクイズなどをした。
異文化交流	10時間	—
レッツスタディカナダ!	18	交流しているALTの出身地のカナダについて調べグループ毎に発表したり、ALTと交流しながらカナダについての話を聞いたりする。カナダについて調べるため、大使館などのHPを閲覧した。
エジプトについて知ろう	2	各自がテーマを設定し、調査研究 例・ヒュログリフについて・ナイル川・ミイラとピラミッド・王家の谷、クレオパトラetc

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は45件あったが、表3-7は、その内容等を示したものである。

表3-7 総合的な学習の時間における「情報」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
余暇活動「パソコン」グループ	2/月	マウス、キーボード練習、お絵かきソフト、ワードを用いた文字入力。画像やワードアートの挿入、加工、インターネットを用いた調べ学習等
余暇の活動・活用	11	インターネットを使用して生徒の趣味や今後の学習内容を調べる。その際教師は扱い方を指導する。
目的地の情報を知ろう	2時間	校外宿泊学習の事前学習で現地情報を検索する。
豊かな生活	年35時間	パソコンの基本的な操作等について
地域や郷土	4(12月下旬～4月下旬)	修学旅行先や校外学習の行き先の情報をインターネットで検索して得る。
情報教育	月23時間	PCの基本操作、ワープロ、作図、図形、インターネット検索
情報機器の活用能力の育成	月3時間	ワープロソフト(ワード、一太郎)の基本的な操作方法の理解。インターネットによるホームページ閲覧。メール交流を通じた情報モラルの確立。デジタルカメラを利用したカレンダー作成等
情報の収集、選択、課題解決	2	記事の取材、新聞作り、留学生へのインタビュー、外国のお菓子作り、年賀状作り等
修学旅行の行き先を知ろう	40	高2において実施される修学旅行について行き先についてコンピュータで調べまとめる。
社会生活を営む上でのマナーやルールを知り、経験の幅を広げる。	月に1回、3時間程度	将来の社会生活を見据えて、校外での活動を教師とともに計画し、公共機関の利用、施設の利用を通して、テーマに沿ったスキルを身に付ける。
自分に必要な情報を選択する。パソコン操作のスキル獲得。	週2時間	パソコンの基本的操作の習得、インターネット検索、ワープロソフト活用、写真のとりこみ、加工、ゲーム。
市内の施設の中から行きたいところを探す	10	校外学習として行きたい施設の情報を収集することで、自分たちが行きたいところを決める。
興味のあるものについて調べよう。	2コマ/週	興味のあるものを決め、インターネットで情報を集め、整理後、壁新聞にして作品展へ出品した。
楽しくパソコンを使おう	9	文字入力の仕方、デジカメの使い方、インターネットの使い方
学校のホームページを作ろう	週1時間	高等部の総合的な学習の時間(チャレンジタイム)では、講座を3つ開設(情報、環境、芸術)しており、情報講座で、学校ホームページの高等部のページを生徒自らの学習として作成している。そこでは、生徒がデジカメを使って、学校の様子を撮影した写真や、紹介文を生徒自身がキーボードから入力した文が掲載されている。1月末に公開した。
ワープロ検定取得を目指して	1	ブラインドタッチの取得、ビジネス文書の作成の仕方
パソコン操作	35	文字入力のゲーム、学習ソフト、インターネットの利用法
パソコンの使い方	2	Powerpointによるプレゼンテーションで、パソコンの電源の入れ方や各部の名称、パソコン室、パソコン機器の使用上の注意事項を学習する。実際に機器を操作する。
パソコンに親しもう	35	・ワードを使って、ポスターをつくる。 ・メールを送る。 ・インターネットを用いた情報検索
パソコンに親しむ(余暇の指導)	2ヶ月に1～2回	—
パソコンに触れてみよう	4	さまざまなゲームソフトをたのしむ インターネットを見る
パソコンに慣れ親しもう	24	パソコンの起動から終了までの操作、ワープロソフトで文章を作る、マウスの操作、インターネットでHPを見る、ゲームや絵を描く

パソコンに慣れ親しむ	2時間/週	修学旅行の思い出の作文、クリスマスカード、年賀状、名刺、写真入りカレンダー等の制作を通してパソコンに慣れる。インターネットを利用して興味関心のあるテーマを調べる。
パソコンでできること	2	パソコンを使ってできることを学ぶ。(ハガキソフト、ワープロ、インターネットの使い方、言語を表出するのが難しい生徒にキーボードで打ちこむ練習。)
パソコンクラブ	15	"パソコン"を選んだ生徒が、インターネットでの情報検索やゲーム、ペイントソフトでのお絵描きなどをした。
デジカメ	70	パソコンサークルでは、デジカメによる写真の撮影、パソコンでの印刷、ゲームソフトでのパソコン操作、及び、お絵書きソフトによる、作品の製作をした。
チャレンジキッズ	10	ゴーヤの栽培記録と実の大きさの情報をインターネット上で交換する。作業製品(作物)の交換(メールのやりとり)
サークル活動(パソコンサークル)	週1h	パソコンサークルでは、インターネットや市販の教材ソフトを生徒が選択して楽しみながら、情報活動の実践力を向上させる。
コンピュータの基本的な操作、セキュリティ、モラル	25	ソフトウェアを利用する。セキュリティやモラルの学習。
コンピュータの活用	70	コンピュータの基本的操作について。インターネットの活用、ワープロソフトの操作、ゲームの操作
コンピュータで絵を描いたり、ゲームを作ろう	16	コンピュータを用いて(ソフト名:キッドピクス)絵を描き、ストーリーを付け、スライドショーで発表する。コンピュータを用いて(ソフト名:PowerPoint)2択クイズ形式のゲームを作り、発表する。
コンピュータをきわめる。	週1	アニメーション作成、新聞作り[wordでの文章作り、写真のとりこみ]
コース学習(余暇活動)	1	生徒選択で、コンピュータ等を用いた余暇の過ごし方
クラブ活動として活動、図書・パソコンサークル	1	インターネット検索で自分の興味のある内容を調べる。教育的ゲームソフトを使って、キーボード、マウスの操作に慣れる。
インターネットを活用して調べてみよう	2	校外学部等の事前学習で、インターネットを活用して、調べ学習を行っている。
インターネットを活用しての情報収集	11時間	キーワードを入力して、それぞれ興味のあることをインターネットにて検索。慣れてきたら、教師側からテーマを提示して、それについて検索、発表。
インターネットの活用	週に90分	PCスキルの基礎:インターネットの活用、様々な検索、自由研究
インターネットで調べる	4	「好きな歌手」や「好きな歌」等、自分でテーマを決め、自由に情報を選択する。
インターネット、文章入力等	隔週2時間	ゲーム、文章作成、画像の取り込み、年賀状作成等
PCの操作になれる	1時間/週	ゲーム、ワープロ操作、絵描きソフトの利用、Inter-netを利用した調べ学習etc
Myページを作ろう	週1時間	高等部選択科目のコンピュータクラブという位置づけで実施。 <目標> 1) 卒業後の余暇活動として、コンピュータを楽しむことができる。 2) 生活する上の情報収集の一手段として、コンピュータを活用することができる。 3) コンピュータの正しい操作方法を習得する。 <活動内容> 1) メール(Netscape Mail使用)の受信、新規作成、送信と一連の流れを行う。 2) インタネットのWEB(Netscape6.2または7を使用)上から、欲しい情報を検索できる。 3) WEB上へ情報発信ができる。(ホームページビルダー Ver7)
ITを活用した創作活動等	週1	・年賀状作り ・名刺作り ・CD-Rを使ったアルバム作り ・インターネットによる調査活動

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は9件あったが、表3－8は、その内容等を示したものである。

表3－8 総合的な学習の時間における「環境」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
豊かな体験活動	6	豊かな体験活動の中で森林についてインターネットを利用して調べ学習を実施した。
富士山高校探検隊（2年）	週2時間	最初は富士山について知るための学習だったが、調べていくうちに、ゴミ問題について発展し、インターネットを利用した調べ学習を行っている。
水と地球と私たち	10	地球の海や山の汚染状況をインターネットで調べる。
身近な環境に関心を持ち、触れ合い親しもう	月に1回 3時間程度	季節ごとの草花、野菜の栽培や調理活動
食		小麦、そば等、粉にして食べることのできる食品についての調べ学習。
昆虫、動物の生態について	20	外国の昆虫についてインターネットで調べ発表する。動物の冬眠についてインターネットで調べ発表する。調べたことを基に昆虫の標本等を展示している施設を見学し、より体験的に学習する。
各グループごとの課題について調べまとめる	3/35	海、天然記念物等、生徒の関心のあるテーマについてインターネットでデータを集め壁新聞にまとめて発表する。
ゴミ処理問題について考えよう。	12	資源ゴミの種類やリサイクルの流れまたゴミ処理の方法や全国的なゴミの量について、インターネットの検索サイトで調べ、それをまとめて発表した。

総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組についての回答は10件あったが、表3－9は、その内容等を示したものである。

表3－9 総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
病院について知ろう	4	インターネットによる情報検索、情報による取材を行い写真や文章でまとめる。
体を動かして表現しよう	16	1人1人が体を動かしながら、グループ全体で『海』を表現する。その際にマルチメディア機器を効果的な活用した。
食について	20	学部テーマ「食について」サブテーマ「郷土食（1年）」「世界の食（2年）」「食と健康（3年）」調べ学習の際にインターネットを活用している。
社会見学	6（年間）	福祉工場を見学し、クリーニングの施設を見たり、働く人達の様子を見る。
自分の体を知ろう！	8	健康な体づくりのために、適切な運動量やおやつ量について考える。食品メーカーのHPなどを参考にして、おやつ量やカロリーを計算したり、体格から体脂肪やBMIを計算してくれるHPに入力して結果を見たりした。
自分の健康に関することを調べよう！	6時間	ダイエットや生活習慣病など、自分が健康に関することで興味のあることをインターネットで調べて印刷する。
健康教室	2週に1回 2コマ	デジカメやビデオで、発育測定や給食の様子を撮影し、保健指導で活用した。
衛生的な生活への関心を高め自ら取り組もう	月に1回 3時間程度	普段何気なく行っている日常生活の衣食住に関することをテーマに上げ、衛生的かつマナーに合ったスキルを身に付けるための自主的な実践に取り組んでいる。
インフルエンザについて	10	ネットで調べ、パワーポイントで調査結果をまとめて発表する。
「奉仕」ボランティアについて考えよう	9	ボランティアの定義や種類について調べ、ボランティアの具体的な実践例について、インターネットを利用して学習した。

総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組についての回答は18件あったが、表3-10は、その内容等を示したものである。

表3-10 総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
附属養護学校との交流	20	互いの学校で盛んに行われているバスケットやユニホックを取り上げたスポーツ交流、竿灯や器楽演奏の発表
地域交流 1学年	—	学校周辺の地域について、調べ学習を行う際、インターネットを利用して生徒自身が調べてまとめる。
地域の方とともに（音楽・スポーツ）をたのしもう！	12～	地域の伝統文化を学んだり地域で活躍しておられる方を招いて講師として音楽、スポーツなどを教えていただいたりする活動
地域の仲間と校外学習に出かけよう。	2	1～3年がたて割りで、自分が居住する地域別に分かれグルーピングし、その中で、自分達が住んでいる地域の様々な施設に校外学習を行う。その事前の調べ学習においてインターネットを使用する。
地域の作業所や福祉施設入所者との交流活動	10	地域にはどんな作業所や施設があるか、またそこでは、どんな作業をしているかなどについて、インターネットで調べ、交流前の資料を作成する活動を行った。
他の養護学校との交流	4	修学旅行で交流する学校とメールで情報のやりとりをした。
山辺高校との交流学习	1時間	簡単なゲームを通しての交流
作業作品販売をしよう	4	保護者は地域の方に自分達が作った作業作品を紹介するために、作品紹介文をワープロで作成した。
交流学习「〇〇高等養護学校」「●●学園」との交流	各4時間	相手校のビデオレターの視聴、及び生徒の写真を掲載した手紙の交換。
交流学习:名刺を作ろう	1～2	交流学习で名前を覚えてもらう手段として、名刺作成ソフトを使って生徒一人一人名刺を作る。
交流会の事前も指導	1	交流会の事前に、他の養護学校とテレビ会議システムを使って自己紹介を行った。
交流会に向けたプロフィールカード作り	4	近隣の中学校との交流会で使うプロフィールカードを作る。
近隣校との交流	6(年間)	隣接する普通校の生徒と一緒にゲーム及び文化祭見学
近隣5高校との交流、老人ホームとの交流、地域との交流	—	高校生との交流は各学期一回、年間3回。各回とも本校にて作業、交流、ゲーム交流、工作交流などを行っている。老人ホームとの交流は季節の行事を中心に各学年、年1回の交流をしている。地域交流では、近隣農家のカボス収穫を手伝っている。
韓国の方と交流をしよう	14	韓国の方と交流をするにあたり、調べ学習として食べ物、文化、簡単な挨拶等をインターネットで調べた。
ボランティアをしよう	12	デイサービスセンターに行ってボランティア活動をした。どのようなボランティアができるのか、インターネットを使って調べたり、プレゼンテーションを使って活動内容の確認や発表をした。
ふれあいタイム	8	異年齢交流として、小5～高3の児童生徒を7つのグループに分けて活動を行う時間を設けている。その中に「パソコングループ」があり、ゲームやデジカメなどを使った活動を行っている。月1回、第3週目の木曜日に実施。
アップルパイコンテストに参加しよう！	40	地域の産物（りんご）を扱った地域の行事（りんご祭のアップルパイコンテスト）に参加するためにインターネットを活用し、りんごやアップルパイのレシピなどを調べる。調べたことを活用して、コンテストに入賞できそうなパイを工夫して作ったり、りんごのことでわかったことをまとめて、グループごとに発表したりした。

総合的な学習の時間における「その他」の取組は93件あったが、表3-11は、その内容等を示したものである。

表3-11 総合的な学習の時間における「その他」の取組の内容

テーマ	時間数	内容
余暇活動の充実	1単位	従来設定していたクラブ活動を移行し、自分たちで好きな活動を選び、話し合って計画、立案し、楽しい時間を過ごすことを目標に行っている。その中のグループの1つとして、コンピュータグループがあり、インターネット、カレンダー作り、名刺作りなどにとりくんでいる。
余暇活動（進路に関わって）	4	一部のグループで、卒業後の余暇活動を広げることを考えて、インターネットを使い、生徒の興味あることを見て楽しんだ。生徒はパソコン（インターネット）によって、自分の好きなことを見られると知った。
余暇活動（サークル）	年間20回	インターネットの活用法（検索、天気予報等）、文字入力（名簿作成、年賀状）、ゲーム
余暇活動	週1	クラブ活動の1つとしてパソコンクラブを設置。希望生徒14人に一人ひとりデスクトップパソコンをあてて、60分の活動時間内に主にインターネットに接続して、それぞれの興味のあるHPにアクセスしている。希望すれば、そのHPをプリントアウトさせる。
余暇活動	70/年	ワープロソフトを用いて、オリジナルカレンダーの制作、操作法の学習。インターネットの操作法の学習（各個人の興味等に応じ、自由に調べる。）音楽CDやDVDを用いて余暇時間の活動の幅を広げる学習。
余暇活動	6	余暇活動を充実させるため、インターネットを利用してホームページの閲覧方法を学習する。
余暇を広げよう	3	校外学習を主とした活動。地域の施設及び環境を生かし、公共交通機関等を活用しながら、体験的な活動を通し、余暇を広げる学習。公共施設等一の利用方法の資料として事前情報を収集する。
余暇を楽しもう	4	インターネット、パソコンゲーム
余暇の活用に関すること	12	コンピュータサークルでインターネットの使い方を身に付け、興味のある情報の収集に取り組んだり、簡単なソフトの使い方を身に付け、活用して楽しむ。
余暇につながる活動	17	音楽班、パソコン班、スポーツ班など六つの班に分かれ、個々の趣味、特技を伸ばす活動を行った。パソコン班は、自分の興味のあることをインターネットで調べ、プリントアウトし、発表をした。スポーツ班は、自分で取り組むスポーツの由来や、コツ等をインターネットで調べ発表するとともに上達のために役立てた。
友達を知ろう	6	デジタルカメラで写真を撮り、友達の写真を使ってカレンダーを作成する。
模擬店	3	パソコンを使ってお店のチラシをつくった。
富士山学習（3年）	週2時間	富士山やその周りの地域について、自然について等、インターネットを利用した調べ学習を行っている。
肥満について	12	肥満があたえる影響（成人病等）について、ネットで調べる。その結果を新聞を作成して発表。
販売学習の計画・準備・まとめ、流通について	14	・インターネットを利用して、地図や路線を検索して、計画を立てる。 ・POSシステムやバーコードについて知る。
買い物学習、カラオケをしよう、校外学習の計画を立てよう	16	自分たちで企画し、実施・運営を行う。準備の係分担や進行の仕方なども自ら考え、相談して行う。
年賀状をつくろう	6時間	デジカメでとりこんだ画像やテンプレート、イラストを使い年賀状を作成する活動を通してパソコンの使い方に慣れる。
日本文化	通年週1回	日本文化の中での「食べ物」「交通」「音楽」の3分野について資料として集めたり研究の題材とする。
日本の文化を知る「インターネットでしらべる」	3/35	修学旅行先の大阪・京都について調べる。

日常生活の指導	4～10	ワープロ、描画、計算等ソフトを用いてパソコンの操作に慣れる。
中学部と高等部の学部間の校内交流	1	中学部と高等部の生徒が週に1回（水曜日午後1コマ）コンピュータ室に集まり、インターネットやゲーム、ワープロソフト、学習ソフトを利用する。
地域理解	週90分	地域の様々な施設を調べ、実際にいってみる。
地域を知る「インターネットでしらべる」	3/35	自分のくらす町について、役所等のホームページを利用してみる。
地域の文化を知ろう	27	在住地の文化を調べる。
地域の公的機関を知る	2	消防署のホームページで消防署について調べる。消防車について調べる。
大昔の体験をしてみよう	16	縄文時代の人々が使っていた『石包丁』や、食べていた『どんぐりクッキー』を作っていく体験の中で当時の生活スタイル等、コンピュータを使ってインターネットで調べ学習を行った。
卒業後の生活を豊にしよう	5	高等部三年生の卒業旅行を生徒自身が計画して下見も行う。車椅子の生徒の動き、ディズニーランド内の活動の計画、交通機関の利用について等を調べる。
卒業の取り組み	15	ワープロソフトを使っての卒業文集作りをする。自分史作りをする。プレゼンテーションソフトを使って発表する。
星座	7	冬と夏の星座、星座の名前と物語。インターネット使用。
人権教育	3	携帯電話やメール等の利用に関わって学ぶ。個人情報の取り扱いについて学ぶ。最近の被害や事例をもとに学ぶ。
進路学習「余暇利用」	2	余暇利用という单元の中で「CD・MD機器の操作」「VHS・DVD機器の操作」の指導を行っている。
進路学習	年間40時間	実習にむけての職場、施設の情報、卒業した先輩の働く様子。実習後の「働く」生活の振り返り。自分だけでなく、友だちの様子も知り、「働く」生活の自分の課題を見つめる。
進路学習	年間35時間	インターネットを活用した調べ学習やワープロソフトを使用した報告用冊子・新聞の作成等に情報教育に関する内容もとりあげている。
進路学習	適宜	調べ学習で、インターネット検索によるパソコンの利用
進路学習	12～40H	各学年、実態に応じた進路学習。将来の生活（日常的なこと、社会のマナー、ルール、余暇等）。働くことについて 他
進路学習		インターネット等を活用して、職業について調べる。
進路学習	18	現場実習先、進路先として、行きたい企業や福祉施設などをインターネットでさがす。職安や県、市の障害福祉課などのホームページから、進路情報を得る。
進路の学習	128	職場体験や現場実習についての事前学習。またワークシートづくり、報告会へ向けてのプレゼンテーションの作成、礼状の作成で情報機器を活用している。
進路について考えよう	10	校内実習や職場体験実習などの事前学習の際、前年度の動画、静止画像をコンピュータで編集したものを生徒に提示し、意欲づけを画っている。
進路	2コマ/週 ×10日	パワーポイントによる教材や職場実習の様子を撮影したビデオを使って進路学習を行なった。
新聞委員会	週1コマ (40分)	自分の興味、関心を持ったことをインターネット検索で調べ、ワード等によりミニ新聞を制作する。
新聞をつくろう	5	自分の興味のある事柄をインターネットのweb検索し、一人ひとりが新聞にまとめる。
職業教育 自分の将来を考える。	20	実習のお礼状作りや職場調べでパソコン、インターネットを使用。
情報のモラル	3	メールや携帯電話の利用についての学習
宿泊学習「花の美術館」について調べよう	8時間	宿泊学習で訪れる予定の見学先である「花の美術館」について、場所や料金、時間、催し物などについて生徒がインターネットで調べ学習を行った。
住吉の町を調べよう	10	学校のある町の歴史や文化についてインターネットで調べる。

修学旅行に関する学習～北海道の地理・産業等に関する課題学習	12～16	北海道の地理や産業等について、Webページ等を活用して調べ、表・OHPまたはプレゼンテーション用スライドにまとめて発表する。
修学旅行 事前学習「北海道を知ろう」	1学期末から2学期中旬の短期間の中の6時間	修学旅行旅程表にある行き先からクラス別にテーマを設定し、関する内容をWeb上から情報収集を行う。更にその成果を外部の方を招いて発表の場として設定する。生徒間では、互いの発表を見聞きし、行き先についての情報共有を行う。例えば北海道の「有珠山、昭和新山の火山について」「白老ポロトコタンアイヌ民族について」「札幌ウィンターミュージアム」「札幌市内の交通、おいしい食べ物」
修学旅行	1	見学予定先についてインターネットを活用し、内容について調べる。
就業体験先を調べよう!	2時間	就業体験先の地図をインターネットを使って調べる。
車について	12	新車や車の性能をネットで調べた。その結果を新聞で発表。
社会生活に必要なことを学ぼう	8	メールの正しい利用法、いたずらメール、料金。インターネットを利用して情報を集めよう。
社会見学の事前学習	8	見学場所の所在地、概要などを事前にインターネットを使って調べる。
自分の名刺をつくらう	6時間	デジタルで各自の写真を撮り、名刺ソフトを利用して住所、名前等を入れ自分の写真を入れる。
自分の興味あることを調べよう	2時間	インターネットの検索の仕方、絞り込み検索の仕方、印刷の仕方
自分のポートフォリオを作ろう	週4時間	運動会その他学校生活の中で自分が活躍した場面の画像を集め、本人の感想をつけて完成させる。
自己の生き方、進路に関すること。	12	職場・施設見学を前にグループ毎に与えられた内容についてコンピュータを使い情報を収集し、まとめ、疑問点などを整理する。
作品作り		クリスマスカード作り、Tシャツ（絵柄）作り
校外学習の計画、準備、まとめ	14	・インターネットを利用して、行先の地理・歴史を調べる。 ・路線を検索して交通手段や時間、料金などを調べる。
校外学習	4	校外学習の行き先について、インターネットを使って調べる。(料金、交通アクセス、食事場所など)
公共施設の利用	27	図書館、市役所、ハローワーク、消防署をインターネットで調べる。
公共施設の見学	2	見学先公共施設やそこへ行くための交通機関についてインターネットで調べた。
駒の子祭に向けて	6	自分たちのやりたい活動で、分からないことをインターネット等を使って調べ、活動に取り入れる。
楽しい修学旅行	2時間	修学旅行の目的地に何があるのか調べ、利用方法を知る。
学習発表会に向けて	6	分からなかったことや、もっと深く調べたいこと等をインターネット等で調べ、まとめる。
学校のまわりのお店を調べよう	年間35時間	学校の周辺にある電機店、スーパーマーケットなどの店舗についてインターネットを使って調べ、実際に見学に行ってその様子を知る。
海でエンジョイ	15	海のめぐみ、海に関する環境問題、海で楽しむゲーム等をインターネットで調べて発表、活用した。
火山について	4	地層→なりたち、地域の地層。火山→火山の構造と主な火山。インターネット使用
沖縄について調べよう	週4時間	修学旅行で行く予定の沖縄についてビデオを見たあと、興味をもったテーマについて調べ、まとめる。
一人でやってみようシリーズ「お弁当作り」	6	チャレンジタイムでは、一人でやってみようシリーズと題し、身だしなみや身のまわりのこと、お弁当作りなどの学習を行った。お弁当づくりに当たりどのような料理がお弁当に適しているかをインターネットを使って調べた。また、具体的なレシピもインターネットで調べ、生徒達はパソコンを使って情報を得ることができた喜びを感じてった様子。
移動教室に関する学習～静岡県（隔年で長野県）の地理・産業等に関する課題学習	12～16	静岡県（隔年で長野県）の地理・産業等について、図書館、Webページ等を活用して調べ、表にまとめて発表する。

わたしたちの農場	40	農場マップづくり，年間の活動，案内状，礼状の作成，きりたんぽ会，達人から学ぼう 他
パソコン操作の方法と活用について学ぶ	35時間	パソコンに興味・関心を持つ生徒を対象に，パソコン操作の基礎を指導するとともに，ソフトの活用法を知るため，各生徒が目標を定めてパソコンの操作等を実践し技能向上を目指す。
パソコンを利用してインターネットや電子教材に親しむ	16	“くらぶ”活動の一つとして，パソコン教室でインターネットや電子教材を利用する学習を行っている。パソコン教室の設置のデスクトップパソコンの台数の都合で，8名（高1，高2）を限度として，1回に2校時，年間8回程度実施している。
バスターリング	18時間	インターネットでの情報検索（時刻表，地図，見学場所等）
チャレンジタイム「デジタルカメラで撮ってみよう。」	2時間 (選択制)	見本の写真と同じ物を自分でカメラを操作し撮影する。
チャレンジタイム（調べてみよう身近な疑問）	週2単位時間	高等部3年生の希望者により構成されたグループ活動の一環として実施。生徒一人ひとりの課題について，キーワードを基にウェブ閲覧を行い，解決を図る。また，コンピュータの基本操作や各種ソフトウェア（ワープロや描画など）の実習も行う。
スイッチトイやVOCAで遊ぼう		スイッチトイで因果関係を学んだり，友だちどうしの関わりあいVOCAに「ギャグ」や命令ゲーム的なものを入れ，クラスの友だちどうしで遊びを深めた。
ゲーム・パソコン同好会	週1時間	インターネットからゲームをダウンロードして楽しむ。ホームページの作成，カレンダー作り
クラブ的活動	1時間/週	週1時間，希望者がクラブの活動としてパソコンクラブで活動している。クラブでは，PCの基本的操作（Windows，各ソフトの起動，マウス・キーボードの使い方，シャットダウンなど）や数や文字に関する基本的ソフトウェア，ペイント系ソフトウェアなどに取り組んでいる。技能の修得ではなく，PCに慣れることや余暇の活動としての色が強い。
おもしろ科学実験	－	「米村でんじろう」氏のホームページで，おもしろい実験（ダンボール空気砲や静電気等）について調べ実践する。また岐阜県のサイエンスワールドという施設から出前授業をしていただき，体験的に学習を進める。
いんばハローワーク	5	高等部1年生の進路学習の授業。職場見学に行く手順や交通機関，店やデパート等の連絡先を調べる。デジタルカメラのデータを印刷する，ビデオのパソコンで見る等
インターネットをしよう	4時間	修学旅行の目的地のひとつであるディズニーランドについてテーマを決めて検索する。
アイヌの文化，沖縄の文化を知る	3～4h	インターネットによる調べ学習。
Let's try the 気仙太鼓	35時間	和太鼓に親しむと共に，和太鼓演奏により，生徒の自己表現能力を高め，自主的に取り組む姿勢を育てる。地域の関心や理解を高める活動の一環とする。…情報機器の活用。
「将来の夢を発表しよう」（進路学習）	8	高等部3年生が，“進路懇談会”の中で，自分の将来の夢や生活について，パソコン上でアンケートをまとめたり，パワーポイントをつくって発表したりした。
「お店しらべ」（〇〇商店街を知ろう）	20	店の名前，種類，売っている主な品物を調べ，コンピュータでデータをまとめていく。
労働体験・校外での学習	70時間	－
－	月に4時間	情報，コミュニケーショングループの生徒20名が，インターネットを利用して様々な事について，検索して，調べる。
－	－	買いもの学習や校外学習において。パソコンでイメージをつくって実際の活動へうつしている。（家庭でも同じように活用している）
－	－	上記の項目に分類できないが，パソコンの使い方等の学習を行っている。
－	－	学校祭の舞台背景を絵描きソフトで仕上げる。年賀状の作成。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容

図3-13は、領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容についての回答を示したものである。

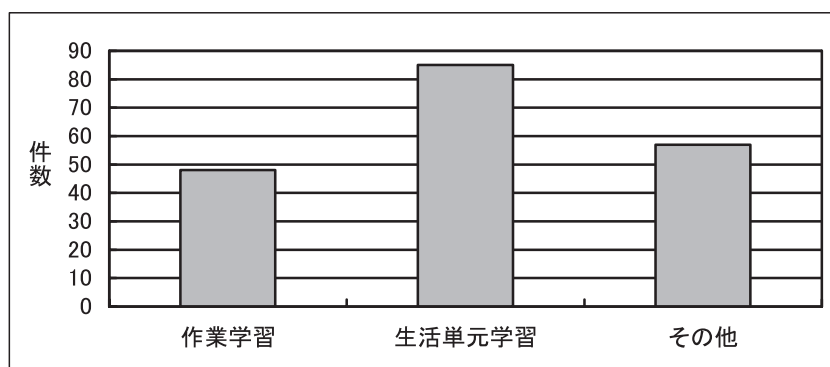


図3-13 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習についての回答は48件あったが、表3-12は、その内容等を示したものである。

表3-12 作業学習の内容

名称	時間数	内容
窯業班	—	一日で生産した製品数をパソコンに入力していく作業の適切な方法について実践中である。
窯業，食品加工	4	窯業にはどのような作品があるか（インターネットで調べよう）。パウンドケーキづくりの材料作業工程を調べよう。
普通科ビルクリーニング	毎回	授業開始時に実習室内のパソコンに各自ログインし、氏名とログイン時刻の印字された作業日誌シートをプリントアウトする。
販売活動に向けて		ワード、エクセルなどのソフトウェアを使った値ふだ作り。
販売会に関する学習、製品の制作に関する学習	10～18時間	作業製品のデザインのドローソフトを用いて行う。作業製品販売会のポスターをワープロソフトを用いてレイアウトする。作業製品紹介用Webページの写真をデジタルカメラで撮る。
販売にかかわる活動	10	チラシ作り，ポスター作り
班別作業「印刷班」	254	作業種のひとつで情報機器を活用した取り組みを行っている。名刺，カレンダー，ポスター，ハガキ，各種パンフレット等が主な製品である。製品づくりや納品書等の作成で情報機器を使用している。
農耕	4	季節の風景や作業の様子の写真のスライドショーで紹介した。
農業班	後期 週2時間	マイクロソフト社の「ワード」を使用し，農業班で冬季に作っているリンゴジャムのラベルを制作している。
農業，木工，窯業	3～9	コンピュータを利用しての作業集計，日報作り
農業	4	各野菜の育て方，調理の仕方をインターネットを使って調べた。
農園木工・縫製紙工・窯業	210時間	—
農園芸班	4	作物（野菜）の育て方や，野菜の名前などをインターネットのサイトを使って調べる。調理方法についても調べる。
総務課	週4時間	高等部の作業学習について，情報発信をするために，お便り，ホームページ，紹介パネル等の作成を行っている。
制作・印刷	週4コマ	オリジナルカレンダー，名刺，オリジナルTシャツ，しおり作り，封筒印刷，卒業式プログラム印刷
情報基礎印刷班	約40時間	カレンダー制作，年賀状の作成，写真入り名刺印刷，キータッチ練習
情報印刷班	380	名刺，ポスター，カード等，注文を受けて商品を作る。商品開発をする。

情報，流通班	6	タイピング，カレンダーなどの掲示物の作成，インターネット，情報処理検定の受検
情報（各作業班より抽出して行う）	隔週2時間	パソコンの基本的な操作について。文字入力の実習，ワード，エクセル，インターネット，写真加工等アプリケーションソフトの操作の方法
商品のラベルを作ろう	5	文化祭等で販売する作業製品のラベルをソフトを使ってデザインし，印刷して利用する。
自主生産作業，委託加工作業，産業現場等における実習。	必要に応じて。	1段階（1）（2）（3）（4）2段階（1）（2）を中心とした内容
紙工班 名刺作り	週6	紙すきで作った和紙にワープロで作った名刺のレイアウトを印刷する。
紙工班	－	一部の生徒がカレンダーのデザインをして，自分たちですいた紙にプリントしてカレンダーを作成し販売。
紙すき班	－	カレンダーの印刷。生徒の描いた紙をパソコンで印刷する。
紙すき	2	作成した紙にパソコンを使ってカレンダーを印刷した。
作業製品の値札作り<陶芸班>	27	自分達が作業で作った製品の値札を，パソコンのEXCEL等のソフトウェアを使って作成する。
作業学習（オリエンテーション）	4	作業のはじめに行うオリエンテーションで，作業の種類や目的などをパソコンを利用し視覚的な情報を沢山入れて説明している。
校内実習，職場体験実習の事後学習	5	体験を文字や写真などを盛り込んだプレゼンテーションにし，自ら発表する。
印刷班（はがき，名刺，カレンダーなど）	通年週2回	インターネットやカット集等から必要なイラストやデザインを選び，製品作りに活用する。自分好みだけでなく，どういうものであれば喜んでもらえるか考えながら加工する。製品作りの参考として常時インターネット等の情報を活用する。
印刷班	3/週	暑中見舞，クリスマスカード，年賀状作成，カレンダーづくり，卒業生へのメッセージカード作りなど
印刷班	週2時間	コピー機や印刷機，パソコンの基本的な操作方法の習得。ワープロソフトによる文書作成の方法を習得。
印刷班	280	名刺作り，カレンダー作り
印刷班	週10h	コンピュータのワープロ機能を使って，名刺やパンフレットを作成する。
印刷作業	週10時間のうち1～2時間	パソコン，名刺プリンタを用いての名刺作成
印刷，布加工作業	128	パソコンによるオリジナルのデザイン作製をし，図柄を，Tシャツや巾着袋にプリントする。
パソコン班	4（週）	カレンダー作り，はがき作り等
パソコン	4～6	タイプライター練習，描画，印刷，インターネット
シイタケ栽培	－	シイタケの栽培方法，業者や農家を調べて取材するなど。
コンクリート班の宣伝	－	今年度はまだ取り組んでいないが，コンクリート製品の宣伝のため，ダイレクトメールを利用したことがある。
クリーニング	8H	校内外のクリーニングの受注，商品管理のための表計算ソフトを使用している。
クラフト班（メンバー8人中2人がパソコン担当）	6/週	マウス，キーボード練習，ワードを用いた文字入力，画像やワードアートの挿入・加工，デジタルカメラの撮影，利用，インターネットによる調べ学習，フリーメールのアドレス拾得，メールの利用方法，オリジナルCD作成等。
「作業オリエンテーション」他	週10時間	作業学習のねらいや作業班の紹介，販売活動の取り組みの様子をプレゼンテーションする。

生活単元学習についての回答は85件あったが、表3-13は、その内容等を示したものである。

表3-13 生活単元学習の内容

名称	時間数	内容
余暇を楽しもう!	8	インターネットを利用(検索)し、カラオケや買い物など計画し、実施する。
買い物学習	—	交通機関の時刻表や運賃表またお店の検索
年賀状を出そう	6	描画ソフトを作ったぬり絵、ワープロソフトであいさつ文、住所等の入力
年賀状を作る	2	ワープロソフトを使い、宛名を入力し、印刷までを行う。裏面のデザインイラストを選択、作成し、印刷する。
年賀状・カレンダー作り、郷土の食べ物を知ろう	3, 6	年賀状やカレンダーをワープロのテンプレートを使って作成する。インターネット上で郷土の料理と調理方法を調べ実際に作ってみる。
調理学習	各学年によって異なる	作りたい料理のレシピ調べのためのWebブラウズ、材料の栄養価のチェック。
調べてみよう	2時間	OSの起動・終了(確認)。ブラウザの利用と検索
探検発見、球磨人吉	24	人吉・球磨地域に1日出かけ、生活経験を広げるという単元。行き先や移動計画など、できるだけ生徒が行う。その過程でさまざまな雑誌、パンフレット、インターネットを用いて情報を収集し、必要な事ができるだけ自分で選択した。
卒業に向けての作品整理	6	自分の美術や書道の作品をデジカメに収めたものをコンピュータに保存したり、プリントアウトしたりする。
卒業に向けて	10	・写真の加工、 ・ワープロでの文章作り、 ・卒業文集の制作
生活課題学習	週3h	生徒の実態にあわせて、ワープロ、メール、インターネット、ペイントなど、生徒の課題解決に有効と思われる場合、個別に取り組んでいる。
生活を豊かにしよう。	10	余暇活動の一つとしてパソコンの利用を考え単元を設定した。基本的な操作から自分の好きなソフトを使用し、パソコンを身近に感じ、日常生活の幅を広げることをねらいとしている。
世界の国々とくらし。日本の地域と特色	—	調べものにインターネットを利用
進路学習	2	職業調べ
進路学習	12	・進路情報の収集 ・生活地図の作成に活用
宿泊学習をしよう。進路について調べよう。		図鑑等の図書が少なく古いので、インターネットを活用して最新の情報を得ることをねらいとした。植物の種類、咲く時期等を調べた。
修学旅行等	26	希望の目的地をネットで調べ、見学先を選定し、学習計画を立てる。旅行会社の職員にGTをお願いして、フォローをしていただく。
—	—	修学旅行先について調べる。校外学習先について調べる。
修学旅行事前学習		インターネット等を利用して、旅行先に関することを調べる。必要に応じて、印刷を行い発表で活用した。
修学旅行へ行こう	6	インターネットで施設や交通機関、お土産等を調べる。
修学旅行へ行こう	8	・インターネットを用いて調べ学習をする。 ・お世話になる方へメールを送る。 ・情報を電子メールの添付ファイルで送ってもらう。
修学旅行の行き先を調べよう	6	インターネットで修学旅行の行き先を調べる。
修学旅行に行こう、宿泊研修に行こう	6~8	インターネットによる修学旅行や宿泊研修先の検索、情報収集、交通手段の情報。パワーポイントによる行程発表。しおり作りの活用
修学旅行に行こう、校外学習に行こう		修学旅行→沖縄の位置・気候・食べ物など。 校外学習→行き先の確認、どんな所を見学できるのか、店の様子。

修学旅行に行こう	3	今年度行われた修学旅行で見学する場所や利用する施設などをインターネットで調べる。
修学旅行に行こう	4	インターネットを使った調べ学習や電子アルバムを使って事後学習で活動をふりかえり、まとめをする。
修学旅行に向けて	年間25時間	沖縄の自然、歴史に関するインターネットでの情報収集。交流校、交流先へのメールのやりとり。しおり作り（インターネットの情報を使いながら）
修学旅行で沖縄へ行こう。		インターネットで沖縄に関するホームページを検索し、調べた。（生徒の実態に応じてグループ学習で扱った）
修学旅行、社会学習	2.25時間	修学旅行や社会学習の目的地についての、インターネットを利用した調べ学習。
修学旅行、カレンダー作成、壱岐ツアーを楽しもう	24	修学旅行（東京自主研修調べ、交通手段確認）、表計算ソフトを利用したカレンダーづくり、壱岐（地元）の観光地調べ。
修学旅行	24	修学旅行訪問先についての調べ学習やしおりの作成
修学旅行	10	修学旅行に関連する情報をインターネットで検索
修学旅行	8	自由行動の場所やアトラクション、食事の場所などを調べ行動計画を立てた。
修学旅行	3	事前学習としてインターネットで沖縄に関する情報を収集した。
趣味の時間	20	生徒が7つのグループに分かれて活動している。そのうちの1つのグループが”パソコングループ”で、インターネットを使った情報検索やゲームに挑戦している。
主に校外学習に関わる単元		1段階（1）（2）（3）（4）2段階（1）（2）を中心とした内容
自分の住む町について調べよう		自分の住む町の市役所や有名な施設などのホームページを見て調べる。
自分のアルバムを作ろう	2	あらかじめ担任が一人ひとりに関するデジカメの写真をCD-Rに保存しておき、アルバム編集ソフトを活用して、独自のページを編集作成してプリントアウトさせた。
自分でできることを増やそう等		—
郊外へ出かけよう、年賀状を作ろう、など		ソフトウェアを使ったハガキの宛先書きや、文書作成。インターネットを利用した情報収集
校外宿泊活動、校外学習	4	事前学習でインターネットを利用して、活動する施設のことを調べたりした。
校外学習に行こう	12	インターネットを利用した情報収集
校外学習に向けて	3～15	修学旅行や社会見学などの校外学習を実施する際、インターネットを使って施設の地図・料金等の検索などを行う。
校外学習、修学旅行	4	現地への事前の下見で得た情報を機器を通して映像化し、パワーポイントで説明していく。
校外学習（買い物学習）	2	目的地までの運賃を調べる。買い物したい場所や順路を確認する。
現場実習先の情報収集をしよう	週6時間のうち1時間	検索エンジンを利用し、現場実習先の情報収集を行う。公共交通機関（電車、バス）の時刻調べ。
各学級、課程で様々とりくんでいる。		動・植物の飼育、栽培についてしらべる。料理のレシピなどしらべる等
家の手伝いをしよう		洗濯のしかた、マークの見方などの調べ学習
沖縄を学ぶ	2	修学旅行の目的地、「沖縄」の事前学習として、沖縄の方言や食べ物についてインターネットで調べる学習をした。
遠足へ行こう	4	名古屋水族館について調べよう
運動会のポスターづくり、学校祭のポスターづくり	8	市内に掲示してもらい運動会、学校祭のポスターをワープロソフトを使って作成する。

移動教室等の宿泊单元	年に150分位	訪れる地域の特色等について調べる。
パソコン学習, 学級新聞づくり		・インターネットの活用, 基本的操作など ・記事(新聞づくり)の打ちこみ, レイアウトなど ・日課表や宿泊のしおり作り など
パソコンを使った活動に挑戦する	週2時間	ウィンドウズの基本的な操作の学習。総合ソフトを使用して, 基本的な操作の学習。インターネットの学習。日本語入力の練習。webページの検索, 閲覧など
パソコンに親しもう	8~10	インターネットの基本的な操作方法を知る。ワークシートを利用してタイピング練習をする。ローマ字で文章を入力する。友達にメールを送る。
パソコンで絵をかこう	3	アプリケ用の絵をかいてデジカメで写真に撮り, 印刷する。
パソコンゲーム	5時間	ゲームを楽しみながら, パソコンに親しむ。マウスの操作ができることで, よりゲームを楽しむ。
パソコン, インターネットに挑戦	年間12時間	キー, マウス操作。絵を描く, 文字を打つ。ホームページを見る。
ディズニーストリートへ行こう(修学旅行)	30	見学地の情報検索。交通機関, 駅, ホテル等の調べ学習。しおり作成
コンピュータを使って勉強しよう	12	パソコンの起動の仕方, 終了の仕方を覚えよう。パソコンで使ういろいろな道具の名前を覚えよう。パソコンソフトを使ってみよう。インターネットに使い方を覚えよう。インターネットで調べ物学習をしてみよう。インターネットで気をつけなければならないことや守らなければならないルールやマナーを知ろう。
コンピュータに慣れよう! お誕生会 インターネットに調べよう	12	・カレンダー作り, デジタルカメラ写真のプリントアウト ・誕生日の生徒の幼少の頃から写真や命名のエピソードなどをスライドショーで紹介して祝う。 ・教室でインターネットに接続したパソコンとプロジェクターを使用し, 「節分」をキーワードに検索を行い, 全国の社寺の節分会, 追儀式の様子や「鬼の交流博物館」等を調べて, 理解を深めた。
お楽しみ会のメニューを考えよう	2	お楽しみ会のメニューを話し合いで決定し, メニューごとにグループに分かれ, どのような種類があるか, 作り方があるかをインターネットで調べ, 発表する。
インターネットの便利な使い方	6/年	検索の基本, 電話番号を調べる方法, 地図を調べる方法, 簡単に自分の知りたいことを知る方法
インターネットで調べよう	0~多	余暇活動の過ごし方としてインターネットで好きなことを検索する。
いろいろな仕事, 冬の生活, 性教育	各1~3時間	インターネットでの絵や写真などの取得
Cコース生単パソコン	7	インターネットを利用した調べ学習
1.豊かな生活~余暇の過ごし方 2.修学旅行	1:8時間 2:4時間	1.豊かな生活~余暇を楽しく過ごすために, 自分達が利用できる施設がないかをインターネットを利用して調べた。調理実習のレシピや実習中の天気について調べた。 2.修学旅行~旅行の事前学習で, 大阪, 京都の見学先についてインターネットで調べた。
「年賀状を作ろう」「校外学習へ行こう」	—	季節的単元の「年賀状を作ろう」では, 専用ソフトやワープロソフトを教師の支援のもとで使って年賀状を作成している。「校外学習へ行こう」の単元では, 目的地のHPを見て, 事前に食事場所やメニューを決めたり, 見学内容を確認したりしている。
「地域について知ろう」「思い出をつくろう」など	24時間・36時間	市立図書館や博物館, 映画館や各種レジャー施設の情報収集, あるいは交通機関の情報などをインターネットを利用して調べたり申し込みをしたりする。
「出かけよう」	—	修学旅行, 七日町探検などの校外学習に向けて, インターネットを活用した情報収集を行う。

「修学旅行へ行こう」	12時間	事前学習として見学先、訪問先等の資料収集活動として、情報の検索活動をし、他地域の文化、風土を知る。
「修学旅行に行こう」 他	70時間 (週2時間)	修学旅行における見学先調べやグループ活動の計画、また、修学旅行のまとめの発表など。
「修学旅行に行こう」 「いろいろな仕事」など	－	修学旅行の目的地（東京方面）や将来に向けての仕事の内容について、インターネットを使って関連するホームページを検索し理解を深める。他の単元においても必要に応じて同様に調べ学習を行っている。生活単元学習の時間数は週4時間で、単元ごとでは、8時間から20時間と異なっている。
「校外学習に行こう」	2～4	インターネットで行き先の情報を調べる。
「遠足」「修学旅行」「社会見学」などの行事に 焦点を当てた単元	単元により 違うが 1～4時間	行き先について（また、それにかかわる情報について）インターネットで検索して、調べ学習を行う。
「遠足」	4時間	デジタルカメラを使い、自分で草花や気に入った場面・場所の撮影。
－	10h程度	修学旅行事前調べ学習
－	10	修学旅行への調べ学習
－	－	行事の事前・事後学習や、生徒会や委員会活動で取り組んでいる。
－	－	行事などの事前事後学習でのビデオの活用。人物（友だちや職員）、植物などのデジカメを使った学習。
－	－	各単元で調べ学習を行う際、インターネットを活用して情報収集を行う。
－	105時間	課題生単・行事生単
－	週2時間	サークル活動として、インターネット検索等を行っている。
－	年間140時間	インターネットを活用した調べ学習やワープロソフトを使用した報告用冊子・新聞の作成等に、情報教育に関する内容もとあげている。
－	8/年	インターネットによる調べ学習（時刻表検索含む）

その他の領域・教科を合わせた指導に関する回答は57件あったが、表3－14は、その内容等を示したものである。

表3－14 その他の領域・教科を合わせた指導の内容

名称	時間数	内容
余暇	2	パソコンの操作、ソフトの活用、インターネットの利用
部活動	1時間	インターネットで好きなホームページの閲覧。
美術 すてきなTシャツをデザインしよう	6	デザインした原画をスキャナーで取りこみ描画ソフトを使って色づけをしたり新たなデザインを工夫したりしてオリジナルTシャツを作成する。
日常生活指導	175時間	朝の運動・日常生活の指導
特別活動「委員会活動」	－	5つの委員会の中に「情報委員会」があり、放送機器を使って放送、MD・CDを使ってそうじのBGM作りなどを行っている。
特別活動	8/年	ネットモラルについて。インターネットの安全な使い方。予期しない課金を伴わないようにした検索法について。見てはいけないサイトにつながらない検索法について。支援費制度の待機番号等の調査法について。働く場の検索法について。
選択教科 情報	1	ワープロソフトを使って、年賀状や名刺を作成する。ペイントソフトを使って絵を描いたり、作業学習頒布会のちらしを作成する。キーボードを使って文字入力の実習をする。
選択教科 情報	35時間 (週1時間)	コンピュータなどの簡単な使い方に慣れる。コンピュータなどの簡単な操作。コンピュータなどの簡単な演習。コンピュータなどの情報機器を利用し、さまざまなメディアにふれる。
選択学習2	70	大学のパソコン室を借用して、入力等の基礎的な学習をしている。
生単、卒業生を送る会	6～8	みんなで楽しむゲームの作成（ex.これはだれでしょう?など）

生活単元学習	4	校外学習で行き先を調べたり、交通手段や必要経費を調べた。インターネットを利用して調べた。
数学・国語	各10	数学…カレンダーづくり、国語…年賀状づくり
数あわせ、物あわせ	2時間	1学年は習熟度別学習で1グループが国語と数学で利用している。金額の計算や数字の概念を身につけさせる。また、物の名前を知るために物と名前でもマッチングさせている。
職業	6	ワープロソフトの使い方。文集づくり。
情報	隔週1	主にパソコン操作（ワープロソフト、はがき作成ソフトなど使用）
情報	週2	ワープロによる文章作成、インターネットメールの使い方
修学旅行事前学習	2/年	インターネットによる調べ学習
修学旅行に関する学習などの校外学習	6～8時間	沖縄の歴史、文化等の情報の検索、調べた内容の整理・発表のための・ワープロソフトの活用。
趣味、情報	2	趣味:自分でやりたいパソコンのソフトを選び、なるべく自分で操作して、趣味としてのパソコン操作に慣れ親しむ。情報:パソコン操作の指導。デジタルカメラを活用した学校周辺の地図作り。学校ホームページのページ作成等。
社会生活学習	—	校外学習先に関する情報収集の仕方、ワープロソフトを使用している作文や手紙の作製
写真入り年賀状を送ろう（課題別学習）	6	・デジカメでの写真撮影、・ワープロでの文章作り
自立活動、触れて聞いてみよう、朝のあいさつをしよう	120	訪問教育・校舎内重複学級にあける、スイッチ教材の活用
自立活動（高等部1年1名）	毎日30分	卒業後の進路を見据え、パソコン操作の学習をしている。ワープロ検定の資格取得を目指している。
自立活動	週1時間	文字入力練習、インターネットによる情報の検索
自立活動	2～5	卒業後、自宅でできる作業としてのコンピュータ活用。余暇利用としてのコンピュータの利用
自立活動	1	自立活動の選択学習として、パソコン学習が位置付けられ希望者6名で学習する。学習内容はパソコンの名称、ワープロ、表計算、お絵書き、キーボードレッスン等を行う。
自立活動	40時間	一つのことをやり遂げることで、セルフエスティームを高め、精神的な安定を図るために、本作りに取り組んだ。新聞を見て詠んだ川柳をパソコンに入力し、印刷して本を作った。
自立活動	1/m	コンピュータの基本的な操作。インターネット、ゲーム。
自立活動	4	インターネットを利用した調べものの学習、パソコンで年賀状を作成
自立活動	週1時間（年間35時間）	インターネットによる情報検索。ワープロによる日記指導。手と目の協応動作の訓練を目的としたソフトの使用。
自立の時間	30	ワープロソフトを利用しているコミュニケーション。メールのやりとりでのマナー。料金。
自主・創作	週1時間	「自主・創作」という時間は、グループに分かれて、スポーツや英会話等をしている。その中のひとつに「パソコン・インターネット」というグループがあり（6名）、インターネットで、各自興味のあるHPを見ている。
国語、数学	約6時間位	ハガキカード作り（年賀状）（パソコンを使って年賀状を作ろう）
国語、数学	未定	コンピュータの起動及び終了、ソフトを使っている漢字、計算の学習
国・数	24	ひらがなを書こう、読もう
教科 国語・数学	16	グループ別の学習の中で、コンピュータを活用しているグループがある。学習用教材のソフトや自作のソフトを使って学習している。
基礎学習	適宜	調べ学習でインターネット検索によるパソコンの利用
基礎学習	—	色や形の弁別。

学級生活	年間10時間	学級毎の学習時間に教室のパソコンを使って文字の入力や、インターネットの利用法、教育ソフトを活用しての文字練習や計算練習を行った。(全クラスではなく、生徒の実態と教師のパソコンの活用能力で可能なクラス)
課題別学習の時間	生徒による	電車の時刻を調べる、運転免許取得の方法を調べる(インターネット)等。
課題別学習	10時間	課題別グループ学習においてインターネットを利用して情報を集め、これを整理して研究発表を行っている。「社会」では国際理解、「理科」ではテーマ「水」などの場面で活用している。
課題別学習	0～多	タイピング、文字入力(作文、名刺、カレンダー、年賀状)。学習用ソフトの活用(文字の書き順、ジャンケン、ローマ字、買い物、数、算数)。インターネットの活用(各地の特産品、ジャガイモについてなどの調べ学習)。ネチケットについてなど
課題別の活動	週1時間 ※一部の生徒に実施	パソコンの起動、終了方法、各種ソフト(ゲーム)の利用、インターネットの使用による情報検索、周辺機器(プリンタなど)の活用、文書(一太郎)や表(Excel)の作成等
課題別	週3コマ 計160時間 (60分×2, 40分×1)	インターネットの使用と活用、ワードとエクセルの使用と活用
課題学習	—	インターネットの閲覧方法の学習、コンピュータを用いての絵を描く方法の学習。
遠足、校外学習、宿泊学習、修学旅行等の事前、事後学習	3～5	行き先、交通機関等について、インターネットで調べる。
タイム学習「ドリームタイム」お別れ遠足の計画を立てよう。	4	お別れ遠足に行く目的他を選択するための資料をインターネットのサイトから探し出す。交通手段についても探し出し、時刻や料金、連絡などについても調べる。
せんたく	2/週	カレンダー作り、インターネットによる調べ学習、名刺作り、電子メールの送信・受信
コミュニケーション	70	パソコンの基本操作、プレゼンテーションソフトの利用、ワープロソフトの操作、校内ホームページの更新、インターネットの活用、メディア機器の活用(カメラ・ビデオ)、電子メールの活用
グループ学習	10	教材ソフトを使用しての学習 ワープロソフト等をしようして、カレンダーや年賀状作り
オリンピック	3	オリンピック参加国を調べよう、競技名、試合結果
PLUS「パソコン」	15	インターネットの使い方、メールの入力、送り方、文字入力のやり方
1.学校行事(始業式、終業式)、2.生活総合学習(調理学習)	1.年間4h, 2.年間18h	メディアサイトやプロジェクターを活用しスケジュールや調理手順等を自前に視覚的に伝えることでみとおしをもたせることができる。
「技能競技大会に参加しよう!」	14	技能大会のパソコン部門にエントリーし、受賞へ向けて知識や技能を高める。
「かだい」	6	国語、数学等、認知的学習を合わせた指導形態として「かだい」を設定。その中で各学年に応じた授業内容を準備しているが、情報教育に関する内容についても、それぞれの実態に配慮しつつ、可能な限り個別な対応を通して、パソコンの基本操作、それに基づく情報活用の実践的力を身につけるよう継続的に指導を行っている。
—	—	本校では、個別カリキュラムを編成しており、上記のような指導の形態はない。ただ、生活単元学習のような指導の中で、目的地などをインターネットで調べたり、教科的な学習の中で、教材ソフトを活用したりしている。
—	—	学習内容に応じてパソコンを使っての検索等を行っている。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

図3-14は、高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリットについて示したものである。

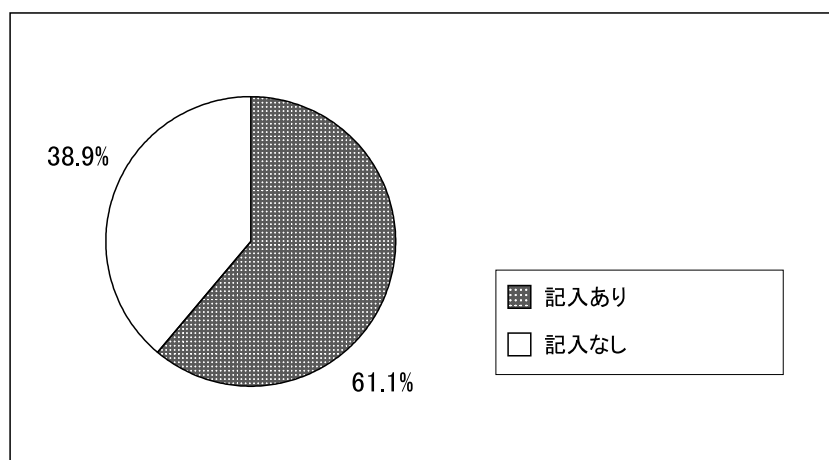


図3-14 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

表3-15は、その内容等を示したものである。

表3-15 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット（自由記述）

連絡先を開拓する際に、職種を広げられる可能性がある。
様々な情報収集の方法を知ることで、生活に広がりを持つ。
余暇支援or作業学習等での活用を視野に入れることでおもしろい指導が可能。ネットでのマナーや携帯電話の使用なども必要。短時間で多くの情報を集めることができる。離れた場所の情報がリアルタイムで収集できる。キーボード、マウス、画面に慣れ親しむ。鉛筆やノート、辞書と同じくらいの距離で接することができる。
余暇指導の充実。情報機器取り扱いあつかいのマナーやトラブルについて集中的に学習できる。
余暇活動の利用
余暇の過ごし方、生活の楽しみ方などを学ぶ学習の中でも生徒たちは、コンピュータを使用しての情報教育に関する学習に興味や関心をもって意欲的に取り組むことができる。
本人、保護者の中にもパソコンを指導してほしいというニーズがあるので、それらにこたえることができる。
本校では、生徒の実態上、情報教育に関する指導は難しいが、一部の生徒は、個別に担任などと学習にかかわる調べもの、興味関心に関わる情報収集等をインターネットを活用して行ったり、デジカメの画像をプリンタで印刷するなどの活動をしている。このような活動、指導を行うことで、生徒の実態にに応じていたが、情報収集、活用能力など余暇活動の幅を広げることに大きく寄与していると思われる。
文字ベースの学習が苦手な生徒に画像や音声と組み合わせた情報の提示が簡便に行えること。就職を目指す生徒など、卒業後すぐに情報機器に接することが予想される生徒に、基本的に操作やマナーを学習する場を提供できる。
文字による表現をすることで自分の意見や考えなどを整理してとらえることができる。知りたい事柄を自ら調べようとする態度が育まれる。コミュニケーションの手段として、コンピュータを積極的に活用する生徒もいる。など
文字だけでなく、視覚に伝える授業ができること。
表現手段が増加した。分からないことを調べたいという意欲が出てきた。学習が積極的になった。
年賀状など、ソフトを利用して日常生活に必要な簡単な文書を作成する力を養うことができる。インターネットを利用して得た情報を、日常生活の中で活用することができる。
日常生活の中でコンピュータが果たしている役割（情報の収集、処理、発信等）に関心を持つことができる。
特に自閉症の生徒がパソコンの操作し、興味をもち意欲的に授業に取り組める。
調べ活動が充実する。
調べ学習でも興味をもって取り組める。

調べ学習では検索ホームページを用いることで、意欲的に学習する生徒が増えたこと。
調べ学習が容易になった。視覚的に理解されやすい情報の入力ができる。一度に多くの情報を入手でき、比較・検討ができる。
中学校からの進学者が多いことや卒業後の必要な事柄（個人情報の扱いなどで犯罪に巻き込まれないための対応）を学ばせることができる。
知的障害を持った子供達の場合、言葉による説明だけでは理解できないことが多い。そこでデジカメなどを用いて具体的なものを写真（視覚的なもの）で提示することでわかりやすくすることができる。特に自閉症児のスケジュールなどには有効である。
知的障害のある生徒ではあるが、情報教育に関する基礎的な指導を行うことで、いままで困難であったさまざまな情報を自らの手で手に入れることができるようになる等、新たな主体性の創造に極めて大きなメリットがあるといえる。
知的障害があっても継続して指導することにより基本操作をマスターすることができる。
知りたいことを調べる方法の一つとしてインターネットが活用できるようになる。
単なるPCの基本操作のみならず、デジカメを利用して写真等の加工等も授業でおこなっている。それが、卒業後の余暇利用などQOLの向上につながると思われる。PCだけでなく、携帯電話のマナーや悪質な商法等にひっきりないようにするための知識を教えることができる。
多くの情報が手軽に手に入り、生徒が知ることができる。身近な機器の扱いに慣れることができる。
卒業後の余暇支援、インターネット検索後による様々な知識獲得
卒業後の余暇活動につながる。校外活動の事前指導で、主体的に活動することにより、学習への興味・関心が高まる。
卒業後の生活を見すえて指導を行うことで、コンピュータを活用する生徒が増えると考ええる。
卒業後の生活（主として余暇活用）につながる。
卒業後の進路選択の幅が広がる。余暇活動の充実。情報モラルの向上。
卒業後の進路によってはパソコン操作の技術が役立つこともある。インターネットを利用することで、学習の幅が広がる。
卒業後の消費者教育として必要。携帯電話の高額請求、携帯電話のハイテク犯罪、携帯電話の出会い系サイトのトラブル等。
卒業後の安全な生活、便利な生活を行うために不可欠な知識となっているため、行わないで悪徳商法にひかかったり、不便な生活にならないよう配慮している。
卒業後に様々な情報を活用するその手立てを習得できる点。
卒業後、生活の中で必要な情報をインターネット等を利用して得ることができる。
卒業後、情報化社会で生活していくための基礎を系統的に学ばせることができる。
卒業後、就労先で情報教育を活用できると進路先が拡大する、と思われる。
総合や生単では、自分で調べたり、考えたり、まとめたり、発表したりするときに大変有効である。また、そのような経験をもとに、日常生活場面でもコンピュータを積極的に活用できるようになっている。作業学習でも新しい作業種として知的障害の生徒の可能性を広げるものだと考える。また、教科（国語・数学）では、基礎的な内容をコンピュータの特性を生かして学習できるので、興味関心も高く意欲的な学習への参加がみられる。
生徒自身が興味・関心のあることについてその生徒の範囲の中で情報を得ることができる。（インターネットのアクセスなど）
生徒の余暇活動として有効
生徒の生活や活動の幅が広がる。生徒によっては就職時に影響する場合もある。
生徒の興味・関心を持続できる。
生徒の興味・関心に応じた教材を作ることができ、学習への意欲を高めることができる。より社会との接点をもった内容の学習ができる。
生徒の興味、関心をひきだしやすい。個に応じた指導ができる。視覚的なアピール力が強い。自分の考えを深め、表出できる。
生徒の興味、関心が得やすい点
生徒の家庭でもコンピュータやインターネットの利用を行っている所が多くなっている。生活の中で情報の扱い方や利用方法についての地域が必要とされることが多いので学校での教育は必要である。卒業後の生活を広げる一つの手立てとなると考える。

生徒にもよるが、必要となる情報を収集することで課題解決や情報を選択する力が身に付くと考えられる。集めた情報をどのようにまとめていくかなど、受け身ではない積極的な学習が可能になる。また宮城県ではテレビ会議システムが設置され、交歓会などの前に、お互いが相手を知って、当日の活動に期待をふくらませるなど、これまではない活動が可能になってきている。
生徒にとって身近なこと（例えば天気）を調べる手段が身についた。
生徒と保護者がスクールネットを活用して、メール交換ができること。インターネットを活用して、生徒が興味・関心のあることの情報を得ることができる。
生徒が興味・関心を持って取り組む。
生徒がとても興味を持ってとりくむようになった。自主的に、インターネットで調べたりできる。
生活単元学習など調べ学習において、自ら進んで学習に取り組もうとする姿勢が見られること。
正しい知識を身につけることで、生徒達がパソコンや携帯の使い方に気をつけて生活することができる。書字が苦手な生徒も、パソコンを活用することで、手紙や文をきれいに書くことができ、達成感を味わうことができる。
整理された視覚的情報を豊富に提示することによって生徒の意欲を引き出すことができる。卒業後の趣味的活動につながる基礎的技術を習得させることができる。
図書で調べることの困難な生徒でも、検索サイトを使って簡単な検索文字の入力だけで情報を探し出すことができる。生徒の興味をひくゲーム形式での学習が行える。
進路を決定していく上で、コンピュータに興味・関心がある生徒に対して、来年度からとりくんでいくことになっています。
進路に向けて（就職）意識づけや資格取得
身近にコンピュータがあれば、自分の必要なことを気軽に調べようとする行動がとれるようになる。インターネットで検索したいがためにひらがなや数字、アルファベットなどの文字や記号をキーボードから選んで打つことができるようになる。
身近な情報に関することはとても重要な学習である。生徒にとっての身近な情報収集・発信ツールは現在携帯電話となっており、その正しい使い方や情報の選択を学ぶことはとても大切である。
色々なものに興味をもつことができ、自ら進んで調べようとする力がつく。
職場実習に時にコンピュータを使えと、おどろかれる。もちろんコンピュータを使う仕事がある場合だけだが。
情報入手の方法を覚えられる。興味、関心が広がる。PCに対して興味をもてる。
情報処理に関する知識が深まる。パソコンに親しみがもてるようになる。インターネットを活用できることで調べ学習に効率がよくなる。他の教科で応用できる。
情報教育は生徒の生活の幅を広げうる可能性が多いにある。
情報教育のねらいは概念形成と考えています。身近な事柄の見方や捕らえ方、まとめか、そのための手段として機器の扱いに、焦点を絞って指導できるのが、メリットと考えます。
情報教育ということではなく、単にツールとしてPCやインターネットを利用している。
情報機器の使用方法を知り、慣れることができる。
情報機器に親しむことができる。卒業後の余暇活動に活用できる（ゲーム等を楽しむ）。能力の向上により自立に向けた取り組みに生かせる。
情報機器にふれる機会がもてる。インターネットの利用等で興味・関心をひろげることができる。
情報活用能力（リテラシー）の育成を図ることは、情報化社会に対応するのに少しでも役立てばと考える。
情報化社会に対する興味や関心を広めまた高めることができる。メディアのさまざまな利点について、知識や技能を高めることができる。
情報化が進む社会の中で、必要であると思われる。様々な情報を、インターネットなどを活用して知ることができる。インターネットでの調べ学習は、画像が多く、具体的でわかりやすいです。ほしい情報が、目に見える形で得られるので、ありがたいです。様々な情報を、インターネットなどを活用して知ることができる。
情報を拾集する能力を身に付けることができる。卒業後の進路（就労）に向けて、コンピュータの操作等に慣れることができる。→実際に、企業での現場実習で、情報の授業での経験を生かして、データの入力等の仕事を行っている。
情報を取り扱う時のマナーや管理についての意識を高めることができる。パソコン操作で分からないところを教え合う等、生徒同士のかかわり合いが増えた。
小で「ふれる」中で「なれる」高で「活用する」という考えのもと、全校的に取り組んでいる。高等部では実際のツールとして、情報機器を使い、学習や余暇に活用している。
将来地域生活をおくる上で必要な支援を遠隔から得られると予測される。

将来の携帯電話の使用方法やインターネットの利用について正しい理解とマナーを身につけさせることができ、犯罪にまきこまれず、健全な情報環境の中で生活することができると思われる。
将来の一般就労でも、パソコンを使えることで道が広がるのでパソコンに慣れることは必要。
就労先にコンピュータが導入されていることもあり、操作経験は多ければ多いほど良い。コンピュータを使うことで、擬似的ではあるが体験できることもある。
首都圏では事務系職種において、知的障害者に対する求人が増加傾向にあり、この方面への就業を希望する場合には、高等部でワープロソフト・表計算ソフトの基本的な利用方法を知っていたり、キーボード入力に馴れておくことで、職業生活への移行を円滑に進めることができる。また、高等部段階では携帯電話やパソコンで電子メールやインターネットを利用することが普通になりつつあるので、安全な使い方やルール・マナーの学習を日常生活にいかすことができる。
手軽に自分たちの手で多くの情報が得られるため意欲が向上する。
社会の情報化は日進月進であるが、多くの情報を適切に引き出し活用することは情報学習を積む中で可能となる。インターネットをはじめとして情報化されたものは、障害を補い、より豊かな生活の構築に結びついていく。また、社会参加の可能性を広げてくれる。簡単な操作で多くの情報が得られること、操作そのものに興味・関心を持ちやすいこと、視覚的に楽しめることも指導上のメリットである。
自閉的傾向の生徒に情報機器を複合的に活用することで、みとおしをもたせる手段として非常に有効な取り組みである。また、生徒によっては、情報を学習することで、生活の幅が広がり卒後の充実した余暇などにつながっていくと思われる。
自分達たちの知りたい情報を取り出し選ぶ能力を身に付けることは社会に出たとき、とても役立つと思われる。
自分が必要とする情報を得ることができる、余暇への利用 等
自己表現やコミュニケーションが拡大する。興味関心のある事柄に対してインターネット検索を行うことで地域・理解が深まる。
自己を表現する手段が広がり、自分に自信が持てる。インターネットなどを通じて外の世界のことを知り、生活に生かすことができる。卒業後の余暇となり得、一人でも時間を過ごすことができるようになる。
時間の設定はしていないが、各学級に1台ずつパソコンを設置して毎日インターネットで興味のある情報を取得することで、生活を豊かにすることができ、そのことが卒業後に生かされていく。
事物を視覚的に示した構造やしぐみを色々な角度からみせることができ、理解させるための助けとなる。
視覚的教材を活用することで、言葉の説明より理解しやすい。
視覚的に有効なデジタル素材を取り入れたコンピュータによる課題解決学習は有効性がある。
視覚的に生徒に理解しやすい授業を進めることができる。PC等、生徒の興味も高く、集中する時間が長くなった。活動の発表などでも生徒が自信を持って行える。
視覚支援優位の生徒にとっては理解しやすい。情報が整理されて提供できる。
指導者の自作教材ではまかなえない程の豊富な情報量と新鮮さがある（インターネットで調べ学習をした際のメリット）。学習内容を深めると同時に、パソコン操作に慣れるという相乗効果も得ることができる。（インターネットで調べ学習をした際のメリット）。
今後も情報化社会が進展すると考えられるが、生活していく上で必要な情報機器の活用能力を身に付けることができる。
国語・数学の授業の補完として利用したり、社会・理科の授業でインターネット検索を活用したり総合学習の中でパソコンを活用するグループがあったりする。生徒にとっては、意欲づけになったりインターネットの検索で発見していく喜びをつかんだりしている。
高等部を卒業したら、ほとんどの生徒が就労するこの段階で、しっかりと社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる力を身につけておくことは重要だと考える。
高等部の生徒に限ったことではないが、コンピュータに興味・関心を持つ子ども達が多いので、学習意欲を高めやすい。
高等部1年生で「情報」を週1時間設定している。自立活動や各教材でパソコンを利用することがあり、生徒の学習理解や意欲の向上のメリットがある。
行事や生単での活動をデジタルポートフォリオサーバを使い、振り返り学習を行うことで、メタ認知が促進されることが研究により実証された。
好むと好まざるにかかわらず、数年後には、情報社会に飲み込まれていく生徒たちに直接、指導できる機会を持てることは、大きなメリットである。
言葉の分からない生徒でも、絵や写真により視覚的に興味を持ったり理解したりすることができる点。
現場実習や校外学習などの実体験と、インターネットや新聞などの情報と結びつけることができる。

芸能面や、スポーツ等において小学生、中学生よりも興味のある分野がはっきり自覚できているので、コンピュータの導入として「好きな人（物）」をインターネットで探す活動を取り入れた際にとても良い動機づけとなる。小中学生よりも学習態度が身につけているので、生徒指導（トラブルやけんか）にあまり時間をかけずに情報教育についての指導ができる。卒業後の余暇について指導した際に近い将来（1年後、2年後）に活用していけるので効果的であった。
興味・関心の対象が広がり、インターネットの活用等で自分たちでできることが増えている。
興味、関心をもって取り組める。
教材ソフトに関心を持ち主体的に取り組む姿が見られる。遠足や旅行などの目的地を教師と一緒にインターネットで調べることができ、見通しや期待感をもつことができる。
教科指導の必要な場面において、パソコン等を利用している。1.生徒が興味を持って参加出来る。2.調べる学習の動機づけになる。等のメリットがある。
機器や情報の利用に関して理解が深まり、学習に対する興味や意欲が高まる。
基礎的な学習の中で情報収集やワープロ、学習ソフトなどを利用している。生徒が興味を示しやすく使い方をしだいで学習効果を上げることが期待できる。
簡単な操作を習得することで、余暇活動が広がる。いろいろと調べることで視野が広がる。
楽しみながら学習できる。（興味、関心が高く、動機づけに良い）
学習する内容や情報について、文字や写真、イラストを用い、生徒が視覚的にとらえる効果があると思われる。
学校にいながらにして、必要な情報等をネットを通じて調べることができ、知識を広げ、余暇活動の拡充へとつなげていくことに役立つ。生徒によっては卒業後、就労先でパソコンを使用する場合もあり、操作や活用について在学中に学習しておくことは将来役立つ。
外部とのコミュニケーションを積極的にはかろうとする姿勢が見られる。一人遊びが可能になる（長時間）。情報を得ることにより、外出をしよう、してみたいという姿勢が見られる。
外出する機会の少ない生徒にとって、パソコンの操作やアプリケーションソフトの扱い方を学習することにより、インターネットを活用した通信手段で外部からの情報を積極的に取り入れることができ、視野を広げることができる。
家庭や社会でパソコンが積極的に導入されている昨今で、パソコンに興味・関心を持ち、活用する上でのマナー・留意点を知ることができる。
遠くに出かけなくても、ネットで居ながらにして色々調べられる。
映像や音により、子どもたちがイメージしやすい。文字が書けない生徒でも、文字を打つことができる。
一部の生徒にとっては情報を得ることに機器を利用できるようになったり、機器の利用が余暇の活動につながっていったりする。
ワープロで文章表現力が、広がってきた。社会的な興味や関心が広まり、新しい知識を得ることができた。インターネットで共通の関心があると、友だち同志横のつながりができた。集中して、学習活動に長時間取り組むことができた。
よい点。ローマ字入力によってアルファベットが読めるようになった。インターネットの活用によって、広義な視野がもてるようになった。興味、関心を深くもち、意欲的に取り組む。
ほとんどの生徒が、コンピュータに対して興味や関心を持つことができ、楽しみながら意欲的に取り組むというメリットがある。情報化社会に向けて、基礎的な知識や技能を身につけることができる。卒業後の余暇やコミュニケーションの充実につながる。
ひとつの事象に対し、多様な情報を得ることが容易にできる。居住地域に限らず、広い地域の情報をリアルに知ることができる。（身近な情報）
パソコン等を利用することで、作業や学習の理解の手助けになっている。情報の収集やメール等のやりとり積極的に学習する。
パソコン等を使うことで、生徒の学習への興味、関心が高まる。機器操作に慣れることで、進路開拓の際、有利となる。インターネットの活用など、生徒の余暇活動の幅が広がる。
パソコン等の情報機器に興味関心を示す生徒が多く授業に意欲的に取り組んでいる。文字を書くことに苦手意識をもっている生徒も、ワープロの機能を使い、飾り文字や強調文字を使うなど、自分なりに使いこなして表現している。
パソコン機器の使い方を学ぶことで、インターネット等から色々な情報を入手できる。又文字や数字の学習をゲーム感覚で楽しみながら学べる。余暇活動にも応用できる。
パソコン活用による調べ学習への取り組みがより可能となること。生徒の学習活動の幅が広がること。
パソコンを利用することによって、授業への関心がさらに高まる。検索する技術や力を伸ばすための手段になり得る。リアルタイムに情報を得る楽しさや興味をさらに広げることができる。

パソコンを持っている生徒がおり、余暇の利用にもつながると考えている。
パソコンを扱うことが可能な生徒に対して、インターネット等を利用することで、自分の興味を深め、広げることができる。
パソコンは生徒にとっても興味のある教材なので、効果的に授業が進められる。授業の中で生徒と一緒にインターネットを使用して検索をすることができる。
パソコンの基本的な操作方法を習得でき、家庭生活や進路先で生かすことができる。インターネットを利用する際のマナーを指導する機会を設けることができる。
パソコンの活用の幅が広がり、コミュニケーション・ツールとして利用できる。ネットワーク上のマナーやセキュリティの意識を高めることができる。パソコンやメディア機器の正しい使い方を身に付け、トラブルを防ぐことができる。
パソコンに対する生徒達の興味、関心が高く、意欲的に取り組む。
パソコンに触れるという初歩の段階では効果的である。
パソコンに興味を持っている生徒が多く、パソコンを使用する授業に積極的に参加している。インターネットを利用して生徒が知りたい情報を短時間で引き出し、授業に活用している。文字を手書きすることが苦手な生徒でも、ワープロできれいな文字で文章を作成している。
パソコンに興味を持ち、自分から使ってみようという気持ちが育つ。
パソコンが好きな生徒が多いので、調べ学習にさほど抵抗なく取り組めること。
ネチケットに関する指導でパソコンの向こうにも人があることを意識させ、相手を思いやる気持ちを育むことができるのではと思われる。
ソフトなどの学習で生徒が集中して取り組むことができる。1人で活動できる時間がもてる。
コンピュータやスイッチ教材の利用で自分の意思を表出しやすい。インターネットの利用で、学校にいながいろいろな情報を入手できる。
コンピュータの操作方法やインターネットでの情報検索方法を習得することによって、好奇心の幅を広げ、様々な学習に対する積極的な姿勢を引き出すことができる。
コンピュータに興味・関心を示す生徒が多く、意欲的に取り組める。余暇利用につなげやすい。プレゼンテーションソフトの利用により、理解を深められたケースもあった。
ことばや写真等の教材により、よりリアルである。ゲーム感覚で生徒の興味があり意欲的な取り組みができる。
キーボードの操作、インターネットの利用法に。文書作成。
お店に行かなくても、その中ことが調べられる。
インターネット活用で情報量が増大。余暇活動の拡大。
インターネットを利用し調べ学習を行うことで、キーワードを元に、情報をしぼっていくことができる。
インターネットを利用し、自分の好きな情報を入手していくことでパソコンというものがより身近になるのではないと思う。また、”もっとパソコンを使えるようになりたい””いろいろなことを調べたい”というような意欲が湧いてくれば、卒業後の余暇の過ごし方も変わってくるかもしれない。はやさ、手軽さという所が本校の生徒に向いていると思われ、多くの生徒に使い方を習得してほしい。
インターネットを通して多くの情報を収集することができる。文章作成や図案作成等で自分の表現の幅を広げることができる。
インターネットを授業の補助的なツールとして利用したりすることで、その場の問題をリアルタイムで検索できる。視覚的な情報を得られて、障害のある生徒でも理解しやすい。
インターネットを使うことで、文字の手がかりから、知識・理解を自分から広げていくことができる。パソコン等の操作に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。
インターネットを使い、自分に必要な情報を入手することができる。ワープロを使い、簡単な文章やお礼状、カード、年賀状などを作ることができる。
インターネットを活用することで、あまり興味もたなかったニュースなども調べるようになり、興味関心の拡がりが見られる生徒が出てきた。
インターネットは、情報を得るためのツールであることがわかる身近なものになる。一定の手順で欲しい情報が得られるので分かりやすい。
インターネットの利用を通して興味・関心の巾を広げることができる。メールや日記などを作成することを通して意思伝達の巾を広げることができる。ことばを文字にする力をつけることができる。
インターネットの検索などを利用して生徒達で考え、活動できる。文献などに比べてもインターネットは素早くかつ幅広く調べることができる。生徒の視覚に直接作用するので、生徒が興味・関心をもって取り組みやすい。またそのことにより生徒の表現方法の幅が広がる。情報の発信ができる。

インターネットのWebページを使って調べ学習ができる。
インターネットによる調べ学習（理科・社会等）を通して、必要な情報を検索し取り出して役立てる力を育むことができる。
インターネットによる検索学習で自分の好きなウェブを閲覧することで一層興味が広がる。
インターネットでの情報検索方法を学ぶことにより、知識を広げる手段の幅が広がり、卒業後がより豊かになる。
インターネットでいろいろな情報を集めることができる。パソコンに関する理解を深め、卒業後の生活にいかせる。
インターネットが利用できるスキルが身につけば、生活に役立つ知識情報を用意に手に入れられるようになる。自立生活への一助。
IT技術の吸収に秀でた自閉的傾向の生徒などにとって、就労の手だてとなり得る。
・日常体験できないことを、パソコンを通して体験できる。（バーチャルリアリティなど）。 ・日常生活の情報収集を生徒の進度に合わせて利用できる。 ・就労に向けたパソコン操作技術を学ぶことができる。
・生徒達が意欲的に学習に取り組む。 ・情報誌等では得られない詳しい情報を得ることができる。
・生徒が情報機器（特にPC）の操作に慣れ余暇活動で使っている。 ・テキスト入力のやり方やスピードが上がり、他の授業でパソコンを使うことが多くなった。 ・ネット犯罪やプライバシーのことについて多少でも理解させることができた。 ・自閉症の生徒の興味関心が得られた。 ・肢体不自由を併せ持つ生徒にワープロ機能は利便性があった。
・職業選択の幅が広がる。 ・生活がひろがる（インターネットやメールの利用によって）。 ・ハイテク犯罪に対する知識を身につけることでそれらの犯罪にまきこまれる可能性が低くなる。 ・ネット上のトラブルにまきこまれる可能性が低くなる。
・実際に指導は行っていないが、卒業後に情報化の進んだ世界に足を踏み入れることを考えると、必要最低限の情報に関するモラル等の知識を学習する必要があると思う。また、このような知識をもっていることで、スムーズに人間関係をつくる一助になるとも考えている。
・自分が必要とする情報を自ら得ることができるようになる ・余暇時間の活用 ・文字や数字に関する学習手段の一つ
・教科学習を、映像などをまじえてよりわかりやすくとりくめらると思う。 ・色々な学習の場面で可能性が広がると思う。
・パソコンを用いることで興味を持って授業にのぞむことができる。 ・字をかくことが苦手でも、ワープロソフトを用いて文章をかくことができる。
・タイピング練習は、ローマ字指導と指先の訓練を兼ね、よい教育内容である。 ・パソコンの利便性を知り、将来活用する力を養うことは、生徒の興味・関心に応え、積極的にパソコンに触れる意欲を高める。 ・実生活にすぐに生かせる情報をえられるインターネットの入口がパソコンだと実体験できる。

（９）高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

図３－15は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点について示したものである。

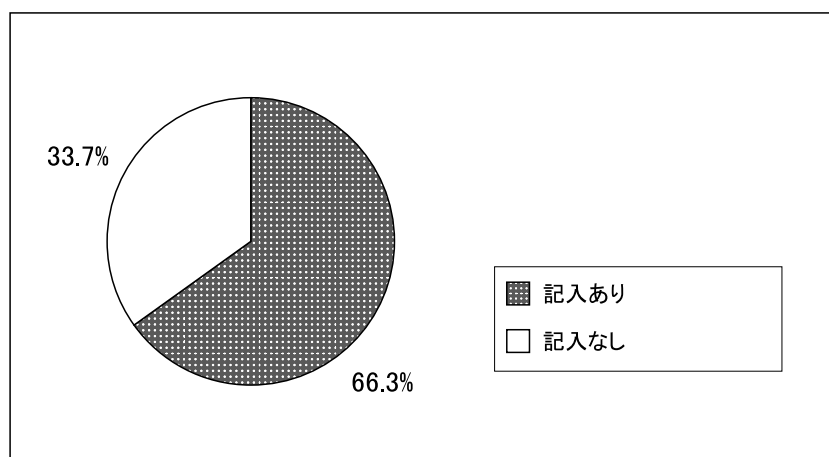


図３－15 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

表3-16は、その内容等を示したものである。

表3-16 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

予算的な問題（特にメモリ等、目に見えない部分の購入が難しい）、教職員のモラルの問題（ソフトの違法コピーなど著作権等の意識が低い）。
予算が少なく、VOCAなどがたくさん買えない。
有害情報に対するフィルタリング。
有害情報に出会う可能性がある。性的興味が強い。自由に使えるようにPC機器をしておくことでずっとPCの操作をしていて人とかわからなくなってしまう子どもがいる。校内のネットワークやパソコンに、無意識に進入するものがある。
本校の教育課程に位置づけられていない。
本校では、日常生活の指導や生活単元学習・教材を生徒の実態に合わせて行っているが、まず生徒に対して学習すべきことを共にやるので、生徒がパソコンを使う時間に限りがある。
保護者の希望で選択制の授業で入る生徒がいるが、本人がまったく興味がなかったり、扱う能力が不足している場合がある。本人にとっても苦しい時間になっている。全コンピュータを同じ状態にしておきたいが、ソフトをインストールされてしまうことがあり、環境がバラバラに。指導上、支障が出ている。
文字が読めない為、絵画ソフト等マウス操作以上のことが望めない。
能力差に応じた指導の工夫が難しい
知的障害者養護学校高等部卒業後のトラブルとして携帯電話に関する点がある。コンピュータよりも携帯電話でのネット接続によるトラブルなので携帯電話の利用について指導したいが、よい副読本がない。
知的障害者の認知レベルに対応した情報コンテンツ（インターネット情報も含めて）の必要性を感じる。その点が十分配慮されるようになると指導面においても更に工夫する範囲が広がるのではないかなと思う。もちろん、ハード面での整備も重要ではあるが。
知的障害者が一番苦手な知的側面の活用が必要なところ。
知的障害教育の養護学校の場合、個人の能力差が大きく授業として「情報教育」を扱うことはなかなかむずかしいと思いますが、生徒個々の課題に応じた学習を行う授業を設定して取り組むことは可能だと思います。しかし、生徒一人に一教員が全面的について指導する体制がとれないことがあり充実した指導はできないのが現状です。
知的障害を有する生徒に情報教育を行う場合、情報教育の根本的な考え方を教えるのは難しく、操作技術を教えがちになる。その場合、ソフトがバージョンアップしたり、ハードが改良される度、教える内容が少し変わるが、卒業したあとまで通用する技術が教えられるかどうか問題である。
府学校情報ネットワークなど、与えられたネットワークパソコンのソフトは、設定が独特であったり、わかりずらく、生徒は調整時間を待てないことが多く、指導がしにくい。
台数に制限があるので、授業などで使用する場合に調整が必要になってくる。そのため、気軽に使うことができない。パソコンによって表示が違っているの、わかりにくい。（教員によって知っていることには限りがあるので。）パソコンの使い方をしっかりと習熟していないので、生徒に満足のいくような指導ができない。
対象の生徒が限られてしまうこと。重度の障害児が使用できる機器、ソフトウェアが少ない。またそれらの価格が高い。
多様な生徒の実態に合ったソフトが少ない。ネチケットの指導の必要性。ソフトや周辺機器を含めた情報機器に関しての意識不足。パソコンの台数の確保、および機器類の維持費が年一負担増加している。
多くの情報から必要な情報を選択させる力を身につけさせる必要がある。インターネットに対する関心が強く、それに固執してしまう。自己教育力や問題解決能力を育成するための思考力が育ちにくい。
操作やより良い方法（リテラシー）をどのように指導していくか。
全員に同等に行うことが難しい。（一人一人によって課題やニーズも異なる為）
選択教科のため時間の確保がむずかしい。
専用教室がないので学習の効率が悪い（他の特別教室との共用）。
専門的に情報教育を行ったり、設備をとり扱うことができたりする教員が少ない。
専門性の高い教員がいないが、他の教科との関連を考慮すると専科でおくことは難しいと思われるので、それぞれの教員がレベルアップを図るしかなく、最新の情報を生徒に提供できるか不安。
専任の管理者がいないため、機器が有すスペックを活かしきれしていない。機器やソフトウェアのトラブルに対応できる職員が不足している。情報教育のカリキュラム上の位置づけがまだ確定していない。
設置されてまだ年数が浅く、具体的に、どのような目標を立ててすすめていけばよいのかということ。また、その目標に見合った教材をどのようにすればよいのかということも悩むことがある。

生徒用コンピュータの不足。
生徒数も増加しているのでコンピュータの数で増やしてほしい。コンピュータはどんどん古くなっていくので県単位でリースの方向にもって行ってほしい。
生徒向けのコンテンツの少なさ。有害情報のフィルタリング
生徒一人に対するパソコンの台数が少ない。機材が古い。
生徒の能力格差。授業時の生徒人数に対しての情報機器の不足。指導する教員数が少なく、個別の指導が十分おこなえない。
生徒の知的レベルに応じた学習ソフトを充実させることが難しい。
生徒の人数に対してパソコンの台数が不足している。
生徒の実態に則したソフトが少ない。
生徒の実態に合うハードやソフトの整備が難しい。
生徒の実態に応じた系統性を持った指導内容が十分に確立していない。
生徒の実態にあったソフトがない。
生徒の実態として、なかなか指導に至っていない（工夫点が必要）。指導できる教員が少ない。
生徒の指導の中で視聴覚機器の活用は行っているが、インターネットやホームページ、コンピュータの活用については、生徒の実態には難しく活用されていない。
生徒の使用できるパソコンの台数が少ない（8台）
生徒に授業をしようと思うだけのコンピュータの台数がない。
生徒によっては、コンピュータ操作（手順等）の理解が難しく、教師の支援が多く必要である点。
生徒が不必要な操作をしない（できない）などのシステム設定等で難しい部分もある。ネットワークを活用したコミュニケーション等を想定した場合の個人情報の扱いなどの学習で理解が難しい生徒も多くなっている。
生徒が使用できるパソコンの台数が不足している。インターネット通信速度が遅い（128kb/s）のため、複数台接続すると表示されるまで時間がかかったり、動画が再生されないことがある。
生徒が使えるパソコンの数が現状では3台（しかもW98）しかないので、必要なときは教員の（指導用、事務処理用）パソコンを借用しているが生徒用の台数が不足している。個々の生徒のパソコンの操作能力に合わせて指導していく上で、指導できる教員の数や台数等環境条件がまだ整備されていない。
生活単元学習などでコンピュータを利用する際に教室に設置されていないので利用しにくいということがあります。
整備されているコンピュータの数が少ない。運営の予算があまりとれない。
職員がある程度のパソコンの知識が必要。
情報入手の手段としてはTV中心という現状の中で、新聞を読んだり、本を読んだりして調べることができる力の低下が心配されるが、文章を読むことの定着という意味でもインターネットの利用についてはメリットの方が大きい。ワープロの検定などをすすめていると、生徒達の目標につながるかもしれない。
情報教育を単独で行うのはむずかしい。
情報教育を行うための適切な環境・設備がない。特にパソコンの性能・台数により、活動が制限されてしまう。
情報機器自体が少ない。
情報機器の管理の維持。指導者の技術、意識の共通化。実態の多様な生徒に対するサポートの仕方。
情報器械の不備。障害の程度にソフトが対応していない。
情報化社会に対するマナーやプライバシーなどに関する問題について。携帯電話の利用やそれにかかわる問題について。
情報を取り出し、選ぶという技能がなかなか身に付かない。情報の内容が知的障害者にとって高度な内容が多い。
情報を指導できる職員が、一部の者に限定されるため、対象となる生徒に行き届いた指導が行えない。個別の生徒の実態にそくした教材を作成する時間がとりにくい。
情報リテラシーをどのように生徒に指導していくか。
情報モラルやマナーに未熟な生徒が、危険性の高いWebページへアクセスしたりソフトウェアのダウンロードをしないように注意が必要（一般的なフィルタリングでは十分にふせぎきれない）。
情報モラル、特にアダルトサイトへのアクセスをする生徒がいる。知的障害のある生徒に対して、どのように指導することがのぞましいか、個々のケースにより違いはあると思いますが、性教育と連携して指導することの重要性を痛感しております。
情報の免許を有する教師がいない。

情報に関する知識や技能面で個人差が大きく、人への対応が難しい。
障害の程度に応じたソフトやその指導法のノウハウに乏しい。
障害の多様化により、生徒の障害に応じた機器の導入が難しい。
障害の重い生徒に対する指導が難しく、教師主導で進めてしまいがちである。実態差の大きいのでグループ編成が大変である。
小学部、中学部、高等部があり、パソコン室利用を振り分けているので、使いたい時に自由に使えないことがある。指導できる教員数が少ない。
重度の生徒が利用できるようなソフトがもっと開発されたら良いと思う。
授業中に有害サイトを見ている生徒がいる。
授業担当の職員が1人のため、あまり難しい内容まで取り上げることができない
授業以外でも個に応じたパソコン利用を行っているが、OA室やパソコンを自由開放していると、不適切な利用をする生徒もあり、使用を制限しなければならない。
実態の差が大きい生徒にどこまで指導が可能であるかなどの学習内容や課題設定について。
実態に幅があるので、学習内容の選定や支援が難しい。
自閉傾向の生徒には、特定のホームページや操作へのこだわりがあり、取り組みをひろげていくことが難しい。
時間数が少ないので、領域・教科を合わせた中で行う。機器の台数が少なく多人数にいきわたらない。
時間を確保することが難しい。
時間に制限があるため、なかなか定着していかない。
時間がとれない実態がある。
指導者不足等。
指導者不足。
指導者の不足（担当できる）、指導者の技術不足、周辺機器の不足。
指導者の質、量、準備する時間が足りない。
指導者がいない。
指導する教職員のパソコンに関する専門性不足。著作権、個人情報の取り扱いについて。
指導する教員の知識、技術不足。
使用できる場所や台数に制限があること。指導できる教員数や使用するソフト、指導内容についての不安。
在籍者数も多く、特別教室を小学部や中学部と共有しているため、使用時間に制約がある。
今年、各教室に1台ずつ設置されたが、もっと台数がほしい。
高等部のみで利用できる情報機器の不足。適切なソフトの購入の難しさ。指導者の不足。
個別での指導が中心になるので場所と機材が足らない。
個人毎に格差があり、指導中工夫を要する点
個々の実態、能力の差が大きい。個々のニーズに対応した教育がむずかしい。
限られた授業時数の中で情報教育に関する指導を設定するのは難しい
検索が難しい。
継続して学習する時間の設定ができない。
系統的に情報活動能力の育成を図るのが難しい。情報機器（パソコン）のメンテナンス。
携帯電話の利用・インターネットモラル・悪質なHPについて→系統的に指導することができにくい。
教職員の未理解。PC室の狭さ（拡張方向で検討中）。
教室にパソコンが一台あるだけ。生徒の実態、興味に応じた学習ソフトの不足。指導教員不足（生徒10名に教師3名は必要）
教室でパソコンを利用する場合、その都度パソコン室より機器を持ち出して設置しなければならない。パソコンやプロジェクター、スクリーン等が各教室に常設されておれば活用頻度がもっと高くなる。
教員に十分なスキルが無い。生徒用のPCが少ない。必要性がない。
教育課程上、直接PCの指導を行う時間が設定されていない。
教育課程が細分化されていないため、「情報」という教科を設定することが難しい。すなわち、パソコンを扱うことのできる1部の生徒のみの指導ができない。かといって教育課程を分けたとしても職員の配置や課程選別の線引き等の問題がある。

機器の量、数が少ない。周辺機器を購入する予算が少なすぎる。生徒の障害に応じた活動の準備をする時間が持ちづらい。
機器の更新が進まない。
機器のセット等、準備段階の時間の確保や技能の習得が必要。
機器のセッティングを行う人の不足（できる人への過重負担）。トラブル時の対処を知っている人が少ない。
関する指導についてはマニュアルがなく、担当する教員の意欲や資質に左右される所が多一あり、一律に進めていくのが難しい。
活動時間が重なり、ノートパソコンの台数が不足することがある。修理方法の分からない故障がある。インターネットの設定など業者が行ったのでIPアドレスなど分からないことが多い。
学習の幅を広げるための情報教育の位置づけが不十分。ネチケット等の指導の徹底をする必要がある。
学習する生徒数に応じた機器やソフトウェアが十分には整備されていない。機器操作上、乱暴に扱う生徒への指導や、故障等メンテナンスのバックアップ等。
学校に図書室がないので、調べもの=インターネットが定着しているが、卒業後にインターネットを利用する環境のない生徒が多いこと。
学校にあるパソコンが古い。最新のものではあればもう少し効果的に学習ができる。コンピュータ室が遠く、移動時間がかかってしまう。
各教室にパソコンの保管場所がなく、日常的に触れる機会をつくれないこと。
一般教室用の機器が不足、指導教員の不足。
一般のソフトウェアを利用しているが機能が多く生徒にとって操作が複雑で理解しにくい場合が多い。教育ネットを利用しているが制限が多く、速度もおそいため速く容量の大きいものが必要である。
一斉指導では、操作を習得することは難しく1対1で職員が付くことも人数からして不可能である。
一人一人に適した周辺機器を整えられない。教室で扱えるPCがない。画面と顔の距離が近くなり、まばたき数の減少や視力の低下があらわれた生徒もいたので留意すべき。
ワープロソフトは使えても、表計算ソフトやタッチタイピングまで指導できる教員が少ない。就業支援の観点から「情報」のカリキュラムはどのようにあるべきか、検討のためには企業等の現状を継続的に知る必要がある。ローマ字学習、コンピュータ利用経験の差などによる習熟度の個人差をどう補うか問題。他教科との連携や教科外でのICT（校内メール、校内掲示板等）への習熟をどのように推進するか。全学部・全教員が共用しているコンピュータ教室等の指導環境を、整備・運用する教員の負担をどう軽減するか。
モラルやセキュリティなど発達段階において差があり、指導上困難がある。アクセシブテクノロジーにおいて十分な機器設備がない。指導できる教員が少ない、共通理解ができていない。生徒の興味や関心が拡がりにくい。
プロジェクター、PC等の予算が少なく、数も不足している。
フィルタリング、誤操作（いちじるしい）での故障。
パソコン等の機器が不足している。常設のパソコンルームなどがいないため、機器の設定に時間がかかるため、個別の指導を確保することが難しい。
パソコン教室の調整（使用学年）
パソコンを利用する際、デスクトップ上のアイコンを勝手にいじられたり、インターネット上で有害なサイトを見てしまう点。
パソコンを同時にインターネットにつなぎ検索すると電源がおちてしまう。設備改善が必要である。ワープロソフトや画像処理ソフトの選択に迷う。（指導する側は、自分の使い慣れているソフトが使いやすい）
パソコンを使う上でのマナーやルールを教えること。有害サイトなど大量な情報がある中で、生徒たちがその中が選択することの難しさ。
パソコンの台数に限りがあり、調べ学習等で利用したい生徒が集中したとき、生徒に不自由な思いをさせている。
パソコンの台数が足りない。指導時間の確保がむずかしい。パソコンのスペックが足りない。通信速度が遅い。
パソコンの台数が足りない。
パソコンの台数が足りない。指導できる教員が少ない。
パソコンの台数が少なく、一度に利用できる生徒数が限られる。予算が少なく、有効だと思われる教育ソフト等の購入ができない。
パソコンの台数が少ないことや（生徒の人数に対して）ソフトの種類が少なく（あまりそろえることが出さない、予算がないのか？）もう少し多いとたくさんの生徒に使ってもらえると思っている。
パソコンの台数が少ない。予算がなく周辺機器が充実していない。
パソコンの台数が少ない。レンタルのパソコンであるため、ソフトを自由にインストールすることが難しい。

パソコンの台数が少ない。パソコンがリースの為、必要なソフトが使えない（制限がある。）
パソコンの台数が少ない。
パソコンの台数がすくない。OSが古い（Windows98, 95）
パソコンの操作では一人一人が支援が必要だが、通常の授業の中では教員の手が足りない（生徒の待機時間が多くなってしまう）。時間数が少ない、あるいは継続して取り組むことができなかったりで学習したことをきちんと身につけていくのが難しい。
パソコンの数が不足。
ハード面がまだ不十分（回線速度が遅い、パソコンの台数が少ない、高等部の教室にネットワークがつながっていない等）
ネットやインターネットトラブルについての指導を必要に応じて適宜行っているが、まだまだ指導内容や方法について検討していく必要がある。
ダブルクリックやマウス操作等、基本的な操作が難しい生徒がいる。キーボードのボタンが気になり、つい何でもボタンを押してしまい、コンピュータが動かなくなることがある。
タッチパネルのPCが少ないなど、必要な機器がまだ不足している。キーボード、マウスなどが生徒実態によって操作がむづかしい。
ソフトや周辺機器の効果的な使い方及び機能等の理解。どのような授業場面で使えるか、教材ない。新しい技術についていけない。
ソフトやハードが古くなり使いにくくなってきた。新しいソフトや生徒に合ったデバイスを買う予算がない。
ソフトウェアの充実化
コンピュータ数の不足。教室が（専用）ない。
コンピュータ室やパソコンの管理、メンテナンス。生徒に合ったソフトウェアをどのようにして見つけるか。
コンピュータ室やコンピュータ機器の不足。コンピュータ操作に堪能な職員が少ない。
コンピュータ関連の機器の操作メンテナンスが難しく、また当校の生徒に合ったソフトを探すことが困難である。教師の、この分野での専門性が不足していると感じる。重度の知的障害や重複障害をもつ生徒の教育に有効な情報機器の活用について研修の機会が必要。
コンピュータの不具合が出たときの対応が大変である。常に使い易い状態に保つためには、情報に関する専門性の高い職員が数多くいればよいが、現状では、少し詳しい者がなんとか対応しているという状況である。
コンピュータの台数不足、ソフトウェア不足など整備面の問題。授業に利用できる教科用図書の不足。「情報」免許取得教員の不足。
コンピュータの台数や障害の程度に応じた機器類の不足
コンピュータの台数やプロジェクターの台数等、設備面が整っていないと感じる。パソコン教室には生徒用のコンピュータが6台しかない。
コンピュータの台数が少なすぎる。コンピュータが古すぎる。
コンピュータの台数がたりない。
コンピュータの台数および教室が少なく、調整ができない。（本校は小・中・高学部があるため）
コンピュータの簡単な操作等は大半の教職員が行えるが、より効果的な指導を行うまでにはいたらない。
コンピュータの資格保有者がいないため、個人の力量にまかされている。
キーボードの操作や入力操作などが難しい。タッチパネルなどの活用も行ったが、画面の情報を読み取る力に限度があるので、活用できる範囲はまだせまい。
キータッチが難しい点。平仮名入力でも探すのに一苦労となる。あいうえお順のキーボードを音声入力など、知的障害者用の周辺機器があれば良い。
カリキュラム上、どの部分で情報教育を取り扱っていくのか、その指導形態等、まだまだ検討していく必要性を感じる。
インターフェイス不足、マンツーマンの指導形式をとらないと効率が上りにくい。
インターネット上には、情報が反乱しているので、生徒自身に取捨選択させることが難しい。
インターネットを利用するときに漢字が読めず、正しい情報が得られない。
インターネットを使用する際に気をつけなければならないこと、注意すべきこと、ルールやマナー等をどの程度まで教えたらいいいのか。コンピュータの台数が不足している。指導者の専門性の向上が必要である。
インターネットや携帯電話等を扱う機会が増えることで、必要な情報と不必要な情報を判断する力を育むことが急務となっている。

インターネットやメールの使用と料金の関係を理解させるのに苦勞したケースがある。携帯電話やメールを利用し、保護者や教師が知らない情報を得ていたり交友していたりするケースがあった。
インターネットメールを使って有害サイトからの情報を入手すること。
インターネットの利用が自分の興味のあるサイトの閲覧に終始する生徒が数名いる。(障害のためか固執する)
インターネットの利用が活発になり、詐欺やウィルス等の被害に合う。
インターネットのマナーなども授業で教えているが、危険な例を教えようとしてもiフィルターにかかってしまい、具体的に伝えにくい。(とはいえ、これは難しい問題だとは思いますが…)
インターネットで調べ学習をする時など、色々と興味をもち、調べたがる生徒がいて有害サイトへ入ってしまうことがある。インターネットをする上での注意やネチケットを指導してもなかなか身につかず、情報収集の力だけがつき、歯止めがきかなくなることがあった。
アプリケーションソフトや機器の不足。いつでもすぐに使える環境にないこと。
PC等の機材が少なく指導の体制に限りがある。機材の管理や設定に時間がかかり指導する教員の数も不足している。
PC台数が少なく授業にならない。(現在生徒が使うPC室にPC6台のみ)
PCの調子が悪く、インターネットへのつながりが悪い。市販されているソフトで利用できるものが少ない など
PCの台数が少なく、授業を展開する上で支障がある。
ISDN回線を利用しているが、ホームページを閲覧する際などに時間が掛かる。
CAL (Computer Assisted Learning) をすすめていきたいが、個に対応した器材やソフトが必要になる。この点が十分に整備されていない、又、相談する機関が少ない。
・生徒の能力や実態にばらつきがあるため、一斉に指導するのが難しいと考える。
・生徒が使用しているLAN教室の機器が6台と少なく、またリース仕様のために学校独自で他のソフトをインストールできない。
・高等部の教員数は57名であるが、「情報」の免許の保有者がひとりもいない。最低各学年1名が必要である。
・情報機器が少ない。(パソコン等)
・情報機器が十分整備されていない。
・難解な操作手順もあり、生徒の能力に見合った操作が行えない。
・授業時数が少ない上、家庭でもやらなければ操作を忘れてしまうことが多い。
・実際に、パーソナルな場面で様々なソフト操作をスムーズに行えるかは、正直なところ疑問である。
・指導をする時間が設定されていない。生活単元学習等でインターネットを使って調べ学習をする程度しか授業では活用できない。
・コンピュータに触れることが好きな生徒は多いが、個々の情報処理能力に関する差が幅広く、個別対応になる。
・パソコンを中心とした情報機器の不足のため、より多くの生徒に情報教育を行う機会を逸している。
・アプリケーションソフトの中にはスクールライセンスの無いものが多く、同じアプリケーションソフトをたくさん購入しなければならず、経費の負担になっている。
・パソコンに依存的になってしまう生徒が見られ、情報活用とのバランスが難しい。
・パソコンの数の不足。
・習熟度に差がある。
・コンピュータ等の情報機器を活用しながら、教科指導できる教員が少ない。
・学校全体を通じて生徒の実態に即したソフトの活用や教材の作成などが十分に行われていない。
・コンピュータの台数不足
・セキュリティーの確保
・専門職員の不足

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

図3-16は、在学中に情報処理に関する資格を取得している例について示したものである。

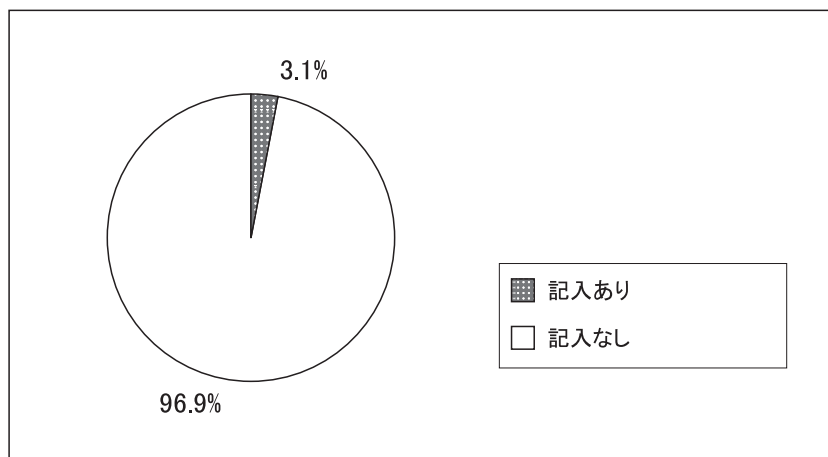


図3-16 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表3-17は、その内容等を示したものである。

表3-17 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計
		32
ワープロ実務検定3級	全国商業高等学校協会	1
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	4
ワープロ検定3級	—	1
ワープロ検定	日本商工会議所	1
愛知県高等学校職業教育技能検定	愛知県知事	3
コンピュータ技術検定	愛知県盲・ろう・養護学校職業教育研究会	2
愛知県盲・聾・養護学校職業教育研究会認定	愛知県盲・ろう・養護学校職業教育研究会	8
キータッチ部内検定	愛知県盲・ろう・養護学校職業教育研究会	5
コンピュータ技術検定	愛知県高等学校職業教育研究会	3

(11) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

図3-17は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

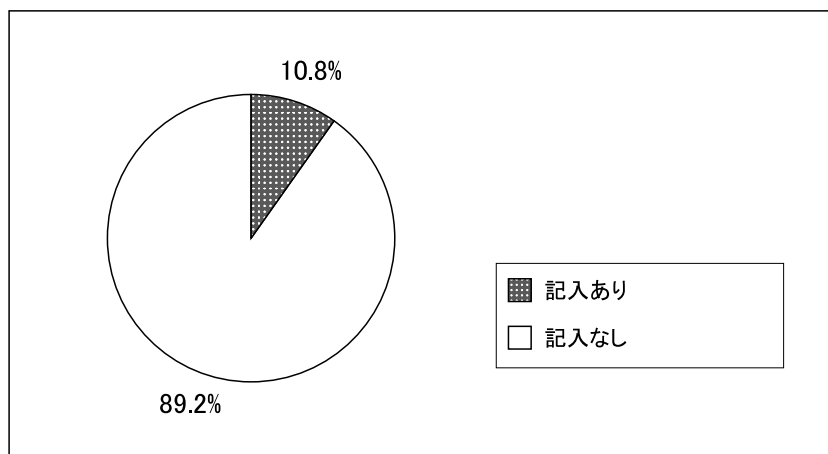


図3-17 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表3-18は、その内容等を示したものである。

表3-18 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
商店	売り上げの整理 (Excel)
電力	社内向け文書の作成 等
スーパー	バックヤードでの検品業務、価格修正
スーパー	店内掲示のPOP作成 (入力から印刷まで)
スーパー	ラベルの端末機器の操作
スーパー	商品シールの打ち込み
印刷業	名刺などのPC入力, レイアウト, 印刷など
印刷業	コンピュータで文書作成, 構成など
運送業	配送品管理
運送業	バーコードを利用した発送先ごとの製品の仕分け
運送業	配達伝票の番号 (半角英数字) を入在庫管理ソフトで入力 (2名)
アパレル	出勤時にパソコンを操作
運送業	メール便の仕分け
事務	売上伝票整理
通販	顧客情報の入力
建築業	倉庫管理, データ入力 (Excel)
ネット関連	図面をスキャナーでスキャニングして電子化する
ネット関連	CGによる商品のパッケージ製作
情報処理サービス	メーリングサービス, 顧客伝票入力
製造業	外部からの発注などの打ち込み
薬品会社	経理部で全国営業所から集まる支出伝票の集計とExcel入力
流通業	表計算等のデータ打ちこみ
電気関連	在庫の管理
大学	メールのチェック
特例子会社	親会社・関連会社からの発送品の宛先・伝票番号をパソコン入力
特例子会社	パソコン入力 (名簿作成等)
福祉作業所・授産施設	パソコンによる印刷
福祉作業所・授産施設	顧客情報の入力や名刺や絵葉書のデザイン作成
福祉作業所・授産施設	年賀状印刷
福祉作業所・授産施設	パソコン入力 (各種文書)
福祉作業所・授産施設	パソコンを使って描いた花を作品として販売する。
福祉作業所・授産施設	名刺印刷, ハガキ印刷, 書類の版下作成
福祉作業所・授産施設	バザー等のチラシ作り
福祉作業所・授産施設	商品のラベル作り
福祉作業所・授産施設	名刺・カード印刷

(12) 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

図3-18は、卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

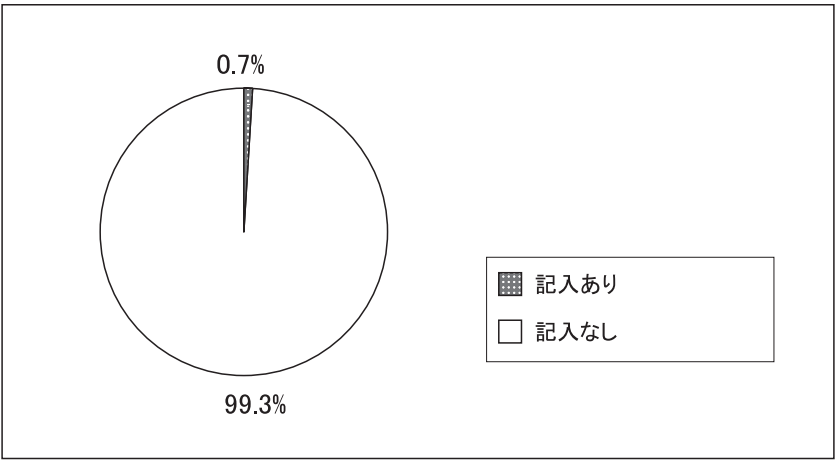


図3-18 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

表3-19は、その内容等を示したものである。

表3-19 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

〇〇市職業リハビリテーションセンター（知的障害者の情報処理訓練）Word, Excel
暑中見舞、年賀状等のハガキ作成

3) - b 高等部単置の知的障害養護学校高等部の調査結果

(1) 高等部単置の知的障害養護学校の回答数

高等部単置の知的障害養護学校の回答校数は39校であった。回答率76.5% (全国51校)

(2) 高等部の教員数, 学級数, 生徒数

ア) 高等部の学級数および生徒数

全体の学級数の平均は13.7, 生徒数の平均は104.0であった。

イ) 高等部の教育課程ごとの教員数, 学級数および生徒数

表3-20 高等部の学級数, 生徒数, 教員数

	回答数	学級数 (平均)	生徒数 (平均)	教諭数 (平均)	実習助手数 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭「情報」の 免許状を保有する教員数 (平均)
知的障害者を教育する 養護学校の教育課程	39	13.7	104.0	38.9	5.1	8.1	0.62

その他のスタッフについての回答は, 以下の通りであった。

講師 (11), 養護教諭 (5), 常勤講師 (4), 寄宿舍指導員 (3件), 介助員 (3), 主事 (1), 非常勤講師 (1), 就労援助指導員 (1), 主幹 (1), 実習教諭 (1), 営繕 (1)

(3) コンピュータ等の活用の実態

表3-21は, コンピュータ等を活用した授業経験のある教員等の平均を示したものである。

表3-21 コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使っ た授業をしたこと のある教員数 (平均)	児童生徒の障害に応じた周 辺機器やソフトウェアを 使って授業をしたこと のある教員数 (平均)	児童生徒の障害に応じ て周辺機器やソフト ウェアの設定ができる 教員数 (平均)	「福祉情報技術コーディネ ーター」資格保有者数 (合計)		
			3級	2級	1級
18.6	5.8	4.9	0	0	0

(4) 学校全体の校務分掌

図3-19は, 情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者の平均は, 4.2人であった。

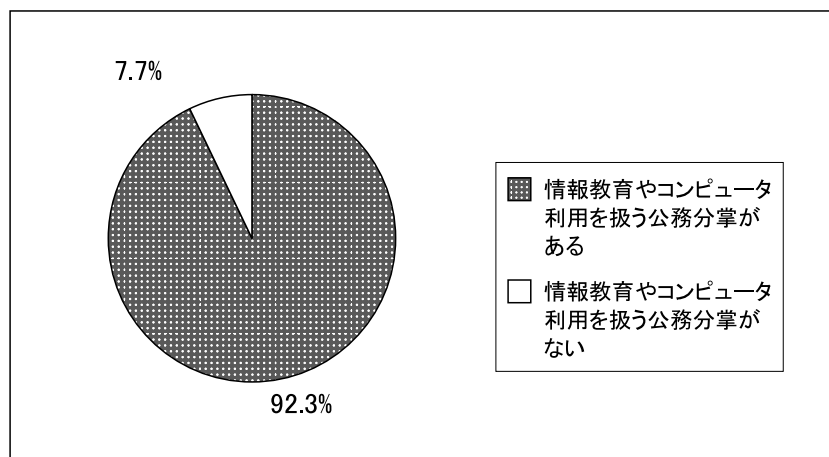


図3-19 情報教育に関する校務分掌の有無

(5) 知的障害者を教育する養護学校高等部の教科について

ア)「情報」に関する普通教育に関する各教科の内容

i) 中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮

図3-20は、中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮の有無について示したものである。

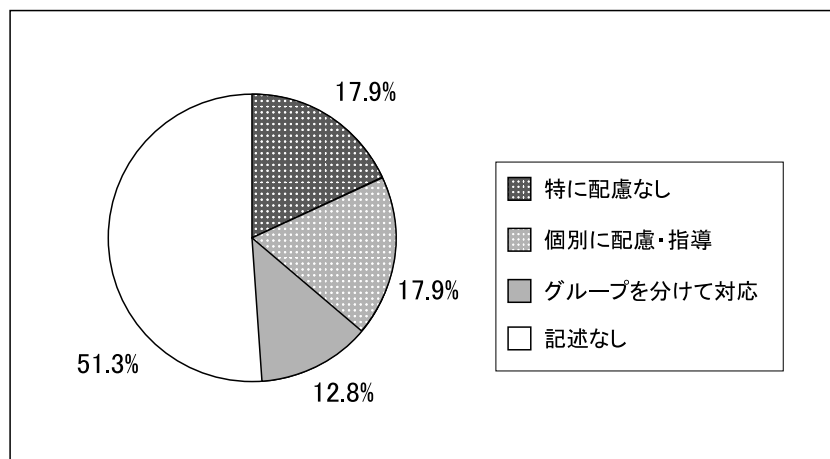


図3-20 中学校からの進学者と中学部からの進学者についてのカリキュラム上の配慮

ii) 普通教育に関する教科「職業」における情報教育に関する内容の取り扱い

図3-21は、普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容の取り扱いの有無について示したものである。

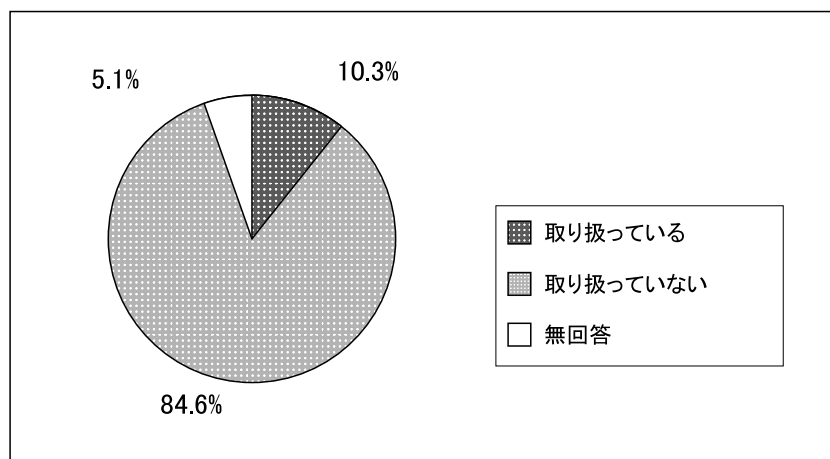


図3-21 普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容の取り扱い

iii) 普通教育に関する教科「情報」の時間

図3-22は、普通教育に関する教科「情報」の時間の設定について示したものである。

教科名は「情報」(6校),「選択教科『情報』」(1校),「選択教科『情報処理』」(1校),「外国語・情報」(1校),「パソコン」(1校)であった。

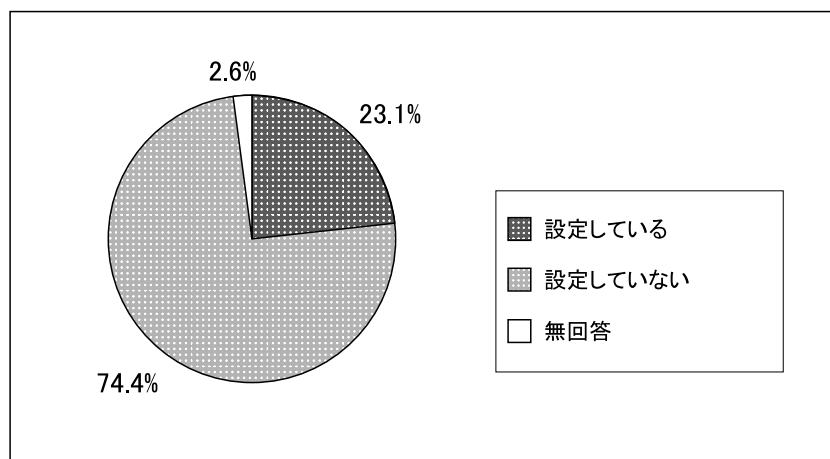


図3-22 普通教育に関する教科「情報」の時間の設定

iv) 普通教育に関する教科「情報」の内容

図3-23は、普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容の実施について示したものである。

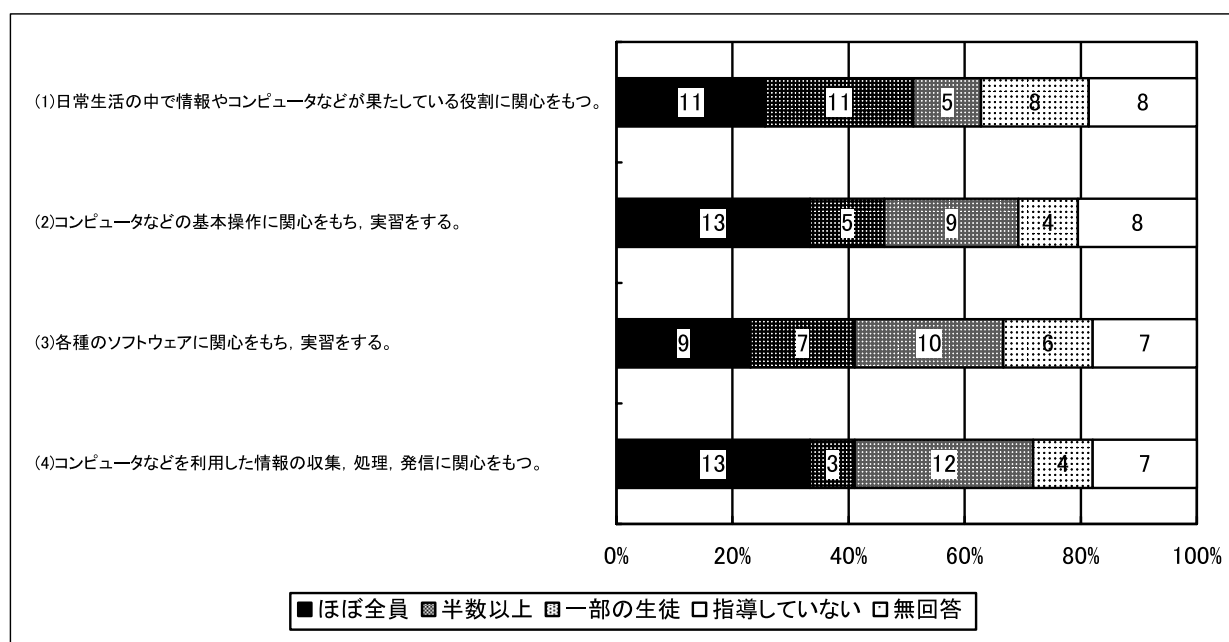


図3-23 普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容の実施

図3-24は、普通教育に関する教科「情報」の2段階の内容の実施について示したものである。

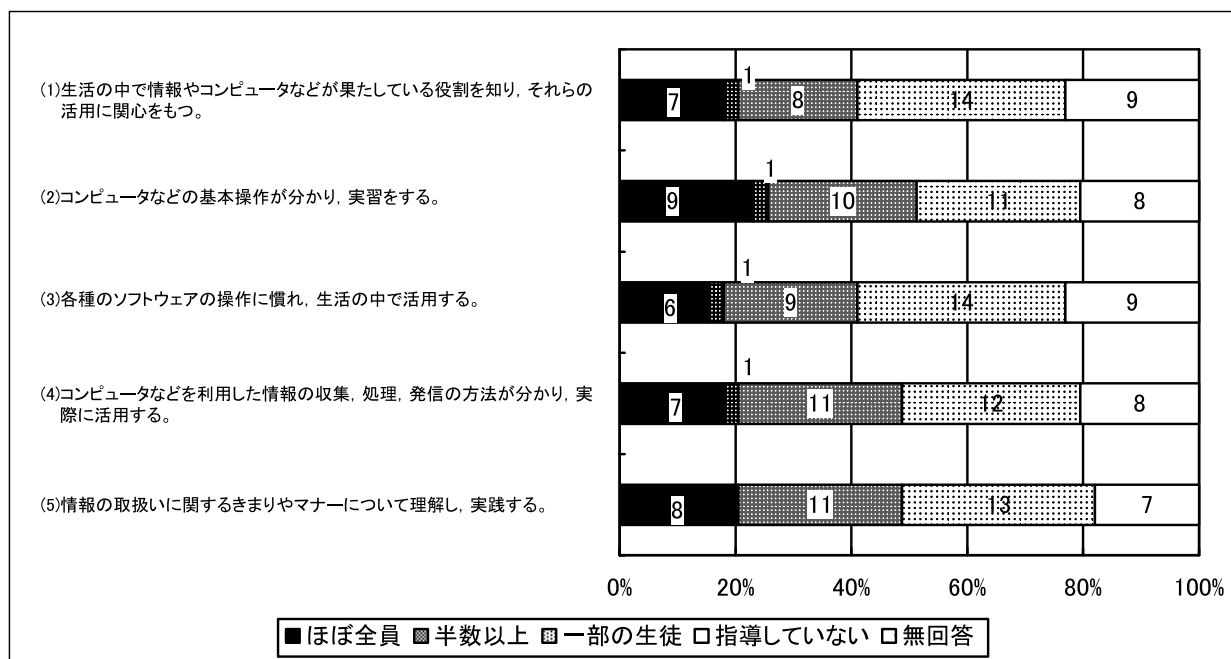


図 3-24 普通教育に関する教科「情報」の2段階の内容の実施

v) 普通教育に関する教科「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項

図 3-25は、「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項について示したものである。

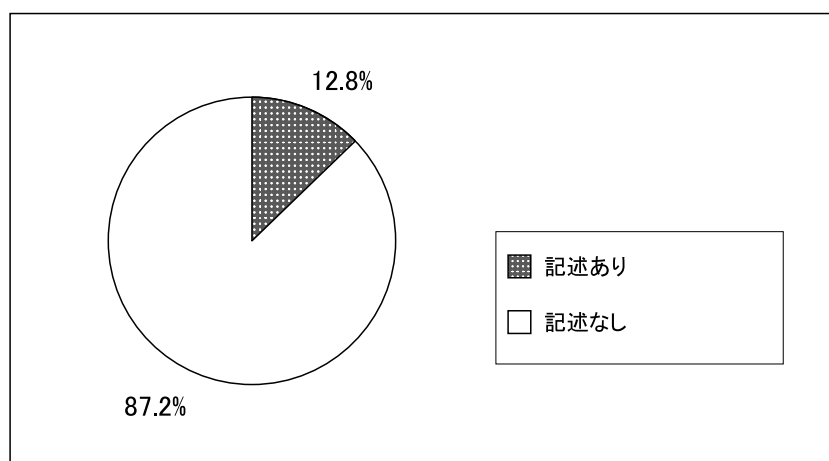


図 3-25 「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項

表 3-22は、新たに加えて指導している事項の回答を示したものである。

表 3-22 新たに加えて指導している事項

自宅にコンピュータがある家庭ばかりではないので、身近な携帯電話や電話、Faxなどの使用についての指導をしている。

携帯電話の活用

vi) 普通教育に関する教科「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項

図3-26は、「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項について示したものである。

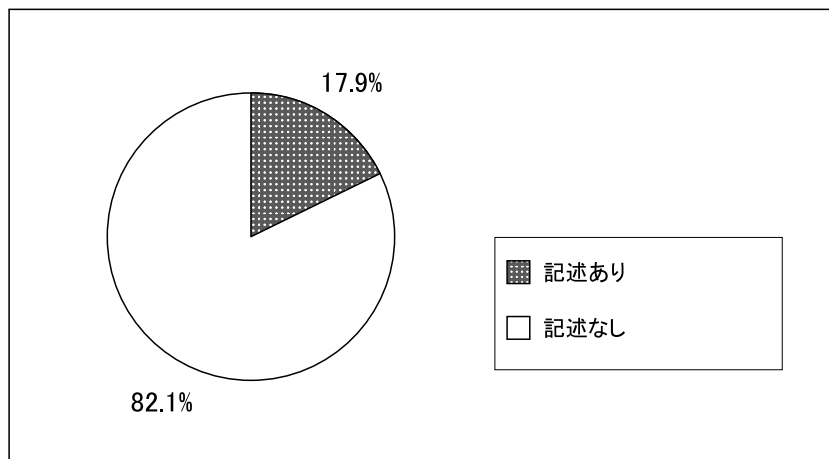


図3-26 「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項

表3-23は、今後新たに加える必要があると思われる事項の回答を示したものである。

表3-23 今後新たに加える必要があると思われる事項

本校では毎年100%近く（45名）が企業就労していますが、情報機器を利用する内容で働いているものは2名程度であり、これまでの入力作業だけでは今後職域を広げていくことはむずかしいと考えます。そこで簡単なペイントや写真加工ソフトではなく、アニメーション加工が可能な本格的な画像処理ソフトを使った内容を盛り込み、より実践的なスキルを身につける機会があってもよいのではないかと考えています。
知的障害を持つ生徒の大半は1段階でも困難な生徒が多い。準ずる教育とはいっても現段階ではハードルが高すぎる。かといって、個人情報にかかわるトラブルにはまきこまれる生徒が（卒業生）多くみられるため必要な内容である。せめてもう少し簡単な内容、デジタル以外の内容もくわしく項目だてられていたらと思う。また今の表記はコンピュータ=情報教育ととられがちであると思われる。
段階の1と2の区分が実際の指導上分けることが難しい。具体的に実習をして利用して理解を図る必要がある。
情報を扱う上でのルールやマナー → 人と人をつなぐツールとしての面 → 豊かな生活をつくるツールとしての面
PC等情報機器の指導は基本として重要であるが、実際の生活場面での「情報」活用は、携帯電話が主流になってきており、生徒においては携帯電話の管理や活用が今後も重要になってくると思われるので、携帯電話については確実にきっちり指導していく必要性を感じる。
ネットワーク、携帯に関する犯罪からの防御法、またトラブルに巻きこまれた時の対処法などを学ぶ。

イ) 専門教育に関する各教科

図3-27は、専門教育を主とする教科の設定について示したものである。

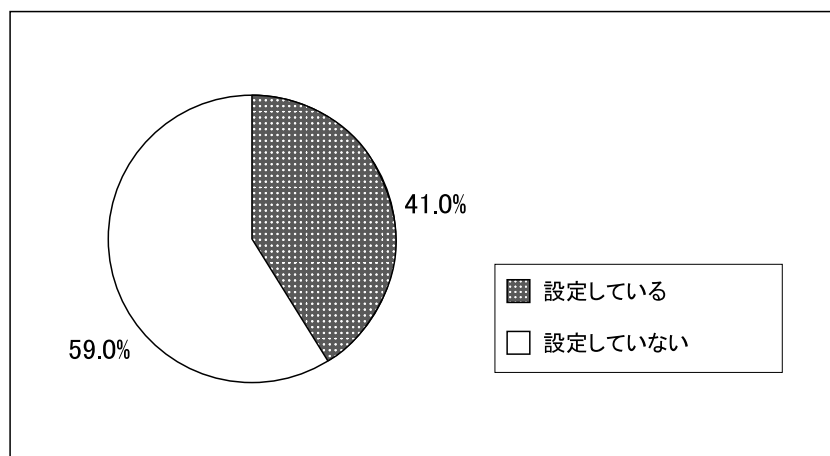


図 3-27 専門教育を主とする教科の設定

図 3-28は、専門教育を主とする各教科について示したものである。

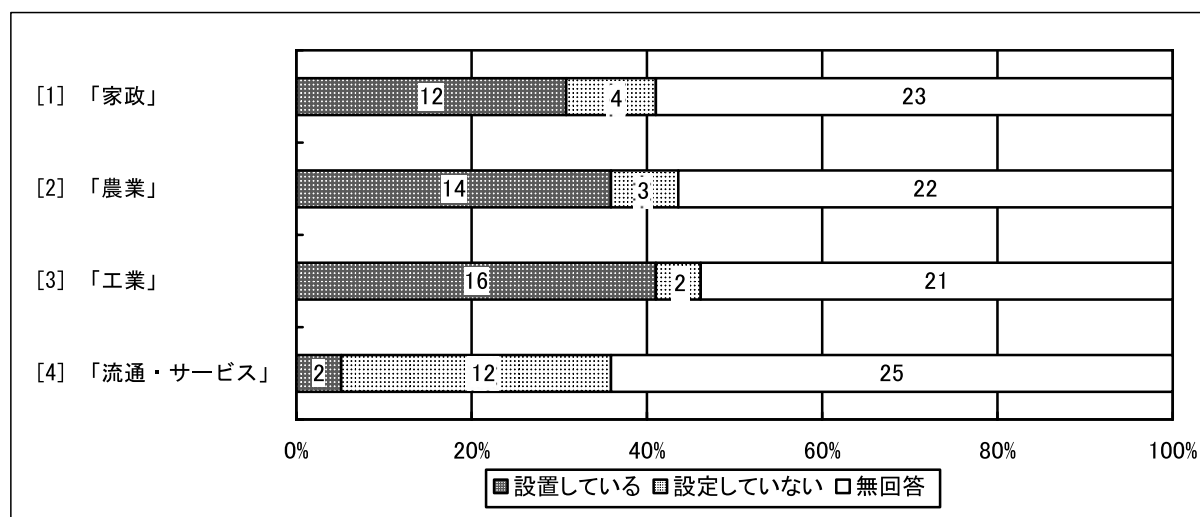


図 3-28 専門教育を主とする各教科の設定

ウ) 情報の内容を含む学校設定教科

図 3-29は、情報の内容を含む学校設定教科について示したものである。

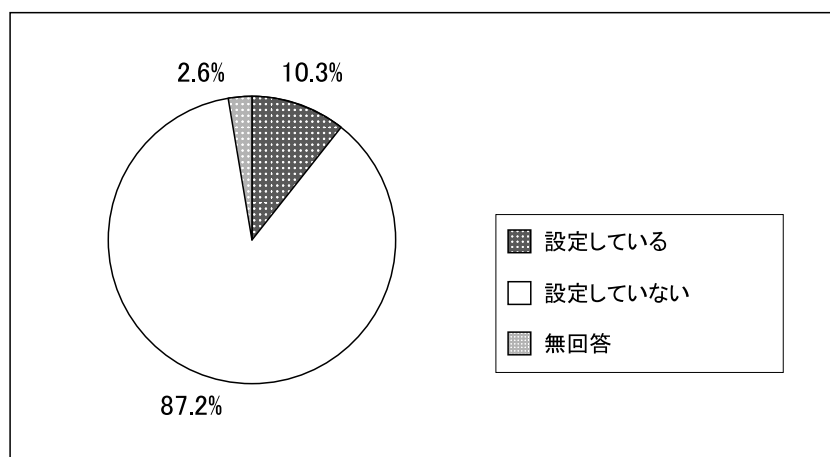


図 3-29 情報の内容を含む学校設定教科の設定

表3-24は、情報の内容を含む学校設定教科の回答を示したものである。

表3-24 情報の内容を含む学校設定教科の回答

学校設定教科の名称	目標	内容
学校設定教科「情報」	日常生活の中で情報やコンピュータなどが果たしている役割に関心をもつ	電源の入/切。ホームページの閲覧。フォルダからの写真や作成中の文書の保存・呼び出し。ちらしを作る上で必要な情報は何か考える。番号案内や電話帳の使い方を理解し、身近な場所の電話番号を調べるなど。
生産技術印刷（選択）	生産技術にかかわるより高い技術と広い知識の習得	キーボード、マウスの操作に慣れる。校内で名刺の注文を受け作成・販売する。ワープロ、販売管理ソフトの操作。ネットワークを使ったファイル管理。カレンダー制作
社会生活	－	－
外国語・情報	日常生活の中で情報やコンピュータなどが果たしている役割に関心をもつ。	パーソナルコンピュータの名称としくみを知る。日本語ワープロソフト（一太郎）を使い、ひらがな変換やローマ字変換で文字や文章をうち、データを保存する。ホームページの閲覧。電話で天気、時刻、身近な場所の電話番号を調べる。
「学習」（国数英理社）	パソコンの正しい利用方法を知り、活用する	カナ、ローマ字入力の方法、インターネット・e-mailの利用方法・調べ学習

（6）総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図3-30は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

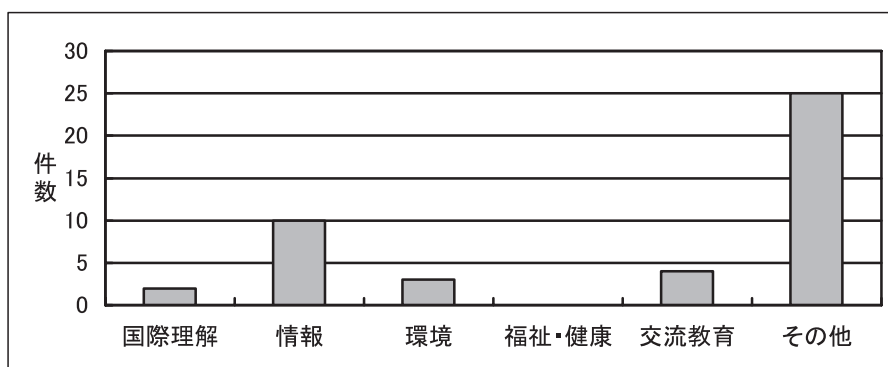


図3-30 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組についての回答は2件あったが、表3-25は、その内容等を示したものである。

表3-25 総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
村のALTを招いて	10	村のALTを招いて楽しくすごす。その日のための計画をたてる。後日、感想や体験したこと、学んだことをまとめる。
世界のいろいろな国を知ろう	8	世界の様々な国の特色（文化・習慣・風俗・食生活）について調べ、発表する。

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は10件あったが、表3-26は、その内容等を示したものである。

表3-26 総合的な学習の時間における「情報」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
情報機器を活用した調べ学習	10.5	パソコン、デジタルカメラ等の基本操作について。各班（学習班）のテーマに沿ってインターネットを活用した調べ学習をデジタルカメラ等を活用した壁新聞づくり。
一日体験学習	11h	一日をフリー体験の日とし、その計画や実施について情報機器を活用しながら体験する。
ワープロ検定	1.5	教養を高めたり、資格取得をめざして、「チャレンジ講座」を設定している。全生徒が、希望により9つの講座にわかれ、その中に「ワープロ検定」の講座を設け、ワープロ実務検定の資格取得をめざしている。
ワープロソフト（一太郎スマイル、ワード）の使い方と文字入力練習	7時間	ローマ字入力速度測定。文節変換による漢字変換の練習。基本編集機能の習得。校内ワープロ検定。
コンピュータを利用した情報の発信に興味を持つことができる。	45 (3年生のみ)	ホームページ作成、Eメール。エクセル、パワーポイント、年賀状など。
コンピュータやデジタル機器を用いて学習しよう	30	様々な機械を活用して遊びや学習をする。学校祭の前日祭で、クイズ大会を立案、開催し、たくさんの人にコンピュータの楽しさを伝える。
コンピュータを学ぼう	20	コンピュータの基本的操作とインターネットの利用
インターネットを使って調べよう	8	自分の興味・関心のある事について、テーマを決めて、インターネットで検索して調べる。
アテネオリンピックについて新聞をつくろう	4	障害の状態に応じて、テーマ毎に班をつくる。記事の内容や、写真（画像）など、インターネットで検索、プリントアウトを繰り返し壁新聞をつくった。
「マイタイム」（総合的な学習の時間）「パソコン」	週1回 1h	コンピュータ、インターネットを利用について学習する。調べ学習などで自分からインターネット等で答えを導き出す。その他、余暇利用や生涯学習につなげられるよう利用法を学んでいる。

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は3件あったが、表3-27は、その内容等を示したものである。

表3-27 総合的な学習の時間における「環境」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
環境問題について調べよう	8	酸性雨、地球温暖化、森林伐採、大気汚染
もっとE（いい）学校、もっとE（いい）環境づくり	23	環境に良いものにEマークをつけて、環境の意識を高めている。また、学校だけに滞まらず、近隣の小学生と一緒にゴミ拾いや缶つぶしを行っている。
ビオトープの整備	30	人と自然とのかかわり。校内にあるビオトープに必要なものを考え、調べ、作り、設置する。自然観察。

総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組についての回答は4件あったが、表3-28は、その内容等を示したものである。

表3-28 総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組の内容

テーマ	時間数	内容
地域を知ろう	28	地域に関することを6テーマにまとめ、それぞれのテーマで調べ学習を中心に行っていく。実際に現地調査をしたり地元の方に話を聞いたりして、地域の方と交流を持つことも設定している。学習の成果をまとめ学年で発表を行う。
他県の高等学校との交流	9	京都府の高校が修学旅行で来県の際に、本校に訪問し、交流を行なった。その事前交流として、メールや互いのHPを交換し合って交流を深めた。

村の環境整備、もちつきやカレーパーティ、作業体験	22	・〇〇小学校6年生と一緒に、環境整備の活動を行なう。 ・〇〇幼稚園の園児さんたちと、お互いにパーティに招待し合い、もちやカレーと一緒に食べる。また歌や踊りをする。 ・〇〇小学校6年生と本校の作業学習と一緒に取り組む。 ・〇〇中学校の生徒が福祉体験で訪れ、一緒に授業に参加する。
交流活動	実態に応じて	老人ホームとの交流会についての調べ学習。地元の小学校、中学校及び高等学校の児童生徒と本校生徒との体験学習。

総合的な学習の時間における「その他」の取組は25件あったが、表3-29は、その内容等を示したものである。

表3-29 総合的な学習の時間における「その他」の取組の内容

テーマ	時間数	内容
防災	10時間	インターネットによる調べ学習を中心に事前学習を行い、実際に防災センター見学等を行って、情報の蓄積を行った。
〇〇タイム「〇〇.com」	18	「コンピュータ名人になろう」を目標にインターネット、デジカメ、名刺作成等を行っている
文化祭	1年10 2年12 3年10	文化祭での各学年の発表の計画・準備、練習を行う。計画時に調べ学習が中心となる。友達との協力や自分の役割に対する責任について考えるように展開する。文化祭に対しての意欲を高めるよう設定していく。
調査活動	30	興味・関心があるものについて、インターネットを活用して調べる。
地域体験学習・社会体験学習	3時間程度	インターネットを使って行き先についての情報を調べたりする活動も取り入れている。
地域の商店について	15	地域の商店の場所を調べ、商店を訪問するまでの計画を立案し、実際に訪問する。訪問した際のインタビューの準備をまとめ、地図をつくる。
進路学習	15	将来、社会へ出るための個々の課題に取り組む。上記の時間の他、毎日授業前の時間（10分間）を使つての朝学習でも取り組んでいる。
進路や生き方に関する学習		自己の進路や生き方（人権や性に関すること等も含む）について情報機器を活用しながら考える。
職業を知ろう	6.5	インターネットを活用して、農業、工業、商業等、さまざまな職業について調べる。
情報の集め方・調べ方・まとめ方、報告や発表の仕方などの学び方やものの考え方を身に付ける。	1年31 2年33 3年27 タテ割り	デジカメを用いた挨拶状作り、インターネットなど。 1～3年合同（10コースある中の1つとして）
宿泊学習	実態に応じて	泊まる施設、交通機関などについての調べ学習。
修学旅行事前学習	9	修学旅行での見学地について、インターネットを利用して調べ学習を行なった。
修学旅行の資料づくり	4	生単の授業でインターネットを使って沖縄の料理や名所について調べた。
修学旅行に行こう。社会見学に行こう。宿泊学習に行こう。	13～24	見学先の調べ学習（インターネットの利用）
修学旅行について調べよう	4～6	修学旅行の見学先について調べる（インターネット）。
修学旅行（長崎について）	2年11 3年9	調べ学習が中心。自分たちの興味、関心に基づく課題を設定し、修学旅行に対する期待感を高め、主体的に取り組むように設定する。実際の活動を通して、自分たちの活動について反省を行う。
修学旅行	実態に応じて	旅行先のホテル、施設、交通機関などについての調べ学習。
社会体験学習	35	体験場所や交通手段等についてインターネットを使って調べ学習している。

私たちの街を知ろう	47	1.テーマの設定2.学習計画3.調べる活動（インターネット使用）4.調査体験計画5.体験学習6.まとめ（デジカメ等使用）7.研究発表
郷土の良さを知ろう	40時間	学校の所在地である盛岡市について、食べ物（名物料理）、史跡、買い物スポットなどのテーマをもとに、インターネットを活用した調査活動を進める。また、そうした観光地へのアクセスも調べ、生徒自身校外学習計画を作成し、体験活動を行なう。
基礎	6	ゆりグループで学習ソフト「ランドセル」を用いて加減の筆算の学習をした。
格闘技（主に空手）について	30	格闘技の歴史や空手の型、トレーニング方法などを調べたり、実際に体験したりする。
遠足について調べよう	1～2	遠足の行き先について調べる。交通経路や運賃について調べる。（インターネット）
わかば生き生きフェア	10日間 & 29時間	大型ショッピングセンター内にて、作業学習の時間に作った製品を販売する。三回、年間を通して行なわれ、場所もそれぞれ異なる。学校全体を会社に見立てて、販売するための役割分担をして、生徒がそれぞれの活動をする。
「よさこい」舞踊	35	「学校祭」や「卒業生を送る会」で「よさこい」を披露することを目指して学年全体で取り組む。踊りに必要な道具の製作や踊りの練習を通して仲間と協力して活動する。

（７）領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

図３－31は、領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況を示したものである。

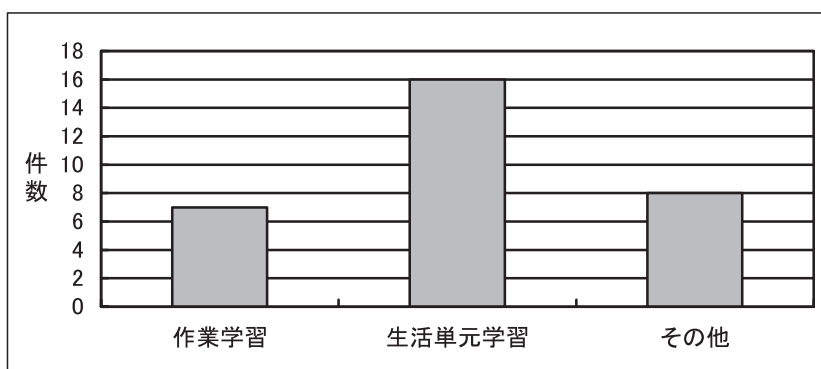


図３－31 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習についての回答は7件あったが、表３－30は、その内容等を示したものである。

表３－30 作業学習の内容

名称	時間数	内容
流通・サービスコース：印刷作業	週4時間	名刺印刷：情報の入力（コンピュータ）→レイアウト→印刷→販売。 各種プリントの印刷：印刷機を使用した大量印刷。 新聞の作成：情報の収集→入力→印刷→構成
窯業 印刷科	320（印刷） 随時（窯業）	在庫管理、印刷（はがき、名刺、シャツプリントなど）
販売学習 通信	－	販売学習の生徒作文を壁新聞としてまとめた。
農作業、紙工、織物、縫工、窯業、木工他	－	販売活動（作業製品）における商品名、価格表示等のポスター、チラシ作成（文書作成ソフトの活用）
HPの作成	4	製品の販売会にあわせて、宣伝に利用する。
－	10	働くイメージを画像（制止・動画）で学ぶ学習
－	－	一部の生徒で、集金のための料金計算（EXCELで）。

生活単元学習についての回答は16件あったが、表3-31は、その内容等を示したものである。

表3-31 生活単元学習の内容

名称	時間数	内容
朝学習	毎日 25分間	毎日違ったテーマで行われている「朝学習」（実施は各学級ごと、内容は担任が計画）において、クラスによってはインターネットやWord、Excel等の使い方を教えている。
〇〇町を知ろう	8	〇〇町の中心街や観光地の場所を調べる。 〇〇町のホームページを検索して、地図を印刷したり、公共施設の場所や役割を調べる。
パソコンを使ってみよう	8	パソコンで文章を書いたり、絵を描く楽しさを味わう。（文章は手紙を書くことで、書きたい気持ちをふくらませる。）パソコンを使うことが楽しいということを優先させる。
見学旅行	42	「見学地を知る」インターネットで見学先、昼食場所の情報を収集し、計画づくりを行う
「パソコンにふれてみよう」	3～4	スクールネットでのメールの送受信の基本操作の方法を知る。単元の学習内容に関連した事項について関係するHPを使って調べる。 （例）「ゴミの分別」の単元で、居住する地域のゴミ分別やリサイクルについて調べる。
静岡校外学習	16時間	インターネットによる情報の収集、利用施設の開館時間、入館料等の情報、減免措置の有無、所在地図、バスの運行経路、運賃。電話による問い合わせ。
1.見学旅行 2.宿泊研修	1→16 2→15	1.見学地（東京、横浜）における自主研修先についてインターネットを活用して調べる（見学地、交通機関、費用、所要時間等） 2.見学地（旭川市近郊）における自主研修先についてインターネットを活用して調べる（同上）。
卒業単元等	－	携帯電話の使い方、マナー等。
修学旅行	－	見学先についての調査
「街に出掛けよう」 「調理をしよう」 「修学旅行に行こう」他	－	インターネットによるバス時刻、スーパー等の営業時刻の検索。インターネットによる調理レシピの検索。インターネットによる修学旅行先の調査、検索。
－	不定期	インターネットを使い、町内のさまざまな施設を調べる。食材の調理法方をインターネットで調べる。他の養護学校をホームページを利用し様子を調べる。修学旅行先の施設、旅の情報をインターネットで検索し、調べる。
－	適宜	インターネットによる調べ学習
－	30/175	修学旅行、宿泊研修の事前学習において、訪問先の情報の収集。ALTにおいて、指導者の出身国についての情報の収集と、質問事項の英訳をコンピュータで行っている。個人情報の保護および、著作権についての学習を行っている。
－	－	調べ学習でインターネットを活用している。
－	4	年賀状づくり（2-3年）
－	－	年間を通して調べ学習等に活用している。

その他の領域・教科を会わせた指導に関する回答は8件あったが、表3-32は、その内容等を示したものである。

表3-32 その他の領域・教科を会わせた指導の内容

名称	時間数	内容
文芸クラブ	20	本校で作成・発行している広報誌の記事をパソコンで作成する。
生単	5	クリスマスカード作り

生活情報	1年1.5/週 2年1/週	卒業後、必要と予想される、情報関係の内容 ・コンピュータの操作の基礎 ・ワープロの基礎・表計算の基礎 ・インターネットによる情報収集 ・インターネットや携帯電話関係のトラブル
情報	週1単位	各種アプリケーションの使い方、タイピングの練習。文章入力による文集づくり。インターネット検索の方法。ネットエチケットやマナーについて。
情報	13	「ワード」「エクセル」「正しいインターネットの利用法」等。 3年選択2単位×2クラス、2年選択2単位×2クラス、1年必修1単位×5クラス。
国語、数学	週1～ 月1・2回	インターネットを使った調べ学習。表計算ソフト、Excelで数値入力をしたり、簡単な計算を行う。(表計算というものに憧れ親しむことをねらいとしている)
「進路に関する学習」	4	PCの基本操作、インターネット、いろいろなソフトの利用の仕方など。
－	適宜	ワープロソフトの使い方等

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

図3-32は、高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリットについて示したものである。

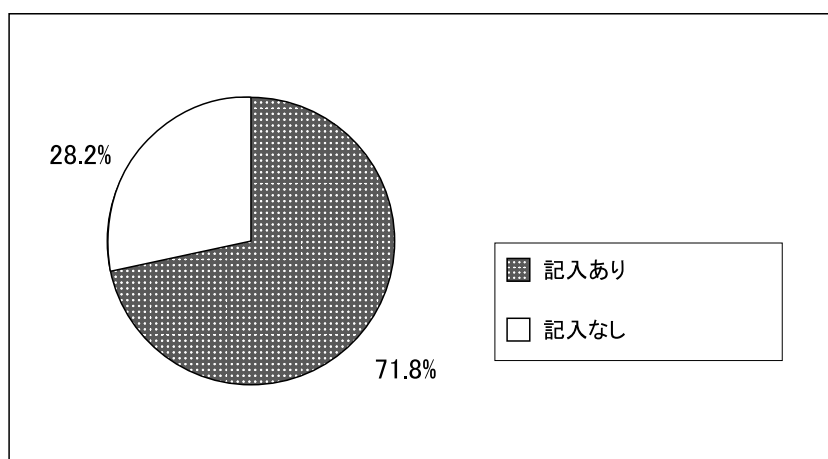


図3-32 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

表3-33は、その内容等を示したものである。

表3-33 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット（自由記述）

本校の生徒はコンピュータや携帯電話等に興味・関心を持っている。また、卒業後の社会生活においても身近にある情報処理機器を使用する機会が多くなる。使用上の基本的な操作方法、モラルやマナーについて学習するとともに、コンピュータの実習を通し、技術の習熟や情報化社会に対応した情報活用能力の向上を期待できる。
電話の学習等、生活に即した学習ができる。将来コンピュータを使用する可能性のある生徒にとっては、コンピュータに関する学習ができてよい。(きちんと教えられれば…)情報を収集する手段の1つとして生徒にとっては検索の方法が一つの手順として決まっているので、憶えるとどんどん使えるようになる。
調べた事や学習の成果が画像に現れ、視覚的に訴えるため、わかりやすい。プリントアウト、保存等で掲示、編集が楽である。
卒業後の進路先から「パソコンでの入力操作等ができることが望ましい」と言われる事が最近多くなってきていて、そういう面でも基本的な使い方については学習するメリットは高い。またネットエチケットなどの教育は、生徒を犯罪被害や非行から守るためにも、またトラブル（直販、メール等）対処のためにも必要である（携帯等の利用率が年々高まってきている）。

卒業後の社会生活を考えてみても（在学中についても同様）、様々な情報を活用することは、生活の幅を広げていくために非常に有効である。最近はコンピュータ制御された機械を導入している事業所が増え、日常生活の中でも触れる機会が多い。在学中に情報機器の扱いに慣れ、抵抗がなく対応できるようになることは重要なことである。
生徒はパソコンを使うことを楽しんでいる。特にインターネット。
生徒の興味関心が高く、知的好奇心を適度に刺激し、学習による達成感や満足感を味わうことができる。
生徒の興味、関心が高く、集中して授業に参加する。
生徒の関心も高いので、意欲的に進められる。
生徒たちのパソコンに対する興味関心が大変高いことに加えて進路先からもパソコンを使える人材が求められていることを考えると必要性を強く感じている。
情報教育を行うことで個人情報について目を向ける生徒が増えた。コンピュータの操作になれ、就職にむずびついた生徒がいた。
情報や映像をWeb等で調べたり、PowerPoint等を通して視覚的に確認することにより生徒の理解が進みやすい。
社会に出て情報機器を使えないと苦しい。その前、段階でパソコンに触れ、慣れさせることができる。
実社会に出ていく直前の段階で、情報機器の操作法や情報化社会の利便性や危険性について触れることができる。
今後さらにPCが生活の中に入ってくる時代が予測されるが、便利に生活する上で必ず必要になってくる知識と考えている。また、就職時に有利になる場合もあるのでメリットは多いと考えている。
言葉だけでなく大きな画像として生徒に視覚的に伝えることができる。
結果がすぐに反映する内容が多く取り組みが積極的。説明の画像化で理解の支援に役立つ。
経験が増え、世界が広がる。
家庭などでコンピュータを使ったことがある生徒も多く、基本的なルールやマナーについて身に付けることができる。
ワープロ、Eメール、インターネット等を学習することによって社会に出てもとまどうことなくコンピュータが使えると思います。
メディアリテラシー習得やすぐ視覚聴覚に訴えることができる等、メリットは多いが、その一方でプライバシーや著作権等の問題が付随するが、プライバシーや著作権等の問題を如何に具体的に教えていくかが難しいのではないかと考える。
パソコンを利用することで、生徒の授業に対する取り組みが良くなった。教材やインターネットを利用した調べ学習。
パソコンや携帯電話を使った、詐欺事件等が増大しています。インターネットやメール等の楽しさと同時に危険性を伝えることは、重要だと思います。
とすると、情報というものは受け身的に取り入れるものとなりがちだが、自分から自発的に目的をもって調べられることもできるということを経験させることは意義のあることだと思う。（調べ学習を通して）
コミュニケーションツール、コミュニケーションの基礎を培う手段として有効。作物の生育を画像で追うために、パソコンのディスプレイに映し出して生徒に見せる。ソフトは使わず教員が撮影したものを見せる。インターネットを使った調べ学習ができる。
インターネットの活用により、様々な情報を得ることができ、特に旅行的行事における自主研修先の資料収集に役立つ。（以前は旅行ガイドブックを用いていたが、情報量に限りがある）
インターネットで様々なホームページを検索、アクセスすることで社会的な出来事への興味・関心を持ってくれるようになった。
・卒業後、コンピュータやインターネット、携帯電話等に抵抗なくかわり、活用できるようになる。 ・インターネット等を使用した「調べ学習」は、効果的である。最新の情報が豊富で捜しやすい。 ・卒業後少しでも役に立つ。今後の就業の選択が広がる。

（９）高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

図３－３３は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点について示したものである。

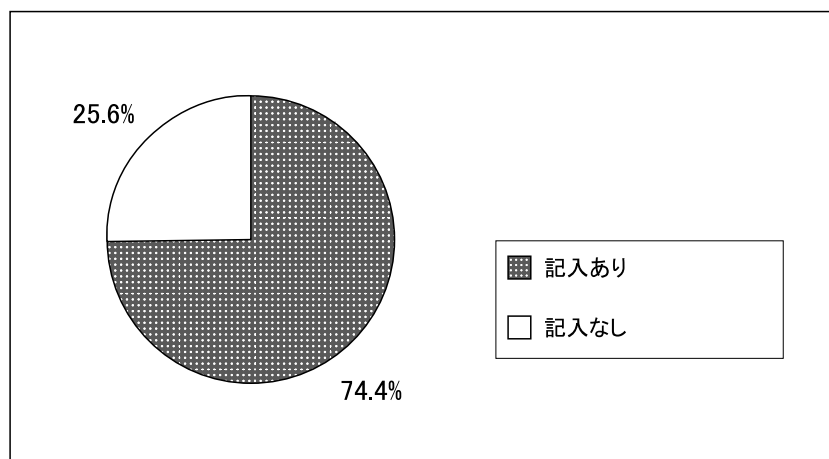


図 3-33 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

表 3-34は、その内容等を示したものである。

表 3-34 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

免許保有者が少ない。既存の教育（理科室）にコンピュータを設置しているため十分な台数を置くことができない。
本校においては卒業後の社会生活に必要な指導内容を精査して、学習内容の選択を行っている。現在、雇用先（就職先）のほとんどにおいて、情報に関する技術（パソコンの利用等）を本校の生徒に求めていることから、情報教育に配当する時数は少ない。したがって、エクセル、ワード等のソフトの使用は行うことができず、興味や関心にもとづくインターネットの活用が中心で、経験としての学習にならざるを得ない。
増えつづけるパソコンのメンテナンス。専門的でない職員が係の主任になった時の難しさ。
設備、機器、インターネット利用の整備が遅れているため十分な指導ができない。
情報教育の中で、メール等の利用についてのルールやマナーを生徒が確認して、理解できるように活動することが難しい。
情報教育に精通した指導者等（教科「情報」の免許状保有等）の不在。生徒数に応じたパソコン台数の不足。
情報モラル（著作権、有害サイト）に関する指導をより充実していく必要があると考える。
情報の取扱いにおけるきまりやマナーを各自が意識して利用できるようになるには時間が必要。便利さだけを追求してインターネットや携帯電話を利用し、トラブルに巻き込まれるケースも増えつつある。
障害の状態によりますが、PCの扱い方の理解、操作上の指導の難しさ。又、施設面ではPC台数不足があります。
出会い系サイトに関するトラブル等、仮想的な出会いをどうイメージさせればよいか、悩むところです。
十分なPCの台数や設備がない。OSがWin98のレベルである。
私立学校で、情報機器を準備するのに財源的に困難な現状です。
指導可能教員の不足。他業務多忙のため情報教育の時間がとれない。予算不足のため必要ソフト等が購入できない。
個人間のレベルの差をどうフォローしていくかが課題。
漢字数が多いことや画面上の文字が小さくて見づらいこと（インターネット利用の場合）教室にあるノートパソコンとPC室にあるパソコンのOSの違い（Win98とWinxp）との操作の違いに戸惑ってしまう生徒が多い。情報リテラシーを取り上げる場面が少なく、適切な検索ができない場合が多く見られる。
プライバシーの問題。
パソコン室でしか使えないため指導の場所が限定されてしまう。できれば、教室にLANのコンセントがあると機動性が高まると思う。パソコンのメンテナンス（ウイルス対策、アップデート）に時間をとられてしまいがちで、できればメンテナンスは外部のサポートがあるとありがたい。
パソコンで文字を入力する以前の問題で、ひらがな、カタカナ、ローマ字といった文字を理解していないことがあり、情報教育よりも基礎的学力が重要ではないかと思うことがある。
デジタルディバイドが感じられるので、その点の差に応じた指導が難しい。
できれば実習時はひとり一台のパソコンが欲しい。校舎どこでも常にインターネットにつながる環境が欲しい。

ソフトが古い（生徒より）
スパムメール（悪質な伝言メール）やチャット参加，インターネットショッピングなどの被害や情報を適切に使用するときの注意をいかにわかりやすく指導していくか。
コンピュータの扱いはできるが，それ以前の電話，Faxなどの使用法が十分に理解されていない。本来であれば，最初に情報をひきだすのは身近な人間である。障害の特性もあるかとは思われるが，人にものをたずねるという発想が少しうすくなった様に思われる。
インターネットの危険性やウィルス問題についての理解（知識）がないと，いろいろなトラブルにまき込まれる可能性が十分にある。その辺を教えたいが，かなり障害の重い生徒にどうやって教えたらいいか疑問（教えられないなら，パソコンを扱う学習もやめるべきか迷うこともある）。
・専門知識をもっている人が少ない。 ・コンピュータの台数が不足している。 ・指導者が使いこなせていない。 ・どうしてもできる子とできない子との個人差がでてしまう。
・指導できる教育の不足。 ・コンピュータの数不足，スペック不足。 ・生徒が既に操作できるので，授業中でも勝手にいろいろ操作して（インターネット，ゲーム等）授業に集中しない。
・学校単位で学習することが多いため，指導者が少ない。
「情報」希望者が（総合的な学習の時間）多いが，PC台数にかぎりがあり，ひき続いて「情報」に入れない。3年間に1回のみとなる。
「高等部で」というわけではないが，生徒が実際に使う情報端末がパソコンから携帯電話へと移っているのに，授業の中で携帯電話を使うことはまったくくない。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

図3-34は，在学中に情報処理に関する資格を取得している例について示したものである。

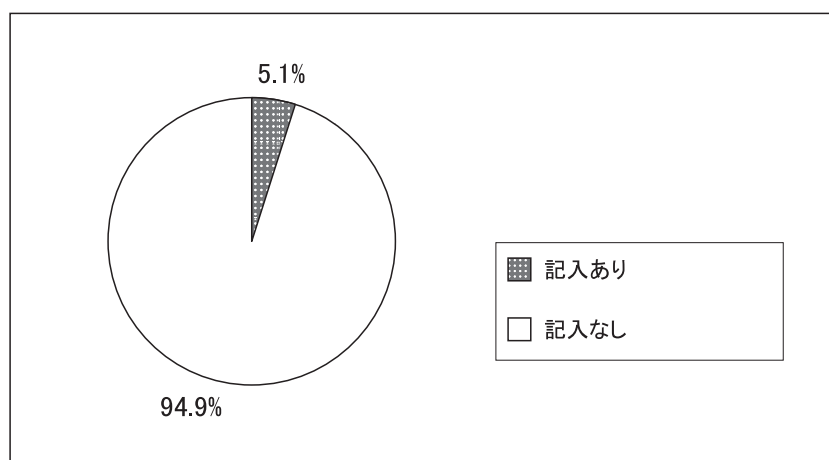


図3-34 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表3-35は，その内容等を示したものである。

表3-35 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計
		95
日本語ワープロ検定3級・4級	日本語情報処理検定協会	2～3名/年
コンピュータ技術検定	愛知県盲・ろう・養護学校職業教育研究会	29
キータッチ部内検定	愛知県盲・ろう・養護学校職業教育研究会	63

(11) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

図3-35は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

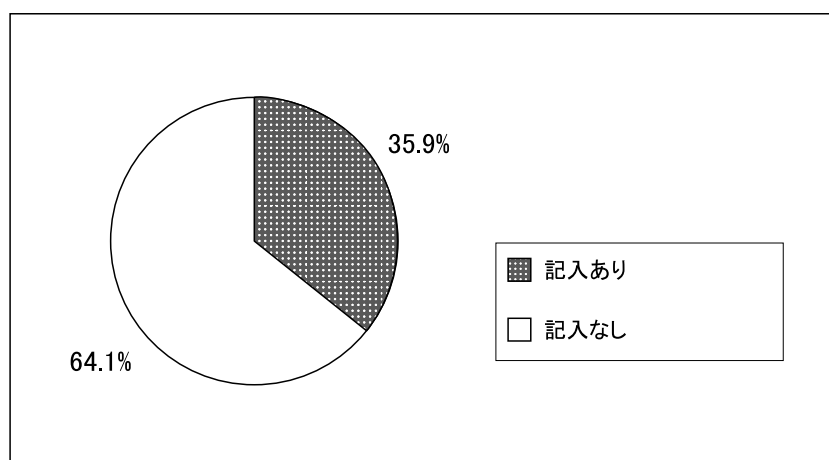


図3-35 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表3-36は、その内容等を示したものである。

表3-36 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
電気機器製造	名刺作り、広報等
製造業	検査結果（数値）の入力
製造業	電流値を測定して不良品を見つける。
製造業	アクセス、エクセル、ワードを使った社員のサービス処理
食品	〇〇デリカセンターで、弁当類製造の材料発注を行っていた（結婚退職）
書店	WORD, エクセルによる文書入力等
運送業	パソコンによる配達先コード確認、伝票入力
運送業	伝票入力
運送業	コンピュータによる伝票整理（住所入力など）
運送業	給与管理
販売業	テンキーでの入力を含む業務
スーパー	商品の品出し、発注業務でパソコンに数を入力する。※卒業生118名中、1名
スーパー	ポップ作成
スーパー	パソコンによるPOP広告（商品名、価格表示）作成
デパート	名刺作り等
販売業	在庫管理
倉庫業	コンピュータを使った在庫管理
ホテル	専務補助エクセル等
生命保険会社	顧客の住所入力
福祉作業所・授産施設	印刷、CDライティング等

(12) 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例についての記述はなかった。

3) - c 知的・肢体・病弱併置養護学校高等部の調査結果

(1) 知的・肢体・病弱併置養護学校の回答数

知的・肢体・病弱併置養護学校の回答校数は36校であった。回答率66.7%（全国54校）

(2) 高等部の教員数，学級数，生徒数

ア) 高等部の学級数および生徒数

全体の学級数の平均は15.3，生徒数の平均は68.0であった。

イ) 高等部の教育課程ごとのの教員数，学級数および生徒数

表3-37 高等部の学級数，生徒数，教員数

	回答数	学級数 (平均)	生徒数 (平均)	教諭数 (平均)	実習助手数 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭「情報」の 免許状を保有する教員数 (平均)
知的障害者を教育する 養護学校の教育課程	34	11.4	56.0	23.9	1.2	6.5	0.58
肢体不自由者を教育する 養護学校の教育課程	22	8.6	26.2	17.8	0.7	6.4	0.50
病弱者を教育する 養護学校の教育課程	3	3	12.7	8.3	0.5	0	1.00

その他のスタッフについての回答は，以下の通りであった。

講師（15），臨時講師（7），常勤講師（4），介護員（2），就職指導員（1）

(3) コンピュータ等の活用の実態

表3-38は，コンピュータ等を活用した授業経験のある教員等の平均を示したものである。

表3-38 コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使った 授業をしたことのある 教員数（平均）		児童生徒の障害に応じ た周辺機器やソフト ウェアを使って授業を したことのある教員数 （平均）		児童生徒の障害に応じ て周辺機器やソフト ウェアの設定ができる 教員数（平均）		「福祉情報技術コーデ ィネーター」資格保有者数 （合計）		
学校全体	高等部	学校全体	高等部	学校全体	高等部	3級	2級	1級
29.8	15.7	15.9	7.7	6.4	3.4	1	0	0

(4) 学校全体の校務分掌

図3-36は、情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者の平均は、5.0人であった。

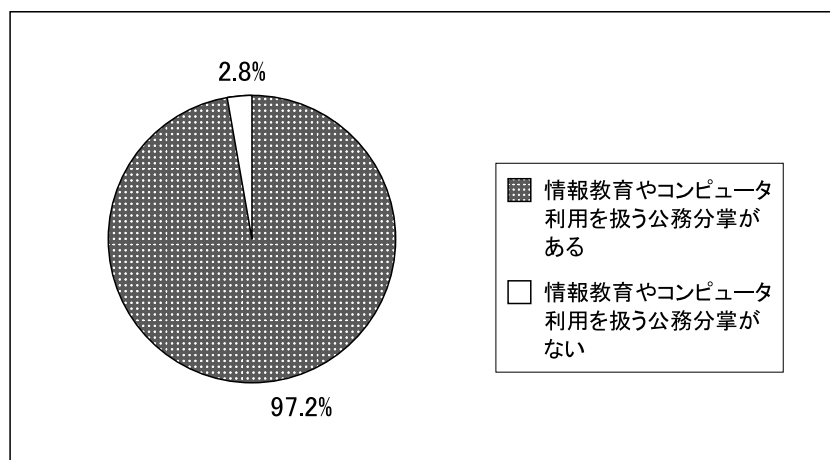


図3-36 情報教育に関する公務分掌の有無

(5) 知的障害者を教育する養護学校高等部の教科について

ア) 「情報」に関する普通教育に関する各教科の内容

い) 中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮

図3-37は、中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮の有無について示したものである。

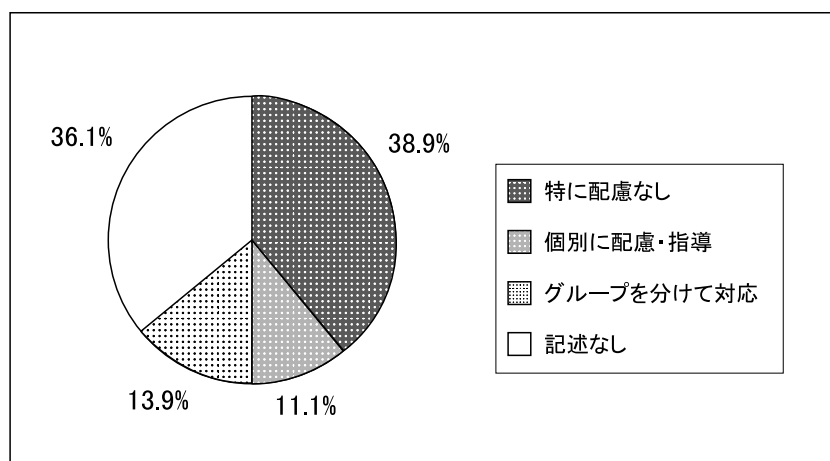


図3-37 中学校からの進学者と中学部からの進学者についてのカリキュラム上の配慮

ii) 普通教育に関する教科「職業」における情報教育に関する内容の取り扱い

図3-38は、普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容の取り扱いの有無について示したものである。

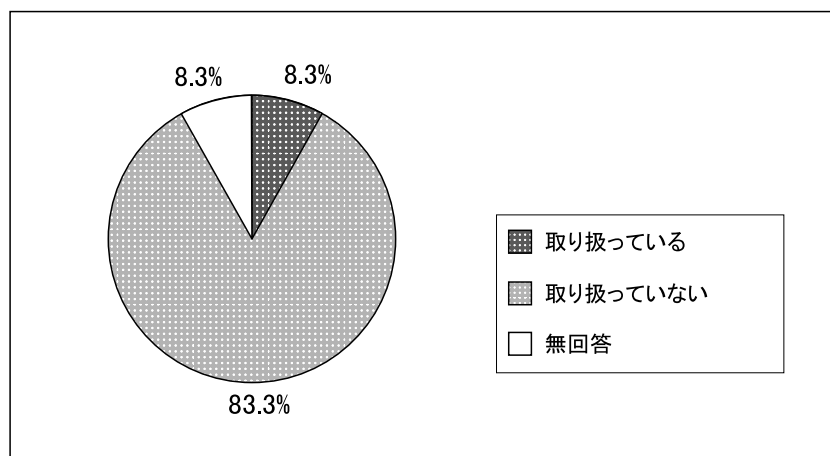


図 3－38 普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容の取り扱い

iii) 普通教育に関する教科「情報」の時間

図 3－39は、普通教育に関する教科「情報」の時間の設定について示したものである。
教科名は「情報」（10校）であった。

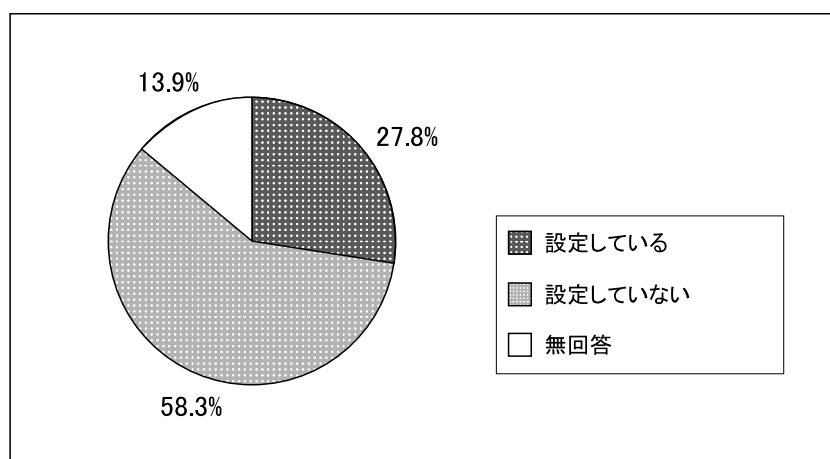


図 3－39 普通教育に関する教科「情報」の時間の設定

iv) 普通教育に関する教科「情報」の内容

図 3－40は、普通教育に関する教科「情報」の 1 段階の内容の実施について示したものである。

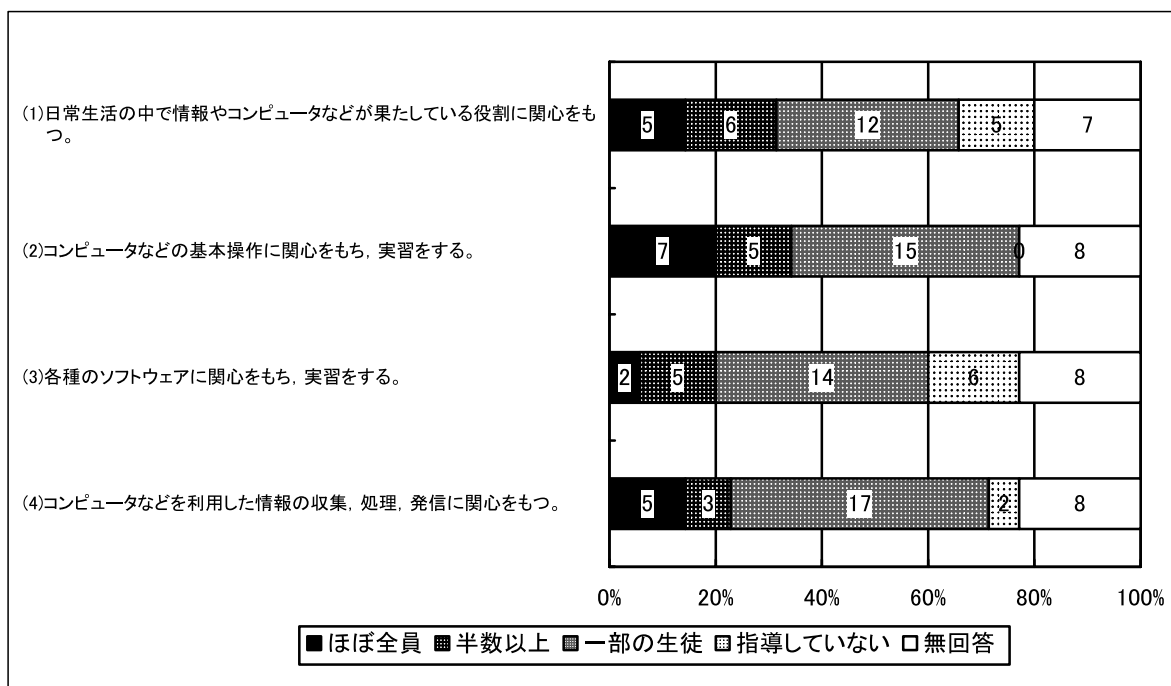


図 3－40 普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容の実施

図 3－41は、普通教育に関する教科「情報」の2段階の内容の実施について示したものである。

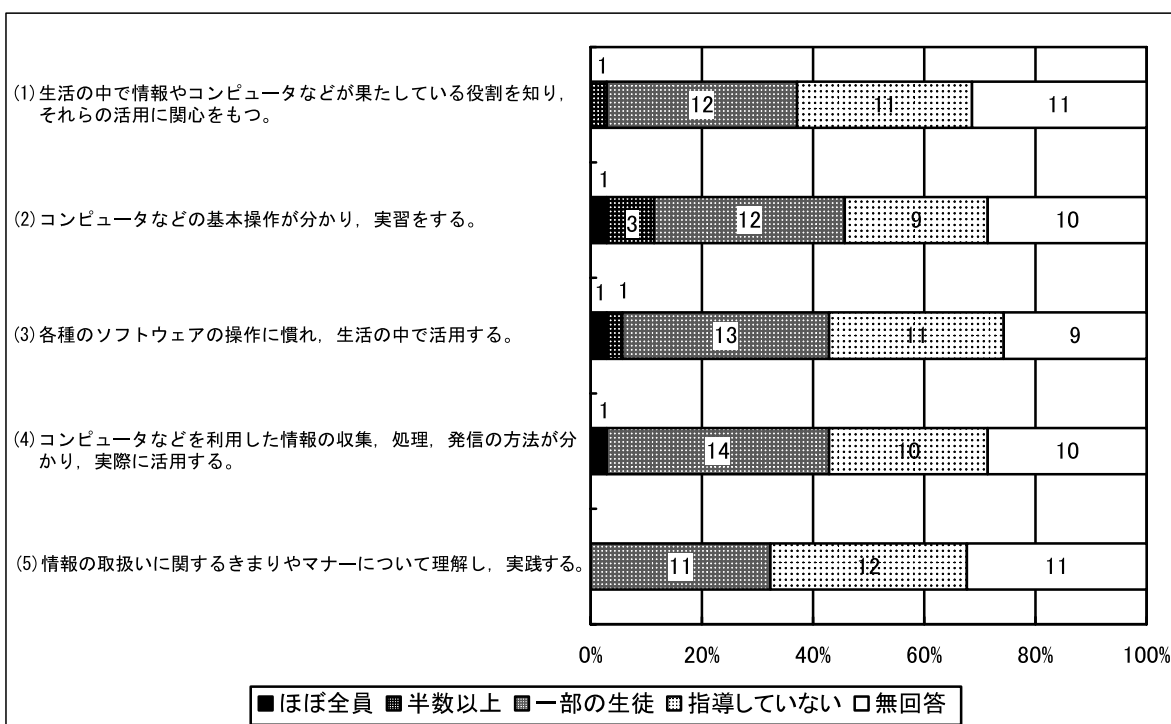


図 3－41 普通教育に関する教科「情報」の2段階の内容の実施

v) 普通教育に関する教科「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項についての回答はなかった。

vi) 普通教育に関する教科「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項

図3-42は、「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項について示したものである。

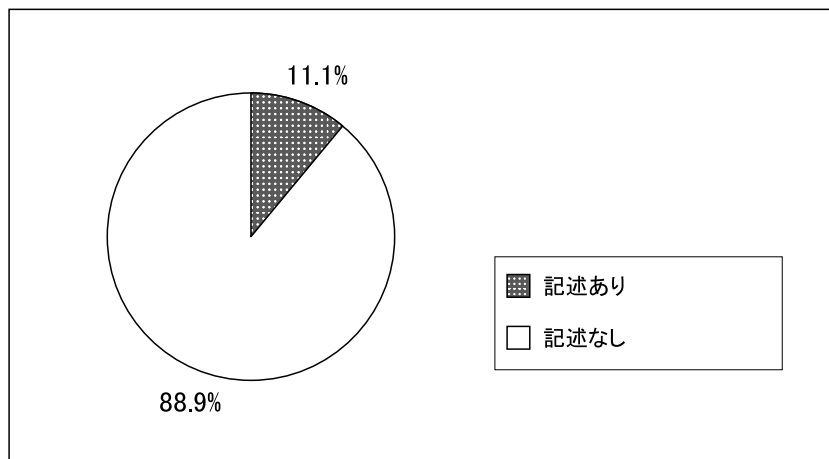


図3-42 「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項

表3-39は、今後新たに加える必要があると思われる事項の回答を示したものである。

表3-39 今後新たに加える必要があると思われる事項

情報機器等を介した悪徳商法に対するトラブル予防法，解決法。自他のプライバシー（住所・氏名・生年月日・電話番号など）に関する情報アンケート等に安易に回答しないこと。携帯電話の使用マナー。
情報モラルについて。携帯電話や掲示板の書き込みに関するもの。
情報と福祉の関係を，もう少しクローズアップしたい。（高齢者向けの利用等）
携帯電話の扱い方（マナーの他に，犯罪の被害者にならないための指導）

イ) 専門教育に関する各教科

図3-43は、専門教育を主とする教科の設定について示したものである。「設定している」と回答したのは1校のみで、「生活産業科（1年のみ16名）」との回答であった。

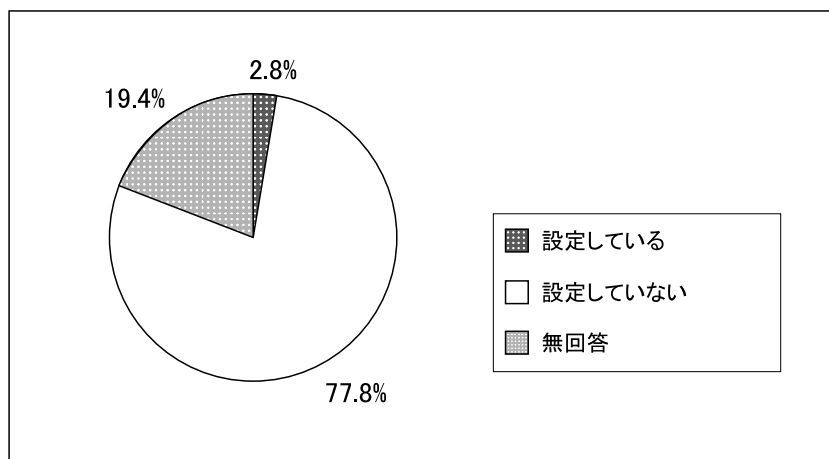


図3-43 専門教育を主とする教科の設定

ウ) 情報の内容を含む学校設定教科

図3-44は、情報の内容を含む学校設定教科について示したものである。

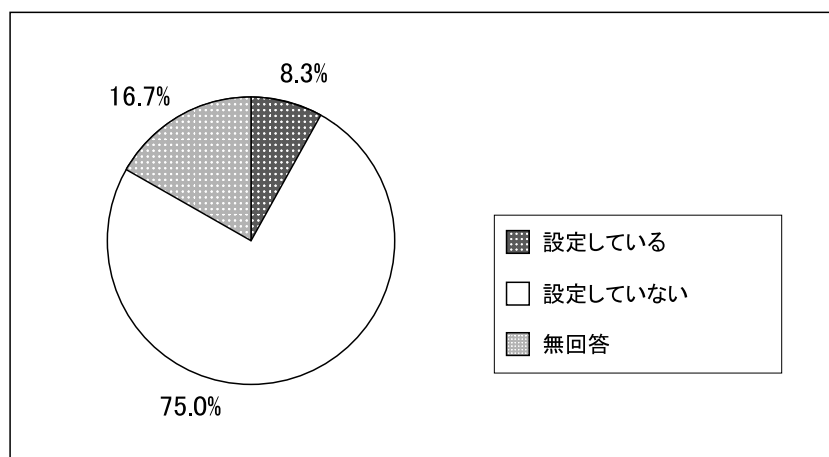


図4-44 情報の内容を含む学校設定教科の設定

表3-40は、情報の内容を含む学校設定教科の回答を示したものである。

表3-40 情報の内容を含む学校設定教科の回答

学校設定教科の名称	目標	内容
選択情報 (研究開発学校として独自の指導内容区分+「人間情報」の年間単元として設定)	パソコン基本操作を習得する。文書の作成 (Word, Excel) インターネットの活用, ゲーム等, 個々の生徒が必要に応じた内容を習得する。	・情報収集の方法 (インターネット) ・文字入力・データ管理 (お小遣い帳)・ゲーム
情報処理 (研究開発学校として独自の指導内容区分+「人間情報」の年間単元として設定)	余暇を含めた日常生活や, 就職, 進学するために必要と思われる基礎的なパソコンの利用ができるようになる。インターネットに関して, 利用のマナーや多くの活用方法を知る。	Wordの利用法: キー入力, 日本語入力, 印刷, 保存, フォント, レイアウト, 写真, 作表, 宿泊, 修学旅行のしおり, 時間割作り, 広告作り, 新聞作り, 年賀状, ホームページ, Excelの利用法: 表作成, グラフ作成, お小遣い帳, 情報マナー: 著作権, 情報リテラシー
選択情報	身近な情報や情報機器を通じて趣味, 興味を拓ける	Webゲームを楽しむ。ダウンロードした素材を活用して楽しむ。(紙工作) デジタル写真の撮影, 鑑賞。インターネット, メール活用。

(6) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科について

ア) 普通教科「情報」の設定状況

図3-45は、普通教科「情報」の設定状況についての回答を示したものである。

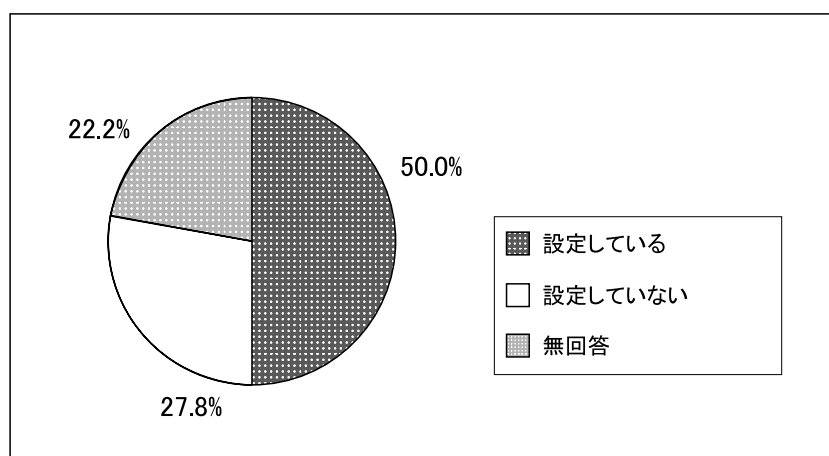


図3-45 普通教科「情報」の設定状況

イ) 情報A・情報B・情報Cの設定状況

図3-46は、情報A・情報B・情報Cの設定状況についての回答を示したものである。情報Aが15校、情報Bが4校、情報Cが2校であった。

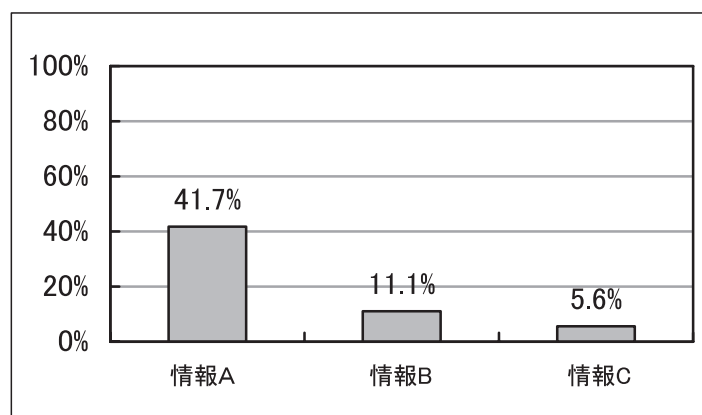


図3-46 情報A・情報B・情報Cの設定状況

ウ) 情報A・情報B・情報Cの単位数

図3-47は、情報Aの単位数を学年毎に示したものである。

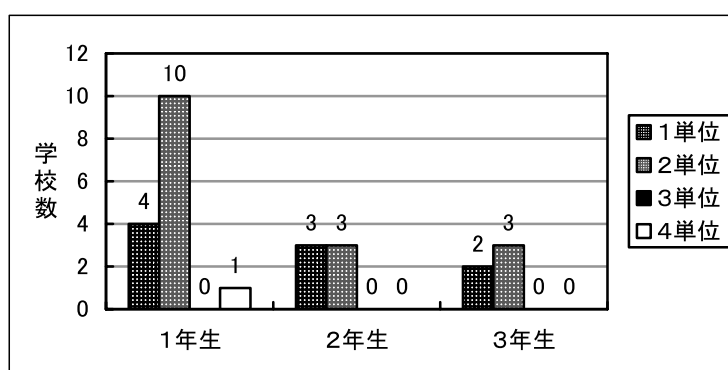


図3-47 情報Aの単位数

図3-48は、情報Bの単位数を学年毎に示したものである。

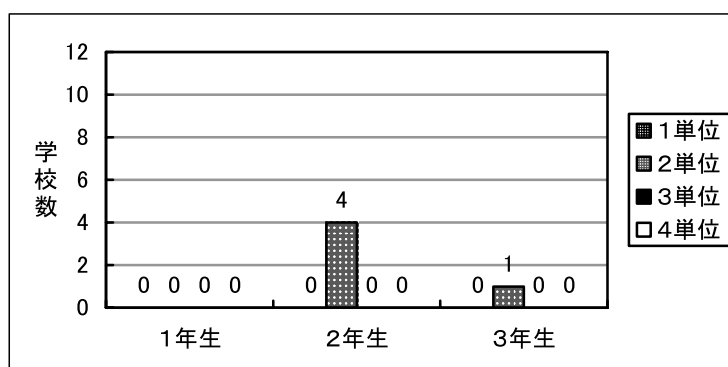


図3-48 情報Bの単位数

図3-49は、情報Cの単位数を学年毎に示したものである。

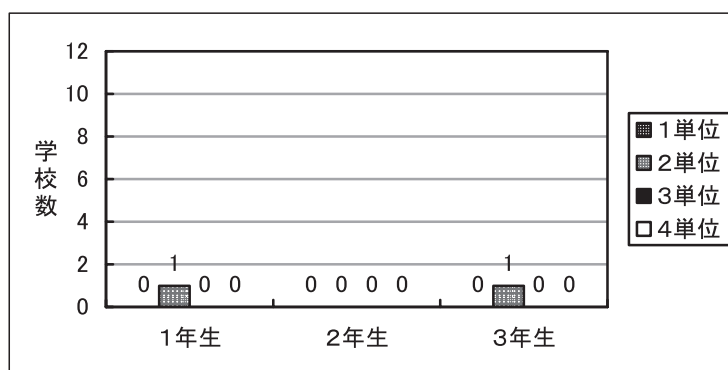


図3-49 情報Cの単位数

エ) 情報A・情報B・情報Cの履修人数

図3-50は、回答校における情報A・情報B・情報Cの履修人数の合計を示したものである。

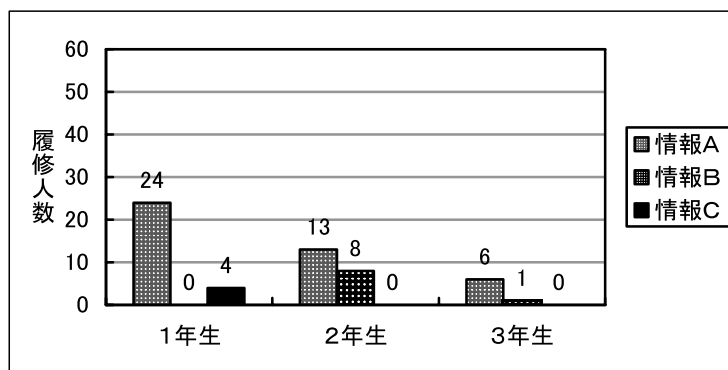


図3-50 情報A・情報B・情報Cの履修人数

オ) 普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由

表3-41は、普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由を示したものである。

表3-41 普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由

理由	学校数
重度重複学級のみ設置されているため	1
生徒の実態に鑑みて	4
履修対象者が在籍していない	4
継続して実行できない	1

(7) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図3-51は、普通教科「情報」の設定状況についての回答を示したものである。

表3-42 情報の内容を含む学校設定教科の回答

学校設定教科の名称		目標	内容
産業社会と人間		自分の将来の生き方や、進路について考えさせる。	パソコン等の情報機器を使用し、卒業後の進路に向けての情報収集、分析、課題の発見など。
		卒業後の進路について考える	・社会のしくみや企業の社会的存在 ・個々の企業がめざしているもの ・先輩の職種や労働条件（自信を持ったことやよかったこと後輩へのアドバイス） ・会社の規約やマナー
		必履修	教科「情報A」の読みかえ（内容はほぼ「情報A」）
その他情報に関する学校設定教科	文書処理	身近な情報や情報機器を通じて趣味、興味を拓ける。	Webゲームの活用。ダウンロードした素材の活用。（紙工作等）デジタル写真の撮影、鑑賞。インターネット、メールの活用。
	情報	日々の生活において身近になった情報機器の扱い方を身に付け、更に発展的な使用が可能となる技術の習得を目指す	・デジタルカメラの使用とその活用 ・ワープロソフトの使用とその活用 ・地図製作ソフトの使用とその活用 ・年賀状作り ・任意の画像によるジグソーパズルを楽しむ
	情報	パソコンを利用することができる。	ホームページ制作、ワードによる文章作成、エクセルによる表の作成

(9) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図3-53は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

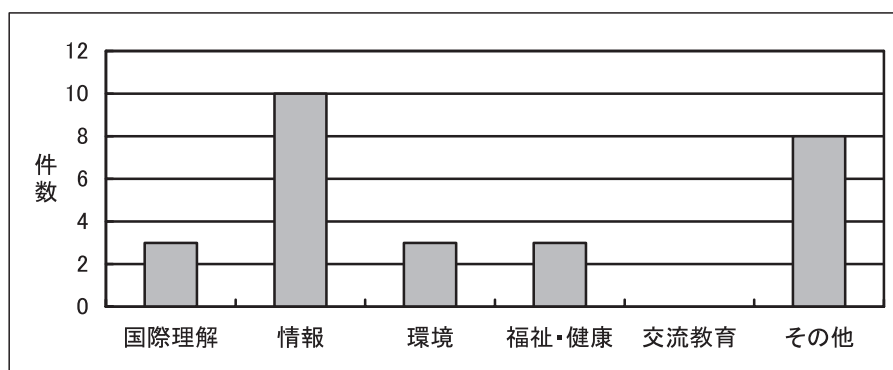


図3-53 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組についての回答は3件あったが、表3-43は、その内容等を示したものである。

表3-43 総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
日本や世界の文化を知る	10	日本や外国のくらし、音楽、踊り、服装などを知り、比較などもする。
国際理解	9時間	外国の言葉や文化、食事等を調べた

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は10件あったが、表3-44は、その内容等を示したものである。

表3-44 総合的な学習の時間における「情報」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
交通や気象の情報を得る	10	校外学習で目的地までの交通手段を知ったり、台風などの気象情報を知る。
マルチメディア実習	21時間	ソフトを使い、MIDファイルを作成した
ポスターや案内状など生活に役立つものを作る	16	写真やイラストの加工方法を知る。文字やイラストの拡大、縮小、コピー、貼り付けなどに習熟する。ポスターや案内状など生活に役立つものを作る。
パソコンを使った学習	1時間/週	学習ソフト（小学校低学年程度）を使つての学習。起動、操作、終了までのパソコン基本操作の学習
パソコンで遊ぼう	35	インターネットにて、関心あるものを調査する
パソコンで調べよう	3	アテネオリンピック、修学旅行先の情報収集
パソコン	年間 64時間	パソコンの基本的操作方法、生徒の実態に合った文字入力（ローマ字、カナ）、自己紹介文の作成、暑中見舞い・年賀状作成・運動会案内状作成。インターネットの活用（調べ学習として資料を検索しレポートを作成させる）。お絵描きソフトで遊ぶ。デジカメで撮影後パソコンで加工しプリントアウトする。
インターネット検索	週2校時	興味あることを調べる方法を学ぶ。プロ野球、携帯電話の変、偉大な科学者等、生徒が選んだテーマを取上げ検索後レポートをまとめる。
インターネットで調べよう	2時間/週	興味、関心を示す内容を、インターネットを使って調べる。（料理のレシピ、修学旅行の行先の情報、手話歌など）
1.各種ソフト 2.インターネット 3.表現	2	能力別に3グループに分けて指導。 1.ゲーム的要素のあるもの、学習ソフト 2.文書作成、インターネット 3.文書作成応用、プレゼンテーション

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は3件あったが、表3-45は、その内容等を示したものである。

表3-45 総合的な学習の時間における「環境」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
日本や地球の自然を知る	10	日本や地球（陸地だけでなく海洋も）の自然を知り、そこに棲む動植物などを知る。
リサイクル	2・・・事前、事後学習	校外学習の取組に関連させて、事前、事後学習において、和歌山市内の対象となる施設概要や他府県の様子等を学習している。
シマミミズの研究	5	シマミミズの研究をインターネット上に発信する学習

総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組についての回答は3件あったが、表3-46は、その内容等を示したものである。

表3-46 総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
地域や関西圏の福祉施設、体育施設などを知る。	5	卒業後の進路や、校外学習、また日常生活で利用できるような各施設を知る。
性教育	月1回 2時間	インターネットを利用して、生徒の実態に即して、上記のテーマに基づいて、必要な用語、解説を調べている。
ユニバーサルデザインについて	5	インターネットを利用した調べ学習

総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組についての回答は0件であった。

総合的な学習の時間におけるその他の取組についての回答は10件あったが、表3-47は、その内容等を示したものである。

表3-47 総合的な学習の時間における「その他」の内容等

テーマ	時間数	内容
防災，安全		インターネットを使い，防災グッズ等を調べる
生徒の興味・関心のあるテーマをインターネットを使って学習する。	2時間	・自動車関連のテーマを選び，インターネットで，日本のメーカーのホームページ等を閲覧する。 ・自分の住んでいる地域の情報や天気情報などを調べる。
進路選択	5	インターネットを利用した調べ学習
行事の企画，リサーチおよび移動方法の把握	4・・・事前，事後学習	生徒一人ひとりが自主的に取組の目的を理解した上で，具体的上記のテーマについて，インターネットでの調べ学習をしたり，しおり等の作成を行っている。
校外学習に向けて	単元時 2時間	校外学習先（浜名湖花博）の見どころ・イベントなどをインターネットで検索した。
現場実習	その都度	現場実習の事前学習で情報機器を利用した，通勤方法のシミュレーション学習を行っている。
パソコンを楽しもう	18	・自己紹介カード，月間予定表（ワープロ機能） ・運動会の思い出（絵をかいてスキャナでとり込む） ・クリスマスカード・年賀状（画像データのコラージュ）
パソコンに親しみ操作に慣れる。	5	ゲームなどをしながら，楽しく操作を覚える。
エンジョイ・ライフ	年間 12時間	デジカメで自分や友だちを撮影後，パソコンへ取り入れて加工し，プリンターで印刷しラミネートして自分カードや友だちカードを作成する。パソコンとプリンターで，オリジナルCDづくりをする。
パソコンソフトの活用	5	賞状や年賀状を作ったり，クイズの問題や答えをスライドに作成する。

(10) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

図3-54は、領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況を示したものである。

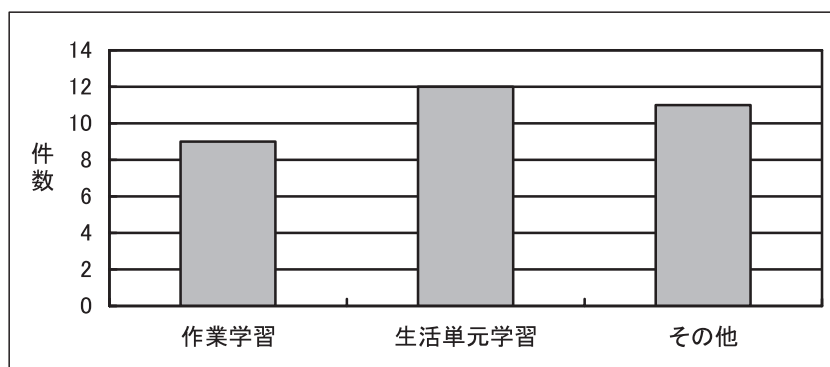


図3-54 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習についての回答は9件あったが、表3-48は、その内容等を示したものである。

表3-48 作業学習の内容

名称	時間数	内容
職業科・作業学習、情報班	週6時間	コンピュータを使用し、ワープロソフトなどを利用して名刺やカレンダーを作成し、販売する。
紙工	週8時間	牛乳パックを使ったりサイクル和紙づくりを行い、はがき、カレンダー、名刺等に加工後製品化している。その中で全ての生徒にパソコンを使用させて図案を選択させたり、可能な生徒には名刺に名前やクラス名などの文字を入力させている。更にプリンターを操作させて、考案したレイアウトを実際にはがきや名刺にプリントアウトさせている。
加工班	週5時間	デジカメ、名刺作成ソフトを使い名刺を作成した
印刷紙工班	週4時間	スケジュール帳の作成・印刷 カレンダーの作成・印刷
印刷、パソコン	週4時間	ワープロ、表計算、名刺作成ソフトなどを使用して各種カードを作成
ワースタディの製品開発のための情報収集	8時間	全国の養護学校および授産所、作業所で製作している製品案内をインターネットで調べ、本校の製品開発に役立てる
印刷作業	100単位 時間程度	(上記の時間全てが該当はしていない) 名刺印刷、葉書き印刷において、パソコンを活用している。
秋の祭典(文化祭)における物品販売	—	物品販売時の売り上げ計算にEXCELを用い、表計算ソフトの使用を体験した。
—	140	データ入力(各作業班ごとに、データ入力作業を設定している)

生活単元学習についての回答は12件あったが、表3-49は、その内容等を示したものである。

表3-49 生活単元学習の内容

名称	時間数	内容
余暇の利用	1～5	校外学習を利用した、交通機関の利用、目的地の概要などをWebサイトを使い検索した。
総合パソコンを使った文書づくり	14	・一太郎やワードなどのソフトを使って簡単な自己紹介やカードを作成。テンプレート～ハガキ作成で住所入力やハガキ裏面作成～名刺作成～デジカメ写真を取り込んで写真入り名刺～ハガキサイズのカルタ作り
宿泊学習、学校祭での舞台発表	18～20	行き先や活動内容について、インターネットを利用して調べる。
修学旅行に行こう	10	修学旅行のしおりづくりの資料をインターネットで調べる。
修学旅行に行こう	単元時 1回/週	就学旅行先の訪問先を調べる(インターネット)
修学旅行に行こう	16時間	修学旅行先の情報収集、施設内容、レストランのメニューや値段、おみやげ品、アトラクション等の情報をインターネットで調べ、発表するなど、情報を共有する活動
遠足、修学旅行	不定期	行事等の事前の調べ学習
テーマパークについてしらべよう	2週間 ×3日	自分の興味あるテーマパークについてインターネットで調べる。調べた内容の発表。
JRの時刻表調べ	2	校外学習における移動手段の調べ学習
「地域を知ろう」 「修学旅行に行こう」	10～20単位 時間	学区内の地域施設や産業、自然について調べたり、校外学習に行く際の交通機関を調べたりして、その事前学習をもとに校外学習を企画、立案している。修学旅行も同様である。
「地域を守ろう」 「修学旅行に行こう」 「進路を考えよう」等	各学年10 時間程度	インターネットを利用して情報を得て、情報をまとめて資料を作成したり発表したりした。

その他の領域・教科を合わせた指導に関する回答は11件あったが、表3-50は、その内容等を示したものである。

表3-50 その他の領域・教科を合わせた指導の内容

名称	時間数	内容
余暇活動	2	室内レクリエーションで、パソコンを使用したゲームを行っている。
補修学習	15～20時間程度	生徒の希望で選択した者に補修学習を設定して実施。希望により以下のコースを設定している。コースにより時間は上記の範囲内で異なる。 1.パソコン入門（文字入力の仕方の基本） 2.パソコン基礎（インターネット利用，メール利用，ワード利用） 3.ホームページ作成
総合－パソコン	18	インターネットでの検索。府県や地域の地図の拡大，縮小，印刷。自宅や学校周辺の地図作り。
総合学習	5時間	デジタルカメラを活用して，比較的障害の重い生徒対象に身のまわりのものや場所，先生の顔等をテレビに拡大して説明したり，取組の様子や見通しをもつために授業説明に活用したり等している。
情報（Ⅱ類型）	2	・ワープロソフトでの入力 ・デジタルカメラで写真撮影，画像処理 ・パソコンを使用してのカレンダー，名刺，年賀状，写真シールなどの作成 ・インターネット利用
情報	1h	・コンピュータの基本操作一般
自立活動	週1時間	インターネットでの調べ学習。ソフトを使つての学習。国語，数学，ソフトを使つての漢字，ことば，計算，，，
ライフスタディ	不定期	校外学習で目的地へ行く行き方，バスや電車の時刻などを調べる。福祉施設や余暇に利用できる施設について調べる（インターネットを利用する）
クラス	週1時間	主にワープロ，情報の活用，選択などを目的とした活動
1.総合学習 2.LHR	1.18, 2.10	1.デジタルカメラ画像のパソコン上での編集学習。 2.電子アルバムづくり，年賀状づくりの学習。
(1) 国語・数学 (2) 美術	(1) 単元時 3回/週 (2) 単元時 1回/週	(1) 文書作成，はがき作成 (2) 市販のアプリケーションを使い絵を描く。

(11) 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

図3-55は，高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリットについて示したものである。

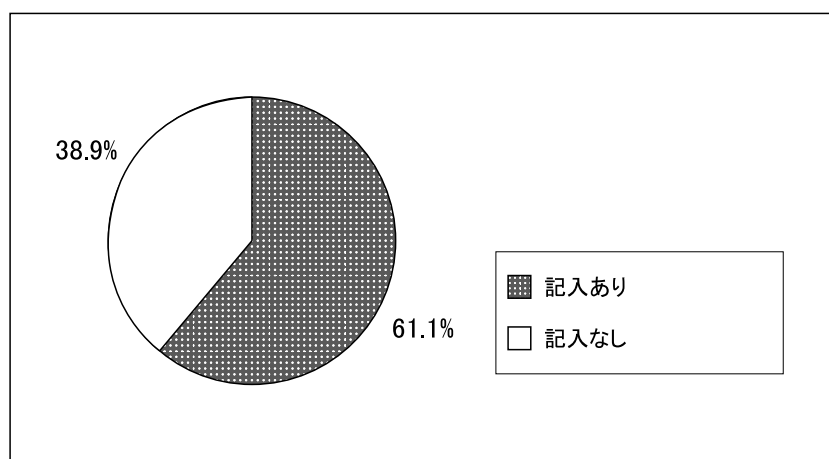


図3-55 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

表3-51は，その内容等を示したものである。

表3-51 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット（自由記述）

必要な情報へより容易にアクセスし、活用できる。このことはよりよい自立へとつながっていくと考えられる。
認知支援から、就労へ向けての取り組みとはば広くカリキュラムが組むことができ、使用する機器も共用できる。又、卒後に向けて、社会のIT化に同調しやすい。
卒業後の進路で、コンピュータ操作が役に立つことがある。
新しい情報を得られること。コンピュータや液晶プロジェクター等を活用することで、わかりやすい発表や情報の共有をしやすいこと。
情報機器を扱う力がつき、生活を広げるのに役立つ。
社会自立にむけて、情報化社会の表と裏の部分を知ってもらうことは必要である。
肢体不自由や病弱の障害がある生徒にとって、外へ出て、いろいろな経験することは、障害のためかなり困難が生じる。その点コンピュータを使用して、インターネットを使い、いろいろな情報を学校にしながら得ることができることは、生徒の関心や知的好奇心を広げ、成長・発達にとって、有意義である。また身体が障害のため思うように動かせない生徒にとって、マウスを操作することで、数多くの作業ができるのもメリットとして考えられる。
すすんで意欲的に取り組む場面が見られ、楽しく参加できる。
コンピュータに関する基本的操作については、中学校で経験してきた生徒が増えてきている。自分の興味関心について、重度の生徒でも積極的に取り組む姿勢がみられる。
A類型（中軽度）やB類型（中重度）の生徒のほとんどは、卒業後に一般企業に就職したり、授産施設、福祉作業所等へ通所したりと、地域の中で生活するようになる。このように可能な限り地域で自立、社会参加することになり、現在の高度情報化社会の中では、情報機器等に少なくとも慣れ親しませておいて拒絶反応を示さないようにしておく必要がある。特に、携帯電話やインターネットを使ったメール交換や製造業におけるコンピュータ関連機器の操作など情報機器への対応力の基礎を学校教育で行うことは重要である。
・ 普段経験する事ができないことを、インターネットを使って経験できる。 ・ 字の書きにくい生徒の表現手段となる。 ・ 将来的に、本人の情報の収集や発信、余暇活動に活用する媒体手段となる。
・ 不足しがちな実体験を補うことができる。もちろん実際に体験するのとは異なることをふまえないといけないが。 ・ 不自由な体の動きのカバーをする技術を得られる。 ・ 進路を含めて、卒業後の生活を豊かにできる。
・ 発達段階別の指導を行うことで、生徒の能力や興味関心を考慮した授業を行うことができる。・ 必要な情報を検索したり、自分用にまとめたり等、興味関心を持って取り組んでいる。
・ 知りたい情報を、早く確実に得ることができる。 ・ 見て確かめることができるので、わかりやすい。 ・ 1つの情報を、一度に多人数が得ることができる。
・ 卒業後の余暇活動に活かすことができる。 ・ インターネットに関連する犯罪やトラブルに巻き込まれないような知識を身につけることができる。
・ 卒業を控え、社会へと出て行く生徒たちが、よりよく見識を広げることができる。・ 家庭や作業所での情報機器の操作が可能となり自信を深めることができる。
・ 生徒が他者に伝えたいこと、発想や思いつきを気軽に文字や絵として表すことができる。 ・ インターネット利用の際に気をつけなくてはならないマナーやネットに関する犯罪被害の予防策を学ばせることができる。
・ 生徒が情報活用の仕方を学習することで、広域な地域の情報を得る力を身につけ、生活に活かすことができる。（特に肢体不自由をあわせもつ生徒にとっては大切なこと） ・ 就労において、情報処理、事務処理としての力として活用できる。 ・ 余暇利用として、活用できる。
・ 情報機器の操作に慣れる。 ・ 自分にとって必要な情報を手軽に手早く検索できるようになる。 ・ 個人情報保護の大切さや、WEBページ作成の大変さを知る。 ・ 表現するツールとして活用することで、自己表出が広がる。 ・ 生徒の興味・関心を知り、生徒との日常的な関わりも広がる。
・ メールを利用したコミュニケーション手段の獲得。・ 検定を目標にして、学習を主体的に取り組める。
・ パソコンに興味を持っている生徒が多く、意欲的に取り組める。・ 何度も自分で行うことができる。
・ チラシや広告を作成し近隣や店頭で配布することで、地域社会に生きる力を培うことができる。 ・ インターネットやメールを通じてニュースや天気予報、地域の地図や地域情報などを適切に収集し日常生活に活用できる。 ・ ハガキ、年賀状、クリスマスカード、名刺、自己紹介カード、カルタなどの作成を通じて交流の範囲を広げたり趣味を豊にできる。

(12) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

図3-56は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点について示したものである。

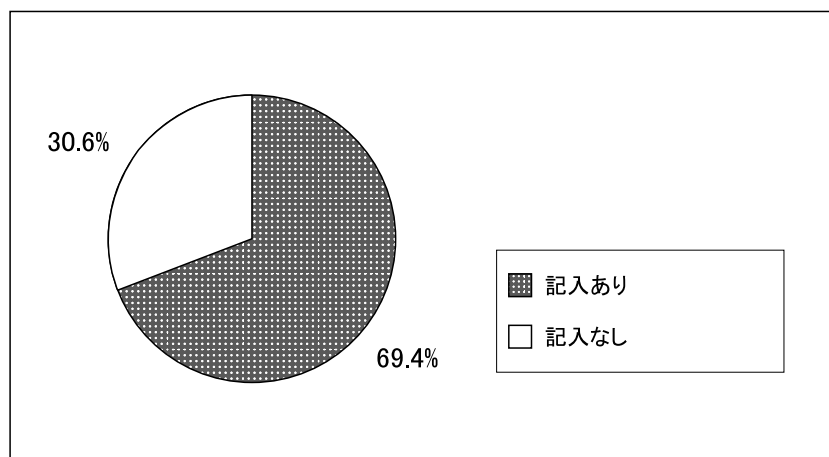


図3-56 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

表3-52は、その内容等を示したものである。

表3-52 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

予算面で、入力支援機器を購入するのが困難である。学校のPCに、ソフトを追加することができない。
予算が少ない（ソフト、ハードの購入、更新に関わって）
本校にあるコンピュータがまだ「Windows98」をOSとして使用しており、旧式であること。学校全体で、パソコン室を利用するため、週に1回だけという利用制限があること。
情報教育を担当する教員が校内で1人しかいない。
障害の程度差が大きく、学習のグループ分けが難しい。パソコンの台数や障害者専用ソフト及び周辺機器の絶対数が不足している。例えば、コミュニケーション能力を高めるための有効なソフトがあっても高額なため予算の関係で購入できない。重度の児童生徒がパソコン室へ移動しなくても教室でできるようにノート型パソコンが必要である。指導内容・方法の工夫が必要だが、その実践例が少ない。パソコンを使った授業を工夫して実施してみようという教師の意識がほとんどないのが現状である。
授業時間を増やしたいが、パソコンの数にも限りがあり、学級数が多いので、増やせない。
携帯電話・メールの望ましい活用へと、生徒をいかに導いていくか。
教えることのできる教員不足や設備面の不足（教室、機器）
ルールやマナーを身につけさせることが、難しい。
パソコンの台数が不足している。 ・情報の履修している人数分（10台）しかないので余裕がない ・学年で曜日を変えて授業時間を設定しているが同時展開できるのが望ましい
パソコンの型が古く、フリーズなどが多い。不調のため、学習内容が進められない。
タッチパネル等の入力機器の整備が不十分。コンピュータ環境（Win98、メモリ64）が不十分のためテレビ会議等も含め使いにくい。サーバー機（Win98、メモリ64、Cドライブ:2GB、Dドライブ:5.8GB）も同様なため本来の使い方がしにくい。
コンピュータ操作、ホームページ作成が難しく研修を重ねている最中です。
コンピュータが少ない。部屋が狭い。
・有害サイトへのアクセス規制と、その反面必要な情報にアクセスできなくなる。 ・個々の能力にバラつきが大きいので、指導時間を工夫する必要がある。
・専門知識を持つ人材の不足。・予算不足（特別な入出力機器を使えない）
・生徒の発達段階、スキルの幅が広く個別な課題を設定する必要がある、学校としての体系的な教育計画を作ることがなかなかできない。 ・知的障害生徒の到達目標の設定が難しい。 ・PCにインストールできないなどの制限があり思うように使用できない。また購入したい物があっても予算が足りない。

・指導教室が少ない。・関係する研修会が少ない。
・教材費減少に伴い、新規ソフトウェア消耗品等の購入が難しい。 ・集団でインターネットによる情報検索を同時に行うことが回線の関係で難しい。
・教員の情報機器に関する技術力が不足している。(特にネットワーク関連) ・生徒数に応じたパソコンの台数が確保できない。(知的障害教育部門)
・機器の乱暴な扱いでのトラブルの増加。 ・インターネットの正しい利用について留意しているが、対応できないこともある。 ・コンピュータ、ソフトの更新がなかなか進まない。
・学校に必要なソフト、生徒にとって有効なソフトと考えられるソフトが十分に購入されていない。 ・生徒の障害の状態に応じた、ハードやソフトの対応がほとんどなされていない。
・学校としても施設設備の充実をはかっているが、校内LANの未整備により、生徒の活用が限定的であること。・指導者(専門的知識を持った教員)が不足している。
・パソコンに精通している教職員が少ない。 ・生徒の実態が様々であり、個別指導を行うにも、対応人数に課題がある。 ・学校で身につけても、家庭にインターネット環境が整備されてなく、家庭での利用につながりにくい。
・コンピュータの老朽化や台数不足により、効果的な指導が困難な時がある。 ・インターネットの環境が貧弱であり、授業に組みこみにくい。

(13) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

図3-57は、在学中に情報処理に関する資格を取得している例について示したものである。

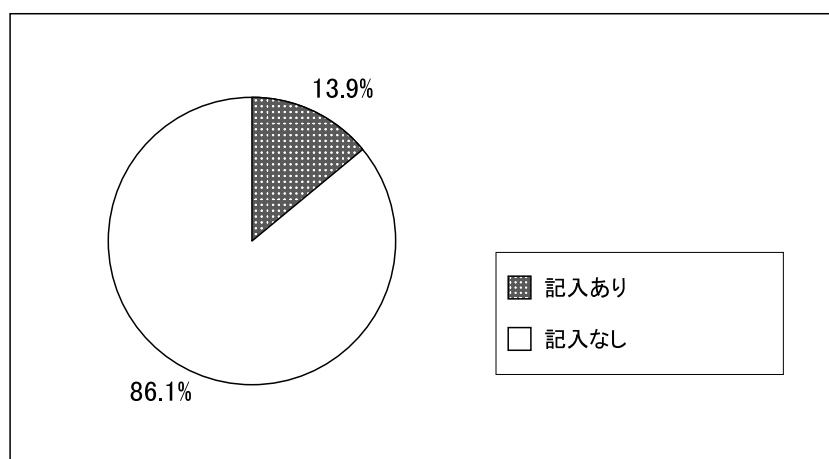


図3-57 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表3-53は、その内容等を示したものである。

表3-53 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計
		24
情報処理検定	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定4級	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	16
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	1
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	1

(14) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

図3-58は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

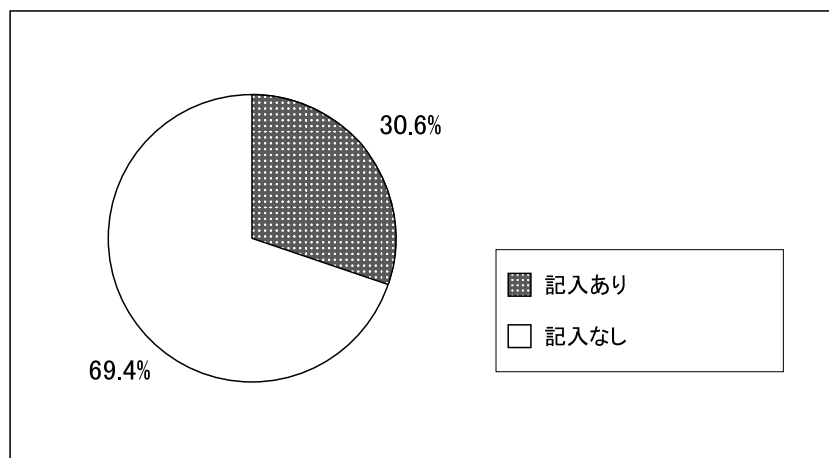


図3-58 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表3-54は、その内容等を示したものである。

表3-54 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
建材	パソコン入力
事務	データ入力
美容院	顧客リスト入力等
図書館	パソコン入力、ラベル作成
電気工事	事務職（入力作業）
電気	データ入力
製造業	名刺、年賀状作成
製造業	事務職（入力作業）
スーパー	ラベル印刷
書店	POP広告の入力
障害者企業	パソコンスクールの講師
福祉作業所・授産施設	パソコン入力業務
福祉作業所・授産施設	DTP
福祉作業所・授産施設	名刺等の注文物作成

(15) 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例の記述はなかった。

3) - d 小・中学部も設置する知的障害養護学校高等部の調査結果の考察

(1) 小・中学部も設置する知的障害養護学校高等部におけるコンピュータ等の活用の実態について

小・中学部も設置する知的障害養護学校高等部における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は10.4人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は5.0人であり、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は3.2人となっていた。

「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の少なく、さらに「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」は少ない。また、どの数値も他の分類の養護学校の数に比べて少なかった。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

小・中学部も設置する知的障害養護学校高等部において「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は、97.6%であり、ほぼ全ての学校で情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌が設定されている。

(3) 知的障害者を教育する養護学校高等部の「情報」に関する普通教育に関する各教科について

中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮について「特に配慮なし」が27.1%で最も多かった。「個別に配慮・指導」が8.7%、「グループに分けて対応」が6.9%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教科「職業」において、情報教育に関する内容を取り扱っている学校は4.9%であった。ほとんどの学校で取り扱われていない。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の時間を設定している学校は16.7%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容を実施している学校は「ほぼ全員」が13.2%、「半数以上」が13.2%、「一部の生徒に指導」が40.3%、「指導していない」が9.0%、無回答が24.3%であった。2段階の内容の実施を行っている学校は「ほぼ全員」が1.7%、「半数以上」が2.8%、「一部の生徒」が34.4%、「指導していない」が30.0%、無回答が31.1%であった。1段階は多くの学校でその内容が取り扱われており、生徒の課題に応じて指導内容が選択されている。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項については「セキュリティー」や「メディアリテラシー」、「消費者教育」、「携帯電話」についての項目があげられていた。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項については「アシスティブ・テクノロジー」や「携帯電話の利用」、「セキュリティーやマナー」、「被害にあわないために」等のコンピュータの操作以外の項目があげられていた。

(4) 知的障害者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

知的障害者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する教科・科目の設定状況については、設定している学校は12校4%で、ごく少数であるが「家政」「農業」「工業」「流通・サービス」それぞれが設定されていた。

(5) 情報の内容を含む学校設定教科について

情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があったのは4.9%であった。その内容は普通教科「情報」の内容と関連するものが多く、カリキュラム上の位置づけによるものと考えられる。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組については、「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「交流教育」、「その他」の取組の回答が見られた。取組内容としては様々なテーマについての調べ学習や、表現、情報発信、遠隔コミュニケーションに情報手段が活用されていた。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については「作業学習」の取組が48件、「生活単元学習」の取組が85件、「その他」の取組が58件という回答であった。「その他」では「課題別学習」や「自立活動」という回答がみられた。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについてについての記述は、「学習での活用」、「情報収集に関すること」、「生きる力に関すること」、「進路に関すること」、「余暇での利用」が多かった。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、「機器・ソフト・予算の不足」が多く、次いで「多様化する生徒の障害や習熟度への対応」「教員の専門性の向上」「ルール・マナー・セキュリティへの対処」があげられた。また、知的障害教育のカリキュラム上の位置づけについての問題点の指摘もみられた。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答はわずかであった。全国商業高等学校協会の認定する「ワープロ実務検定」の他、県内の盲・聾・養護学校で認定試験を設定しているという回答もみられた。

(11) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答は、その数は少ないが、分野は製造業・販売業・サービス業・福祉就労と多岐にわたっていた。

3) - e 高等部単置の知的障害養護学校の調査結果の考察

(1) 高等部単置の知的障害養護学校におけるコンピュータ等の活用の実態について

高等部単置の知的障害養護学校における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は18.6人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は5.8人であり、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は4.9人となっていた。

「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の少なく、さらに「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」は少ない。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

高等部単置の知的障害養護学校において「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は、92.3%であり、ほぼ全ての学校で情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌が設定されている。

(3) 知的障害者を教育する養護学校高等部の「情報」に関する普通教育に関する各教科について

中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮について「特に配慮なし」と「グループに分けて対応」が17.9%、「個別に配慮・指導」が12.8%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教科「職業」において、情報教育に関する内容を取り扱っている学校は10.3%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の時間を設定している学校は23.1%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容を実施している学校は「ほぼ全員」が13.2%、「半数以上」が13.2%、「一部の生徒に指導」が40.3%、「指導していない」が9.0%、無回答が24.3%であった。2段階の内容の実施を行っている学校は「ほぼ全員」が1.7%、「半数以上」が2.8%、「一部の生徒」が34.4%、「指導していない」が30.0%、無回答が31.1%であった。1段階はほとんどの学校でその内容が取り扱われており、生徒の課題に応じて指導内容が選択されている。2段階についても生徒の課題に応じて指導されている学校が多い。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項については「携帯電話」についての項目があげられていた。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項については「携帯電話の利用」、「実践的なスキル」、「マナーやルール」、「被害にあわないために」等のコンピュータの操作以外の項目があげられていた。

(4) 知的障害者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

知的障害者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する教科・科目の設定状況については、設定している学校は14校41.0%で、「家政」「農業」「工業」が多く、一部で「流通・サービス」が設定されていた。

(5) 情報の内容を含む学校設定教科について

情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があったのは10.3%であった。その内容は普通教科「情報」の内容と関連するものや、「職業」と関連するものなどがあげられてた。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組については、「国際理解」、「情報」、「環境」、「交流教育」、「その他」の取組の回答が見られた。取組内容としては様々なテーマについての調べ学習や、そのまとめ・発表に情報手段が活用されていた。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については「作業学習」の取組が7件、「生活単元学習」の取組が16件、「その他」の取組が8件という回答であった。「その他」では「クラブ」や「情報」といった回答がみられた。普通教科「情報」に設定されていない「情報」に関する指導の時間は学校設定教科として回答している学校もあり、その位置づけは様々である。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについてについての記述は、「学習での活用」、「情報収集に関すること」、「生きる力に関すること」、「進路に関すること」、の順で多かった。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、「ルール・マナー・セキュリティへの対処」、「機器・ソフト・予算の不足」、「教員の専門性の向上」が多く、次いで「多様化する生徒の障害や習熟度への対応」があげられた。「ルール・マナー・セキュリティへの対処」に加えて「携帯電話の利用」、「トラブルへの対処」、「メンテナンス」についての記述も見られた。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例の回答は3校であった。2校は県内の盲・聾・養護学校認定の資格で、1校の合格者数が多数である。

(11) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例は35.9%の学校が回答した。その数は少ないが、製造業・販売業・サービス業・福祉就労と多岐にわたっており、新たな職域の可能性が考えられる。

3) - f 知的・肢体・病弱併置養護学校高等部の調査結果の考察

(1) 知的・肢体・病弱併置養護学校高等部におけるコンピュータ等の活用の実態について

知的・肢体・病弱併置養護学校高等部における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は15.7人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は7.7人であり、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は3.4人となっていた。

この結果から「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の少なく、さらに「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」は少なくなっていた。知的・肢体・病弱併置養護学校高等部においても、生徒の障害に応じた機器やソフトウェアの設定ができる教員が不足していることがうかがえる。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

知的・肢体・病弱養護学校高等部において「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は、97.2%であり、ほぼ全ての学校で情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌が設定されている。

(3) 知的障害者を教育する養護学校高等部の「情報」に関する普通教育に関する各教科について

中学校からの進学者と中学部からの進学者についてカリキュラム上の配慮について「特に配慮なし」が38.9%で最も多かった。「グループに分けて対応」が13.9%、「個別に配慮・指導」が11.1%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教科「職業」において、情報教育に関する内容を取り扱っている学校は8.3%であった。ほとんどの学校で取り扱われていない。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の時間を設定している学校は27.8%であった。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容を実施している学校は「ほぼ全員」が13.2%、「半数以上」が13.2%、「一部の生徒に指導」が40.3%、「指導していない」が9.0%、無回答が24.3%であった。2段階の内容の実施を行っている学校は「ほぼ全員」が1.7%、「半数以上」が2.8%、「一部の生徒」が34.4%、「指導していない」が30.0%、無回答が31.1%であった。1段階はほとんどの学校でその内容が取り扱われている。

知的障害者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項については「情報モラル」や「マナー」、「セキュリティー」についての項目があげられていた。

(4) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科について

肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」を設定していると答えた学校は50.0%であった。

また、情報A・情報B・情報Cの設定状況については、情報Aを設定している学校が41.7%、情報Bを設定している学校が11.1%、情報Cを設定している学校が5.6%となっていた。ほとんどの学校では情報Aを設定しており、情報Bと情報Cを設定している学校は少ないといえる。履修人数は、情報Aを1年生で履修している人数が最も多かった。

普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由として「履修対象者が在籍していない」「生

徒の実態に鑑みて」という回答が多かった。

(5) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する教科・科目の設定状況については、少数であるが農業、商業、工業、家庭、情報に関する科目が設定されていた。

(6) 情報の内容を含む学校設定教科について

情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があったのは19.4%であった。3校が「産業社会と人間」を設定しており、その他は学校設定教科「情報」といった基礎的な内容を含むものであった。

(7) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組については、「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「その他」の取組の回答が見られた。取組内容としては様々なテーマについての調べ学習や、情報発信に情報手段が活用されていた。

(8) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については「作業学習」の取組が9件、「生活単元学習」の取組が12件、「その他」の取組が11件という回答であった。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについての記述は、「生きる力に関すること」、「情報収集に関すること」、「進路に関すること」、「学習での活用」、「障害補填に関すること」が多かった。

(10) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、「機器・ソフト・予算の不足」が多く、次いで「多様化する生徒の障害や習熟度への対応」「教員の専門性の向上」「ルール・マナー・セキュリティへの対処」があげられた。

(11) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答では、全国商業高等学校協会の認定する「ワープロ実務検定」があった。

(12) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答は、その数は少ないが、分野は多岐にわたっていた。その内容は入力に関するものが多かった。

4) 肢体不自由養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査について

4) - a 結果

(1) 肢体不自由養護学校の回答数

肢体不自由養護学校の回答校数は104校であった。回答率78.8% (全国132校)

(2) 高等部の教員数, 学級数, 生徒数

ア) 高等部の学級数および生徒数

全体の学級数の平均は9.9, 生徒数の平均は32.0であった。

イ) 高等部の教育課程ごとの教員数, 学級数および生徒数

表4-1 高等部の学級数, 生徒数, 教員数

	回答数	学級数 (平均)	生徒数 (平均)	教諭数 (平均)	実習助手数 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭「情報」の 免許状を保有する教員数 (平均)
知的障害者を教育する 養護学校の教育課程	25	9.5	29.2	19.9	1.1	4.0	0.7
肢体不自由者を教育する 養護学校の教育課程	96	9.6	29.5	21.4	1.7	4.6	0.8
病弱者を教育する 養護学校の教育課程	6	1.7	3.8	2.7	0	0	0.3

その他のスタッフについての回答は, 以下の通りであった。

講師 (18), 臨時講師 (2), 介護員 (3) 自立活動教諭 (1), 進路 (1)

(3) コンピュータ等の活用の実態

表4-2は, コンピュータ等を活用した授業経験のある教員等の平均を示したものである。

表4-2 コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使っ た授業をしたこと のある教員数 (平均)		児童生徒の障害に応じた 周辺機器やソフトウェア を使って授業をしたこと のある教員数 (平均)		児童生徒の障害に応 じて周辺機器やソフ トウェアの設定がで きる教員数 (平均)		「福祉情報技術コーディ ネーター」資格保有者 数 (合計)		
学校全体	高等部	学校全体	高等部	学校全体	高等部	3級	2級	1級
33.2	12.7	19.0	7.1	10.8	3.8	4	2	0

(4) 学校全体の校務分掌

図4-1は, 情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者の平均は, 5.5人であった。

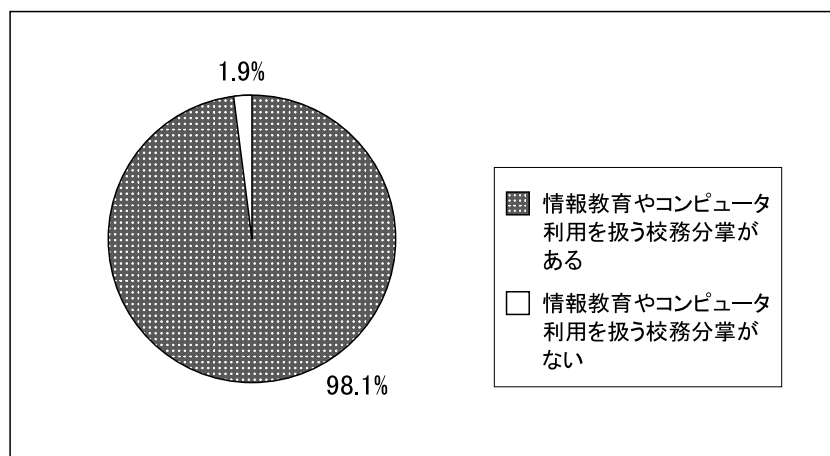


図 4 - 1 情報教育に関する校務分掌の有無

(5) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科について

ア) 普通教科「情報」の設定状況

図 4 - 2 は、普通教科「情報」の設定状況についての回答を示したものである。

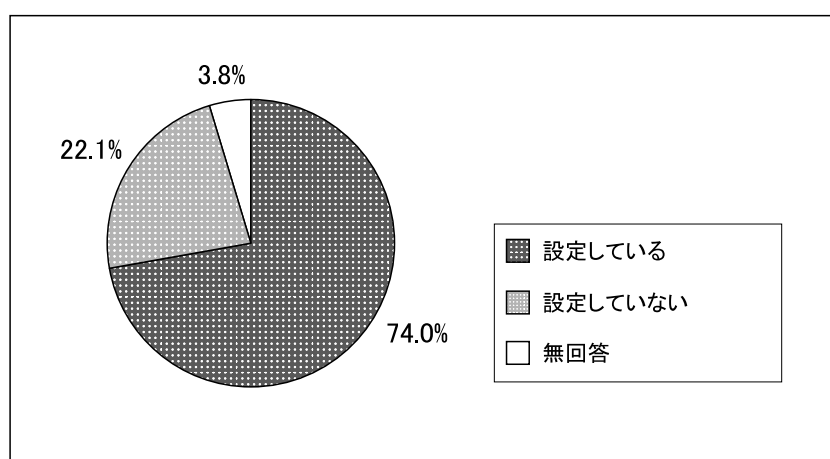


図 4 - 2 普通教科「情報」の設定状況

イ) 情報 A・情報 B・情報 C の設定状況

図 4 - 3 は、情報 A・情報 B・情報 C の設定状況についての回答を示したものである。情報 A が 74 校、情報 B が 9 校、情報 C が 3 校であった。

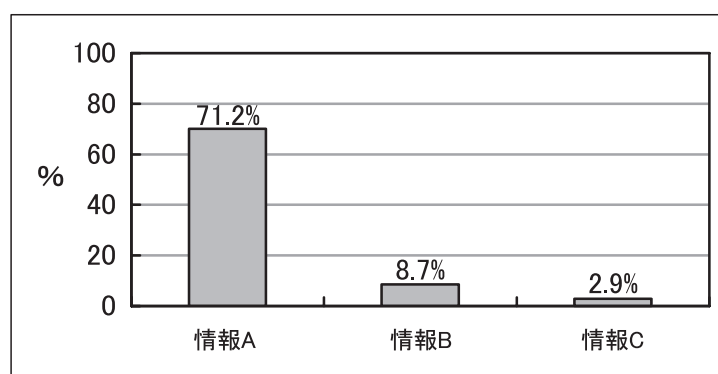


図 4 - 3 情報 A・情報 B・情報 C の設定状況

ウ) 情報A・情報B・情報Cの単位数

図4-4は、情報Aの単位数を学年毎に示したものである。

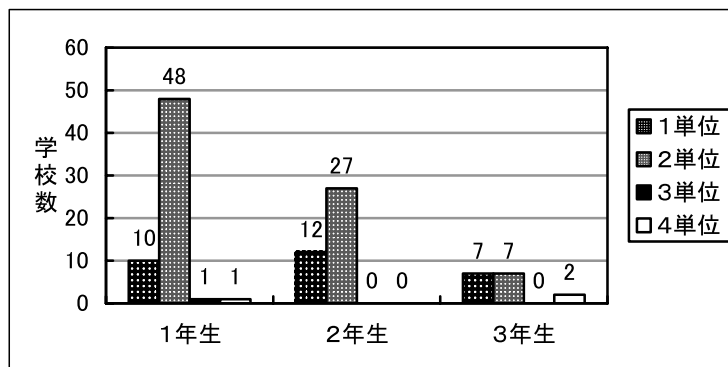


図4-4 情報Aの単位数

図4-5は、情報Bの単位数を学年毎に示したものである。

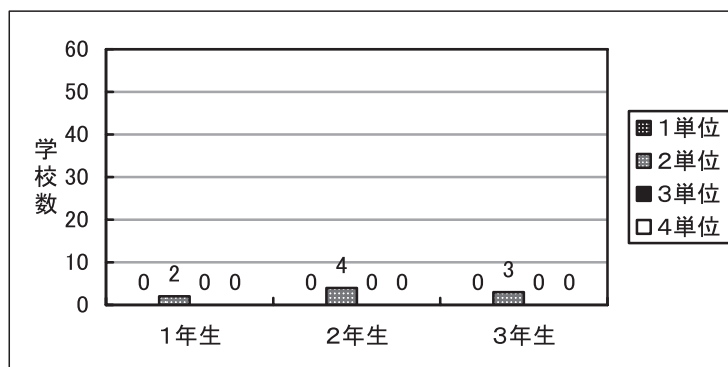


図4-5 情報Bの単位数

図4-6は、情報Cの単位数を学年毎に示したものである。

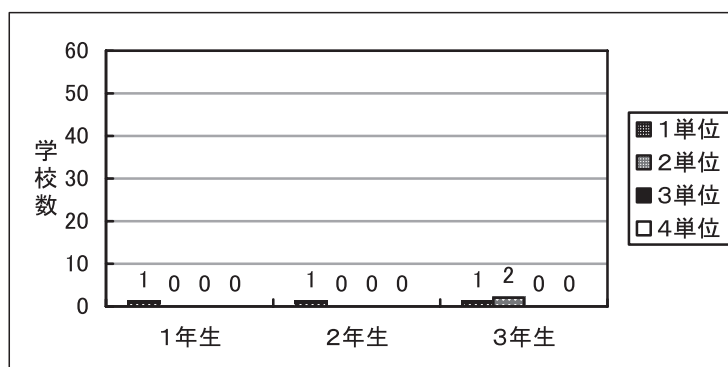


図4-6 情報Cの単位数

エ) 情報A・情報B・情報Cの履修人数

図4-7は、回答校における情報A・情報B・情報Cの履修人数の合計を示したものである。

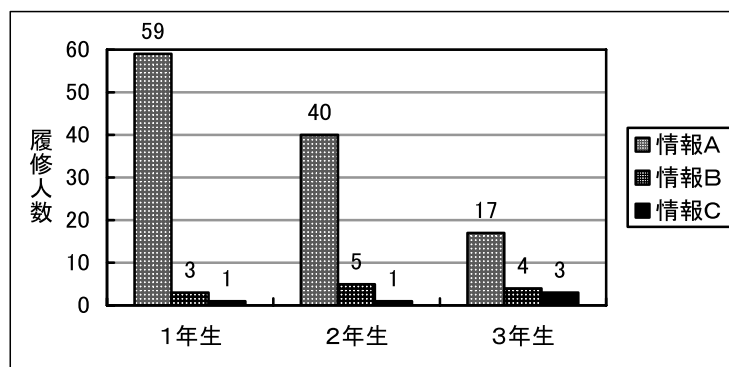


図4-7 情報A・情報B・情報Cの履修人数

オ) 普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由

表4-3は、普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由を示したものである。

表4-3 普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由

理由	学校数
重度重複学級のみ設置されているため	7
生徒の実態に鑑みて	5
職業に関する専門教科の履修によって代替	4
自立活動を中心とした教育課程のため	2
特に必要性を感じていない	1
「情報」の免許所持者がいなかった	1

(6) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図4-8は、普通教科「情報」の設定状況についての回答を示したものである。

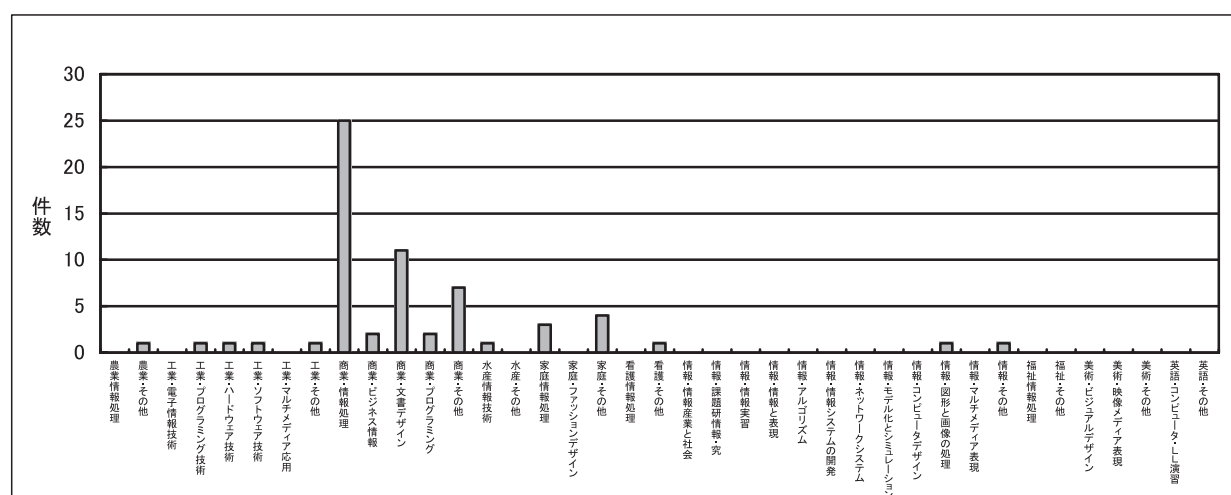


図4-8 普通教科「情報」の設定状況

図4-8の「その他」の内容は、以下の通りであった。

- ・ 農業の「その他」：課題研究（1件）
- ・ 工業の「その他」：情報技術基礎（3件）、工業基礎技術（2件）、課題研究（1件）

- ・商業の「その他」：文書処理（3件），商業技術（2件），商業経済（1件），簿記・ビジネス基礎（1件）
- ・家庭の「その他」：服飾手芸（1件），被服制作・調理（1件），生活教養（1件），課題研究（1件）
- ・看護の「その他」：実習（1件）
- ・専門教科「情報」の「その他」：印刷総合学習，文書処理管理，情報技術など（1件）

（7）情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

図4－9は，情報の内容を含む学校設定教科の実施状況を示したものである。

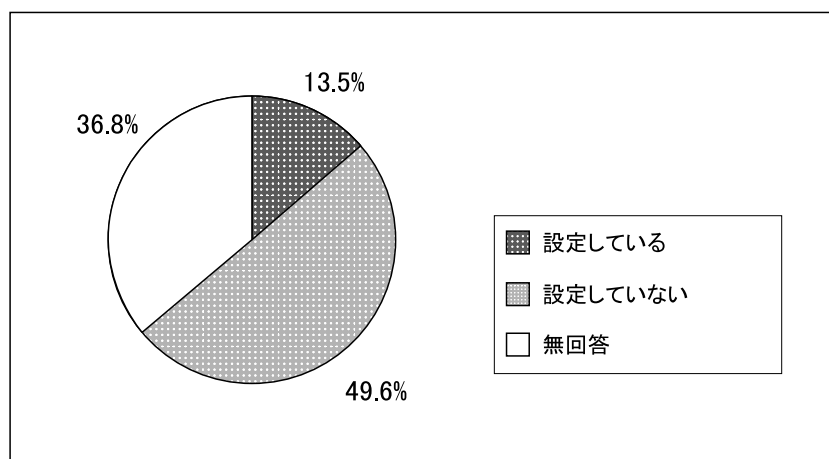


図4－9 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

表4－4は，情報の内容を含む学校設定教科の回答を示したものである。

表4－4 情報の内容を含む学校設定教科の回答

学校設定教科の名称	目標	内容
産業社会と人間	人間としての生き方や探求，特に自己の生き方の探求を通して職業選択し決定する場合に必要な能力と態度を養う。将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーションの能力を培うことや現実の産業社会やその中で自分の在り方生き方について認識させ，豊かな社会生活を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成する。	・宿泊学習に向けて。 ・産業現場等における実習について。 ・職場見学事前学習。 ・校内実習 ・社会体験学習について。 ・職業について。 ・進級について。
	自己の進路決定のために種々の方策を検討し，個々に検討する力を養う。	進路適正検。事業所自己開拓。施設，事業所の見学，実習。プレゼンソフトを使つての実習報告会。
	産業社会における自己の在り方生き方について考え，自らの進路選択を見極め，将来に向かって主体的に進路を選択する能力を身につける。	・豊かな自立生活を送るための手立てや知識に関する学習活動。 ・社会生活，職業生活に必要な基礎的な能力や態度に関する学習活動。 ・障害者の雇用サービス等，福祉，権利に関する学習活動。 ・職業の種類，特徴，職業生活などの理解につながる活動や各種企業施設等の見学，調査，研究などの学習活動。
	パソコンソフト実習	ホームページビルダー 名刺作成
	アプリケーション基礎・応用（目標：身近なソフトウェアの利用とインターネット接続方法技術を身につける）	Excelの基礎・・・関数の利用，グラフの作成。ネットワーク技術・・・インターネットの仕組み，IP電話，チャット，VNWによるリモートコントロールなど。

その他情報に関する括弧区設定教科	文書処理	通信文作成能力の育成と情報処理能力の育成	
	選択情報	内容に応じて情報A～Cの目標に準ずる	ワードによるビジネス文書、Webページ、新聞などの作成。画像ソフトを用いた画像処理。入力支援機器の利用など。
	選択教材情報	情報やコンピュータ等の果たす役割に関心をもち、自ら活用する能力や態度を育む。	・「一太郎」をつかって手紙をかこう。 ・「わたしたちのまち」（インターネットで調べよう）。 ・友だちにメールを送ろう。 ・クリスマスカードをつくろう（フォトレタッチソフトを活用して）。
	選択科目「情報」	パーソナルコンピュータの活用に関する基本的なリテラシーの向上	日本情報処理検定協会が実施する各種検定試験に向けた取り組み
	選択科目「情報」	将来の就労に備えて作業能力を高める	・「パソコン」「陶芸」「織物」の中から希望するものを選択して学ぶ。 ・特例Ⅰによる過程の生徒を対象としている。 ・「パソコン」を希望する者は一部である。
	生活情報	情報通信ネットワークの学習を通じて、日常生活や職場で情報機器を活用できる能力と技能を育てるとともに、社会の変化に主体的に対応できる生徒を育成する。	産業社会とコンピュータ。コンピュータの活用①（各種文書、レポート等の作成等）。コンピュータと通信。コンピュータの活用②（材積計算、家具製図、インテリア等）。情報発信の基礎。
	進路指向	卒業後を考えたパソコンの技能の修得・向上	・ワープロ検定問題（タイピング、文書作成）。 ・情報処理検定問題（関数、グラフ作成）。 ・余暇におけるPC利用（インターネット、趣味ソフト）。 ・プレゼンテーション技法の修得。
	学校設定教科「職業」	パソコンを使って製品づくりを行う	ペイント、ワードなどのソフトを使用してネームシール、レターセットなどの製品づくりを行う。
	情報処理	情報化社会に役立つ基礎的な知識、技術を身に付ける。	パソコンの基礎操作、ワープロ練習、デザイン画の作成、HP作成。
	学校設定教科「情報科」	コンピュータの基本的な操作方法及び活用について習得する。	・コンピュータの起動、終了 ・キーボード、マウス操作になれるためのゲーム的なもの。 ・インターネットでの情報検索、外部装置FDなどを利用したデータの保存及び利用の仕方。 ・絵本づくりソフト、カレンダー作成ソフト等を利用した文字の入力練習。
	学校設定教科「情報」	パソコンおよび各種ソフトの基本的な操作を学習し、情報処理の基礎、注意事項について学ぶ。	パソコンおよび各種ソフトの基本的な操作
	学校設定教科「情報」	パソコン及びアプリケーションの基本的な操作、応用的な活用を学ぶことを通して、パソコン操作活用の技能を高める。	・自己紹介カード作成。 ・フォトレタッチでの画像加工。 ・ホームページ作成、その他。
	学校設定教科「情報」		インターネットの利用、電子メールの利用、文書作成、プレゼンテーション、PCの基本操作、各種スイッチ、ATの活用、ポジショニング、情報モラルなど
	マルチメディア	コンピュータ利用の印刷技術を身につける	・ワードによるあいさつ文、手紙文の作成。 ・一太郎による年賀状作成（外注作業）。
	パソコン	コンピュータの基本的な操作の習得	いろいろなアプリケーションの使い方を学び、コンピュータ操作の基本的な技術の習得をめざしている。今年はグラフィックソフトを使ってキャラクターを作画し、それらをつかってアニメーションとして動くようにすることをおこなっている。

(8) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図4-10は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

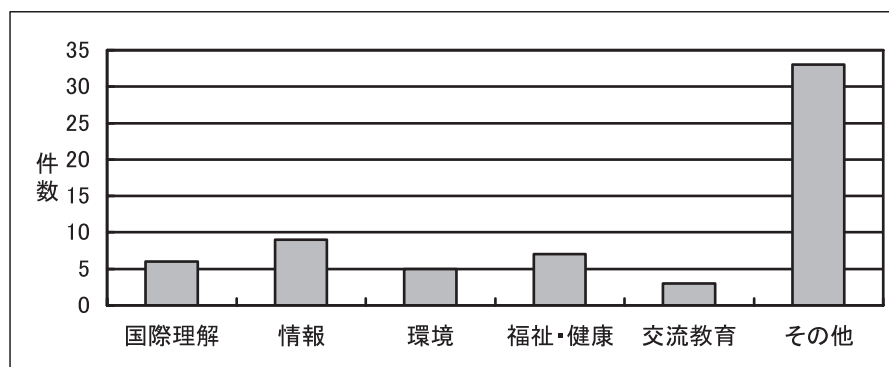


図4-10 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組についての回答は6件あったが、表4-5は、その内容等を示したものである。

表4-5 総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
韓国の高中生と交流しよう 異文化理解	週2	・韓国の高中生と文通（時々、Eメールを使用）しながら異文化理解を進める。 ・インターネットを使用して情報収集等を行い、韓国文化について調べる。
日本の文化の成り立ち	35コマ (週あたり1コマ)	日本の文化の成り立ちについて、目地初期の外国からの文化の移入や日本人の努力によって成り立っている。生徒が興味をもった事柄、人について研究し、プレゼンテーションを行う（PCを活用する）。
国際交流	－	国際交流に関して、その国の様子をインターネット等で調べる。
北朝鮮と日本	3	・北朝鮮の現状と拉致問題について、インターネットで調べ学習を行い、話し合いをもつ。
世界遺産を調べよう	2	興味のある世界遺産について調べよう
－	－	・食糧危機、文盲による生命の危険への関係、戦争、メラニン色素による肌の色の違いについての情報収集（インターネット）。 ・全体発表会へむけての資料作成（ワープロソフト）。 ・インターネット利用時のマナーについての学習。

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は9件あったが、表4-6は、その内容等を示したものである。

表4-6 総合的な学習の時間における「情報」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
消費者講座	－	消費者センターから講師をお願いし、「消費者講座」を年度によって取り扱っている。講和のなかで、有料サイトによる高額な情報提供料の請求などの「情報化の光の影」にも触れ、コンピュータネットワークを利用した犯罪に巻き込まれないように助言を行っている。（年度によって実施されない場合もあり）
本校ホームページ作成	10～12	授業紹介や卒業後の進路の状況など
3DCGアニメーション	週1	DOGA－L1,L2, L3のソフトウェアを使用し、3DCGアニメーションの作成
パソコンを使おう	週1	インターネット、デジタルカメラ、ゲーム等、現在では一般的になってきている内容について理解し、活動できるようになることで、日常生活を豊かにすることを目的に学習している。

卒業後の生活を見つめ、大切なことを考えよう	週2	・インターネット等の活用。 ・コンピュータ関係の資格取得に向けての活動。
福祉機器展の開催	12	福祉機器を持っている事業所を調べ、機器の展示を依頼。
ワープロソフトの基礎、表計算ソフトの基礎、ペイントソフトの基礎	2	高等学校に準じる過程の生徒に対して、ワープロソフト「Word」、表計算ソフト「Excel」の基礎基本を課題形式で指導した。また、家庭学習用としてP検準手段の教材を用意して与え、高等部在学中に受験さえすれば合格できるだけの力を養成した。(パソコンでイラストを作りたいと希望する生徒には「PaintShopPro」や「ペイント」の利用を指導した。
デジタルカメラ	70	・JPEGファイルの加工 ・プリクラ、ハガキ、名刺づくり ・地元の地域紹介の写真
静岡駅構内案内図作成	1	WORDの作図機能を使い、案内図を作成する

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は5件あったが、表4－7は、その内容等を示したものである。

表4－7 総合的な学習の時間における「環境」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
ゴミ問題について、学校の周囲の環境	6	インターネット、プレゼンテーションソフトを利用し学習を進め発表を行ったというもの。
熱帯雨林地帯の環境について調べよう	4	インターネットを利用して、テーマについて各自調べ、発表する。
地域を知る、環境を知る	週2時間	地域を知る・・・インターネットで和歌山の偉人を調べる。南方熊楠をとりあげる。 環境を知る・・・牛乳パックで紙漉きをする、廃油でろうそく作り、紀州備長炭を学ぶ、これらを調べる際にインターネット使用する。
絶滅した動植物について	5	課題研究として、自分で調べてまとめたものを、理科担当教員を招いて発表し、研究協議を行う。
自分たちの住んでいる地域の環境を調べよう	2	地域の河川の利用について

総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組についての回答は7件あったが、表4－8は、その内容等を示したものである。

表4－8 総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
福祉制度		将来利用するであろう福祉制度の中から自分にとって関わりのあることについてテーマを決めて調査を行う。その調査の過程で生徒によっては、Webページ上のリンクや検索エンジンを利用するなどして、その調査を行う場合もある。情報の検索と収集ではありますが、必ずしもコンピュータを利用するわけではありません。
－	－	ユニバーサルデザインについての調べ学習（インターネット）
福祉制度について調べよう。	2	障害者に対する福祉制度や、将来利用できる施設等について、インターネットを利用して調べ、発表する。
「生きがい」を考えよう	6	インターネットを利用して「生きがい」について調べ、そこで得たものを自分なりの方法でみんなに知らせる。
生活を豊かにする	週2時間	デジカメの使い方、写真の取り込み方を学習する。
体にいい食べ物や運動	6	栄養を考慮した調理実習（肌がいい食べ物を中心に）。自分にあったスポーツやストレッチを調べ実践する。
バリアフリーについて考える	10	自分たちの住んでいる地域のバリアフリーの現状について、実際に利用してみて、検証し、まとめて発表し合う。

総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組についての回答は3件あったが、表4-9は、その内容等を示したものである。

表4-9 総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
交流	35	・同世代間の交流（メールや手紙のやりとり）。 ・知らない人ーとの交流（ホームページを開設して発信）。 ・学習の発表（プレゼンテーションソフトを利用）。
交流校のホームページを見てみよう	1	学校間交流をしている相手校について調べる
－	－	他校との交流の場面で、時間・距離的な問題メールや掲示板の利用をして事前打ち合わせを行った。今年度は実施していないと思うので省く予定。

総合的な学習の時間におけるその他の取組についての回答は33件あったが、表4-10は、その内容等を示したものである。

表4-10 総合的な学習の時間における「その他」の内容等

テーマ	時間数	内容
－	－	・修学旅行の見学地についての情報収集（インターネット）。・野菜の作り方、調理学習のためのレシピの収集（インターネット）。・校外学習の写真閲覧。
－	－	「社会のしくみを知ろう」（8）、「余暇計画を立てよう」（4）、「生活を豊かにするには」（2）、「旅行計画を立てよう」（10）、「リサイクル」（6）、「環境と生活」絶滅動物について（4）、「地球環境」（6）、「新聞を読む」（8）。調べ学習、インターネット活用、情報収集。
新聞を作ろう	5	他クラスの教師や生徒の「今年の目標」を取材（インタビュー、録音、写真の撮影）し、それをまとめて壁新聞を作った。
1.みんなで地図を作ろう 2.パラリンピックを応援しよう 3.年賀状をつくろう 4.おいしい食事をつくろう 5.CD制作	各48時間	1.世界の民族衣装を調べ地図を作り発表。 2.パラリンピックの場所、内容を調べ発表。 3.一太郎を利用し年賀状をつくる。 4.いろいろな料理を調べ、好きな料理を作る。 5.卒業生のために写真をCDに取り込みプレゼントする。
掲示物をつくる	－	・運動会のポスターづくり。 ・個人目標（教室掲示用）の作成等。
カレンダーを作ろう	2	ワープロソフトを利用して、自分の好きな画像やイラストを取り込んでオリジナルカレンダーをデザインし、印刷する。
－	不定期	調べ学習において積極的に活用している。
青藍祭で劇MOMOTAROUをやろう	20	学習発表会で劇を発表した。 ・せりふの入力（オペレートナビ、ワード）
校外へ出かけよう	週5時間	校外学習の計画
畑の世話と観察	12	自分たちが育てることになった野菜、さつまいも、ひょうたん、ごーやなどについてインターネットで調べ表を作成し、発表会を行いました。
－	－	・学級通信の原稿作成等によるパソコンの活用。 ・学級掲示物等の作成におけるパソコンの活用。
生活	週2時間	「おむすびころりん」の劇とパソコンをリンクして、画像を見て教材に取り組むようにしている。
－	－	パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを活用しての事前学習等。
調べもの学習	週2時間	年賀状ソフトやワープロソフトを利用して、デジタルカメラの写真を加工して貼り付けたり、グラフィックソフトを利用して干支にちなんだイラストを描いたりして個性あふれる年賀状を作成した。宛名書きはワープロで自分で文章を入力したり、手書きで作ったりした。

調べ学習，体験学習や 修学旅行の事前学習	5	色々な場面で情報収集の手段としてインターネットを活用している
年賀状を書こう	10	年賀状の作成
みんなでハーモニー	30	音楽に親しんだり，自分なりに工夫しながら楽器などを演奏する単元。生徒の好きなアニメにちなんだ局を，パソコン内に取り込み，その曲をスイッチ操作しながら楽しむ活動に取り組んだ。生徒が曲想をイメージしやすい様に，画面には曲に応じた映像を流すようにした。
行事単元，季節単元	175	上記のようなテーマで，情報の検索，収集などの情報教育に関する内容を学習している。
利息計算	2	利率，利息等についての理解とエクセルを利用した元金，利息，利率，期間等の算出。
社会体験学習（事前 学習）	24	・生徒による行事の企画，立案。・現地集合，現地解散のため，自宅から目的地までの経路及び時間の検索，現地での活動のための下調べ（インターネット利用）。
校外学習のしおりを つくろう	10	校外学習に向けて，行程・バス座席・部屋割り・メンバー表・小遣い表などをグループに分かれて作成・印刷・製本を行う。
調べた内容を発表し よう	15	自分の調べたい内容についてインターネットなどを活用して調べ，プレゼンテーションソフトを使って情報をまとめて発表する。
音楽やろうぜ	20	一つの極を皆で作り上げ，発表する。
就業について	15	就業体験学習における事前，事後の学習
校外学習の計画（Ⅱ 類型）	12	夏休み，クラスでの校外学習実施にあたって，交通機関についてや，食事場所について，また，見学場所について等をインターネットで調べ，計画にあたっての資料づくりをした。
ボランティア団体と の交流	10回程度 /年間	メール交換，メッセージ交換
自分の進路について	10（週2）	・年間を通じて学習した内容をパワーポイントでまとめて発表会でプレゼンテーションを行う。 ・インターネットにアクセスして，福祉制度や福祉法人について調べる。

（９）領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

図４－11は，領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況を示したものである。

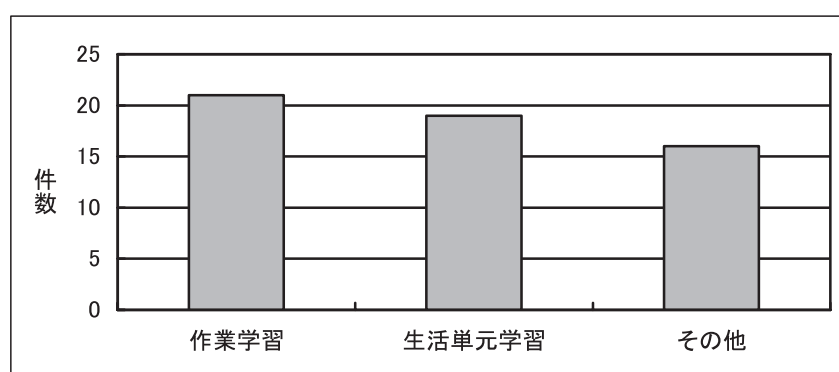


図４－11 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習についての回答は21件あったが，表４－11は，その内容等を示したものである。

表4-11 作業学習の内容

名称	時間数	内容
教科「職業（選択「情報」）」	2	・身体（特に上肢）の不自由に即した特殊入力補助装置の操作学習。 ・ワードプロセッサを用いた文書作成練習。
－	6	印刷班
－	－	作業作品のラベル作成（ワープロソフト）
PC班	10	・インターネットを活用し、進路にかかわる施設等の情報を得る。 ・メールのやりとりをするなど。
リサイクル	2	・アルミ缶について調べて発表。 ・Excelのソフトを利用した計算。
印刷班	140	カレンダー製作頒布。名刺受注製作。レターセット。メモ帳。
－	2	特殊スイッチをマウスに接続し、パソコンの基本的操作を行っている。
ラベルポスター作り	4	「筆まめ」などのソフトを利用して、ロゴのデザインや印刷、ポスターのデザインや印刷をする。
PC工房	4	・絵はがき、グリーティングカード作成。 ・バザーの案内ハガキ、ポスター、チラシの作成。 ・収益を活用してのお楽しみ活動（外出）。
名刺、年賀状の作成	70	サンプルの作成、受注、試作、確認、納品
レザークラフト班、 リサイクル班、織り 物班	218	レザークラフト ・木工作業を半年おこなっている。 ・製品に添えるカードをパソコンで作成（ワード、ペイント）。 ・製品開発に際してインターネットで情報収集。
名刺作り等	週10時間	受注から構成確認、印刷、受け渡しまで行っている。
パソコン	30	・タイピング練習、検定へ向けた取り組み。 ・行事のポスターやカレンダーの作成など。
Eメールの作成、 ローマ字入力練習、 アルバムの見出し作 りなど	2	作業学習は「パソコン」「陶芸」「織物」の中から生徒が希望により選択している。「パソコン」を希望する生徒はワープロとして活用したいという希望を持つケースが多かったため、Eメールの作成、アルバムの見出し作り、年賀状、クリスマスカードの作成などを通じて、パソコンをワープロとして活用できるように指導した。（身体障害が軽度で知的な面の遅れが軽度な生徒に対してはローマ字入力も合わせて指導している。）
情報	5	・基礎的知識、技術の習得（タイピング、ひらがな・ローマ字入力など） ・インターネットで情報を得る。 ・画像の利用、調整処理。 ・名刺やカレンダーなどの製作。 ・文章の装飾、レイアウトなど。・アニメーションの作成。
実習時 （特定時期にまとめて）	20/160年間	名刺、ポスター、カレンダー作り
文書処理	210	・代用機器を用いたキー入力の練習。 ・ワープロソフトによる文書作成。 ・メールの送受信、年賀状作成、名刺作り。 ・ネチケット、著作権、ウィルスについて。
情報班	週8時間	名刺やラベル等の製作活動
－	週4時間	・お年玉袋（グラフィックソフトで図案を作り、イラストや模様をつける。） ・オリジナル絵はがき（動物や植物の写真を加工して、グラフィックソフトでデザインする。） ・グラフィックソフトを利用したイラストとアニメーションの作成 ・電子メール（マウスが難しい生徒はスイッチなどを利用する。） ・表計算ソフトを利用した家の設計図作り
印刷作業	4単位	ワープロソフトを利用して名刺やカレンダー、メモ帳を作成している。
単元名「アイロンプリントの作品を作ろう」	8	「花子」でデザインし、パソコンの起動、終了、マウスの操作の仕方、保存、印刷等

生活単元学習についての回答は19件あったが、表4-12は、その内容等を示したものである。

表4-12 生活単元学習の内容

名称	時間数	内容
—	—	・修学旅行の見学地についての情報収集（インターネット）。 ・野菜の作り方，調理学習のためのレシピの収集（インターネット）。 ・校外学習の写真閲覧。
—	—	「社会のしくみを知ろう」（8），「余暇計画を立てよう」（4），「生活を豊かにするには」（2），「旅行計画を立てよう」（10），「リサイクル」（6），「環境と生活」絶滅動物について（4），「地球環境」（6），「新聞を読む」（8）。調べ学習，インターネット活用，情報収集。
新聞を作ろう	5	他クラスの教師や生徒の「今年の目標」を取材（インタビュー，録音，写真の撮影）し，それをまとめて壁新聞を作った。
1.みんなで地図を作ろう 2.パラリンピックを応援しよう 3.年賀状をつくらう 4.おいしい食事をつくらう 5.CD制作	各48時間	1.世界の民族衣装を調べ地図を作り発表。 2.パラリンピックの場所，内容を調べ発表。 3.一太郎を利用し年賀状をつくる。 4.いろいろな料理を調べ，好きな料理を作る。 5.卒業生のために写真をCDに取り込みプレゼントする。
掲示物をつくる	—	・運動会のポスターづくり。・個人目標（教室掲示用）の作成等。
カレンダーを作ろう	2	ワープロソフトを利用して，自分の好きな画像やイラストを取り込んでオリジナルカレンダーをデザインし，印刷する。
—	不定期	知らべ学習において積極的に活用している。
青藍祭で劇 MOMOTAROUをやろう	20	学習発表会で劇を発表した。 ・せりふの入力（オペレートナビ，ワード）
校外へ出かけよう	週5時間	校外学習の計画
畑の世話と観察	12	自分たちが育てることになった野菜，さつまいも，ひょうたん，ごーやなどについてインターネットで調べ表を作成し，発表会を行いました。
—	—	・学級通信の原稿作成等によるパソコンの活用。 ・学級掲示物等の作成におけるパソコンの活用。
生活	週2時間	「おむすびころりん」の劇とパソコンをリンクして，画像を見て教材に取り組むようにしている。
—	—	パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを活用しての事前学習等。
調べもの学習		
—	週2時間	年賀状ソフトやワープロソフトを利用して，デジタルカメラの写真を加工して貼り付けたり，グラフィックソフトを利用して干支にちなんだイラストを描いたりして個性あふれる年賀状を作成した。宛名書きはワープロで自分で文章を入力したり，手書きで作ったりした。
調べ学習，体験学習 や修学旅行の事前学習	5	色々な場面で情報収集の手段としてインターネットを活用している。
年賀状を書こう	10	年賀状の作成
みんなでハーモニー	30	音楽に親しんだり，自分なりに工夫しながら楽器などを演奏する単元。生徒の大好きなアニメにちなんだ局を，パソコン内に取り込み，その曲をスイッチ操作しながら楽しむ活動に取り組んだ。生徒が曲想をイメージしやすい様に，画面には曲に応じた映像を流すようにした。
行事単元，季節単元	175	上記のようなテーマで，情報の検索，収集などの情報教育に関する内容を学習している。

その他の領域・教科を会わせた指導に関する回答は16件あったが、表4-13は、その内容等を示したものである。

表4-13 その他の領域・教科を合わせた指導の内容

名称	時間数	内容
マイタイム、マイライフ	20	マイタイム、マイライフ
自立活動	年間を通して 20時間	自立活動
自主活動（みる、きく）	3～4	自主活動（みる、きく）
課題別学習（自立活動）	不定期	課題別学習（自立活動）
美術	6	美術
自立活動	2（週）	自立活動
個別学習	週1	個別学習
課題	4	課題
音楽	週2時間	音楽
自立活動	年間12時間 程度	自立活動
自立活動	週3時間	自立活動
自立活動	5	自立活動「パソコンのソフトを使って、物の名前を覚えよう」
自立活動	生徒に 応じて	自立活動
合科学習	5	合科学習
自立活動	個に 応じて	自立活動

(10) 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

図4-12は、高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリットについて示したものである。

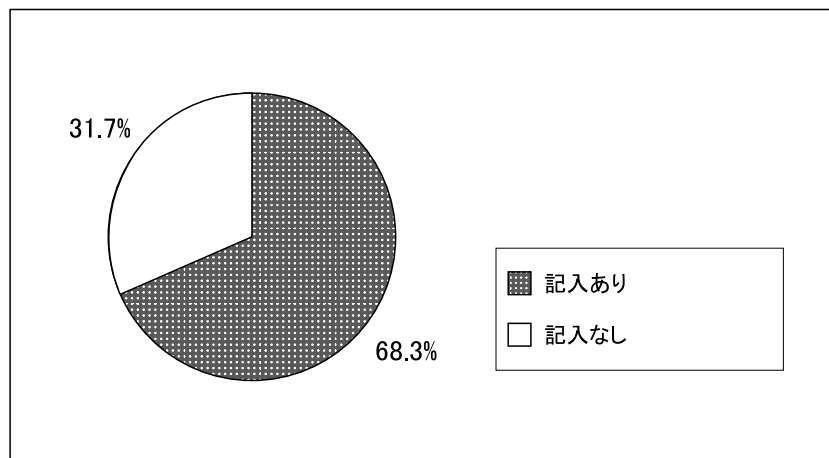


図4-12 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

表4-14は、その内容等を示したものである。

表4-14 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット（自由記述）

肢体不自由児ということで行動範囲が狭く、外とのつながりと言う点で、インターネットで調べたりすることで、世界が少しでも広げられるという点で利用できること。
余暇活動の充実につなげることができる
「知るため」の道具として活用できる
情報化社会に対応していく望ましい心がまえと態度を養うことができる。
・進路先の選択や職種の決定に生きる。 ・卒業後（在学中）の余暇活動の内容が充実する。 ・移動時間が制限されているが、教室にしながら、あらゆる分野の情報や写真等の具体的な資料を調べたり、目にしたりすることができる。

・卒業後の進路先で求められることがある。 ・余暇に利用できる。 ・コミュニケーションツールとして役立つ。
肢体不自由養護学校の生徒の場合、移動等の面で制約があり、実際の場面での生活体験を積んでいくことが難しい点があり、情報も不足しがちになりやすい。それらの点を補っていくという意味でインターネット等の活用はメリットがあると考えられる。
家庭など学校以外の場所での活用
これからの情報化社会に対応するための知識・技能を身に付けられる。
・幅広く情報を収集、処理する手段を知ること、自分の趣味が深まり、幅を広げ、余暇活動を充実させることができる、生活の質的向上が望める。 ・コミュニケーション手段として活用することで対人関係が広がり、社会性も高めることができる。 ・進路情報や福祉情報などを収集する手段を得ることで、生活上大変有益である。
・広い世界観を持って調査等を行うことができる。 ・生活の帯を拡げることが可能。
情報社会での基礎的能力を培うことができる。
肢体不自由児にとっては特にパソコンを使った情報収集やコミュニケーションは自由に外出できない分、重要となっている。
・調べものがしやすい。 ・本でさがすよりもネットから情報が集めやすい。 ・みんなで情報を共有しやすい。
・就労や進学（訓練校）につながる。 ・生徒自身の生活の幅を広げることができる（メール、情報収集）。 ・卒業後の余暇利用につながる。 ・教科等の調べ学習で成果がある（パソコンを使うだけでも生徒は意欲的になる）。
・実社会の情報を身近に知り、活用できる（交通情報・移動方法や運賃など）。 ・教科と関連ある資料をさがし活用する。 ・会社で使われているようなソフトを使い、課題について実習する中で考えをまとめ、発表する練習ができ、自己形成を促せる。
・インターネットを使い、手軽に情報を取り出せる点。 ・プレゼンテーションや資料作成など、常に人に見せる（発表する）ことを意識した活動、評価ができる点。
現代の情報化に少しでも対応できるスキルを養うことのできる可能性がある。生徒の知的好奇心に答えることができる。
・学習の中で調べたり発表したりする中で、意欲が高まり、自分でもやればできるという気持ちが高まる。特に肢体不自由児（知的障害を伴う）で文字を書くのが苦手な（機能的に）生徒が多く、それを補うのに役立っている。 ・就労につながらなくても、将来趣味や特技としてパソコンを使うことで生きがいにつなげていける。
・PCを使えることがそのまま仕事に結びつくのではなく、それが前提条件となりつつある現状においては、それらを高等部段階で学ぶことができる。 ・高等部卒業後、すぐに社会生活を送っていく場合、その利便性、危険性についてもしっかりと伝えておくことができる。
肢体不自由の障害をもつ生徒にとって、情報教育及ぶPCの取り扱いを学ぶことは、コミュニケーションの代替、拡大、経験の不足を補う就労のための技能としてのメリットが考えられる。また、インターネット通販、ネットオークション、ネットバンキング等の消費者教育はIT化の進む現代で必要な知識といえる。
・卒業後に一般事務職を目指して訓練施設（国リハ）に入所する生徒も多く、卒業後の生活を考えるきっかけや進路に向けた第一歩を踏み出すということを、生徒に意識させることができよう。 ・障害の二次的影響で外へ出ることが難しい生徒にとり、インターネットを介して外の世界とつながりを持つことが出来てよい。
養護学校の生徒は社会との距離が遠い。その中で社会へ向けての社会参加ができる。また、情報を自ら発信でき自発的にさまざまなことに対して参加できるメリット。
手書きの文字をうまく書けない、言語障害がある生徒にとって、コミュニケーションツールとしてのPCはとっても有効である。
生徒の注意力をひき出すことができる
筆記や移動に困難を伴う生徒が大多数である。情報機器を使いこなすことにより、筆記、イラスト等の表現活動、情報収集、買い物、コミュニケーションなど、社会生活における活動の幅を広げていくことができると思われる。
情報活用能力の育成により、趣味の拡大、余暇の活用の仕方、意志伝達手段の方法として有効である。
障害にもよりますが、コミュニケーションや情報収集、あるいは余暇活動の手段として、情報機器の活用は、将来の豊かな生活を考える上で、とても重要な要因です。メリットというよりはむしろ、在学中に十分に使いこなせるように支援することは、不可欠となっています。

社会に出る機会が少ない生徒が生活を広げたり、情報を得たりすることができる。旧友、旧職員と簡単に連絡が取れる。余暇の窓口を広げるきっかけになる。
興味・関心の幅が広がる。
・文字を書くことがうまくできない生徒でもパソコンを使えば表現できる。 ・学習に関する情報をインターネットを使い自ら検索することができる。 ・最新の時事問題（情報関係）にも直に触れさせ教材にできる。
・自分で「書く、描く」活動が難しい生徒にとって、表現の手段となる。 ・常に職員に手をとってもらうか、意志表示で代替して操作してもらっていた生徒が自分の力でやりたいことができるようになり、学習に対するモチベーションが非常に向上している（オペナビとプッシュスイッチを使い、ほぼで操作）。
・情報機器の活用スキルが向上した。 ・情報モラルについて学習できる。
・本校で情報教育を行っている生徒は卒業後施設のディサービス利用者が多い。ディサービスでの活動もパソコンを使った内容が多く、高等部で履修した内容を生かしていることが多い。
・活動範囲の狭い生徒にとって、インターネットで社会の様子を知り、生活に必要な情報を手軽に収集することが可能となる。また、メールは有効なコミュニケーション手段となる。 ・発声不能な生徒にとっては、オペレーションナビやトーキングエイドを用いることで、意思伝達が可能となる。 ・手指が不自由な生徒にとっては、ペイント系のソフトを使うことで、描画が可能となる。 ・パソコンの技能を高めることは、就職する上で大きなセールスポイントとなる。 ・パソコンを使うことが趣味になる。 ・情報モラルを学ぶことは、現代を生き抜くために必要不可欠
肢体不自由養護学校ならではの活動支援（自分に合った機器の選択及び設定）。卒業後の進路決定の一助。インターネット等による情報取得。一般的な情報教育上のモラルの醸成。
養護学校の高等部では、新しいことに興味・関心を持たせていく面では良いと考えます。
情報を収集する力は、現在、卒業後において、必要な力である。また、情報リテラシーや情報マナー教育についても、必要な生徒には必須である。
生徒の意識が高く、授業に積極的に参加できるところ。
フリーの教材・教具が多く、フリーソフトの活用しながらできること。生徒も自宅でパソコンを利用していることが多いため復習も可能になったこと。多様なスイッチを活用し、上肢の障害の重い子にも利用できるようになったこと。
・言語や上下肢に障害がある生徒へのコミュニケーション支援。 ・実体験が不足しがちな生徒へ、疑似体験を通しての学習の補充。 ・インターネット活用の学習を通しての社会参加（社会とのつながりの拡大）。
本校では、スクールバス発車後、毎週金曜日を部活動の時間として設定している。部活動は、小学部5年生の児童から高等部の生徒のうち、希望する者が行っている。部活動の1つとして、パソコン部がある。インターネットを利用して遊んだり、ソフトを利用して絵を描いたり、それぞれの子供達の思いで、自由に活動を楽しんでいる。授業後、あるいは卒業後、余暇を含めた生活を考える上で、よい機会となっている。
・体系的に情報教育を学ぶことができる。 ・社会に出る前に情報処理について学習できる。 ・職業教育に応用できる。 ・他の教材と連携できる。
ことばだけでなく、画像等を目で見られることで、イメージがもちやすく教育効果があがる。
行動面でのいろいろな制約がある障害者なので、社会的な経験が不足がちである。インターネットの利用方法やEメールなどの活用を身につけることにより、行動面のデメリットを少しでも解消できるようになれる可能性がある。社会への自立に向けて訓練が必要な高等部としては、特に一人でいろいろな事を調べ、実行することが容易になるような情報技術を修得することができる。
身体障害（上肢）のある生徒は、字や絵をきれいに書くことは難しいケースがあるが、パソコンを使うと他者にも渡せる程度の作品を作ることが容易である。
AACの考えに基づいて、コミュニケーションの一端として取り組むことができる。また、ある程度の理解、パソコン操作などができる生徒にとっては教科指導的な内容を行うことができる。高等部には過年度（30代～40代）の生徒がおり、時事的なニュースなどをインターネットによって学習することができる。
コミュニケーション意欲が高まる。
就労への支援の一つとなる。
情報を活用して生活に生かそうとする態度や習慣を身につけることができる。（情報機器の扱いには大変意欲的に取り組んでいる）
コミュニケーション能力の発達

生徒の中野は目が見えない生徒もいるので、パソコン等を用いた教材でダイナミックに効果音を出せたり、音声加工も容易にできるため、教材も比較的作りやすいです。
インターネットを活用し様々な情報を得ることができ、また、ホームページに書かれた情報を理解したいという意欲が高まり、漢字を学習する動機付けとなった。
情報を得る手段としてインターネットの活用が出来る。自己表現活動の一つとしてパソコンが活用できる。
・肢体不自由生徒の情報収集、意思伝達について情報機器、インターネット、メールが有効である。 ・生活体験不足を補うためのツールとして利用可能。
・家庭でのパソコンの活用など余暇の拡大につながる。 ・パソコンへの興味関心を育て、活用能力を身につけ、ひいては社会参加へ活かす。
インターネットを使えるようになることで、肢体不自由の生徒でも、自分で学習課題に必要な資料を調べることが出来、興味・関心を広げることができる。
・肢体不自由のため、文字が書けない生徒も代用機器を用いて、自分で文章を入力し、表現することができる。 ・車いすなどで行動範囲が狭くなりがちである生徒たちは、メールやインターネット検索などで視野を広げることが可能である。
情報収集が可能
車イス等、移動が困難な生徒がバーチャル体験をしたり、多くの情報にふれることができる点
・インターネットを通じて、移動の困難な肢体不自由の生徒にとっては居ながらにして様々な情報を得ることができる。 ・パソコンを利用した様々な作品の製作を通じてソフト活用能力を身につけることができる。さらに、卒業後も趣味や仕事に於いて生かすことができ、豊かな生活を送ることが出来るようになる。 ・事務処理ソフト（ワード・エクセル）の活用能力を身につけることで進路の幅が広がる。
IT社会への導入ができることをはじめ、意思伝達の手段、コミュニティー活動の手段として幅がもてる。
・個々のニーズに応じたソフトウェアやインターネットを活用することにより、様々な場面で興味、関心が広がり、パソコンがより身近なものとして、利用できるようになってきた。 ・一人でパソコンの操作ができない生徒も友達や先生と一緒にいることで、音や映像に反応して、自発的な動きや表情、発声を引き出すことができた。
・卒業後にパソコンを使った作業に関わりたと思う生徒にとって基本的なパソコン操作力を高める場となる。 ・社会に出て個人的にパソコンを利用していく場合にも知っておく必要のある情報モラル等、基本的な情報社会に参画する態度について知る機会となる。
・情報機器（パソコンなど）自体に、生徒の興味、関心を向けることのできる魅力がある。そのため機器を使用する（活用する）ことで、今まで苦手としていた学習課題にも積極的に取り組むことができる。 ・生徒の様子に応じたところで（機器の設定や周辺機器の準備を行うことで）学習を展開することができる。 ・映像、音楽、ワープロ。テレビ会議等、様々な機能を持つため、様々な場面で様々な学習への活用を図ることができる（パソコン）。
基本的な簡単な操作方法是身に付けておくこと卒業後の生活の中でも活用できそうである。
・パソコンの操作に慣れ、社会や生活の場で役立つ。 ・情報モラルや社会に出てのマナーが身につく。 ・教材として身やすく理解しやすい。 ・文字が書くことができない生徒、答えることがむずかしい生徒にとっては、かなり有効なツールである。 ・ネットの世界では障害に関係なく対等になれる、自信がもてるようになる。 ・社会との接点ができる。 ・情報を入れやすくなった。 ・自分でできることが増えた。
コンピュータは情報手段の一つとして、新聞、テレビ、本屋その他のほかのメディアとともに重要な情報手段であり、障害のある生徒にとってヒューマンインターフェイスとしてコミュニケーションを広げ、社会とのつながりを持つ上でますます有用な機器となりうる。個人情報や著作権等のメディアリテラシーについて楽しく学習しながらパソコンの世界の魅力を引き出していくことで、「情報活用能力」としてのコンピュータを使った自己表現の方法や、コンピュータを電話や手紙と同じようにコミュニケーションの手段として活用できる能力を育てていくことが可能で
・情報機器等をしようできるようにすることで、コミュニケーションが拡大したり、情報収集を行えるようになり、余暇の充実など卒業後のQOLを高めることにつながる。 ・ワープロ等は、書記が不得手の生徒にとって重要な役割を果たしている。 ・コンピュータの使用により、学習での興味、関心が高まり、意欲的に学習に取り組めるようになることが多い。
・日常生活の中で使われている情報機器を知り、その利用方法をすることができる。 ・携帯電話やインターネットでのトラブルや被害にあわないための方法や気をつけることの学習ができる。
1.広範な情報取得を容易に行うことができる。重傷心身障害児であっても、他者の支援のもとにインターネット等の利用を通じて情報社会の恩恵を受けることが可能となる。 2.情報交換の手段を身につけることができる。電子メール等により、多様な情報交換が行え、交流等に役立つ。 3.パソコンの操作等を通して、情報を整理、活用する能力が身につけられる。

(11) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

図4-13は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点について示したものである。

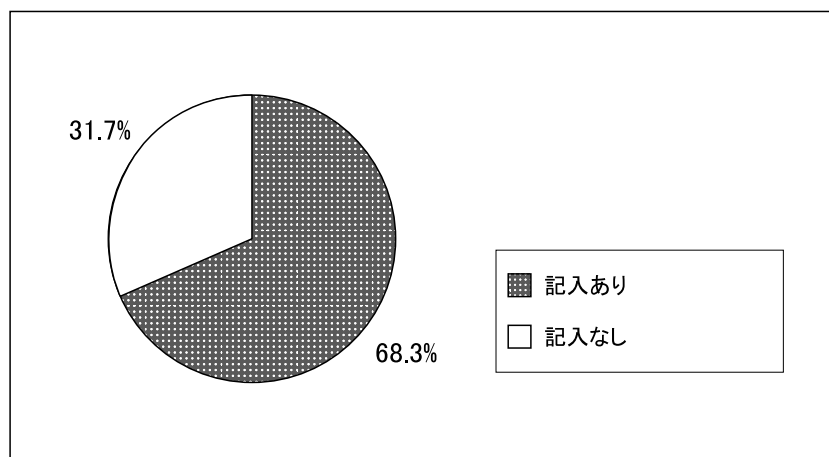


図4-13 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

表4-15は、その内容等を示したものである。

表4-15 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

操作するために特殊な道具を使うことがあるが、高価であり、使うことが難しい。
生徒の障害実態が多様なので、それだけの人数に対応した入力装置や補助機器が少ない。
個々のニーズが多様であるため、個別の授業が多くなり、そのためそれぞれに十分な時間を確保することが難しい状況にある。
障害の実態により、指導する方法、内容が異なる。
ハードウェアの整備。フィルタリングソフトの設定。
生徒個々の不自由の様相に即した特殊入力機器が充実していない。
多くの生徒の実態が自発的にパソコン操作をすることが困難であり、実際に題材を計画して指導を行っている生徒が一人しかいない。
・免許保有者がいない。 ・教材研究のための資料が少ない。 ・一人ひとりの障害に負い自他入力デバイスが少ない。 ・研修の場が足りない。
生徒個々の障害の状況に即した入力装置の開発・工夫（運動の調整が難しい生徒が多いため）。
ハードウェアの更新が5年に1回なので機種が古い。
専門知識をもつ教員が少ない
・指導者の数が少ない。 ・時数不足で必要な時間を教育課程の中に位置づけられない。 ・実態に合った指導内容を準備することが難しい。 ・情報モラルへの認識が不足気味である。
生徒の興味、関心の拡がりから、非教育的サイトへのアクセスをはじめ、エチケットの徹底を充分にはからなければならない。
・重度の生徒の利用。 ・自分自身がパソコンのことをあまり知らない。
様々な障害に対応するパソコンの入力装置が必要である。
作業をするために、いろいろなソフトが必要になるが、予算が無いため、予算にあった作業内容になってしまう。
・生徒の学力差（パソコン利用の能力差）。・時間数が少ない（週1回、1単位時間のみ）。・入力装置等、工夫が必要な生徒があり、導入したいが機材がない。
産業社会の進もうとしている方向と日常生活の間に（あるいは産業社会で働いている人と日常生活の間に）物づくりに関わる立場と利用する立場の格差が感じられると同じようなことが教育の場にも感じられる。
何かを調べる時、いつもインターネットに頼ってしまう点→図書室の蔵書数がもっと豊富だと授業で積極的に活かせると思うのですが・・・

端末機の不足
生徒個々の能力差（経験値の差）
PC及びアプリケーション等のスキル、リテラシーが生徒によって大きく開きがあること。既に生徒の生活の一部になっている者もおれば、一方ではPCに対するのは情報の授業のみという生徒もいる。
機器の老朽化が目立ち、PCのトラブルなどが多い点
生徒一人ひとりの学力、課題、障害の状態に差があり、実質的に個別指導に近い指導形態を取れざるを得ないこと。その他は特にありません。
生徒のレベルがバラバラで集団授業の難しさ。機材の不足とバージョンの古さ。
キーボード、マウス等の操作が困難である場合が多い。同時にソフトウェアを使用するには認識力不足の生徒もいる。
・障害に応じた周辺機器やソフトウェアがなく、機器を有効に活用できない（OS標準のユーザ補助機能や自作教具で対応しているのが現状である）。 ・コンピュータの台数が少なく、教員用と生徒用を共用せざるを得ない。 ・専門業者による保守整備、定期点検が行われていないからか、機器の故障が多い。
個々の生徒の障害の状態に応じた入力機器やソフトウェア等の環境を整えること、また、指導する側の知識や技術がまだまだ不十分な点が課題です。
・学校の設備が時代のニーズに対応していないので、何世代か旧式の形で指導を行うことになる。 ・便利なものがあったとしても購入が難しい。
知的障害を併せ有する者に対して情報を扱う上でのマナー、モラルについて、どのように、どの程度伝えていけばよいか。（いかなければいけないか。）
ハードのメンテナンスが教員の役目になっていることが問題。
ネットワーク教室がないため、授業準備が大変である。
養護学校免許と情報免許を持っている人が少ない。
高一の生徒と高三の生徒と一緒に授業を行っているが、違う内容を行っているため、指導しにくい場面が多い。（ともに1名ずつのため。）
高一で情報Aを必須教科として履修しているが、その後の指導の継続が難しい。
本校では、絵画・音楽・ダンス・詩・作文・工芸などの芸術教育を重視し、大きな成果をあげてきました。現状では、教材作成等に一部コンピュータを利用していますが、情報教育を積極的に展開する必要をあまり感じていません。
一般的な情報教育を推進していく上で環境がまだ不十分である。
コンピュータの台数と指導する時間が少ないこと。
障害の重度、重複化が進み、生徒も少なくなってきたこと。インターネット上のトラブルなど一定のルールは指導できても、セキュリティの部分で不安な子供たちもいる。
・個々の障害に対応したキーボード、スイッチなどの機器が十分に無い。・障害に応じたソフトの開発。
学習能力の面から、パソコンを使っているいろいろな活動のできる生徒の在籍も多い。しかし、手指の障害のため、そのままでは十分な操作をするに至らないことが多い。児童・生徒の状況に合った自助具の開発が今後の課題である。また、生徒・教師とも情報についての知識や技術を向上させていく必要がある。
・予算の制約を受ける。・インターネット等の危険を全て説明、指導することはできない。（トラブルは多種多様であり、全てを網羅できない。）
生徒それぞれがもっている国語力によって、使いこなすことに対する制約を受けてしまう。（知的障害をあわせもっている生徒たちなので）
たくさんの授業時数が確保できないので、授業内容の定着になかなか至らない。繰り返し、よく似た内容で授業を行うことで、生徒が理解できるように努力するが、長時間かかってしまい、内容を広げることがなかなか出来ない。障害の程度が生徒個々人で差が大きく、それぞれの生徒の障害の程度にあわせて情報機器を調節したり、購入することが難しく、汎用機では取り扱いにくく、専用機器は非常に高価で購入が難しい。
カラーレーザープリンターのランニングコストが高いため、使用中止となり、カラーで作った作品をモノクロでしか印刷できない。
情報教育の専門性をもつ教師が少ない（いないに等しい）。個々に応じた適切な指導が出来ない。
生徒一人ひとりの実態に合わせた機器の設定がしにくい。どうしてもソフトウェアにたよるが最適なソフトが見つけない。
パソコンを操作することが困難（ドラッグする等）。
・コンピュータの台数不足。・障害状況が個々の生徒によって大きく異なるため支援が難しい。
手指に障害を有する生徒の場合、入力機器の工夫を要する。
どうしても情報教育に詳しくなかったり、パソコン知識が豊富な教員への負担が大きいのが現状です。
手指の不自由な生徒が多いため、入力装置に特別な工夫が必要となることが多い。

パソコン台数が少ない。パソコンの整備，管理が難しい。生徒実態に合わせたインターフェイスとソフトウェアが十分でない。
一人ひとりの肢体不自由の種類やそれに対する機器がそれぞれ異なり，費用の面で準備が難しい。
生徒の実態に応じた教材や周辺機器，ソフトウェアの不足。又，それに関する情報の不足，研修をうける機会の不足。検定を受けさせたいが，検定料が高い。
児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアで本校の実態に合った活用できるものにどういったものがあるか。また，高価な機器は予算上購入が難しい。
研修時間の不足
・教育上ふさわしくないサイトのアクセス制限。・情報教育に関する専門知識がある教員の不足。
・就労へ向けた専門の学習は，現状では単位数では対応が難しい。・四肢マヒなど重度の生徒の入力支援が個々に様一で対応が難しい。
・本校には，パソコン室が一室あるが，他学部や他学習グループと重なることがある。・特殊な入力装置などの周辺機器を利用すると，生徒が主体的に活用することができるが，個々の障害も様一で高価な機器を少ない予算でそろえることが難しい。
・指導例や実践例が少なく，参考文献が見つからない。・様一な教材でパソコンを利用する反面，パソコンを利用するところまでの指導で，情報モラルについて触れられることが少ない。
情報機器（パソコン，AV機器，基盤）や生徒の学習を補助する機器（トラックボール，スイッチ）等，高価なものが多く，整備が思うように進まない。
生徒に活用できそうなソフト類も，もっとそろえられるといいのではないかと（予算が厳しい）。
職員研修の時間の確保がむずかしい。入力装置，ソフトが多様で数に限りがあり，活用がむずかしい。専門の知識が必要で，その知識をもった教員の数が少ない。OT・PTとの連携がうまくいかず良いスイッチやインターフェイスが作れない。
教科「情報」のねらいである「①情報活用の実践力②情報の科学的な理解③情報社会に参画する態度」を育てるためには生徒が主体的にコンピュータを操作できる環境が必要であり，実態に合わせた入力機器のフィッティングが必要である。コンピュータは整備されているが，ソフトウェアや周辺機器等の予算が不足している。また家庭の事情等により，学校と家庭と同じ入力環境を作っていくことが難しい。
・教育課程の中に教育情報について明確化されておらず，指導者の技量や専門性のばらつきにより，内容が変化している。・生徒の実態と「情報教育」という言葉にギャップを感じている教諭が多く，情報教育の必要性が，理解されないことがある。・使用する機器を，生徒個々に合わせてカスタマイズしなければならず，設定等に時間がかかる。
生徒の実態に配慮された環境が整っていない。入力補助機器の未整備，教室（情報教育に適した）がない。指導教員不足。
小・中からや個人での情報機器（PC）使用経験がある場合と無い場合での差が大きい。
・情報Aの教科書が難しいため，生徒に分かりやすいように母視をしている。また，生徒に何が必要かを考え，工夫して学習をしていくことが必要。・生徒によって，理解力に大きな差があるので，個別に対応が必要である。
授業時数不足。ハードウェア・ソフトウェアともに最新のものにできない（古いOSを使用）。生徒個々に対応するかどうかかわからないデバイスを購入できない。
昨年度，教育用パソコンが導入された段階であり，本年度授業の中で利用が広がりつつある状況である。校務用パソコンの活用から，教育用パソコンの授業での活用促進と利用環境の整備が問題点である。

(12) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

図4-14は，在学中に情報処理に関する資格を取得している例について示したものである。

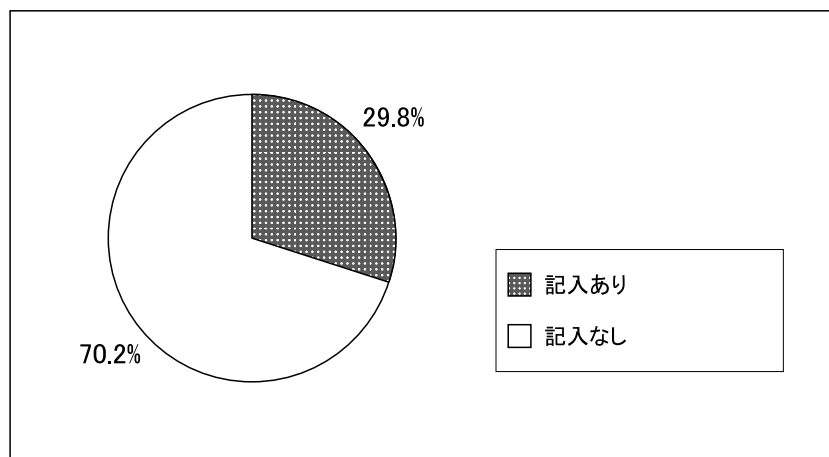


図4-14 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表4-16は、その内容等を示したものである。

表4-16 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計	備考
		195	
文書デザイン検定	日本情報処理検定協会	3	
文書デザイン検定	日本情報処理検定協会	1	
表計算検定	日本情報処理検定協会	1	
表計算検定	日本情報処理検定協会	5	
日本語ワープロ検定	日本情報処理検定協会	11	
日本語ワープロ検定	日本情報処理検定協会	4	
日本語ワープロ検定	日本情報処理検定協会	4	
情報処理技能検定試験	日本情報処理検定協会	1	
情報処理技能検定試験	日本情報処理検定協会	4	
情報処理技能検定試験	日本情報処理検定協会	1	
表計算検定	中央職業能力開発協会	1	
ワープロ検定	中央職業能力開発協会	1	
情報処理検定3級	全国商業高等学校協会	1	
情報処理検定（ビジネス情報）	全国商業高等学校協会	3	
情報処理検定（2.3級）	全国商業高等学校協会	2	
情報処理検定	全国商業高等学校協会	5	
情報処理検定	全国商業高等学校協会	3	
情報処理検定	全国商業高等学校協会	3	
情報処理検定	全国商業高等学校協会	5	
情報処理検定	全国商業高等学校協会	7	(のべ10)
情報技術検定	全国商業高等学校協会	1	
情報技術検定	全国商業高等学校協会	2	
情報技術検定	全国商業高等学校協会	3	
情報技術検定	全国商業高等学校協会	2	
ワープロ実務検定4級	全国商業高等学校協会	5	
ワープロ実務検定3級	全国商業高等学校協会	2	
ワープロ実務検定2級、3級、4級	全国商業高等学校協会	4	
ワープロ実務検定（3.4級）	全国商業高等学校協会	3	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	1	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	5	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	11	(のべ20)
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	6	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	11	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	2	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	3	
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会		
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	9	
ワープロ検定試験	全国商業高等学校協会	5	
ワープロ検定試験	全国商業高等学校協会	3	
コンピュータ利用技術検定	全国商業高等学校協会	2	
コンピュータ利用技術検定	全国商業高等学校協会	2	
コンピュータ利用技術検定	全国商業高等学校協会	5	(のべ8)
文書処理能力検定試験	全国経理学校協会	6	
愛媛県ワープロ実務検定	愛媛県商業教育委員会	1	
ワードプロセッサ技術検定	愛知県盲・聾・養護学校職業教育研究会	3	
コンピュータ技術検定	愛知県盲・聾・養護学校職業教育研究会	1	
コンピュータ利用技術検定	愛知県盲・聾・養護学校職業教育研究会	6	
旺文社パソコン検定試験準4級	パソコン検定協会	6	
旺文社パソコン検定試験5級	パソコン検定協会	3	
旺文社パソコン検定試験4級B	パソコン検定協会	6	
パソコン検定6級	パソコン検定協会	5	
パソコン検定	パソコン検定協会	4	
ワープロ検定			
ホームページ作成技能検定		1	

(13) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

図4-15は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

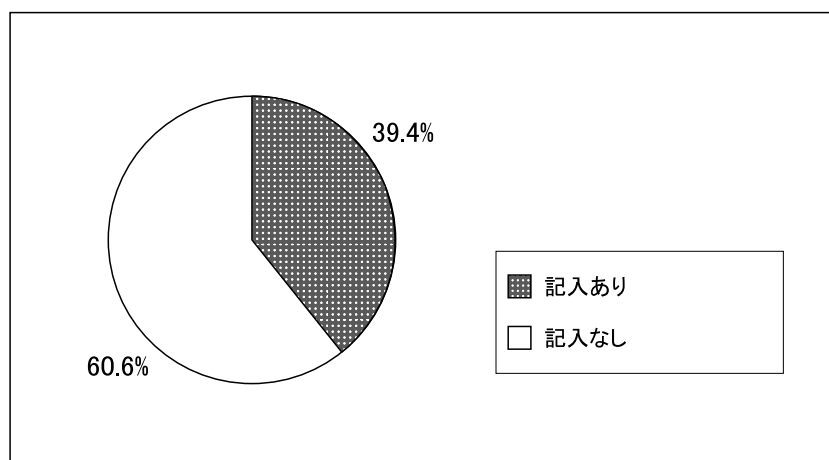


図4-15 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表4-17は、その内容等を示したものである。

表4-17 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
電気機器製造	・ 会議資料作成・報告書等作成
電気機器製造	OCRソフトでおこした文章のチェック等
電気機器製造	名刺のスクラップ作業及びデータ処理
食品	事務補助
印刷業	製本各種印刷業務
DTP	HP作成, その他印刷業務
JAL	・ 予約情報確認・観客情報入力・報告書等作成
JR	営業, 事務
アパレル	入力オペレータ
運送業	伝票入力, FAX, TEL
運送業	デザイン, 文書の作成
建設	事務
事務	表計算ソフトの入力, 処理, ワープロ入力。
人材派遣	勤務管理および給与計算などの端末機器操作
企業	入力作業
金融機関	伝票整処理
銀行	パソコンを使った事務処理
銀行	データ入力
信用金庫	事務
信用金庫	窓口業務全般
信用金庫	事務
経営コンサルタント	データ入力
建築業	データ入力
建築業	建築設計
公務員	保健福祉課で事務処理
公務員	学校事務
公務員	学校事務
事務	HPの管理, 文書作成
事務	データ入力, 整理, 資料作成等
電算センター	データベースの構築
道路公団関連	CAD (ただし, 本生徒は卒業後能力開発学校で更に学習している)

販売業	一般事務（経理）
販売業	各店舗からの苦情をデータ処理し整理していく
スーパー	商品管理等
スーパー	商品管理
スーパー	伝票入力
生協	文書作成，一般事務（手でタイピングを行う）
デパート	パソコン入力
病院	事務
病院	入力
商店	顧客のデータ管理
サービス業	経理事務
パチンコ屋	事務（エクセルを使つての集計）
英会話教室	事務
警備保障	事務
保険会社	保険契約内容のデータ入力
第3セクター	パソコン入力業務
特例子会社	年賀状等の文書作成，カッティング，シートデザイン
老人ホーム	事務
福祉館	ちらし，パンフレット作成
福祉作業所・授産施設	年賀状等の印刷物製作
福祉作業所・授産施設	ホームページ作成，名刺作成，年賀状作成
福祉作業所・授産施設	パンフレット，たより，ポスター等
福祉作業所・授産施設	文書入力
福祉作業所・授産施設	文書作成，データ処理
福祉作業所・授産施設	PC入力（名刺，住所録，ポスター作り等）
福祉作業所・授産施設	印刷業務
福祉作業所・授産施設	ハガキ作成
福祉作業所・授産施設	文書，会報，名刺，はがき，ポスターの作成
福祉作業所・授産施設	名刺，ポスター印刷，データ入力，ホームページ作成等
福祉作業所・授産施設	事務処理，データ処理，名刺作成，ポスター
福祉作業所・授産施設	印刷業務
福祉作業所・授産施設	ホームページ作成・維持・管理。データベース設計・作成。データ入力，名刺・はがき作成。パソコン講座。垂れ幕。
福祉作業所・授産施設	印刷用の原稿入力，作成
福祉作業所・授産施設	データ入力，データ処理，DM発送，テープおこし，ホームページ作成等
福祉作業所・授産施設	名刺づくり，年賀はがき，地域の人にパソコンを有料で指導。
福祉作業所・授産施設	会報誌の作成
福祉作業所・授産施設	印刷物の作成
福祉作業所・授産施設	ラベル作り
福祉作業所・授産施設	年賀状の裏面印刷（注文）
福祉作業所・授産施設	名刺印刷
福祉作業所・授産施設	名刺作り
福祉作業所・授産施設	名刺作成，ちらし作成等
福祉作業所・授産施設	データ入力，名刺作成など。
福祉作業所・授産施設	情報コンテンツ作成の端末操作補助作業
福祉作業所・授産施設	名刺，封書，ハガキ，印刷
福祉作業所・授産施設	ちらし，パンフレット作成

(14) 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

図4-16は、卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

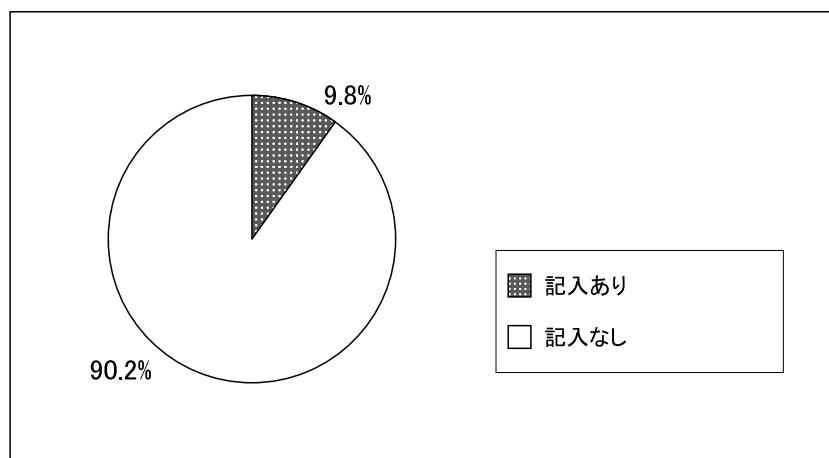


図4-16 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

表4-18は、その内容等を示したものである。

表4-18 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

年賀状の作成、チラシ作成
 ○○県「障害者（児）福祉のしおり」という冊子の作成
 授産所・作業所などにおける、パソコンを活用しての名刺及びはがき作り。
 事務文書などの作成（職業訓練校）
 個人・企業を問わずホームページ作りを受注し、少しではあるが収入を得ている。
 県や各種団体から委託されて、バリアフリーなどのホームページを作成してインターネット上で公開している。
 ○○電気「特例子会社」○ワークシェア→名刺，メール，ホームページ作成。TBS→携帯電話関係
 ミニコミ紙の記事作成
 パソコン講習会講師，ホームページ作成
 T社，在宅で伝票入力の仕事（Excel）
 HP作成の仕事
 「伝の心」を用いてメールの交換等のやりとりを行っている卒業生がいます。
 （株）Rでプログラマーとして，いろいろなプログラムを作成している。

5) -b 考察

(1) 肢体不自由養護学校高等部におけるコンピュータ等の活用の実態について

肢体不自由養護学校高等部における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は12.7人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は7.1人であり、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は3.8人となっていた。

この結果から「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の少なく、さらに「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」は少なくなっていた。肢体不自由養護学校高等部においても、生徒の障害に応じた機器やソフトウェアの設定ができる教員が不足していることがうかがえる。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

肢体不自由養護学校高等部において「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は、98.1%であり、ほぼ全ての学校で情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌が設定されている。

(3) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科について

肢体不自由養護学校高等部において肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」を設定していると答えた学校は回答のあった学校のうち74.0%であった。

また、情報A・情報B・情報Cの設定状況については、情報Aを設定している学校が71.2%、情報Bを設定している学校が8.7%、情報Cを設定している学校が2.9%となっていた。ほとんどの肢体不自由養護学校では情報Aを設定しており、情報Bと情報Cを設定している学校は少ないといえることができる。回答のあった肢体不自由養護学校における履修人数は、情報Aを1年生で履修している人数が最も多く、次いで2年生で履修している人数が多かった。

普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由として「重度重複学級のみ設置されているため」「生徒の実態に鑑みて」という回答が多かった。また、一部では「職業に関する専門教科の履修によって代替」という回答もみられた。

(4) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

肢体不自由養護学校高等部において肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する教科・科目の設定状況については、「商業」の科目「情報処理」「文書処理」の設定が多かった。ごく少数であるが、農業、工業、家庭、看護についても情報に関する科目が設定されていた。

(5) 情報の内容を含む学校設定教科について

肢体不自由養護学校高等部における情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があったのは13.5%であった。情報の内容を含む学校設定教科を設定している肢体不自由養護学校は少ないといえる。その内容も「産業社会と人間」は4校で、その他は学校設定教科「情報」といった基礎的な内容を含むものであった。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

肢体不自由養護学校高等部における総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組については、「国際理解」「情報」「環境」「福祉・健康」「交流教育」「その他」の取組の回答が

見られた。取組内容としては様々なテーマについての調べ学習や、情報交流・情報発信に情報手段が活用されていた。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

肢体不自由養護学校高等部における領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については「作業学習」の取組が21件,「生活単元学習」の取組が19件,「その他」の取組が16件という回答であった。「その他」では「自立活動」と答えが10校あった。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

肢体不自由養護学校高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについてについての記述は,「情報収集に関すること」,「生きる力に関すること」,「学習での活用」,「障害補填に関すること」,「進路に関すること」,「コミュニケーションに関すること」が多かった。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

肢体不自由養護学校高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では,「機器・ソフト・予算の不足」が多く,次いで「多様化する生徒の障害や習熟度への対応」「教員の専門性の向上」があげられた。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答では,全国商業高等学校協会の認定する「ワープロ実務検定」「情報処理検定」が多かった。また一般社会人を対象とした,日本情報処理検定協会認定の資格を取得している例も見られた。一方,県内の盲・聾・養護学校職業教育研究会で独自の資格認定をしているところもあり,生徒の多様化に対応していると考えられる。

(11) 卒業後,就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後,就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答は,多岐にわたっていた。様々な業種で情報機器等の活用が行われており,特定の業種に限らないと考えられる。情報機器の活用を通して肢体不自由者の職域の拡大が行われていると考えられる。

(12) 卒業後,在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後,在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例は少ないが,Webページ作成に関するものが5件あり,在宅業務としての可能性が考えられる。

5) 病弱養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査について

5) - a 結果

(1) 病弱養護学校の回答数

病弱養護学校の回答校数は37校であった。回答率80.4%（全国46校）

(2) 高等部の教員数，学級数，生徒数

ア) 高等部の学級数および生徒数

全体の学級数の平均は6.3，生徒数の平均は21.6であった。

イ) 高等部の教育課程ごとの教員数，学級数および生徒数

表5-1 高等部の学級数，生徒数，教員数

	回答数	学級数 (平均)	生徒数 (平均)	教諭数 (平均)	実習助手数 (平均)	その他の スタッフ (平均)	高等学校教諭「情報」の 免許状を保有する教員数 (平均)
知的障害者を教育する 養護学校の教育課程	11	3.0	6.7	6.8	0.9	5.0	0.25
肢体不自由者を教育する 養護学校の教育課程	4	2.0	5.0	4.7	1.0	0	0
病弱者を教育する 養護学校の教育課程	37	5.36	19.1	13.8	1.2	3.6	1.0

その他のスタッフについての回答は，以下の通りであった。

講師（11），介護員（2），学校技術員（2），実習教諭（1），養護教諭（1）

(3) コンピュータ等の活用の実態

表5-2は，コンピュータ等を活用した授業経験のある教員等の平均を示したものである。

表5-2 コンピュータ等を活用した授業経験のある教員数等

コンピュータを使っ た授業をしたこと のある教員数（平均）		児童生徒の障害に応じた 周辺機器やソフトウェア を使って授業をしたこと のある教員数（平均）		児童生徒の障害に応 じて周辺機器やソフ トウェアの設定がで きる教員数（平均）		「福祉情報技術コーディ ネーター」資格保有者数 （合計）		
学校全体	高等部	学校全体	高等部	学校全体	高等部	3級	2級	1級
30.1	11.2	17.6	7.1	8.3	3.7	1	0	0

(4) 学校全体の校務分掌

図5-1は，情報教育に関する校務分掌の有無を示したものである。担当者の平均は，5.1人であった。

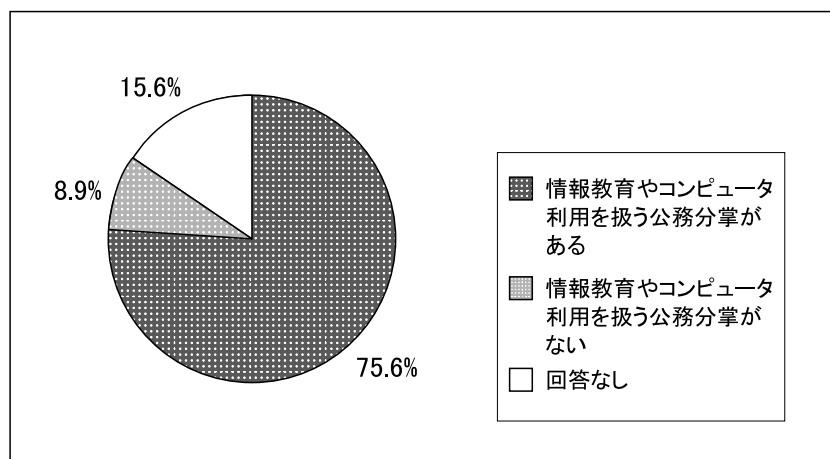


図５－１ 情報教育に関する公務分掌の有無

(５) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科について

ア) 普通教科「情報」の設定状況

図５－２は、普通教科「情報」の設定状況についての回答を示したものである。

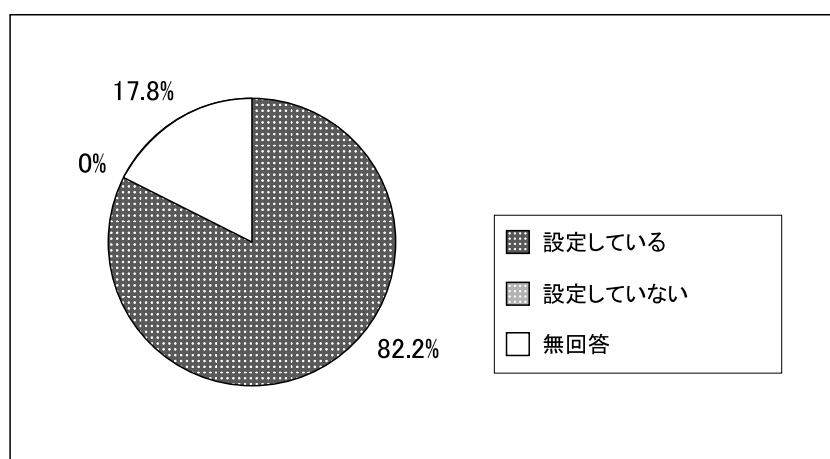


図５－２ 普通教科「情報」の設定状況

イ) 情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃの設定状況

図５－３は、情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃの設定状況についての回答を示したものである。情報Ａが37校、情報Ｂが7校、情報Ｃが4校であった。

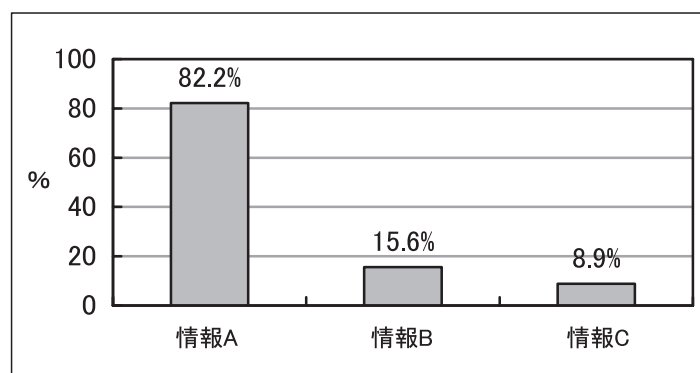


図５－３ 情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃの設定状況

ウ) 情報A・情報B・情報Cの単位数

図5－4は、情報Aの単位数を学年毎に示したものである。

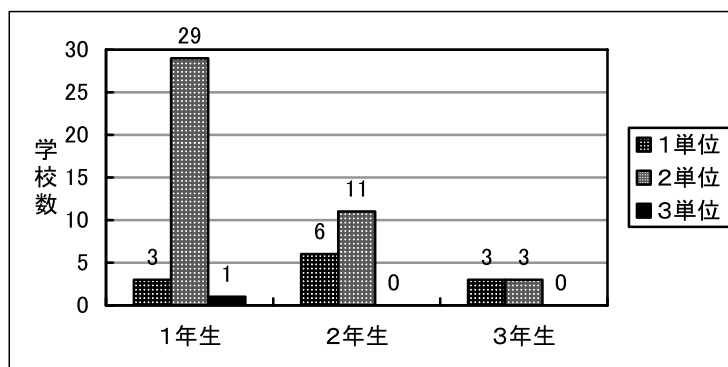


図5－4 情報Aの単位数

図5－5は、情報Bの単位数を学年毎に示したものである。

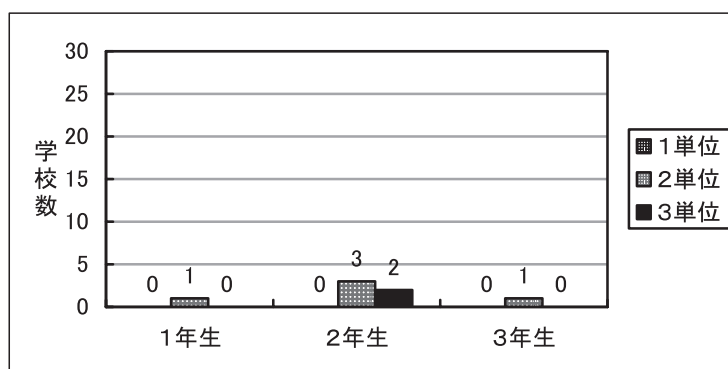


図5－5 情報Bの単位数

図5－6は、情報Cの単位数を学年毎に示したものである。

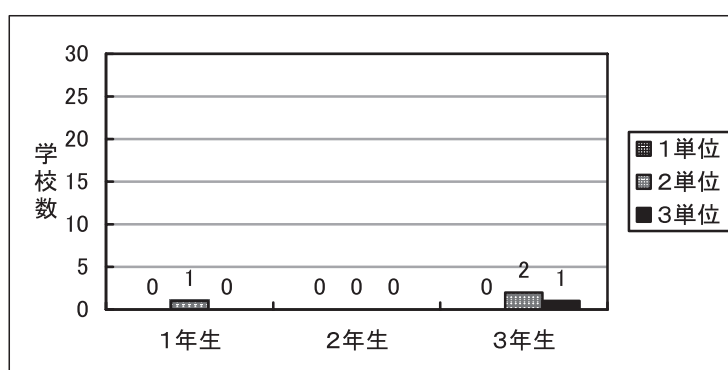


図5－6 情報Cの単位数

エ) 情報A・情報B・情報Cの履修人数

図5－7は、回答校における情報A・情報B・情報Cの履修人数の合計を示したものである。

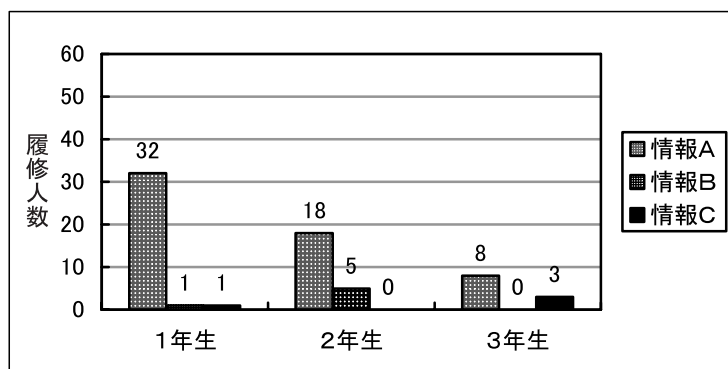


図5-7 情報A・情報B・情報Cの履修人数

オ) 普通教育に関する教科「情報」を設定していない理由

「設定していない」と回答した学校はなかった。

(6) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況

図5-8は、普通教科「情報」の設定状況についての回答を示したものである。

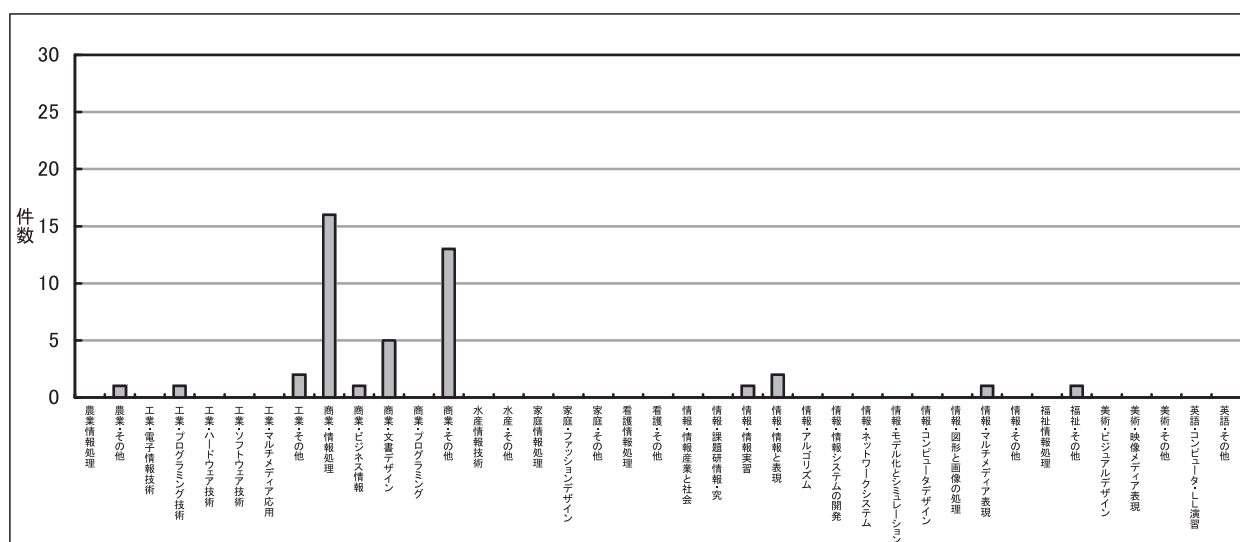


図5-8 普通教科「情報」の設定状況

図5-8の「その他」の内容は、以下の通りであった。

- ・ 農業の「その他」：課題研究（1件）
- ・ 工業の「その他」：情報技術基礎（1件），課題研究（1件）
- ・ 商業の「その他」：文書処理（4件），商業デザイン（2件），課題研究（2件），ビジネス基礎（2件），簿記（1件），計算（1件），コンピュータ（1件）
- ・ 福祉の「その他」：社会福祉基礎（1件）

(7) 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

図5-9は、情報の内容を含む学校設定教科の実施状況を示したものである。

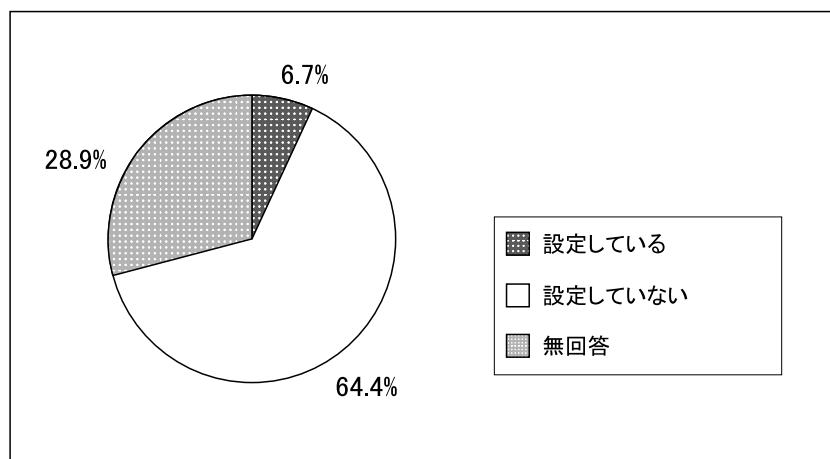


図5-9 情報の内容を含む学校設定教科の実施状況

表5-3は、情報の内容を含む学校設定教科の回答を示したものである。

表5-3 情報の内容を含む学校設定教科の回答

学校設定教科の名称		目標	内容
産業社会と人間		社会生活や職業生活に必要な基本的な態度、勤労観、職業観の育成と、自己の将来の生き方や進路について考え、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を育てる。	・企業や施設の調査、研究 ・模擬体験 ・職場体験 ・進路研究
その他情報に関する学校設定教科	学校設定教科「情報処理」	コンピュータの基本的な操作方法情報化時代に対応する為に、情報を収集し、処理し、活用する能力や態度を育てる。	・インターネットの活用 ・情報処理の基礎 ・文書入力、表計算等
	学校設定教科「情報演習」	情報に関する基礎的、基本的な知識と技能を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。	・画像編集 ・グラフィック ・HP作成 ・ワープロ ・作曲 ・表計算
	学校設定教科「情報」	コンピュータの基本操作を身につけ、情報の収集や処理の方法を学習する。	知的障害を、併せ有する生徒に対する内容を実施。 ・電子メールやインターネットの活用方法 ・マナーなど
	教科ビジネス	—	—

(8) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

図5-10は、総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況についての回答を示したものである。

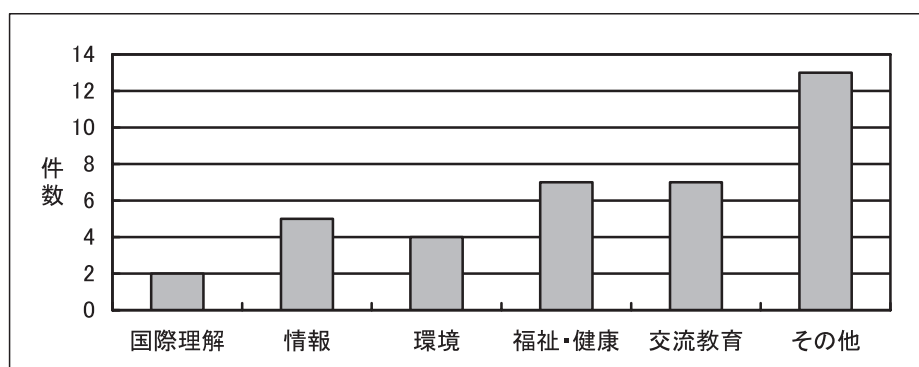


図5-10 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組についての回答は2件あったが、表5－4は、その内容等を示したものである。

表5－4 総合的な学習の時間における「国際理解」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
英語劇に取り組もう	6	英語劇「オズの魔法使い」の上演において、原作の内容や英語圏での風習などについて、インターネットを活用した調べ学習を通じて情報活用の実践力を高める。
リビアについて調べる。	1単位	－

総合的な学習の時間における「情報」に関する取組についての回答は5件あったが、表5－5は、その内容等を示したものである。

表5－5 総合的な学習の時間における「情報」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
進路について調べる。	1単位	－
情報技術を利用した創作活動およびプレゼンテーション	30	1.画像編集ソフトを利用した映像作品の文化祭での発表とそのための準備 2.プレゼンテーションソフトを利用したクイズのプレゼンテーション形式での発表と準備 3.TV会議システムを利用したクイズ形式での数学の学習
情報リテラシーとセキュリティについて	2	学校祭でのクラス発表の際に、必要経費を表計算ソフトを用いて記録、管理する。さらに、急増するIT金融犯罪やリテラシーについても学習し、情報社会に参画する態度を養う。
パソコン、インターネットの活用	15	Eメールの活用、インターネットを使った情報収集、スキャナ、プリンタの活用など。文化祭展示として「新潟7・13水害」をまとめた。成果発表会ではパワーポイントを使って、プレゼンテーションを行った。
1.FLASH5でゲーム作り 2.3DCG 3.“DOGA”ソフトを使ってアニメーションを作ろう	週1時間で 半年間 (約15時間)	1.「FLASH5」で簡単なプログラミングを組み、オリジナルのゲームを作成する。 2.3Dモデリングソフト「Shade」を利用して、3DCG作成の基本から、人物の顔らしいものを作るところまで。既存のテキストを参照しながら行った。 3.“DOGA”ソフトに入っているロボットのパーツを使い、オリジナルのロボットを作成する。また、そのロボットをパソコン上で動かすアニメーションを作っている。

総合的な学習の時間における「環境」に関する取組についての回答は4件あったが、表5－6は、その内容等を示したものである。

表5－6 総合的な学習の時間における「環境」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
メダカの住める環境について調査	70h	学校周辺の川や沼等の環境調査を行ない、須賀川メダカや、水生生物、植物について、調査活動を行なう。
インターネットを利用し、環境問題について調べる	15	インターネットを活用し、環境問題全般について調べた。文化祭での展示発表、高等部全体での発表会を開催した。文書処理ソフトやパワーポイント、スキャナやプロジェクター等も使用した。
美しい海を守ろう!	3	修学旅行の目的地である沖縄の気候、環境学習を兼ねて海の汚染条状についてもインターネットで調べ学習をする。さらに、修学旅行中に現地の海岸で撮影した動画を情報機器を用いて簡易編集する。
様々な災害の特徴を知り、適切に対応できる力を養う	2	①火災予防のための学習と実際に火災が発生した時に適切に対応する訓練 ②地震・津波災害についての学習と実際に発生した時に適切に対応する訓練を視聴覚教材を利用して行った。

総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組についての回答は7件あったが、表5－7は、その内容等を示したものである。

表5－7 総合的な学習の時間における「福祉・健康」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
食物（お茶など）、体力向上について、ボランティア、バリアフリー、介護福祉士など福祉の職業	70h	・食物が体に及ぼす影響や、体の健康について調査する。・ボランティア活動や、バリアフリーについて調査する。・福祉にかかわる職業について調査する。
音訳ボランティア	6	パソコンやICレコーダーを使って、音訳ボランティアの活動について模擬体験して学んでいく。
大切な歯を磨こう！	2	「歯磨き週間」において、歯周病の実態をインターネットで調べる。情報機器を用いて、「歯磨き確認表」を作成し、毎日記入する。
生活支援技術について考える	12	（高1・2組）友だちが日常生活を送るすがたから、その友だちに必要な支援技術についてともに知り、考えるなかで生活支援技術が人と人を支え合うために大切な役割を果たしていることを体感し、自らの生活や将来の生き方を考えていく機会とする。
福祉について	1	香川県内の福祉施設の数や、仕事の内容をインターネットを使って調べる（1年）
○養ボランティア講座	7	ボランティアに関する講演会。・ボランティア計画作り。・ボランティア活動
福祉制度やバリアフリーについての調査学習	2	公共施設や娯楽施設がバリアフリーになっているかをインターネットで事前に調べ、実際に行き確かめ、写真を撮りパソコンに取り込む。また、学習で得た情報や感想などをワードソフトなどを使ってまとめる。

総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組についての回答は5件あったが、表5－8は、その内容等を示したものである。

表5－8 総合的な学習の時間における「交流教育」に関する取組の内容等

テーマ	時間数	内容
交流	14時間	普通高校の生徒との交流会を企画・運営する。交流会は年3回。
盲学校との交流	2	交流活動の前の打ち合わせをメールを使って行う。
地域への販売活動のポスター製作	10	デジカメでの素材撮影、パソコンへのとりこみ、素材の加工、ポスターの製作を年2回ほど。
他校で学ぶ友人の取り組みを知ろう。	4	本校と毎年交流を続けている関養護学校との交流会に備えて、相手校の様子を公式Webページで確認し、自己紹介等の資料を情報機器を用いて作成する。インターネットのしくみを知ることで、情報の科学的理解を深める。
障害の有無にかかわらず、共に生きる社会をめざして交流する	4	県内他市にある県立高等学校演劇科による本校での公演と交流行事を視聴覚教室を利用して行った。
コスモスの栽培	－	小学部3年普通学級児童。コスモスの花の栽培を題材に、地域小学校特殊学級児童とEメール、手紙を利用した交流学習を行っている。
〇〇電波工業高等専門学校との交流	2	〇養高等部の展示コーナーを高専の教室に設け、高専のボランティアグループの案内で見学する。

総合的な学習の時間におけるその他の取組についての回答は13件あったが、表5－9は、その内容等を示したものである。

表5－9 総合的な学習の時間における「その他」の内容等

テーマ	時間数	内容
歴史、理科、交通、音楽、職業、流通。	70h	・地域の歴史、物の歴史調査。 ・天体、生物等の理学的調査。 ・周りにある交通機関に関する調査（本にまとめる）。 ・音や音楽についての調査、実演。 ・職業に関する資格を調査する。 ・商品の流通に関する調査。
日本の楽器	30	日本の楽器について歴史と作り方について調べ学習
走れジャーナリスト	年間70	八雲町のことを聞き取りやインターネットなどを用い情報を収集、まとめを行い、模造紙やプレゼンテーションなど必要に応じた表現方法で発表を行う活動。また、まとめの際は、収集した写真などの使用許可を取るような著作権などにも配慮させている（情報教育のみ）
世界のことについて調べよう	40	高1の生徒それぞれが、自分の興味・関心のあることについて、その事柄は世界ではどのようになっているのかをインターネット等で調べパワーポイントを使って発表した。
進路体験学習（チャレンジシップ）	22	自分が希望する進路先を実際に体験して、生き方を考える。
進路についての学習	1	・進路先（専門学校や大学、短大）を調べるためにインターネットを利用した（3年） ・個別的教育支援計画、移行支援計画に向けての進路学習。自己の進路決定に向けての取り組み（Job Job worldによるインターネット検索等）（1年）
自分の進路	10	・アニメーターになるには。 ・必要な資格について
栽培記録	10	農作業の記録を撮影、ワープロ入力してWebページを作成する。
高等部文化祭の取組	33	劇、コント、バンドの各班に分かれて、シナリオ作りからはじめて、ステージで発表するまで取組む
校外学習、修学旅行について	1	・JR四国の時刻表の調べ。サンポート（高松）についての調べ学習（1年）。 ・修学旅行（東京・千葉方面）での時刻、旅行他をインターネットで調べる（2年）
広報紙発行		広報グループで校内行事などの生徒の姿をとりあげ記事とし、パソコンを使って編集していく内容
個人テーマによる自由研究	17	個人の興味関心あるテーマを設定しての課題解決に向け、追究活動を行う。活動の中で、インターネットを活用したりワープロソフトを使って、研究をまとめたりしている。
Tシャツをつくろう	20時間	OBがデザインしたTシャツを制作し、販売することを通して会社体験をしようという内容。

(9) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況

図5－11は、領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況を示したものである。

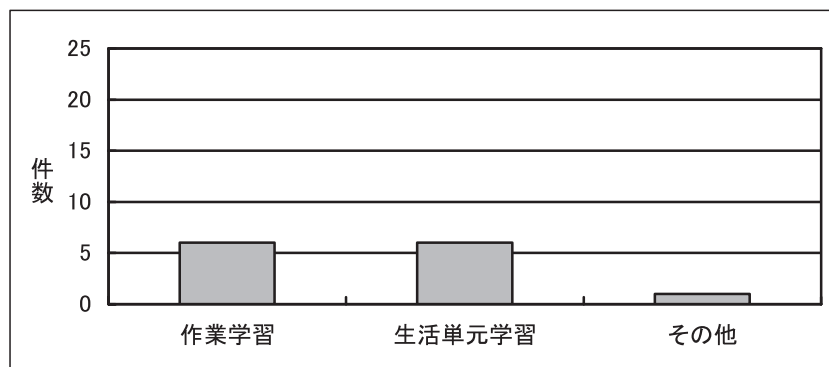


図5－11 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況

作業学習についての回答は6件あったが、表5-10は、その内容等を示したものである。

表5-10 作業学習の内容

名称	時間数	内容
カレンダー、はがき作り	週2	床上学習を行っている生徒に対して、次のような作業工程による学習を行っている。 1.描画作成ソフトを用いて、カット等の描画を製作する。 2.1.を使ったカレンダーやはがきを、ワープロソフトによって製作する。 3.売り上げ表等を製作し、教師が支援しながら販売する。 4.売り上げ等の簡単な計算や使い方について、表計算ソフトやブラウザソフトを用いて学習する。
有限会社を設立しよう	10	授業参加者を社員と仮定した有限会社を設立し、情報機器を用いて、名刺、カレンダーを製造し販売する。また、設立した会社の概要や取り組みの様子を校内LANにより公開する。
社会の学習	6	外国の言語や、文化についてインターネットで調べる。
－	－	一つのグループの中で個に応じて、さをり、ステンシル、ミニすのこ、マグネット人形を製作しているが、単元によってはその中の役割分担などで、製品に入れるしおりやポスターなどの作成をコンピュータで行っている。
ワープロソフトを使用して卓上カレンダーを作成	10月～12月の時間	・ワードの図の作成機能を使って各月にかかわりのある絵を作成する。 ・1日～31日までの日付を打ち込む。 ・作成した絵を日付をうったものの上部にはり付け、さらに「月」の数字等を使って、カレンダーを作成する。(9cm×9cm)
－	週9	・パソコンを使った名刺やカレンダー製作

生活単元学習についての回答は6件あったが、表5-11は、その内容等を示したものである。

表5-11 生活単元学習の内容

名称	時間数	内容
自分の興味のあるものについてインターネットで調べよう	2	理科学的なテーマとして「サザエ」、社会的なテーマとして「信号」というように本人が好きなもの（興味をもっているもの）について、インターネットで情報収集し、ノートや画用紙にまとめた。
校外学習について	4	校外学習での行き先の時刻表をインターネットで調べる
文集を作ろう。	6	パソコンの中に取り組んである1年間の行事の画像の中から、文集に載せたいものを選んだ。自分でその画像にコメントをつけ、文集の自分のページを作成した。
体験学習事前学習	－	インターネットをつかい、体験学習における交通手段や時刻表の下調べや、目的地の歴史等の学習。
「植物を育てよう」, 「夏祭りで盛り上がろう」, 「秋を感じよう」, 「年賀状を書こう」	2時間×4 単元 =8時間	・インターネットの利用 ・画像の取り込み（スキャナーによるもの、デジカメによるもの） ・ワープロソフトの利用
卒業アルバム作り	8時間	(3年生) パソコンを使って（教師と一緒に）写真の取り込み、貼り付けを行い、文字を打ち込んだ。ローマ字入力是一人でできるので、入力するスペースを提示すれば、自分で考えた文章を入力できる。また色をぬったり、デザインすることで、アルバムのタイトルも作ることができた。

その他の領域・教科を会わせた指導に関する回答は1件あったが、表5-12は、その内容等を示したものである。

表5-12 その他の領域・教科を会わせた指導の内容

名称	時間数	内容
自立活動	2	ワープロソフトを使って、学校行事のプログラムを作成して。

(10) 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

図5-12は、高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリットについて示したものである。

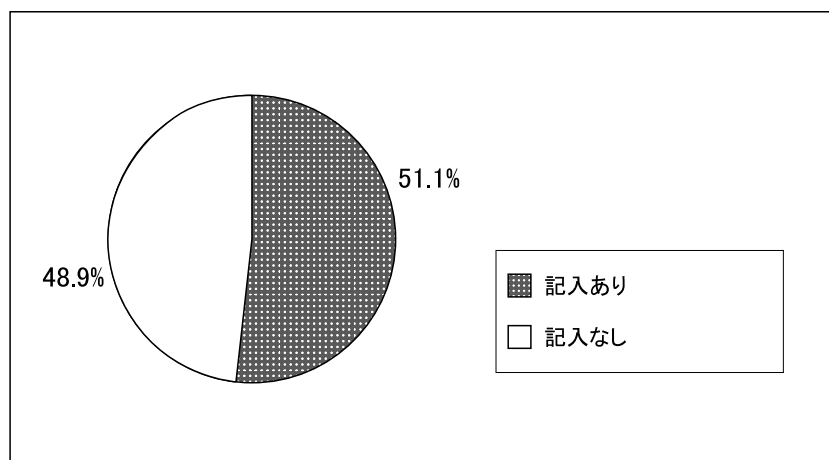


図5-12 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット

表5-13は、その内容等を示したものである。

表5-13 高等部で情報教育に関する指導を行うよい点やメリット（自由記述）

病棟においてもインターネットの常時接続環境があるため、日常的にインターネットを利用している。各教科で情報教育を行うことにより、ネチケットの面など、マナー面の指導ができる。
病弱の生徒は外部と接触する機会が少ない。そのため、インターネット等、コンピュータを使用して、情報収集、発信やワープロ、表計算などの室内で取り組む実習等は非常にメリットがあると思う。
病気のための運動等の制限のある生徒にとって進路選択の幅を広くするために、コンピュータの操作技術を身につけることは必要なことである。インターネット等を利用して、自分情報を得ることが必要なこの時代の中では、操作はもちろんのことセキュリティや情報モラルに関する学習を行っておくことは自らを守るためにも必要である。
入院治療している生徒が多いため、とかく外部との接触に制限があり、瞬時に最新で大量の情報の得られる情報機器の活用は、大変重要である。
卒業後の実社会での情報収集の方法やIT機器を使用時の意思伝達の方法を学ぶことで、情報活用の実践力を高めることができる。病態によるコミュニケーション能力の低下傾向を情報機器の活用により、補完することができる。
卒業後、生徒達がパソコンを利用した様々な仕事につくことができる。
生徒会誌のクラス紹介などをパソコンを使って積極的に取り組んでいる。
正しい使いかたやルールを学ぶ機会となる。人間関係がとりにくい生徒にとって、自ら表現しようとするもののきっかけとなることが多い。重度の身体障害のある生徒にとって社会とつながるための道具であり、からだの不自由さを補う道具であり、学習意欲が向上する。作品が、評価される機会が多くなり、自信につながる。
進行性の疾病を持つ本校の生徒に対する出口教育として。屋外に出る機会の少なさや病状が進んだ場合のコミュニケーションの方法を身につけるといふ点。
情報化社会でのトラブルについて、生徒指導部から（長期休業前などに）注意を促す場面があった。その前後の授業で具体的な例やトラブルになった原因等を事例を挙げて話をする事で、生徒自身に身を守ろうという意識が芽生えたようである。システムや問題点、注意点を理解することは、今後の情報化社会をよりよく生きていくために、必要なことであると考え。
継続的な指導により、進路に対する意識化、諸資格取得への挑戦、様々な情報の取捨選択、パソコン操作能力の向上など生徒の変容が見られる。
学校で学んだ情報処理に関する知識・技術が就業先の企業等の業務遂行に役に立っている。重度障害のある生徒もパソコンを使うことによって、自分の思いや考えを文章化し表現することができる。
運動に制限のある生徒にとって、 1.パソコンを使って学習活動を補うこと 2.インターネットを通して、外部の人と交流を図ることができる 3.インターネットを通して、学習に必要なさまざまな情報を自分ひとりの力で得ることができる。 4.将来の就労や自立生活に向けて、パソコンやインターネット操作のスキルが大切となってくる場合がある。

どの企業にもコンピュータが導入されていますし、家庭にもパソコンが普及したり、新しい機種が次々につぎに開発されるなど、コンピュータに親しめる機会が増えています。まさに情報化社会の主役ともいえるコンピュータを知ることは、社会を知ることに通じると思う。
コンピュータやインターネット、マルチメディア機器を活用できる能力は、生徒たちにとっての世界を広げるのに生かされることは、当然のことである。しかし、広げるばかりでなく、広げながら自分に関する身の回りの情報を整理し、将来に向かって自分の行き方を学ぶこと、その意味でメリットがあると考えている。
①特に四肢の筋萎縮が年令と共に進行する筋ジストロフィー生徒がパソコンの知識・技能を修得することによって、学習の記録が容易になり、文章表現やCG・デザイン・映像・美術・音楽などの芸術創作活動も行いやすくなる。 ②興味、関心が偏ったり、狭くなったりしがちな心身症や自閉的傾向のある生徒が様々な情報(技術)に触れ、その知識、技能を修得することによって、興味・関心の幅が広がり、卒業後の進路選択、進路実現の幅も広がる。
・多くの生徒が入院生活を続け、しかも進行性の筋ジストロフィーという病気をかかえている。手の機能もおとろえているが、パソコンを使うことによって文字や文章を打ったり、写真や映像を加工するなどの表現活動を行うことが容易になっている。・病院という限られた人間関係の中での生活になってしまいがちであるが、卒業後、電子メールやホームページなどによって外部の人との交流を図ることができる。そのためもあり、生徒たちはパソコンを使った学習に意欲的に取り組んでいる。
・卒業後の社会生活、余暇活動を見通し、情報機器の利用に対する理解及び態度の育成。・他教科との関連において、理論的思考の育成や手順・ルール理解への働きかけ。
・情報活用能力を育てることができる。 ・機器及び教材を積極的に利用することで生活経験の不足をおぎなうことができる。 ・選択肢から自己決定をすることができる。 ・環境へ働きかけていこうとする意欲、能動性を育てることができる。
・情報に関する基礎的知識、情報機器の基本操作を身に付けることにより、積極的に情報を取り入れようとする態度を養うことができる。 ・総合的な学習や、各教科の学習において、主体的に課題解決に取り組むことができる。
・自分でインターネットにより欲しい情報を得ることができる。・パワーポイントで発表する力がついた。
・家庭や病院を中心とする生徒の人間関係に広がりをもたせることができる。 ・同世代の生徒の考えにふれることができる。・同じ病気の人達と悩みを共有できる。
・ハード面において本校も平成16年度より、校内LANが整備され各HR教室にコンピュータが配置されインターネット等を使っての調べ学習をする頻度が高くなった。 ・コンピュータ等の情報機器を活用することにより、視覚的に学習内容の説明ができ、生徒に対してわかりやすい授業ができるようになった。

(11) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

図5-13は、高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点について示したものである。

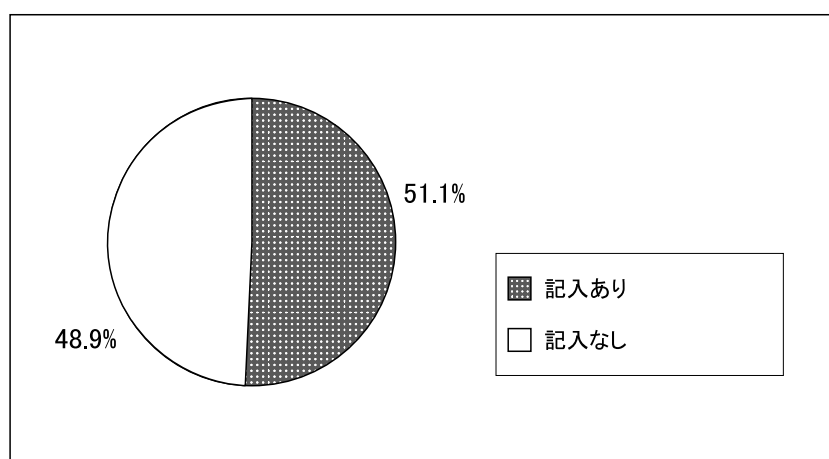


図5-13 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

表5－14は、その内容等を示したものである。

表5－14 高等部で情報教育に関する指導を行う上での問題点

・機器の不足。・メンテナンス用の費用が少ない。 ・ソフトをバージョンアップできない。(予算)
ソフトウェアの更新がなされていない。ハードウェアも旧式なものが多く、予算措置が必要である。
予算が不足している。養護学校として、1つの予算しか付かない。パソコンの支給にしても、1クラス分8台となる。実際には、小・中・高とあるわけだから、3校分が必要なのである。
・ネットワーク上のマナーや、セキュリティーに関する指導について、情報化社会の実情に追いつかない部分がある。(コンピュータ犯罪や、ネット上のトラブル等への理解について)
・ハードの運営面での制約が多い。(パソコンの管理の仕方の問題)・教員間にパソコンのスキルの差がありすぎる。
入学時から、生徒の「情報」に関する知識や技能に大きな差があること。一対一で対応しなければならない生徒に対する指導の体制づくり。
コンピュータ画面にむかう時間が、身体面での負担にならないようにする調整。興味、関心に走りすぎないようにするための指導の手だて。
情報の免許を持つ教員がおらず、情報教育の持つ可能性を最大限発揮できていない。
生徒10人に対してノートパソコンが4台である。1人1台でなくてもよいが、2クラス同時に使えるくらいのパソコンの台数(あと2～3台)は少なくともほしい。 ・インターネットの回線がISDN。4～5人でホームページの検索をすると、非常に速度が遅くなる。・正式な免許をもっている人がいない。
生徒の実態に合ったソフトの不足。インク代等の消もう費の確保。
生徒一人一人の病態が異なるため、本人の状態に合わせたソフトや機器を整備することが難しい。また、それらの機器のメンテナンスが困難である。
パソコンの台数が少ない。
筋ジス生徒のうち、特に筋萎縮の進行が早いデュシェンヌ型の生徒の場合は、高等部の高学年になるほど、それまで可能であったパソコンの操作などがしにくくなったり、できなくなったりすることによって、挫折や焦燥を感じ、精神的に不安定になることがある。
機器やソフト上でトラブルをおこした時に対応できる教員数が少ないため、すぐに修復ができないことがある。
障害に応じた周辺機器の充実。
卒業後も学校と同じようなパソコン等の機器やインターネット環境を確保できるかどうか、本校の課題のひとつである。
・コンピュータ実習を行なう際、ある程度、知識を持っていて、操作の速い生徒と反面、不慣れな生徒もいて進度を調整するのが難しい。 ・チームティーチングの授業を行なっているが、情報関係の教科の授業をする場合、ある程度コンピュータの知識がある教員が望ましいが、時間割の縮成上難しい点がある
生徒の障害の状況により、キーボード操作が難しい
・教科「情報」を履修させる際、生徒一人一人の差が大きい(コンピュータスキル、精神面など)ため、題材の設定が難しい。 ・スキル向上を求める保護者の声が大きい。
他の人と直接話し合うことや近くにいる他の人に興味を持つという当たり前のことを必要ないと感じる生徒が出てくる。

(12) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

図5-14は、在学中に情報処理に関する資格を取得している例について示したものである。

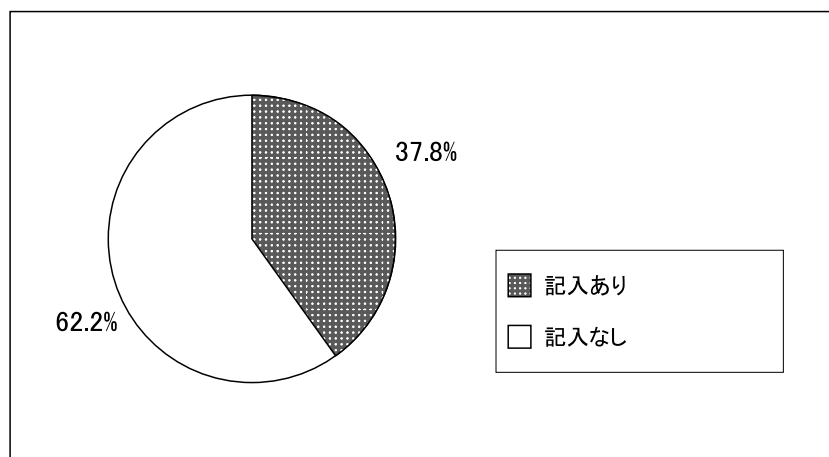


図5-14 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

表5-15は、その内容等を示したものである。

表5-15 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

資格名	認定する団体名	生徒数合計
		66
日本語ワープロ検定	日本情報処理検定協会	4
日本語文書処理技能（ワープロ技能）検定	日本商工会議所	15
日本語文書処理技能検定3級	日本商工会議所	4
情報処理検定ビジネス情報部門	全国商業高等学校協会	3
情報処理検定ビジネス情報3級	全国商業高等学校協会	1
情報処理検定3級	全国商業高等学校協会	1
情報処理検定	全国商業高等学校協会	-
情報処理（コンピュータ利用技術）検定3級	全国商業高等学校協会	5
ワープロ実務検定4級	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定4級	全国商業高等学校協会	1
ワープロ実務検定3級	全国商業高等学校協会	1
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定3級	全国商業高等学校協会	2
ワープロ実務検定2級	全国商業高等学校協会	1
ワープロ実務検定1級	全国商業高等学校協会	1
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	10
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会	-
ワープロ検定3級	全国商業高等学校協会	1
ワープロ検定	全国商業高等学校協会	4
ワープロ検定	全国商業高等学校協会	3~4
パソコン検定試験	パソコン検定協会	3
ビジネスコンピュータ検定3級	-	1

(13) 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

図5-15は、卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

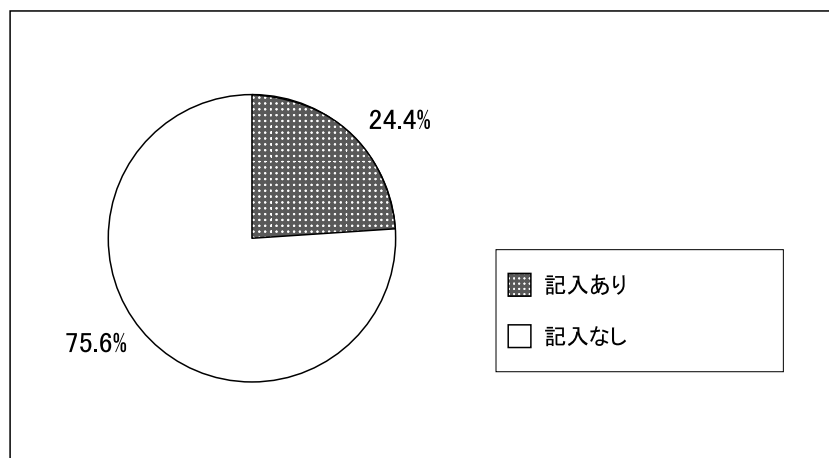


図5-15 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

表5-16は、その内容等を示したものである。

表5-16 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

業種	業務内容
製造業	データ整理
電気機器製造	在庫管理, 発注作業
運送業	発注作業
人材派遣	IT関連の派遣 (システムエンジニア)
農協	社外・内の文書作成, 庶務
警察	統計, 庶務
県職員	財務管理 (給与計算等)
図書館	図書 (書籍) 管理
印刷業	広告等のレイアウト等
印刷業	在宅勤務による文書作成
デパート	一般事務
商店	発注作業
英会話スクール	ホームページ作成
福祉作業所・授産施設	ホームページ開設
福祉作業所・授産施設	CAD

(14) 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

図5-16は、卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例について示したものである。

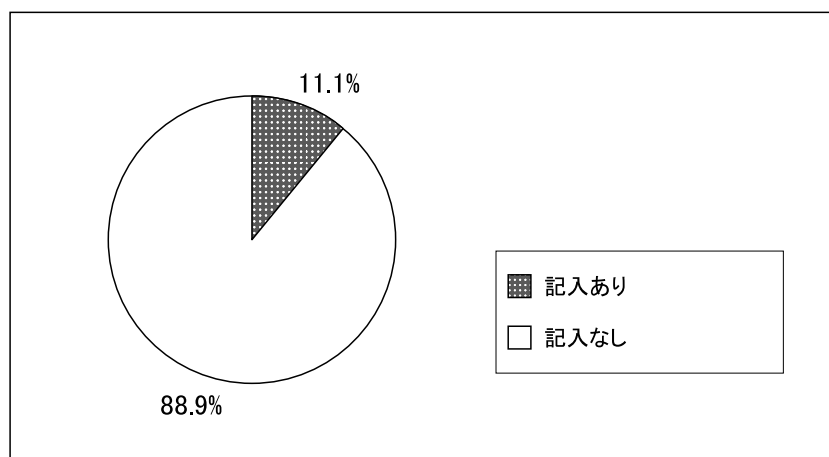


図5-16 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

表5-17は、その内容等を示したものである。

表5-17 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

- ・町役場による町史の打ちこみボランティア
- ・在宅ワークで会社から送られてくる情報の整理をしている
- ・ポスター、名刺、パンフレットのデザインなど
- ・ホームページ作成、ネットワーク構築、パソコンオーダーメイド等
- ・社協を通じたボランティアとして視覚障害者のための拡大図書の入力業務。
- ・イラストレータ活動
- ・卒業生の有志・保護者が運営する、工房での印刷・デザイン業務

5) - b 考察

(1) 病弱養護学校高等部におけるコンピュータ等の活用の実態について

病弱養護学校高等部における「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」の平均は11.2人であり、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の平均は7.1人であり、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は3.7人となっていた。

この結果から「コンピュータを使った授業をしたことのある教員数」に比べ、「生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員数」の少なく、さらに「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」は少なくなっていた。病弱養護学校高等部においても、生徒の障害に応じた機器やソフトウェアの設定ができる教員が不足していることがうかがえる。

(2) 情報教育に関する校務分掌の有無について

病弱養護学校高等部において「情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある」という回答は、75.6%であり、多くの学校では情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌が設定されている。

(3) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科について

回答のあった全ての学校が、病弱養護学校高等部において肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」を設定していると答えている。

また、情報A・情報B・情報Cの設定状況については、情報Aを設定している学校が82.2%、情報Bを設定している学校が15.6%、情報Cを設定している学校が8.9%となっていた。ほとんどの病弱養護学校では情報Aを設定しており、情報Bと情報Cを設定している学校は少ないといえることができる。回答のあった病弱養護学校における履修人数は、情報Aを1年生で履修している人数が最も多く、次いで2年生で履修している人数が多かった。

(4) 肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科・科目の設定状況について

病弱養護学校高等部において肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する教科・科目の設定状況については、「商業」の科目「情報処理」の設定が多かった。また、「商業」のその他の科目として「文書処理」が4件、「商業デザイン」が2件、「課題研究」が2件、「ビジネス基礎」が2件という回答であった。

(5) 情報の内容を含む学校設定教科について

病弱養護学校高等部における情報の内容を含む学校設定教科の実施状況については、「設定している」という回答があったのは6.7%であった。情報の内容を含む学校設定教科を設定している病弱養護学校は少ないといえる。その内容も「産業社会と人間」は1校で、その他は学校設定教科「情報」といった基礎的な内容を含むものであった。

(6) 総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組状況について

病弱養護学校高等部における総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組については、「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「交流教育」、「その他」の取組の回答が見られた。取組内容としては様々なテーマについての調べ学習や、情報交流に情報手段が活用されていた。

(7) 領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況について

病弱養護学校高等部における領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組状況については「作業学習」の取組が6件,「生活単元学習」の取組が6件の回答があった。また,「自立活動」と答えたものが1件あった。

(8) 高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリット

病弱養護学校高等部で情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについては,「病院外の情報の活用」「障害や活動の制限の補完」「卒業後の業務等での活用」等の回答が見られた。

(9) 高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題

病弱養護学校高等部で情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では,「機器・ソフト・予算の不足」が多く,「教員の専門性の向上」「多様化する生徒の習熟度への対応」があげられた。

(10) 在学中に情報処理に関する資格を取得している例

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答では,全国商業高等学校協会の認定する「ワープロ実務検定」が多かった。次いで,日本商工会議所の認定する「日本語文書処理技能(ワープロ技能)検定」,全国商業高等学校協会の認定「情報処理検定」があげられた。これは専門教科「商業」の「情報処理」の設定が多かったこととも関連すると考えられる。

(11) 卒業後,就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後,就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答は,多岐にわたっていた。様々な業種で情報機器等の活用が行われており,特定の業種に限らないと考えられる。

(12) 卒業後,在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例

卒業後,在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例は少ない。専業というより,様々な在宅での活動の中で情報機器を使った業務も行っているものと考えられる。

第Ⅲ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育 カリキュラムの今後の方向性について

第Ⅲ章 盲・聾・養護学校高等部における 情報教育カリキュラムの今後の方向性について

ここでは、第Ⅱ章で報告した調査結果を踏まえて、盲・聾・養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について述べる。

1. 盲学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1) 新しい情報機器やソフトウェアに触れる機会の確保

調査結果において、情報教育の指導を行う上での課題として、最も多くあげられていたのは、情報機器やソフトウェアの整備に関することであった。情報教育を推進するに当たって、情報機器やソフトウェアが不十分であると感じている教員は多いと考えられる。

情報教育の取組においては、生徒に新しい情報機器やソフトウェアに触れる機会を積極的に設けていくことが大切であると考えられる。そのため、盲学校における情報教育に関する取組では、視覚障害のある生徒の生活に役立つと考えられる新しい情報機器やソフトウェアの活用に関して、学習内容に積極的に取り込んでいくことが重要であると考えられる。近年の情報機器の進歩は急速であるため、生徒が常に最新の情報機器等の活用について学習ができるように、情報機器やソフトウェアの整備を行っていくことが大切であると考えられる。そのためには、予算面での配慮がなされることも重要であると考えられる。

2) 生徒の障害の状態に応じた情報機器の設定や活用方法についての指導及び支援

情報教育に関する取組が視覚障害のある生徒の日常生活に生きるものとなるためには、個々の生徒の障害の状態に応じて、どのように情報機器やソフトウェアを利用していけばよいかについての指導及び支援を行っていく必要がある。また、情報を収集し活用していくためには、どのような情報機器やソフトウェア等の利用環境を整えていけばよいかを、生徒自身が主体的に考えていく力を育てていくことも重要である。そのため、個々の生徒の障害の状態に応じた情報機器等の設定や活用方法について指導及び支援を行うための時間を、十分に確保していくことが大切であると考えられる。このような取組については、教科「情報」の時間だけでは十分な時間が確保できない可能性もあるため、自立活動等、他の関連する領域・教科でも行っていく必要があると考えられる。

調査結果においては、現状では、生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員はかなり少ないという結果が得られているが、今後は、視覚障害のある生徒の障害の状態に応じた情報機器やソフトウェアの設定や活用に関する指導及び支援ができるように、教員の専門性を高めていくことが重要であると考えられる。

3) 個々の生徒の知識・技能レベルに応じた対応の充実

調査結果において、高等部で情報教育の指導を行う上での課題として、生徒の知識・技能のレベルの幅が大きいため対応が難しいという回答がかなりみられた。高等部段階では、個々の生徒の知識・技能のレベルに大きな幅が生じる場合もあると考えられる。そのため、個々の生徒の知識・技能レベルに、よりきめ細かく対応した指導及び支援を行っていくことは、高等部における今後の重要な課題であると考えられる。今後は、情報教育に関する取組を行う場合に、個々の知識・技能レ

ベルに応じた学習内容をよりきめ細かく用意していく必要があると考えられる。また、指導体制についても、必要に応じて個別的な対応のできる指導体制が組めるようにしていく必要があると考えられる。

4) 情報モラル・マナーについての取組の充実

視覚障害のある生徒が、卒業後の職業生活や日常生活において情報を主体的に活用していくためには、情報モラルやマナーについての学習が非常に重要であると考えられる。情報化社会が進展する中で、インターネットの利用等に関して多くの問題も起きている。そのため、今後の情報教育に関する取組では、社会的な動向に即して、情報モラルやマナーに関する学習内容を扱った時間を、十分に設定していく必要があると考えられる。このような情報モラルやマナーに関する内容は、教科「情報」の時間だけでなく、総合的な学習の時間や道徳等の他の領域・教科においても、取り扱っていく必要があると考えられる。

5) 指導内容の精選

調査結果において、情報教育の指導を行う上での課題として、指導のための時間が不足してしまうという回答もみられた。視覚障害のある生徒に情報教育に関する取組を行う場合、個々の生徒の障害に応じた情報機器やソフトウェアの設定や利用方法の説明等に、かなり時間がかかる場合も多いと思われる。また、生徒の知識・技能のレベルによっても、学習にかなり時間が必要である場合もあり、その結果として指導時間が不足してしまうこともあると考えられる。

そのため、生徒の障害の状態や知識・技能のレベルに応じて、情報教育に関する指導内容の精選を行っていく必要もあると考えられる。個々の生徒のニーズや障害の状態、知識・技能のレベルを考慮し、どのような内容を重点的に取り上げていくかということについて、吟味し、精選していくことは、高等部における今後の重要な課題であると考えられる。

6) 発展的な内容を学習できる機会の提供

高等部段階では、個々の生徒の知識・技能のレベルに大きな幅が生じる場合があるが、教科「情報」を履修した後、さらに進んだ発展的な学習内容を求める生徒のニーズにいかに対応していくかについて、今後は十分に検討していく必要があると考えられる。調査結果によれば、情報Aを1年生、2年生で履修している場合が多かった。そのため、情報Aを履修した後に、さらに発展的な内容について学習したいという生徒のニーズに応えるために、情報教育に関連する科目を選択科目として設定するなど、発展的な内容を学習できる機会を提供していく必要があると考えられる。

2. 聾学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1) 視覚的情報を活用するための情報機器・ソフトウェアの整備

聴覚障害のある生徒の場合、視覚的に情報を取得し活用していくことが重要となる。そのため、授業においては、大型ディスプレイや液晶プロジェクタの活用や動画教材など視覚的に情報を提供する教材を活用することが効果的である場合が多い。そのため、聾学校において情報教育を効果的に進めていくためには、これらの視覚的な情報を活用するための情報機器やソフトウェアを各教室で利用できるように整備していく必要があると考えられる。

学習内容についても、プレゼンテーションソフト等を利用して、視覚的情報を活用しながら自分の伝えたい事柄を他者によくわかるように発表するプレゼンテーションに関する学習は、聴覚障害のある生徒のコミュニケーション能力を育成する上で、重要な意味をもっていると考えられる。そのため、総合的な学習の時間やさまざまな教科等の時間に、プレゼンテーションに関する学習の機会を十分に設けていくことは大切であると考えられる。

2) 新しい情報機器・ソフトウェアに触れる機会の確保

調査結果によれば、聾学校では、卒業後の就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例がかなり多くみられた。業務内容としては、ワープロソフトや表計算ソフトを使った事務処理や、データ入力、プレゼンテーション作成、画像処理ソフトを使ったポスター作成、さらにDTPやCADについての専門的スキルを生かした業務等を行っている例がみられた。

聾学校の高等部において、卒業後の就労先で利用する可能性のあるさまざまな新しい情報機器やソフトウェアの利用に関する学習ができる機会を設定していくことは、重要な意味があると考えられる。学校で利用している情報機器やソフトウェアが古いものである場合には、学校での経験を卒業後の就労先で生かすににくい場合もあると考えられる。そのため、聾学校の高等部において、最新の情報機器やソフトウェアを利用する経験が得られるよう、情報機器やソフトウェアの整備を行っていく必要がある。そのためには、予算的な配慮もなされる必要があると考えられる。

3) 携帯電話の利用に関する取組

聴覚障害のある生徒においては、携帯電話を日常的に使用している場合が多くみられるようになってきている。そのため、情報教育に関する学習指導内容としても、携帯電話の利用に関する内容を十分に取り入れていくことが大切と考えられる。携帯電話の利用には、メールの利用や携帯サイトの利用等が含まれる。さらに、最近では、カメラとしての機能やクレジットカード機能など、さまざまな新しい機能が付加されるようになってきている。

これらのさまざまな機能の利用に関して、その利用方法や利用に当たって注意すべき点などについて、具体的に学習内容に取り入れていく必要があると考えられる。また、生徒の日常生活における携帯電話の利用場面は、今後ますます拡大していくと考えられるため、生徒の日常生活における利用の動向に注意を払い、情報教育に関する取組において、携帯電話の利用に関する適切な指導や必要な支援を行っていく必要があると考えられる。

4) 情報モラル・マナーについての取組

上記の携帯電話の利用に関する学習にも関係することであるが、情報モラルやマナーについての

取組は今後ますます重要になると考えられる。聴覚障害のある生徒が、卒業後の職業生活や日常生活において、種々のトラブルに巻き込まれないようにするためにも、情報モラルやマナーについて学習するための時間を十分に設定していく必要がある。そのためには、教科「情報」の時間だけに限らず、総合的な学習の時間やさまざまな関連する領域・教科において、情報モラルやマナーに関する内容を取り扱っていくことが大切であると考えられる。

5) 個々の生徒の知識・技能レベルに応じた対応

調査結果において、高等部で情報教育の指導を行う上での課題として、生徒の知識・技能のレベルの幅が大きいことに対応が難しいという回答が、聾学校においてもかなりみられた。高等部段階では、生徒の知識・技能のレベルに大きな幅が生じる場合もあるため、個々の生徒の知識・技能レベルに、よりきめ細かく対応した指導及び支援を行っていく必要があると考えられる。そのため、今後は、情報教育に関する取組を行う場合に、聴覚障害のある生徒の個々の知識・技能レベルに応じた学習内容を用意していく必要がある。また、必要に応じて個別的な対応のできる指導体制が組めるようにしていく必要もあると考えられる。

また、聴覚障害のある生徒への情報教育に関する取組において、例えば、Webを利用した調べ学習やメールの利用方法に関する学習を行う場合など、個々の生徒の言語理解力や文章作成力に応じた指導及び支援が重要となる。このような聴覚障害のある個々の生徒の言語理解力や文章作成力に応じたきめ細かな取組を行っていくことも、今後の重要な課題であると考えられる。Webを利用した調べ学習は、総合的な学習の時間やさまざまな教科において行われる場合があるため、教科「情報」の時間だけではなく、他のさまざまな教科等においても、個々の生徒の言語理解力や文章作成力に応じたきめ細かな対応を行っていく必要がある。そのようなきめ細かな対応を行っていくためには、教員の専門性をより一層高めていく必要があると考えられる。

6) 資格取得に関する取組

調査結果によれば、聾学校においては、情報機器やソフトウェアの利用に関係する種々の資格を取得している例が多くみられた。これらの資格取得は、生徒の就労に結びつく可能性のあるものであり、資格を取得することにより、生徒の自信にもつながると考えられる。また、資格取得という明確な目標を目指すことにより、生徒の学習意欲を喚起できる場合もあると考えられる。そのため、今後の情報教育に関する取組においては、どのような資格があるか、その資格を取得するためにはどうすればよいか等の資格取得に関する生徒への情報提供や、資格取得につながる学習内容をより詳しく扱うなど、より一層、生徒が資格取得に取り組みやすいような配慮を行っていく必要があると考えられる。

7) 発展的な内容を学習する機会の提供

調査結果では、聾学校の高等部において、情報Aを1年生及び2年生で履修している場合が多かった。そのため、情報Aを履修した後に、さらに発展的な内容について学習したいという生徒のニーズにいかに対応していくかについて、今後検討していく必要があると考えられる。情報Aを履修した後に、さらに進んだ内容について学習したいという生徒に対しては、選択科目等により、情報教育に関連する科目を履修できるようにするなど、発展的な内容を学習できる機会を提供していく必要があると考えられる。

3. 知的障害養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1) 知的障害養護学校の普通教科「情報」の取組について

知的障害養護学校の普通教育に関する教科「情報」の時間の設定状況は、小・中学部も設置している知的障害養護学校が17.6%、高等部単置の知的障害養護学校が23.1%、知的・肢体・病弱併置の養護学校が27.8%であった。普通教育に関する教科「情報」の時間の設定は4分の1程度であった。一方、普通教育に関する教科「情報」の1段階の内容は半数以上の学校で実施されていた。第2段階の内容は高等部単置の知的障害養護学校の半数以上で実施され、高等部単置でない知的障害養護学校も4分の1程度で実施されていた。(表3-1)

表3-1 普通教科「情報」の時間の設定と内容の実施状況

	普通教育に関する教科「情報」の時間の設定	普通教育に関する教科「情報」の内容の実施	
		1段階	2段階
小・中学部も設置している知的障害養護学校	17.6%	58.1%	27.2%
高等部単置の知的障害養護学校	23.1%	55.3%	46.2%
知的・肢体・病弱併置の養護学校	27.8%	58.1%	27.2%

盲・聾・養護学校高等部学習指導要領では「外国語及び情報の各教科については、学校や生徒の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。」と記され、必須とはされていない。しかし、全国の知的障害養護学校高等部において、普通教科「情報」の内容の指導の実施は普及していると考えられる。

2) 領域・教科を合わせた指導における「情報」の取組について

普通教育を主とする知的障害養護学校高等部では、総授業数における領域・教科を合わせた指導の授業数の割合が約5割となっていることから、普通教育に関する教科「情報」の内容は領域・教科を合わせた指導においても少なからず実施されていることが考えられる。

領域・教科を合わせた指導は、生徒の生活上の諸課題を実際的な状況下で総合的に学習するものであり、生徒が主体的に生活に必要な情報を適切に活用する力や態度を育てるために、領域・教科を合わせた指導の単元や授業の展開においてコンピュータ等の情報機器を効果的に取り扱う指導を行うことが重要である。

高等部における領域・教科を合わせた指導としては、作業学習が最も多く、次いで日常生活の指導、生活単元学習となっている。

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にすえ総合的に学習する指導の形態であるが、製品に関する情報収集や作業量の管理を行う、生産から消費への流れの理解を図るなど、コンピュータ等を有効に活用できるように留意した指導を行うことが大切である。

また、3)-d(10)の項で述べたように、回答数は少なかったものの、就労先において情報機器等を活用した業務(製造業・販売業・サービス業・福祉就労など)や、ワープロ実務検定等の資格取得を行っている事例が挙げられており、今後これらの職種が拡大していくことが考えられることから、単元設定、作業種の選定や作業方法の一つとして積極的に位置づけていくことが必要である。

生活単元学習は、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習する指導の形態であるが、高等部では、特に生徒の将来の社会生活に関する内容を幅広く取り上げ、青年期にふさわしいテーマを設定し、地域での実際的な状況下で地域の人びとと実際にかかわったり、社会生活を営む上で必要となる様々な諸活動を総合的に学習することが大切である。

生活単元学習では、生徒の情報活用能力の育成する観点から、地域生活を営む上で必要となる様々な情報機器の取扱いを実際場で経験し、操作できるようにしていくとともに、余暇活動等を含め家庭生活を豊かなものにしていくための情報機器の活用配慮した単元設定の工夫を行っていくことが必要である。

北海道立特殊教育センターの「特別な教育的ニーズのある児童生徒への教育用コンテンツの効果的な活用」の研究（2005）¹⁾では、教育用コンテンツの活用方法の視点として、モチベーションタイプ（学習に対する動機付け）、シミュレーションタイプ（学習方法の理解）、サーチタイプ（課題に関する情報検索・収集）、ドリルタイプ（基礎的・基本的な学習内容の習得）、プレゼンテーションタイプ（学習内容の発表、交流）の五つのタイプに整理しているが、これらの視点は、領域・教科を合わせた指導において生徒の情報活用能力の育成を図るための指導方法の工夫を行う上で、有効な視点であると思われる。

高等部の普通教育に関する教科「情報」の内容の取扱状況については3) -d (3)において述べたところであるが、情報化の進展が著しい今日の社会生活での自立、参加を図る上で、教科別の指導としての「情報」と関連づけながら、領域・教科を合わせた指導において実際の生活に生きる情報活用能力を育てるための効果的な指導の在り方を検討していくことが必要である。

3) 情報教育カリキュラム実施上の課題

情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、依然「機器・ソフト・予算の不足」「教員の専門性の向上」が多かった。知的障害者に応じたアシスティブ・テクノロジーは普及の途上にあり、今後も障害に応じた機器・ソフトウェアの整備と教員研修が必要と考えられる。知的障害養護学校の課題として「多様化する生徒の障害や習熟度への対応」が特徴的である。小・中・高等部を設置する知的障害養護学校では、一般就労をめざす軽度知的障害のある生徒から、重度の知的障害のある生徒までその教育ニーズは様々である。多様化する生徒のニーズに応じて情報教育を実施することが必要であると考えられるが、そのためのカリキュラム設定等が課題となっている。

4) 今後の「情報」教育の内容について

調査では知的障害養護学校では、学習指導要領に書かれた普通教科「情報」の内容だけでなく、今日の課題である携帯電話や電子マネー等コンピュータ以外の情報デバイスの取り扱いや、ネットワーク社会のマナーやルール、危険性と対処について学習する必要があると考えられていることが明らかになった。

高等部入学までにコンピュータ等情報機器に慣れ親しむ機会が増えていることもあり、高等部ではそれを踏まえ、情報機器を使って仕事ができることをめざす学校も出ている。先に述べたように、卒業生が就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例はまだ多くはないが、その業務は入力作業、商品管理、印刷といった普通教科「情報」の2段階の内容より高度な内容を含んでいる。

業務として情報機器を利用するにあたっては、その入力・操作の正確さや速度が要求される。そのため、全商ワープロ実務検定、全商情報処理検定といった検定合格をめざして技能の向上をはかる学校もみられ、「仕事」としてのコンピュータ技能の向上が期待されている。

一方、情報機器は「社会一般の道具」としても普及してきた。最新の携帯電話は過去のパソコンの性能を越え、携帯できる情報端末として生活に浸透している。クレジットカード等電子マネーの普及とともに、経済生活も変容し、同時に様々な危険も生じている。今後も発展していく社会の情報化とどのようにつきあっていくか、どのように危険を回避するか、トラブルに遭った場合どのように対処するかといったという、メタ知識が必要であると考えられる。

学習指導要領の高等部普通教科「情報」の内容は、今となっては古いと考えられる。策定当時はコンピュータの普及は十分ではなく、「慣れ親しむ」の延長として位置づけられ、その操作技能の習得に重点が置かれていた。現在では中学校卒業段階でその内容を習得している生徒もあり、職域の拡大と社会の情報化にあわせて、その内容を改編していく必要があると考えられる。

参考文献

- 1) 北海道立特殊教育センター(編)「特別な教育的ニーズのある児童生徒への教育的コンテンツの効果的な活用」, 2005.

4. 肢体不自由養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1) 障害に応じた機器の活用

肢体不自由のある生徒がコンピュータ等情報機器を活用するにあたって、障害に応じた機器（アシスティブ・テクノロジー・デバイス）の活用は重要である。しかし、調査では「児童生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことがある教員数」の平均は高等部で7.1名であった。肢体不自由者を教育する養護学校教育課程の高等部教諭の平均人数が21.4名に対して、その3分の1である。また、「生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員数」の平均は3.8人で、e-AT促進協会が推進する「福祉情報技術（アシスティブ・テクノロジー）コーディネーター」資格を有する者は回答のあった104校のうち3級が4名、2級が2名であった。一方、情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、「機器・ソフト・予算の不足」「多様化する生徒の障害や習熟度への対応」「教員の専門性の向上」があげられていた。

障害に応じた機器の整備とともに、一般教員のアシスティブ・テクノロジーの活用に関する研修を進めるとともに、指導的立場となる教員の養成を進める必要があると考えられる。

2) 情報教育カリキュラム設定上の配慮

肢体不自由者・病弱者を教育する養護学校高等部の普通教育に関する教科「情報」を設定していると答えた学校は74.0%であり、情報Aの実施がほとんどであった。専門教育に関する教科・科目の設定状況については、「商業」の科目の設定が多く、30%の学校が「在学中に情報処理に関する資格を取得している」と回答している。その資格は全国商業高等学校協会実施の検定が多く、専門教育のカリキュラムは「商業」指向であると考えられる。検定合格に向けて目標を定めて訓練を行うことで技能は向上し、資格を取得することで系統的な知識や自信がつく。ただし、障害等のため全国商業高等学校協会の検定の技能レベルに達しない生徒も少なくなく、その配慮も必要であると考えられる。愛知県盲・聾・養護学校職業教育研究会の実施する検定は、特殊教育のニーズに対応した検定であるといえる。また、校内検定を設定している学校もみられる。このような生徒のニーズに対応した検定が全国的にも実施されれば、効果があげられるものと考えられる。

普通教科「情報」を設定していない理由として「重度重複学級のみ設置されているため」「生徒の実態に鑑みて」という回答が多かった。「知的障害者を教育する養護学校の教育課程がある」と答えた学校は25校あり、知的障害養護学校と同様、多様化する生徒のニーズに対応した指導の配慮が必要であると考えられる。

領域・教科を合わせた指導における情報教育に関する内容の取組は「作業学習」が21件、「生活単元学習」が19件あげられており、様々な場面で指導が行われていると考えられる。

3) 就労の可能性

卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例についての回答は、多岐にわたっていた。Webページ作成・維持・管理やデータベース設計等の専門知識・技能を要するものから、パンフレット・名刺・年賀状作成、データ入力といった一般のパソコン技能を活用したものなど、様々な業種で情報機器等の活用が行われている。情報機器の活用を通して肢体不自由者の職域の拡大が行われていると考えられる。

卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例はまだ少ないが、Webページ作成に関するものが5件あげられており、在宅業務としての可能性も広がる。職域の拡大をめざすには、在宅業務で可能な業務内容を整理し、必要な技能を習得させる必要がある。また同時に、雇用者への対応や業務の遂行の自己管理等、在宅業務を行う上で必要な事項を学べる様にする必要がある。

5. 病弱養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1) 情報教育カリキュラム設定上の配慮

回答があった病弱者を教育する養護学校高等部教育課程37校の学級数の平均は5.4、生徒数の平均は19.1名であった。1学級当たりの平均生徒数は3.5名で、どの学校も小規模である。しかし、高等学校教諭「情報」免許を保有する教員数の平均は1.0名で、ほぼ各学校に情報教育の担当者が配置されていると考えられる。

普通教育に関する教科「情報」で情報Aを設定している学校が82.2%、情報Bを設定している学校が15.6%、情報Cを設定している学校が8.9%であった。通常の高等学校の教育に準じた内容が実施されていると考えられる。

在学中に情報処理に関する資格を取得している例についての回答では、全国商業高等学校協会の認定する「ワープロ実務検定」が多かった。62.2%の学校が普通教科「商業」の科目を設定しており、商業科にシフトしたカリキュラム編成が行われていると考えられる。今後も、資格取得を目標とした実務的技能の習得を行うことが有効であると考えられる。

総合的な学習の時間における情報教育に関する内容の取組では、「福祉・健康」、「交流教育」の取組が多く、総合的な学習の時間全体を通して調べ学習や情報交流に情報手段が活用されていた。病弱養護学校は筋ジストロフィー等の長期療養の患者が多く在籍する学校から、短期入院の患者が多く在籍する学校まで様々である。長期入院する生徒にとって、情報手段の活用は、移動の制限を補填する道具として有効であると考えられる。

情報教育に関する指導を行う上での課題についての回答では、「機器・ソフト・予算の不足」が多かった。カリキュラムの整備と共に機器等の整備も進めていく必要がある。

2) 卒業後の進路と結びついた情報教育

平成15年度の病弱養護学校の卒業生375名の進路は大学・専門学校・職業能力開発校が25.3%、就職が10.1%、社会福祉施設・医療機関入所が40.5%、その他24.0%と報告されている（文部科学省、2005）。およそ4分の1の生徒が進学する現状を考えると、通常の高等学校の情報の教育の内容を押さえ、障害に応じた情報教育を加えて実施する必要があると考えられる。

卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例は、その数は少ないが多分野にわたっていた。調査では情報教育に関する指導を行うことのよい点やメリットについてについて、「病院外の情報の活用」「障害や活動の制限の補完」「卒業後の業務等での活用」等の回答が見られた。情報機器を活用することは、病気の生徒の活動を補完するものとして定着してきており、卒業後も活用できる技能として重要であると考えられる。病弱養護学校を卒業してそのまま就労する生徒は少ないが、進学者もいずれ就労を目指していくことになる。障害を補い進学や就労に役立つ情報教育が必要であると考えられる。

また、社会福祉施設・医療機関入所や在宅により長期療養を行う者にとっては社会参加の手だてのひとつとして情報手段が活用されることが期待される。卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例はまだ僅かではあるが、今後仕事の受注・納品のシステムが安定すれば、在宅業務を行える者が増えていくことが期待できる。医療・福祉・労働と連携した情報教育を進めていく必要があろう。

6. 「特別支援学校（仮称）」における情報教育カリキュラムの方向性について

最後に、今後の「特別支援学校（仮称）」における情報教育カリキュラムの方向性について触れておくこととする。

中央教育審議会答申（平成17年12月）では、「特別支援学校（仮称）」に関して、「基本的には現在の盲・聾・養護学校の対象となっている5種類の障害種別（盲・聾・知的障害・肢体不自由・病弱）及びこれらの重複障害に対応した教育を行う学校制度とすることが適当である。」とし、「特別支援学校（仮称）の制度は、各都道府県等において、複数の障害に対応した教育を行う学校の設置を可能とするものであるが、これまでのように特定の障害に対応した学校を設けることも可能である。具体的にいかなる障害に対応した教育を行う学校とするかについては、地域における教育に対するニーズ等に応じて弾力的に判断されることとなる。」としている¹⁾。

すなわち、「特別支援学校（仮称）」については、各都道府県等において、複数の障害種別の児童生徒を対象とする学校を設置することが可能であり、また、特定の障害に対応した学校を設けることも可能であるとしている。そのため、各都道府県等によって、さまざまな場合があり得ると考えられる。

このような今後の「特別支援学校（仮称）」における高等部の情報教育については、どのように進めていく必要があるであろうか。本研究の調査結果に示されているように、盲・聾・養護学校の高等部における情報教育の取組においては、生徒の障害の特性に応じた特色ある取組が行われていた。そのため、複数の障害種別の生徒を対象とする「特別支援学校（仮称）」を設置する場合においては、これまでの盲・聾・養護学校で培われてきた障害種別の知見を生かしつつ、さまざまな障害のある個々の生徒のニーズにきめ細かく対応していくことが、今後の取組において重要であると考えられる。

また、近年の情報機器の進歩は急速であるため、学習内容として、新しい情報機器の利用に関する内容を積極的に取り上げていく必要がある。例えば、携帯電話は近年急速に普及し、その機能についてもさまざまな新たな機能が付加されるようになってきている。そのため、利用の仕方や利用における配慮点等について対応が必要になってきていると考えられる。また、今後さまざまな新しい情報機器が出現してくる可能性もあり、障害のある生徒が、これらの新しい情報機器を活用して自らの生活に役立てていくための知識・技能・態度を育成していくことが重要な課題であると考えられる。そのためには、情報化の進展に伴って生じるさまざまな問題やそれいかに対処していくかということについても、学習内容として十分に扱っていく必要がある。

さらに、本研究における調査結果で示されたように、情報教育を進める上での課題として、情報機器やソフトウェアの整備をあげている回答が多くみられた。これまでに、盲・聾・養護学校における情報機器やソフトウェアの整備が進められてきたが、障害のある生徒の情報教育を進める上で、まだ不十分であると感じている教員は多いと考えられる。今後の「特別支援学校（仮称）」における情報教育を進めていくためには、障害のある生徒の情報教育に必要となる情報機器やソフトウェアの整備・充実を一層推進していく必要があると考えられる。

参考文献・引用文献

- 1) 中央教育審議会：特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）、平成17年12月。

資 料

資料1 調査票

調査票A（盲学校高等部における情報教育カリキュラムの調査）

（学校名）

「情報教育」について

本調査で述べる「情報教育」の概念は平成14年6月に文部科学省から出された『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」～』に準拠しています。

「手引き」では初等中等教育における情報教育について

- ① 情報活用の実践力
- ② 情報の科学的な理解
- ③ 情報社会に参画する態度

の3つの要素から構成される情報活用能力をバランスよく育成することを目標としています。

また「手引き」の「第7章 特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの情報化と支援」では障害のある児童生徒への情報機器の様々な活用についてアシスティブテクノロジーという用語を使って解説しています。また障害者の情報アクセスにおいてアクセシビリティという用語を使って解説しています。障害のある児童生徒の情報教育については広くお考えいただいております。

該当する項について□に印をつけ、（ ）にご記入下さい。

1. 学校種別をお答えください。（□にチェックを入れて下さい。）

☐盲学校 ☐その他（ ）

2. 高等部の教員数、学級数および生徒数をお答えください。

☐高等部

学級数（ ） 生徒数（ ）

うち、知的障害者の教育課程 学級数（ ） 生徒数（ ）

教諭（ ） 実習助手（ ） その他（ ）（ ）名

うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員（ ）名

☐高等部専攻科

学級数（ ） 生徒数（ ）

うち、知的障害者の教育課程 学級数（ ） 生徒数（ ）

教諭（ ） 実習助手（ ） その他（ ）（ ）名

うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員（ ）名

3. コンピュータ等の活用の実態について、今年度の該当する人数をお答えください。(人数は、重複して結構です)

- ・コンピュータを使った授業をしたことのある教員

学校全体で(名)高等部で(名)

- ・児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員

学校全体で(名)高等部で(名)

- ・児童生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員

学校全体で(名)高等部で(名)

- ・「福祉情報技術コーディネーター」資格保有者

学校全体で 3 級 (名) 2 級 (名) 1 級 (名)

4. 校務分掌についてお答えください。

- ☐ 情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がない。

- ☐ 情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある。

校務分掌名：()

担当者数： (人)

5. 高等部普通教育に関する教科についてお答え下さい。(ここでお答えいただくのは、盲学校学習指導要領に準拠した普通教育に関する教科です。「学校設定教科」は後の項でお答え下さい。)

- ☐ 普通教育に関する教科「情報」を設定している

それぞれの各教科について実施している場合は□にチェックを入れて、単位数・今年度の履修人数をお答え下さい。

- 情報A 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位
履修人数 () 名 () 名 () 名

- 情報B 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位
履修人数 () 名 () 名 () 名

- 情報C 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位
履修人数 () 名 () 名 () 名

- ☐ 普通教育に関する教科「情報」を設定していない

設定していない理由

6. 今年度の高等部専門教育に関する各教科・科目についてお答え下さい。(ここでお答えいただくのは、学習指導要領に準拠した教科です。「学校設定教科」は後の項でお答え下さい。)

(1) 盲学校、聾学校及び肢体不自由者又は病弱者を教育する養護学校

☐ 農業

- ☐ 農業情報処理 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 工業

- ☐ 電子情報技術 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ プログラミング技術 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ ハードウェア技術 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ ソフトウェア技術 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ マルチメディア応用 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 商業

- ☐ 情報処理 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ ビジネス情報 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ 文書デザイン () 単位
履修人数 () 名
- ☐ プログラミング () 単位
履修人数 () 名
- ☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 水産

- ☐ 水産情報技術 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 家庭

- ☐ 家庭情報処理 () 単位
履修人数 () 名
- ☐ ファッションデザイン () 単位
履修人数 () 名
- ☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 看護

- ☐ 看護情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 専門教育に関する教科「情報」(※普通教育に関する教科「情報」については「5.」の項でお答え下さい。)

- ☐ 情報産業と社会 () 単位
履修人数 () 名
☐ 課題研究 () 単位
履修人数 () 名
☐ 情報実習 () 単位
履修人数 () 名
☐ 情報と表現 () 単位
履修人数 () 名
☐ アルゴリズム () 単位
履修人数 () 名
☐ 情報システムの開発 () 単位
履修人数 () 名
☐ ネットワークシステム () 単位
履修人数 () 名
☐ モデル化とシミュレーション () 単位
履修人数 () 名
☐ コンピュータデザイン () 単位
履修人数 () 名
☐ 図形と画像の処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ マルチメディア表現 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 福祉

- ☐ 福祉情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 美術

- ☐ ビジュアルデザイン () 単位
履修人数 () 名
☐ 映像メディア表現 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 英語

- ☐ コンピュータ・LL演習 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

(2) 盲学校

☐ 保健理療

☐ 保健理療情報処理 () 単位

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

履修人数 () 名

(3) その他 ()

☐ その他 () () 単位

履修人数 () 名

7 情報の内容を含む学校設定教科を実施している場合、お答え下さい。

☐ 情報の内容を含む学校設定教科を実施していない

☐ 情報の内容を含む学校設定教科を実施している

学校設定科目の名称，目標，内容，単位数等についてお答え下さい。

☐ 「産業社会と人間」

目標 ()

内容

--

単位 () 単位

履修人数 () 名

☐ 名称 ()

目標 ()

内容

--

単位 () 単位

履修人数 () 名

8. 高等部の総合的な学習の時間において情報教育に関する内容を取りあげている場合がありますらお答え下さい。

☐ 国際理解：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 情報：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 環境：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 福祉・健康：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 交流教育：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

--

☐ その他：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

--

9. 高等部の領域・教科を合わせた指導において情報教育に関する内容を取りあげている場合がありますら
たらお答え下さい。

・単元名（ ）
時間数（ ）
内容

--

・単元名（ ）
時間数（ ）
内容

--

- 1 0. 高等部で情報教育に関する指導を行うことで、よい点やメリットがありましたらお書き下さい。

- 1 1. 高等部で情報教育に関する指導を行う上で問題点やお困りの点がありましたらお書き下さい。

- 1 2. 在学中に情報処理に関する資格を取得している例がありましたらお書き下さい。

資格名	認定する団体名	人数

- 1 3. 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例がありましたら、お書き下さい。

業種・事業所名等	業務内容

- 1 4. 差し支えなければお答えいただいた方の電子メールアドレス等をお教えてください。

お名前（ ）

メールアドレス（ ）

学校公式 Web サイト（<http://> ）

ご協力ありがとうございました。

調査票B（聾学校高等部における情報教育カリキュラムの調査）

（学校名）

「情報教育」について

本調査で述べる「情報教育」の概念は平成14年6月に文部科学省から出された『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」～』に準拠しています。

「手引き」では初等中等教育における情報教育について

- ① 情報活用の実践力
- ② 情報の科学的な理解
- ③ 情報社会に参画する態度

の3つの要素から構成される情報活用能力をバランスよく育成することを目標としています。

また「手引き」の「第7章 特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの情報化と支援」では障害のある児童生徒への情報機器の様々な活用についてアシスティブテクノロジーという用語を使って解説しています。また障害者の情報アクセスにおいてアクセシビリティという用語を使って解説しています。障害のある児童生徒の情報教育については広くお考えいただいております。

該当する項について□に印をつけ、（ ）にご記入下さい。

1. 学校種別をお答えください。（□にチェックを入れて下さい。）

☐聾学校 ☐その他（ ）

2. 高等部の教員数、学級数および生徒数をお答えください。

☐高等部

学級数（ ） 生徒数（ ）
うち、知的障害者の教育課程 学級数（ ） 生徒数（ ）
教諭（ ） 実習助手（ ） その他（ ）（名）
うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員（名）

☐高等部専攻科

学級数（ ） 生徒数（ ）
うち、知的障害者の教育課程 学級数（ ） 生徒数（ ）
教諭（ ） 実習助手（ ） その他（ ）（名）
うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員（名）

3. コンピュータ等の活用の実態について、今年度の該当する人数をお答えください。(人数は、重複して結構です)

・コンピュータを使った授業をしたことのある教員

学校全体で(名)高等部で(名)

- ・児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員

学校全体で(名)高等部で(名)

- ・児童生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員

学校全体で(名)高等部で(名)

・「福祉情報技術コーディネーター」資格保有者

学校全体で 3 級 (名) 2 級 (名) 1 級 (名)

4. 校務分掌についてお答えください。

☐ 情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がない。

☐ 情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある。

校務分掌名：()

担当者数： (人)

5. 高等部普通教育に関する教科についてお答え下さい。(ここでお答えいただくのは、聾学校学習指導要領に準拠した教科です。「学校設定教科」は後の項でお答え下さい。)

☐ 普通教育に関する教科「情報」を設定している

それぞれの各教科について実施している場合は□にチェックを入れて、単位数・今年度の履修人数をお答え下さい。

☐ 情報A 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位

履修人数 () 名 () 名 () 名

☐ 情報B 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位

履修人数 () 名 () 名 () 名

☐ 情報C 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位

履修人数 () 名 () 名 () 名

□ 普通教育に関する教科「情報」を設定していない

設定していない理由

6 今年度の高等部専門教育に関する各教科・科目についてお答え下さい。(ここでお答えいただくのは、学習指導要領に準拠した教科です。「学校設定教科」は後の項でお答え下さい。)

(1) 盲学校、聾学校及び肢体不自由者又は病弱者を教育する養護学校

☐ 農業

- ☐ 農業情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 工業

- ☐ 電子情報技術 () 単位
履修人数 () 名
☐ プログラミング技術 () 単位
履修人数 () 名
☐ ハードウェア技術 () 単位
履修人数 () 名
☐ ソフトウェア技術 () 単位
履修人数 () 名
☐ マルチメディア応用 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 商業

- ☐ 情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ ビジネス情報 () 単位
履修人数 () 名
☐ 文書デザイン () 単位
履修人数 () 名
☐ プログラミング () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 水産

- ☐ 水産情報技術 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 家庭

- ☐ 家庭情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ ファッションデザイン () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 看護

- ☐ 看護情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 専門教科情報 (※普通教育に関する教科「情報」については「5.」の項でお答え下さい。)

- ☐ 情報産業と社会 () 単位
履修人数 () 名
☐ 課題研究 () 単位
履修人数 () 名
☐ 情報実習 () 単位
履修人数 () 名
☐ 情報と表現 () 単位
履修人数 () 名
☐ アルゴリズム () 単位
履修人数 () 名
☐ 情報システムの開発 () 単位
履修人数 () 名
☐ ネットワークシステム () 単位
履修人数 () 名
☐ モデル化とシミュレーション () 単位
履修人数 () 名
☐ コンピュータデザイン () 単位
履修人数 () 名
☐ 図形と画像の処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ マルチメディア表現 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 福祉

- ☐ 福祉情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 美術

- ☐ ビジュアルデザイン () 単位
履修人数 () 名
☐ 映像メディア表現 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 英語

- ☐ コンピュータ・LL演習 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

(2) 聾学校

☐ 印刷

☐ 印刷情報技術基礎 () 単位
履修人数 () 名

☐ 理容・美容

☐ 理容・美容情報処理 () 単位
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

(3) その他 ()

☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

7 情報の内容を含む学校設定教科を実施している場合、お答え下さい。

☐ 情報の内容を含む学校設定教科を実施していない

☐ 情報の内容を含む学校設定教科を実施している

学校設定科目の名称，目標，内容，単位数等についてお答え下さい。

☐ 「産業社会と人間」

目標 ()

内容

単位 () 単位

履修人数 () 名

☐ 名称 ()

目標 ()

内容

単位 () 単位

履修人数 () 名

8. 高等部の総合的な学習の時間において情報教育に関する内容を取りあげている場合がありますらお答え下さい。

☐ 国際理解：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 情報：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 環境：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 福祉・健康：テーマ（ ）

時間数（ ）

内容

--

☐ 交流教育：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

☐ その他：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

9. 高等部の領域・教科を合わせた指導において情報教育に関する内容を取りあげている場合がありますら
たらお答え下さい。

・ 単元名（ ）
時間数（ ）
内容

・ 単元名（ ）
時間数（ ）
内容

10. 高等部で情報教育に関する指導を行うことで、よい点やメリットがありましたらお書き下さい。

11. 高等部で情報教育に関する指導を行う上で問題点やお困りの点がありましたらお書き下さい。

12. 在学中に情報処理に関する資格を取得している例がありましたらお書き下さい。

資格名	認定する団体名	人数

13. 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例がありましたら、お書き下さい。

業種・事業所名等	業務内容

14. 差し支えなければお答えいただいた方の電子メールアドレス等をお教えてください。

お名前（ ）

メールアドレス（ ）

学校公式 Web サイト（<http://> ）

ご協力ありがとうございました。

調査票C（養護学校高等部における情報教育カリキュラムの調査：養護学校共通回答）

（学校名

）

「情報教育」について

本調査で述べる「情報教育」の概念は平成14年6月に文部科学省から出された『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」～』に準拠しています。

「手引き」では初等中等教育における情報教育について

- ① 情報活用の実践力
- ② 情報の科学的な理解
- ③ 情報社会に参画する態度

の3つの要素から構成される情報活用能力をバランスよく育成することを目標としています。

また「手引き」の「第7章 特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの情報化と支援」では障害のある児童生徒への情報機器の様々な活用についてアシスティブテクノロジーという用語を使って解説しています。また障害者の情報アクセスにおいてアクセシビリティという用語を使って解説しています。障害のある児童生徒の情報教育については広くお考えいただいております。

該当する項について□に印をつけ、（ ）にご記入下さい。

1. コンピュータ等の活用の実態について、今年度の該当する教員数をお答えください。（人数は、重複して結構です。教員には実習助手・専門職員等生徒の指導にたずさわる方も含んでお答え下さい。）

・ コンピュータを使った授業をしたことのある教員

学校全体で（ ）名高等部で（ ）名

・ 児童生徒の障害に応じた周辺機器やソフトウェアを使って授業をしたことのある教員

学校全体で（ ）名高等部で（ ）名

・ 児童生徒の障害に応じて周辺機器やソフトウェアの設定ができる教員

学校全体で（ ）名高等部で（ ）名

・ 「福祉情報技術コーディネーター」資格保有者

学校全体で 3級（ ）名 2級（ ）名 1級（ ）名

2. 学校全体の校務分掌についてお答えください。

□ 情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がある。

校務分掌名：（ ）

校務分掌上の位置づけ：（ ）

担当者数：（ ）人

□ 情報教育やコンピュータ利用等を扱う校務分掌がない。

3. 高等部の学級数および生徒数をお答えください。（※高等部専攻科は含みません。）

□ 高等部

学級数（ ） 生徒数（ ）名

4. 高等部の教育課程ごとの教員数、学級数および生徒数をお答えください。

☐ 知的障害者を教育する養護学校の教育課程を設定している

学級数 () 生徒数 (名)

教諭 (名) 実習助手 (名) その他(職名) (名)

うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員 (名)

→ 調査票C-1「知的障害養護学校の教育課程について」もあわせてお答え下さい

☐ 肢体不自由者を教育する養護学校の教育課程を設定している

学級数 () 生徒数 (名)

教諭 (名) 実習助手 (名) その他(職名) (名)

うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員 (名)

→ 調査票C-2「肢体不自由者または病弱者を教育する養護学校の教育課程について」もあわせてお答え下さい

☐ 病弱者を教育する養護学校の教育課程を設定している

学級数 () 生徒数 (名)

教諭 (名) 実習助手 (名) その他(職名) (名)

うち、高等学校教諭「情報」の免許状を保有する教員 (名)

→ 調査票C-2「肢体不自由者または病弱者を教育する養護学校の教育課程について」もあわせてお答え下さい

5. 高等部の総合的な学習の時間において情報教育に関する内容を取りあげている場合がありますらお答え下さい。

☐ 国際理解：テーマ ()

時間数 ()

内容

--

☐ 情報：テーマ ()

時間数 ()

内容

--

☐ 環境：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

☐ 福祉・健康：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

☐ 交流教育：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

☐ その他：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

☐ その他：テーマ（ ）
時間数（ ）
内容

6. 高等部の領域・教科を合わせた指導において情報教育に関する内容を取りあげている場合があります。もしあればお知らせ下さい。

☐ 作業学習（ ）

時間数（ ）

内容

☐ 生活単元学習（単元名 ）

時間数（ ）

内容

☐ その他（名称 ）

時間数（ ）

内容

7. 高等部で情報教育に関する指導を行うことで、よい点やメリットがありましたらお書き下さい。

8. 高等部で情報教育に関する指導を行う上で問題点やお困りの点がありましたらお書き下さい。

--

9. 在学中に情報処理に関する資格を取得している例がありましたらお書き下さい。

資格名	認定する団体名	人数

10. 卒業後、就労先で情報機器等を活用した業務を行っている例がありましたら、お書き下さい。

業種・事業所名等	業務内容

11. 卒業後、在宅就労等で情報機器等を活用した業務を行っている例がありましたら、お書き下さい。

業務内容

12. 差し支えなければお答えいただいた方の電子メールアドレス等をお教えてください。

お名前（ ）

メールアドレス（ ）

学校公式 Web サイト（http:// ）

「知的障害者を教育する養護学校の教育課程」を設定している学校

→ 調査票 C-1 「知的障害養護学校の教育課程について」にお答え下さい

「肢体不自由者を教育する養護学校の教育課程」を設定している学校

→ 調査票 C-2 「肢体不自由者または病弱者を教育する養護学校の教育課程について」にお答え下さい

「病弱者を教育する養護学校の教育課程」を設定している学校

→ 調査票 C-2 「肢体不自由者または病弱者を教育する養護学校の教育課程について」にお答え下さい

調査票C-1「知的障害者を教育する養護学校の教育課程について」

(学校名

)

13. 知的障害者を教育する養護学校高等部の「情報」に関する普通教育に関する各教科の内容について
その一部でも指導している学級やグループがありましたら、以下の質問にお答え下さい。

- [1] 中学校からの進学者（技術家庭科の「B情報とコンピュータ」を履修した者）と中学部からの進学者（履修していない者）についてカリキュラム上どのような配慮を行っていますか。お書き下さい。

- [2] 普通教育に関する教科「職業」において情報教育に関する内容（学習指導要領参照）の取り扱いについてお答え下さい。

☐ 取り扱っていない

☐ 取り扱っている

・週授業時数 1年（ ）時間 2年（ ）時間 3年（ ）時間

- ・取り扱っている場合、「1段階(7)職場で使われる機械や情報機器等の簡単な操作をする。2段階(7)職場で使われる機械や情報機器等の操作をする。」に該当する内容をお書き下さい。

[3] 普通教育に関する教科「情報」の時間についてお答え下さい。(ここでは「情報」と冠する時間を設定している場合のみお答え下さい。他の教科に「情報」の内容を含む場合は次項でお答え下さい)

☐ 設定していない

☐ 設定している

- ・ 名称 ()
- ・ 週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
- ・ 履修人数 () 名 () 名 () 名

[4] 普通教育に関する教科「情報」の内容を含む教育課程について

- ・ 学習指導要領に書かれている普通教育に関する教科「情報」に内容について、学校での具体的な指導内容についてお答え下さい。(普通教育に関する教科「情報」の時間を設定していない場合も、その内容を指導している場合はお答え下さい。)

1 段階

(1) 日常生活の中で情報やコンピュータなどが果たしている役割に関心をもつ。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(2) コンピュータなどの基本操作に関心をもち、実習をする。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(3) 各種のソフトウェアに関心をもち、実習をする。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(4) コンピュータなどを利用した情報の収集、処理、発信に関心をもつ。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

2 段階

(1) 生活の中で情報やコンピュータなどが果たしている役割を知り、それらの活用に関心をもつ。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(2) コンピュータなどの基本操作が分かり、実習をする。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(3) 各種のソフトウェアの操作に慣れ、生活の中で活用する。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(4) コンピュータなどを利用した情報の収集、処理、発信の方法が分かり、実際に活用する。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

(5) 情報の取扱いに関するきまりやマナーについて理解し、実践する。

対象 ☐ ほぼ全員 ☐ 半数以上 ☐ 一部の生徒 ☐ 指導していない

指導している教科や領域・教科を合わせた指導名 ()

具体的な指導内容

--

[5] 学習指導要領に書かれた普通教育に関する教科「情報」の内容について、新たに加えて指導している事項がありましたらお書き下さい。

--

- [6] 学習指導要領に書かれた普通教育に関する教科「情報」の内容について、今後新たに加える必要があると思われる事項がありましたらお書き下さい。（この項は、担当者のご意見をお書き下さい。）

1 4. 知的障害者を教育する養護学校高等部の専門教育に関する各教科についてお答え下さい。

専門教育を主とする学科を設定について

- ☐ 設定していない →質問 1 5 にお進み下さい。
☐ 設定している →以下の質問にお答え下さい。

学科名（ ）

[1] 専門教育に関する教科「家政」

- ☐ 設定していない
☐ 設定している

- ・週授業時数 1 年（ ）時間 2 年（ ）時間 3 年（ ）時間
・履修人数 （ ）名 （ ）名 （ ）名

「(3) 生活に関連する職業で使用する各種の器具や機械、コンピュータなどの操作に必要な知識と技術を習得し、安全に実習をする。」に該当する具体的な内容をお書き下さい。

[2] 専門教育に関する教科「農業」

☐ 設定していない

☐ 設定している

・週授業時数 1年()時間 2年()時間 3年()時間

・履修人数 ()名 ()名 ()名

「(3) 農機具や簡単な機械, コンピュータなどの操作に必要な知識と技術を習得し, 安全に実習をする。」に該当する具体的な内容をお書き下さい。

[3] 専門教育に関する教科「工業」

☐ 設定していない

☐ 設定している

・週授業時数 1年()時間 2年()時間 3年()時間

・履修人数 ()名 ()名 ()名

「(3) 各種の工具や機械, コンピュータなどの操作に必要な知識と技術を習得し, 安全に実習をする。」に該当する具体的な内容をお書き下さい。

[4] 専門教育に関する教科「流通・サービス」

☐ 設定していない

☐ 設定している

・名称 ()

・週授業時数 1年()時間 2年()時間 3年()時間

・履修人数 ()名 ()名 ()名

「(3) コンピュータなどの事務機器, 機械や道具の操作に必要な知識と技術を習得し, 安全に実習をする。」に該当する具体的な内容をお書き下さい。

15. 情報の内容を含む学校設定教科(学習指導要領－高10－参照)を設定している場合、お答え下さい。

☐ 情報の内容を含む学校設定教科を設定していない

☐ 情報の内容を含む学校設定教科を設定している →以下の質問にお答え下さい。

学校設定教科の名称、目標、内容、週の授業時数、履修人数等についてお答え下さい。

☐ 名称 ()

目標 ()

内容

--

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名 () 名 () 名

☐ 名称 ()

目標 ()

内容

--

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名 () 名 () 名

ご協力ありがとうございました。

調査票C-2 「肢体不自由者または病弱者を教育する養護学校の教育課程について」

(学校名

)

--

16. 高等部普通教育に関する教科についてお答え下さい。(ここでは、知的障害者を教育する養護学校の教育課程は含みません。知的障害者を教育する養護学校については「調査票C-1」でお答え下さい。)

☐ 普通教育に関する教科「情報」を設定している

それぞれの各科目について実施している場合は□にチェックを入れて、単位数・今年度の履修人数をお答え下さい。

□ 情報A 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位
履修人数 () 名 () 名 () 名

□ 情報B 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位
履修人数 () 名 () 名 () 名

□ 情報C 1年生 () 単位 2年生 () 単位 3年生 () 単位
履修人数 () 名 () 名 () 名

☐ 普通教育に関する教科「情報」を設定していない

設定していない理由

設定していない理由

17. 情報の内容を含む学校設定科目について、お答え下さい。

☐ 情報の内容を含む学校設定科目を設定していない

☐ 情報の内容を含む学校設定科目を設定している

学校設定科目の名称，目標，内容，単位数等についてお答え下さい。

□ 「産業社会と人間」

目標 ()

内容

--

單位 () 單位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 名称 ()
目標 ()
内容

--

単位 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

18. 今年度の高等部の専門教育に関する各教科・科目についてお答え下さい。(ここでお答えいただくのは学習指導要領に書かれている「専門教育に関する各教科・科目」です。)

☐ 農業

☐ 農業情報処理 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
履修人数 () 名

☐ 工業

☐ 電子情報技術 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名
☐ プログラミング技術 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名
☐ ハードウェア技術 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名
☐ ソフトウェア技術 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名
☐ マルチメディア応用 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名
☐ その他 () () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 商業

☐ 情報処理 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ ビジネス情報 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 文書デザイン () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ プログラミング () 単位

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 水産

☐ 水産情報技術 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 家庭

☐ 家庭情報処理 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ ファッションデザイン () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 看護

☐ 看護情報処理 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 専門教育に関する教科「情報」(※普通教育に関する教科「情報」については「1.」の項でお答え下さい。)

☐ 情報産業と社会 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 課題研究 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 情報実習 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 情報と表現 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ アルゴリズム () 単位
履修人数 () 名

☐ 情報システムの開発 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ ネットワークシステム () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ モデル化とシミュレーション () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ コンピュータデザイン () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 図形と画像の処理 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ マルチメディア表現 () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位
週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間
履修人数 () 名

☐ 福祉

☐ 福祉情報処理 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 美術

☐ ビジュアルデザイン () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 映像メディア表現 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ 英語

☐ コンピュータ・LL演習 () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

☐ その他 (具体的に書き下さい。)

☐ その他 () () 単位

週授業時数 1年 () 時間 2年 () 時間 3年 () 時間

履修人数 () 名

ご協力ありがとうございました。

執筆者一覧

(所属・職名は平成18年2月時点のものです)

まえがき 中村 均 (教育研修情報部・総合研究官, 教育研修情報部長)

第Ⅰ章 研究の概要 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)

第Ⅱ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育カリキュラムに関する調査研究

1. 及び2. 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)・大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)
3. 1) 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)
2) 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)
3) 大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)・木村宣孝 (教育支援研究部・総括主任研究官)
4) 大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)
5) 大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)

第Ⅲ章 盲・聾・養護学校高等部における情報教育カリキュラムの今後の方向性について

1. 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)
2. 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)
3. 1), 3), 4) 大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)
2) 木村宣孝 (教育支援研究部・総括主任研究官)
4. 大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)
5. 大杉成喜 (教育研修情報部・主任研究官)
6. 渡邊 章 (教育研修情報部・総括主任研究官)

課題別研究（平成16年度～平成17年度）
盲・聾・養護学校高等部における情報教育のカリキュラムに関する研究
研究成果報告書

平成18年3月発行

研究代表者 中村 均

発行 独立行政法人国立特殊教育総合研究所

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-1-1

TEL. 046-848-4121（代表） FAX. 046-849-5563